

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	政治学演習Ⅱ	2～3名の班ごとにテーマを設定し、主として高等学校政治・経済での政策決定の制度や過程に関する授業を開発することを念頭に、政治学の学術書・学術論文を含む文献・資料等にあたり、教材研究を行う。なお、本授業では、政治学の学術的成果を踏まえて、政策決定の制度や過程に関する授業を開発することができるのと同時に、開発した授業を実践し、その意義と限界、発展可能性について考察することができるようになることを目的としている。	隔年
	経済学特講Ⅰ	ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に前半の5つの項目（ミクロ経済学かの目的と概要～消費者余剰）については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	隔年
	経済学特講Ⅱ	ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学（概観）、国内総生産（GDP）、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社をテキストとして採用する。	隔年
	経済学演習Ⅰ	ミクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の目的と概要、消費者理論の枠組み、需要関数の性質、消費者理論の応用、消費者余剰、需要の弾力性、企業理論の枠組み、生産者余剰、市場均衡、厚生経済学の基本定理といった事柄である。このうち特に後半の5つの項目（需要の弾力性～厚生経済学の基本原理）については丁寧に取り上げ、ミクロ経済学の基礎について学んでもらう。入谷純・篠塚友一(2012)『ミクロ経済学講義』日本経済新聞社と、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報をテキストとして採用する。	隔年
	経済学演習Ⅱ	ミクロ経済学の応用とマクロ経済学の基礎を講義する。また、随時演習問題を出題する。本授業で取り上げる内容は、具体的には、ミクロ経済学の労働市場への応用、労働供給の理論の福祉政策への応用、政府の政策と労働市場の均衡、人的資本、マクロ経済学（概観）、国内総生産（GDP）、経済成長に関する事実、経済成長理論、金融システム、財政赤字と経済成長といった事柄である。大森義明『労働経済学』日本評論社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2017)『ミクロ経済学』東洋経済新報社、ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス(2009)『マクロ経済学』東洋経済新報社、グレゴリー・マンキュー(2014)『マンキュー経済学II マクロ編』東洋経済新報社をテキストとして取り上げる。	隔年
	法律学特講Ⅰ	毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、スポーツ事故、授業の進行方法と教員の適格性、学習障害・能力格差、有権者教育、法教育・道徳教育、児童生徒のSNS利用、売春及び薬物、児童生徒及び保護者の信仰である。	隔年
	法律学特講Ⅱ	毎回1つないし2つの事例を取り上げ、かかる事例に対する教育対処と法的対処との可能性及び限界について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げた具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。事例として考えているのは、外国人生徒の扱い、性教育、カンニング、いじめとけんか、学校の地域貢献、保護者からのクレーム、PTAの任意加入、学校の個人情報管理である。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	法律学演習 I	2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、授業の進行と教員の適格性、政治思想教育の在り方、いじめ問題、カンニングである。	隔年
	法律学演習 II	2回の授業ごとに1つの事例を取り上げ、初回の授業でかかる事例における問題点の所在を洗い出し、次回の授業の中で、かかるトラブルに対する教育対処と法的対処との関係及び両対応の転換点について検討する。なお、具体的な事例の選択については、受講者の希望を容れて行うため、下記に掲げる具体的な事例は、ある年度における受講者との協議の結果を参考とした標準的なものである。つまり、学校改革と教員の役割、保護者からのクレーム、学校選択制と学校の統廃合、放射能汚染と風評被害である。	隔年
	哲学特講 I	現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかに関与するかディスカッションする。具体的には、言語論的転回に関するディスカッションを深めた上で、言語論的転回が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学特講 II	現代哲学の問題について主要なテキストを読み、それが教育にいかに関与するかディスカッションする。具体的には、現代思想における自由に関するディスカッションを深めた上で、哲学が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学演習 I	対話についての主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想における対話に関するディスカッションを深めた上で、対話が「教室」をいかに変容させるかについてさらにディスカッションを行う。近年の公民教育では、哲学対話が注目されている。旧来の一方的な教え込みの公民教育ではなく、生徒の自律性を保障した上での、対話的で協働的な学びを教室にどのように成立させるのか、この点について、履修者には教師として授業に臨む姿勢を身につけさせたい。	隔年
	哲学演習 II	現代思想の主要なテキストを読み、ディスカッションする。具体的には、現代思想においてなぜ言語が問題になるのかについて、ウイトゲンシュタイン、カルナップ、ベンヤミンを取り上げながらディスカッションを深める。次に、社会構成主義とは何かについて、ガーデン、デリダを取り上げてディスカッションをさらに深める。その上で、最終的には、「教室」を脱構築することの意義、「授業」を脱構築することの意義について、総合的なディスカッションを行う。	隔年
	倫理学特講 I	マッキンタイアの『美徳なき時代』を講読し、カントや功利主義に代表される近代倫理学の問題点を検討する。そのさい、カントや功利主義者たちの側からのありうる反論についても考えてみる。なお、授業は受講者が作成したレジュメの発表を基にして行う。具体的な論点は、徳の喪失と道徳的不一、情緒主義、啓蒙主義（カント、ヒューム、デイドロ）、啓蒙主義の失敗、啓蒙主義の失敗の帰結、事実と説明、社会科学の批判、ニーチェかアリストテレスか、復習と議論である。	隔年
	倫理学特講 II	マッキンタイアの『美徳なき時代』を講読し、現代における「徳倫理学」の可能性と限界について考察する。そのさい、カントや功利主義とも対比させ、どの立場がもっとも説得的かどうかについて検討する。なお、授業は受講者が作成したレジュメを基にして行う。具体的な論点は、英雄社会における諸徳、アテナイでの諸徳、アリストテレスの徳論、中世の徳論、諸徳の本質、人生の統一性と伝統、諸徳から徳へ、徳としての正義、徳なき時代に徳を求めてである。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	倫理学演習 I	カントの『道徳の形而上学の基礎づけ』を講読し、そもそも「道徳」とは何かについて考える。解釈が難しい箇所についてはコメントリーや論文等を参照しながら読解を進める。具体的な論点は、善い意志、理性と本能、義務の概念、完全義務と不完全義務、格率と法則、尊敬、思慮と道徳、常識と道徳、実践哲学の必要性である。本授業を通して、履修者には、倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力が習得されると考えている。	隔年
	倫理学演習 II	カントの『道徳の形而上学の基礎づけ』を講読し、自律こそが道徳性の原理であるというカントの思想とその意義を理解する。解釈が難しい箇所についてはコメントリーや論文等を参照しながら読解を進める。具体的な論点は、道徳の普遍性と必然性、理性と経験、意志と強制、定言命法と仮言命法、定言命法の第一法式——普遍的法則、定言命法の第二法式——目的自体、定言命法の第三法式——自律、目的の国、価格と尊厳である。本授業を通して、履修者には、倫理学の根本問題を扱った西洋近現代の著作を精読し、テキストを読解する能力と倫理的に思考する能力が習得されると考えている。	隔年
	基礎数理学A	学部で学んだ数学をより高い視点から振り返ることでより深い理解を得ることを目標として、微分積分学および線形代数の理論を現代数学の立場から捉えなおす。基礎数理学Aでは数の体系・関数の連続性・微分可能性・ユークリッド空間の線形写像・初等超越関数について検討する。	
	基礎数理学B	基礎数理学Aの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。基礎数理学Bでは関数の線形近似としての微分法・多項式近似としてのテイラーの定理・線形空間と線形写像・行列式とヤコビアン・固有値についての再検討する。	
	基礎数理学C	基礎数理学A・Bの内容を前提として、引き続き微分積分学および線形代数の理論を現代数学の視点から捉えなおす。基礎数理学Cでは行列の固有値と標準形及び非特異値分解、積分法、広義積分と無限級数、微分形式とその積分について検討する。	
	総合数理学A	数学のより深い理解を目指していくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Aでは集合に関する基礎概念及び選択公理、計算機数学についての基礎概念、特に代表的アルゴリズムと計算量について取りあつかう。	
	総合数理学B	総合数理学Aの内容を前提として、数学のより深い理解を目指していくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Bにおいては数理論理の基礎概念（命題論理及び述語論理）および2回偏微分方程式の代表例（双曲型・楕円型・放物型方程式）について取り扱う。	
	総合数理学C	総合数理学A・Bの内容を前提として、数学のより深い理解を目指す。いくつかのテーマについて専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。総合数理学Cにおいては代数学の基礎概念、特に環論および加群のホモロジー代数的理論および外積代数、及びベクトル解析の基礎理論について取り扱う。	
	現代数学基礎A	現代数学の諸分野を概観し、バランスの取れた数学観を身につけることを目標とする。現代数学基礎Aにおいては微分方程式の基礎理論（解の存在・一意性定理、解の定性的理論、級数解と特殊関数論）について概観し、また確率論に関する基礎概念（確率モデル、条件付確率と事象の独立性、確率分布、大数の法則と中心極限定理）について取り扱う。	
	現代数学基礎B	現代数学基礎Aの内容を踏まえて、引き続き現代数学の諸分野を概観し、バランスの取れた数学観を身につけることを目指す。現代数学基礎Bでは主に代数学の基本概念、特に群論と対称性、多項式と代数方程式、可換環論・可換体論、代数方程式のガロア理論について取り上げる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	現代数学基礎C	現代数学基礎A・Bの内容を踏まえて、現代数学の諸分野を概観しバランスのとれた数学観を身につける。現代数学基礎Cでは幾何学、特に曲面の曲率と測地線、ガウス・ボンネの定理、及び複素解析学の基本的な事柄、特に有理型関数と解析接続・留数計算・リーマン面、について取り上げる。	
	現代数学特別研究A	総合数学A・B・Cに引き続き、数学のより幅広い理解を目指していくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。特に統計学における基本概念（推定論及び検定論）について、さらに幾何学における結び目理論の基礎とその応用について取り上げる。	
	現代数学特別研究B	現代数学特別研究Aを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Bでは整数論（一般化中国剰余定理、オイラー関数、平方剰余の相互法則）および複素解析学（解析接続、ガンマ関数とスターリングの公式、ゼータ関数と素数定理）について取り上げる。	
	現代数学特別研究C	現代数学特別研究A・Bの内容を前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Cではフーリエ級数・フーリエ変換と調和解析、曲面および3次元多様体の幾何学の基本概念について取り上げる。	
	現代数学特別研究D	現代数学特別研究A・B・Cの内容を前提として、数学の幅広く深い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。数理論計学（推定論・検定論）および幾何学（結び目理論）についてより進んだ話題について取り上げる。	
	現代数学特別研究E	現代数学特別研究A・B・C・Dを前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Eでは整数論と複素解析学の関りについてより進んだ話題について取り上げる。	
	現代数学特別研究F	現代数学特別研究A・B・C・D・Eの内容を前提として、数学のより幅広い理解を目指す。いくつかの主題について専門的に講究し、併せて数学的内容の説明の仕方について学ぶため、学生の発表および発表後のレポートをもとにして数学のいくつかのテーマを取り扱う。現代数学特別研究Fではフーリエ変換と位相群上の調和解析、曲面および3次元多様体の幾何学についてより進んだ話題を取り上げる。	
	数学教育研究方法論	数学教育における教授・学習に関する研究方法の理論的前提や認識論的立場について、研究事例の批評を通して検討する。授業の前半では、質的データの採取及び分析における前提、手法の意義と限界について学ぶとともに、最近のいくつかの研究事例について批判的に検討する。授業の後半では、数学科授業の分析に焦点化し、国際比較研究「学習者の観点からの授業研究（LPS）」による授業・インタビューデータの分析を実例として、数学科の授業の実証的研究における質的研究方法の意義と限界を探る。	
	数学教育学習論	1970年代から今日までにいたる数学の学習に関する実証的研究の動向についてのその概略を講義するとともに、各時代の研究論文を読んで、その研究方法および知見を知る。特に、数学学習における内的理解と外的理解の問題、手続き的知識と概念的知識の関係及びその乖離の問題、数学の問題解決過程と数学学習の問題、数学の信念システムやメタ認知の問題、そして教室における学習と社会的・数学的規範の役割、学習における文化的要因の影響を中心に研究事例を検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	数学教育カリキュラム論	数学教育におけるカリキュラム開発について、文献講読を通して考察する。この過程で、数学教育学研究における基礎的用語や基本概念を理解するとともに、数学の指導内容やその取扱いについて学習する。また、数学のカリキュラムの構成原理や数学教育思想など幅広い視点からの考察を行い、日本の学習指導要領の変遷や海外のスタンダード、ナショナルカリキュラムなど実際の数学のカリキュラムを対象に、その学術的な分析や考察ができるように、数学教育学研究の基礎としてカリキュラム開発の理解を深める。	
	数学教育内容論	数学者、数学史、数学教育の三領域において突出した業績をあげたH. Freudenthalの数学的活動論を前提に、数学化を解説し、再組織化による指導系統こそが、教育課程の系統をなすことを確認する。そこでは内容上の矛盾が現れ、生徒のつまづき、それを解消する弁証法的対話も起こり得る。本講義では、内容にかかる研究成果と教科書分析を通して、小学校から高等学校までの算数・数学教材を深める。	
	数学教育実践論演習（代数・幾何）	数学教育における代数・幾何領域に関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。数学教育上の実践的な課題に対する調査やデータ分析や解釈を含むような数学教育学研究を取り上げる。高等学校の代数・幾何領域やこれらに関連する中学校の領域を視野に入れ、これらの実践的な課題に対する基礎的な研究方法を学習する。学習した内容を基に、学生の自身による課題設定や問題解決を行い、その発表と検討を通して、成果をまとめる演習を行う。	
	数学教育実践論演習（解析・確率統計・ICT利用）	数学教育における解析・確率統計領域及びICTに関する実践的演習を、文献講読に基づいて行う。解析領域では、関数、解析幾何、極限、微分積分学の基本定理などについての教材研究に、確率統計領域では統計的推測、ばらつき・変動性の扱い、データサイエンスなどの統計的方法を確認したうえでビッグデータ等の扱いにかかる批判的思考に焦点を当てる。これら領域および代数・幾何領域におけるICTを活用した数学探究を実践する。	
	理科教育基礎論	現代理科教育学研究の動向とその成果を理解し、修士課程で理科教育学研究に取り組み、また修了後、理科教育研究力を有する理科教員となるための基礎を形成することを目標とする。授業全体を通して、歴史的社会的現象である理科教育を対象化し解明するための基本的な枠組みと、その研究成果・動向について講義する。具体的には、理科教育学研究の射程に鑑み、理科教育目的論、理科教育内容論、理科教授・学習論、理科教育評価論及び現代理科教育論の基礎にある科学論等について論究する。	
	理科教育学演習	理科教育学研究を始めるための基礎的演習である。理科教育学研究力とプレゼンテーション力の向上を図ることをねらいとする。理科教育学関連の英語論文を読み、理科教育学研究の実際・困難点・動向を把握する。前半は、理科教育の代表的な国際誌に掲載された最新の英語論文を各自で1本読み、その論文の内容を和訳してまとめ、発表し、相互に批判・検討を行う。後半は、理科教育における科学的な探究もしくは理科学習論に関する英語論文1本を全員で読み、和訳し、内容を検討する。	
	理科教育学習論	D. ホドソン著「新しい理科教授学習論」を使用し、理科学習研究を進める上での教師の実践的力量形成をねらいとする。どのような教授学習方法を用いれば子供一人一人が持っている個性的な世界理解を尊重しながら新たな世界理解を構築できるのかに関して吟味していく。「科学の学習」を「科学を学ぶ」「科学について学ぶ」「科学を実践する」という三つに区分し、具体的な学習法を考究する。それぞれのテーマに関連した参考図書はその都度紹介し、必要に応じて講義の中で取り上げる。	
	理科教育研究方法論	教材、教具、授業プランなどを開発したりしながら理科教育の実践的研究方法を学ぶ。具体的な体験を通しながら様々な方法論を身につけることを目指す。さらに、適切な教材、教具を開発するために、授業を通しての児童・生徒の理解を探る方法論についても検討する。「単語連想法」「運勢ライン法」「関連図法」など教育研究で広く使用されている調査方法に加え、新たな方法を吟味していく。そこで用いられる方法（プローブ：探り針）は、質の高い学習を促進する効果的な手段にもなる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育実践演習	まず、実際の理科授業の動画を見て、理科授業を規定する要因と授業の多様性について考え、議論する。次に、アクティブラーニングの理論・実践に関する書籍を読み、内容をまとめ、発表・議論する。その際、新学習指導要領理科における、理科の資質・能力を育成するための主体的・対話的で深い学びのあり方についても検討する。以上を踏まえて、学校現場で実践することを想定し、個人もしくはグループで、中学理科の授業を構想・実践し、相互評価を行う。	
	基礎物理学1	教育現場における生徒の物理学への苦手意識払拭の一助として、理科教員を目指す学生に物理学の面白さを伝えることを目的とした講義を行う。物質の成り立ち、光の性質、力学、熱力学、電磁気学、原子物理学、天文学、素粒子物理学、物性物理学などのテーマについて、まず、物理学における基本概念と基本法則の誕生と変遷に注目して講義を行う。また、この中で、中等教育では触れられない、高度ではあるが興味深い現象や概念についても講義を行う。	
	基礎化学1	<p>周期表、原子と分子の構造、化学結合、物質質量、気体の状態方程式、エンタルピー、物質の三態、溶液と固体の性質など化学の基礎となる項目を講義する。本講義により、高校化学を教えるために必要な化学の基礎的な知識を修得させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(555 末木啓介/4回) 元素と物質及び周期表、気体とその状態方程式、化学変化と熱の出入り及びエンタルピーについて解説する。全体のまとめも行う。</p> <p>(584 佐藤智生/2回) 液体と溶液及び物質の三態と溶液の性質、固体とその性質について解説する。</p> <p>(623 長友重紀/2回) 量と濃度及び物質質量、原子と電子及び原子の構造について解説する。</p> <p>(638 藤田健志/2回) 共有結合と分子の構造、イオン結合と金属結合など、化学結合について解説する。</p>	オムニバス方式
	基礎生物学1	<p>分子生物学、形態、生殖、進化、分類、生態などの基礎生物学の内容を、中高生に分かりやすく説明できるようになる。また、基礎生物学分野の研究がもたらす社会的側面についても理解し、討論できるようになる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(565 橋本哲男/4回) 分子生物学によって明らかにされた生命現象の基本原則について、中学・高校の学習内容との関連を踏まえて概説する。また身近な自然から生物を学ぶ視点を提供する。</p> <p>(598 中山剛/4回) 生物の体のつくりについて、特に植物に注目して概説する。また身近な自然から生物を学ぶ視点を提供する。</p> <p>(634 出川洋介/2回) 身の周りの微生物、特にカビ、酵母、キノコなどの菌類について概説し、学習指導に活用するポイントについて述べる。</p>	オムニバス方式
	基礎地学1	<p>理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地球史、生命史、大陸形成史の基礎的な内容について講義する。授業の前半は、生命の誕生以降の地球の歴史と生物の進化およびそれらの相互作用によって作られてきた地球表層史を俯瞰する。また基本的な化石標本の調査と処理および同定記載、ならびに生層序対比、古生物地理、機能形態解析、系統樹作成を含めた進化理論、化石成因論、古生態復元、古環境復元、化学化石分析などの具体的な研究例に基づき、実際の研究を行う上で必要な概念と手法を理解する。後半は、地球を構成する岩石のうち、特に火成岩と変成岩について、基礎的な分類から、その生成過程、起源、テクトニクス等に焦点を当てて講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(577 上松佐知子/5回) 地球の歴史と化石成因論について解説する</p> <p>(559 角替敏昭/5回) 地球の内部構造:岩石や地震波による地球内部構造の解析法、花崗岩や玄武岩の分類や成因、野外での岩石観察方法について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎物理学2	中等教育における物理学の教員が背景知識として習得していることが望ましい、高度ではあるが興味深い現象や概念について講義する。題材として、結晶構造、相対性理論、フーリエ変換、数の概念、準周期系、カオス、エントロピー、トポロジー、フラクタル、などを扱う。ここでは特に、物理学と密接な関わりをもつ数学との関係に注目し、数学者が作り上げた抽象的な概念を物理学者が如何に現実の現象に応用してきたかを講義し、高度な現象や概念の理解を目指す。	
	基礎化学2	化学平衡、酸と塩基、緩衝作用、酸化と還元、電池、化学熱力学、エントロピー、反応速度、活性化エネルギー、核化学、原子核、同位体、有機化学、立体化学、化学分析、クロマトグラフィーなど化学の基礎となる項目を講義する。本講義により、高校化学を教えるために不可欠な化学の基礎的な知識を修得させる。 (オムニバス方式／全10回) (584 佐藤智生／4回) 酸化還元反応と電池、化学熱力学とエントロピー、反応速度と活性化エネルギーについて解説する。全体のまと (555 末木啓介／2回) 核化学、原子核、同位体について解説する。 (623 長友重紀／2回) 化学変化と平衡及び化学平衡、酸と塩基及び緩衝作用について解説する。 (638 藤田健志／2回) 有機化学と立体化学、化学分析とクロマトグラフィーについて解説する。	オムニバス方式
	基礎生物学2	理科の教員として必要な生物学の基礎的な知識の習得するため、化学生態学、遺伝学、進化学、動物系統分類学、動物形態学の基礎的な内容について講義する。 (オムニバス方式／全10回) (546 戒能洋一／4回) 信号化学物質について、同種間の信号物質(フェロモン)、異種間の信号物質(カイロモン、アロモン)、異種間の信号物質(シノモン) (587 澤村京一／3回) 遺伝学の歴史、進化学の歴史、遺伝学・進化学の最前線 (625 八畑謙介／3回) 動物とは何か、動物の多様性と分類、動物の系統と進化	オムニバス方式
	基礎地学2	理科の教員として必要な地学の基礎的な知識の習得のため、地層学・層序学、鉱物学の基礎的な内容について講義する。授業の前半は堆積岩・堆積物の分類や生成過程、それらに記録された情報を読み取る手法を講義する。また、様々な種類の層序学的手法を用いて地層を対比し年代の新旧を知る方法についても解説する。授業の後半では、石英・長石・かんらん石・輝石などの主要な造岩鉱物の性質や、炭酸塩岩や土壌を構成する各種鉱物の性質について講義する。本授業により、知識と理解力および問題解決能力を向上させる。 (オムニバス方式／全10回) (604 藤野滋弘／5回) 地層学・層序学の基礎について解説する。 (620 興野純／5回) 鉱物学の基礎について解説する。	オムニバス方式
	理科教育実験1	物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。 (オムニバス方式／全10回) (604 藤野滋弘／3回) 粒子の沈降速度 (613 森下将史／3回) 弦の振動と共鳴、振り子と共鳴 (623 長友重紀／2回) 単分子膜法を利用したアボガドロ数の測定、単分子膜法の改良または他の方法によるアボガドロ数の測定方法の (625 八畑謙介／2回) 骨の折れる実験、動物の中の動物	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育実験2	<p>物理、化学、生物、地学の各分野について、基礎的な実験・実習技術を習得し、科学全般の理解を深める。本実験により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(613 森下将史/3回) 重さのあるばねの振動、坂道を落下する大きさのある物体の運動量とエネルギー (638 藤田健志/3回) 光化学反応、エステル合成 (625 八畑謙介/2回) 身近な植物の観察と調査の基礎 (559 角替敏昭/2回) 偏光顕微鏡を用いた岩石薄片の観察</p>	オムニバス方式
	物理学教育実験	<p>身近な物理現象の理解と、教育現場における実習実験に創意工夫を行える技能の習得を目指して、実験実習を行う。テーマは大きく2つ行う。1つは、空気抵抗を受けながら落下する物体や自らが興味を抱く運動する物体について、デジタルカメラで撮影した動画から画像解析の技術を用い、物体の運動の解析を行う。もう1つは、エレキギターのパックアップ部に着目し、実際にピックアップ部を自作して電磁誘導により弦の振動を電氣的に検出し、さらにオシロスコープでの観測を行う。</p>	
	化学教育実験	<p>化学実験を行うことを通じて、化学的現象のモデル実験、観察、データ処理、教材制作の方法を研修し、化学教育における実験のあり方を考究する。本実験では各実験テーマについて「指導側と被指導側に分かれて行う」ことにより、化学教育の指導法についての理解力を向上させ、実践に必要な力を身につけることを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(638 藤田健志/5回) クロマトグラフィー実験による分離法理解の指導法 (623 長友重紀/5回) 中和滴定実験による緩衝溶液理解の指導法</p>	オムニバス方式
	生物学教育実験	<p>中高生を対象とした生物観察・実験の指導ができるようになるため、生物学の様々な分野の実験を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(598 中山剛/2回) 果実の観察方法の学習、果実の観察と結果の考察 (546 戒能洋一/1回) 昆虫の行動解析方法の学習 (625 八畑謙介/1回) 昆虫の行動解析と結果の考察 (587 澤村京一/2回) ショウジョウバエの唾腺染色体の観察方法の学習、ショウジョウバエの唾腺染色体の観察と結果の考察 (564 野村港二/2回) 植物の突然変異体の観察方法の学習、植物の突然変異体の観察と結果の考察 (565 橋本哲男/2回) DNAの抽出とPCR法による増幅方法の学習、DNAの抽出とPCR法による増幅実験と結果の考察</p>	オムニバス方式
	地学教育実験	<p>地学教育に欠かせない代表的な実験（例えば化石、地層、岩石、鉱物などの観察および鑑定）の手法を修得する。また野外における調査方法や危機管理方法を学習し、安全教育を実践する手法を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(577 上松佐知子/6回) 古生代の化石の観察とスケッチ、中生代および新生代の化石の観察とスケッチ、地層の観察とスケッチ (620 興野純/4回) 珪酸塩鉱物の観察とスケッチ、珪酸塩以外の鉱物の観察とスケッチ</p>	オムニバス方式
	地学教育野外実験1	<p>埼玉県皆野町周辺をフィールドとして、野外巡検の基礎を学ぶ。特に、不整合、高圧低温型変成岩などの観察や、ルートマップ作成方法、クリノメーターでの走向・傾斜の測定方法、露頭の観察方法、ルーペを用いた微細構造の観察、岩石試料の採集方法などを野外で学習する。本野外実験では事前学習を含む巡検の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。この野外実験を履修することにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地学教育野外実験2	埼玉県小鹿野町周辺をフィールドとして、野外巡検の基礎を学ぶ。特に、地質構造、堆積構造、岩石中の微細構造などの観察や、ルートマップ作成方法、クリノメーターでの走向・傾斜の測定方法、露頭の観察方法、岩石試料の採集方法などを野外で学習する。本野外実験では事前学習を含む巡検の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。この野外実験を履修することにより、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	
	理科野外実習インターンシップ	附属坂戸高校の野外実習に参加し、野外実習における指導法や安全教育などの実践方法を担当教員および附属高校の教員から学ぶ。本インターンシップでは、事前学習を含む野外実習の企画と運営、および事後のレポート作成を必須とする。事前学習では、附属高校において指導法や安全教育などの指導方法を学習する。生徒向け野外活動のしおりなどを作成し、野外活動の全体を把握する。野外実習では事前学習で指導を受けた内容を実践する。特に野外での生徒指導方法や、安全対策、危機管理方法について学習する。また生徒の野外での研究活動や成果発表会の指導補助なども行う。事後学習として、附属高校において野外実習の総括を行う。最後にインターンシップのレポートを作成し、担当教員および附属高校教員からの指導を受ける。	
	物理学特講	物理学における基本概念の理解習得と、教育現場における懐深い授業のための話題提供として、物理学における傑出した研究者たちの人物像を中心にセミナー形式の授業を行う。ピタゴラス、アルキメデス、アリストテレス、コペルニクス、ガリレオ、マックスウェル、アインシュタインなどの人物を題材とし、教員が題材とする研究者について概要を説明した後、さまざまな文献で受講生が調査してきた内容を発表し合い、理解を深めるとともに人物像をより具体化することを目指す。	
	化学特講	理科教育を志す受講生が現代化学の広がりや深みを理解できるように、現代化学のトピックスをその基礎になる考え方とともに講義する。本講義により、社会・生活と深くかかわる現代化学の広がりや深みを理解させるとともに、化学における基本的な概念や原理・法則の理解を深めさせ、化学教育力を向上させる。 (オムニバス方式/全10回) (584 佐藤智生/3回) 化学と色の関わり、電磁波と化学、化学における光の利用について解説する。 (555 末木啓介/3回) 放射性同位体から見た化学、重元素の化学、環境中の放射性核種の化学について解説する。 (623 長友重紀/2回) 金属タンパク質の生物無機化学、ヘムタンパク質の機能と構造について解説する。 (638 藤田健志/2回) フッ素の関わる化学の基礎と応用について解説する。	オムニバス方式
	生物学特講	自然界における生物の相互関係の理解を深めるため、特に植物・昆虫・菌類の関係を中心に講義と観察・実習を行う。観察・実習では、自然観察に必要な目と技術を養うことを目標とする。具体的には、野外での昆虫採集方法、標本の作り方に関する手法を理解させ、野外での昆虫採集の手法を習得し、標本の作り方、目の同定を実践する。講義では、昆虫を中心に動物の分類や生態を紹介し、自然の仕組みとそれを研究するための基礎的な事項について学習させる。最後に、菅平における代表的な自然植生と人為植生との違いを説明し、理解させる。この授業を通して、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力を向上させる。	
	地学特講	理科教育を志す受講生が地学分野の広範囲の内容を理解するため、小学校・中学校・高等学校で実施されている天文教育と気象教育の内容について講義する。授業内容は、地球の自転と太陽と月の動き、月と太陽系惑星の特徴と運動、銀河系と宇宙、太陽系の成因、宇宙の成因、雲と風、天気の変化、気温の変化、地球の熱収支、大気と海洋の循環などである。本授業により、天文学および気象学に関する知識と理解力および問題解決能力を向上させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育学特講	現在展開されている理科教育学研究の最新の知見を把握し、それらについての理解を深めることを目標とする。具体的には、主に科学的知識・概念の獲得という部分に焦点を当て、そこに関係する諸側面として特に科学哲学、認識論、認知心理学研究を取り上げながら、各々について講義し、議論する。また、それらを踏まえた上で、現代理科教育論の基本的立場を再確認するとともに、今後の理科教育学研究における課題について総合的に検討する。	
	英語教育研究方法論	英語教育研究におけるデータの収集や解析などの方法論について理解を深めることを目的とし、統計の基礎知識から様々な量的分析の方法を学び、統計ソフトによって実践できることを目指す。具体的には、記述統計及び推測統計の基礎知識や、相関分析、t検定、分散分析、因子分析といった外国語教育研究で広く用いられている統計手法について学ぶ。さらに、統計フリーソフトRについても扱い、基礎的な統計手法や応用的な使用方法までをRで行うことができるようにする。	
	英語教育学習論	第二言語の習得や処理に関する書籍や文献を講読し、第二言語習得の特徴やその指導法について理解・議論する。具体的には、構文学習や用法基盤モデルといった近年着目されている言語習得理論を中心に様々な研究成果を概観し、指導への示唆を理解する。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育の理論と実践について自身の考えを深めることを目指す。	
	英語教育内容論	第二言語理解や処理における特定の技能や要因に関する書籍・文献を講読し、第二言語理解や処理、その指導法について理解・議論する。具体的には、リーディングであればその認知処理や動機づけ、指導とカリキュラム、評価方法などについて扱う。また、そのような先行研究によって得られた知見をもとに国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の実践について理論的・批判的に捉え、英語教育における特定の技能や要因に関する自身の考えを深めることを目指す。	
	英語教育実践論	英語教育の実践的な知識を学び、多様な指導環境や児童・生徒の学びの特徴について理解する。具体的には、国内の小学校、中学校、高等学校における英語教育の目標や教材について理解するとともに、各校種の授業見学あるいは映像視聴を行い、より良い英語授業の実践について理論的・批判的に自身の考えを深める。そして、模擬授業の設計、実施、振り返りを通して、各校種の英語の授業づくりと実践に必要な知識と技術を身に付けることを目指す。	
	芸術科教育特講A	芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、芸術教育におけるディシプリンや今日的課題、〈新しい能力〉概念と芸術教育、芸術教育における能力観、芸術教育におけるイメージリテラシー、学習科学と芸術教育等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	
	芸術科教育特講B	芸術教育に関する基本文献を講読して今日的な課題を概観し、その解決のためのさまざまなアプローチを理解することができること、特に、芸術教育に関する学会誌に掲載された論文をレビューし、その方法論の特徴、成果と課題を明確化できることを目標とする。そのために、『美術教育学』等の学会誌論文の中から、描画表現における発達、表現・鑑賞学習への動機づけ、芸術学習における転移、芸術学習におけるメタ認知、鑑賞スキルとその発達等に関わるテーマを選び、その目的、方法、結果を要約し、そこから発展する問いを提案し議論する。また、各自がレビューした論文や授業で取り扱った論文を総括して考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術科教育実践論演習A	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法を習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、仮説と理論の関係、リサーチクエスションの設定、分析ワークシートの作成、理論生成のプロセス等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	
	芸術科教育実践論演習B	近年の教育実践研究における質的研究の方法に注目し、その基本的概念と手順について理解を深め、芸術科教育での課題に対する各自の問題意識と対応させた方法を習得することを目標とする。そのために、芸術科教育実践における今日的な課題を解決するための質的アプローチの基本的概念について、協調学習における理解深化プロセス、パフォーマンス評価による学びの可視化、対話型鑑賞における鑑賞者同士の学習支援等の視点から理解し、実践におけるさまざまな問題の背景要因の分析と問題解決のための理論モデル生成の手法について演習する。	
	芸術鑑賞論A-1	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞における協調的学習の知見を理解し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方を開発できることを目標とする。そのために、近年の教育改革や学習理論において注目されている対話による協調的学習に着目し、対話型鑑賞の考え方やその実践例を概観しつつ、そのプロセスを取り入れた対話型美術鑑賞の可能性と課題について、学校や美術館での対話型鑑賞を想定したミニ実践を通して考察する。	
	芸術鑑賞論A-2	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞に関する方略的な知見を習得し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方を開発できることを目標とする。そのために、芸術作品の鑑賞プロセスでの思考や概念の変化を事例ごとにマッピングし、パーソンズ(Parsons, M.)の発達理論と対比しつつ、芸術鑑賞におけるスキルやメタ認知のとらえ方について、鑑賞文からのスキル分析や鑑賞における思考の構造化の視点から検討し、芸術教育における実践への具体化を考察する。	
	芸術鑑賞論B-1	人々は芸術作品をどのように理解するのかという問いにかかわる先行研究の検討や事例分析を通して、芸術鑑賞における協調的学習の知見を理解し、それらの知見を活用した芸術教育での学習方を開発できることを目標とする。そのために、芸術鑑賞における解釈や判断等の思考過程に注目し、その過程で葛藤やジレンマ、意味の生成、論争などを促す方法について検討する。さらに美術的な思考の深化を促す美的判断ジレンマやArt as Therapyのプランを立案・実践し、議論する。	
	芸術鑑賞論B-2	鑑賞教育研究の方法論やユニークな方策について理解し、各自の研究に生かす独自の調査方法や研究ツールを開発することができることを目標とする。そのために、芸術鑑賞教育研究に関わる先行研究をレビューし、美術鑑賞プロフィール(AAP)、パフォーマンス評価、対話による鑑賞活動、協同学習を取り入れた鑑賞などの具体的な知見から研究方法を考察し、鑑賞教育研究の方法論について全般的に理解を深め、各自の研究における独自の調査方法をそれぞれが開発する。	
	保健体育教育内容論	保健体育科の教材について、教材開発と学習指導の実践及び研究に関する基礎知識を身につける。各種運動領域の教材、学習及び学習指導に関する開発・実践及び研究に関する知識を踏まえて、教材及び単元計画の開発、学習過程及び指導方法の開発、開発した教材、単元計画、指導方法を検証するための研究を計画できるようにすることを目標とする。具体的には、保健体育科の教材について基本的理論を学ぶ。各種運動・スポーツ種目のトレーニングと指導法に関する知識を踏まえて、教材を開発する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健体育教育実践論演習Ⅰ	教育実習において実習生が直面する問題を理解し、問題解決の助力と指導計画の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の事前指導を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育教育実践論演習Ⅱ	教育実習の準備段階で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につけることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生が教育実習前に行う観察実習および指導案作成を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育教育実践論演習Ⅲ	教育の現場で実習生が直面する問題点を理解し、指導案作成の指導を通じて自らの授業計画、運営能力を身につける。実習校の指導教員の実習生への指導を、自らの授業力の向上に役立てることを目標とする。具体的には、筑波大学附属小学校・中学校・高校と連携し、保健体育科の教育実習生の指導を観察、補助することを通じて、保健体育科の授業作り、教材作り、学習指導、評価に関する知識を学校現場でどのように活用し実践するのか、保健体育科の教育実習生が直面する課題とその解決方法を理解し、学習指導並びに授業改善に必要な知識と実践力を身につける。	
	保健体育カリキュラム論	現在の学校に対する社会的な要請や、児童生徒のニーズを理解する。その上で課題やニーズに対応した、小・中・高校段階のカリキュラムを設定できる力を身につける。また、体育の目標と内容について学び、カリキュラムモデルを理解することを目標とする。具体的には、教科としての体育の意義と学習すべき内容を理解し、発達段階に応じたカリキュラムを考える。学校段階に応じたカリキュラムの考え方を学び、さまざまなカリキュラムモデルを理解し活用できるようになる。	
	保健体育授業づくり論	より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動などについて考えることができること、実現可能な指導計画、教材の考え方を身につけ、良い保健体育授業が行えるようになることを目標とする。具体的には、保健体育の授業づくりの基礎をふりかえり、さらに実践的な考えの下に年間計画、単元計画、指導計画づくりを検討する。今、この時代に求められる保健体育授業、学校のあり方について考える。より良い体育授業を行うための、授業計画、教材を活かす学習過程の設計、授業中の肯定的雰囲気と運動学習の勢いをつくり出すマネジメントと教授行動について検討する。	
	Education and an Interconnected World	国際教育に関する諸問題について、相互依存を深める世界との関連を視野に入れながら考察する。授業では、国際バカロレア（IB）を含む国際教育の定義を検討し、また、日本における国際化・グローバル化対応の教育政策の動向を概説することで、国際教育をめぐる国内外の取り組みについて検討する。まず、ユネスコやIBの文書、関連論文を手掛かりとして国際教育の定義を検討する。次に、IBのミッション・ステートメント、学習者像、国際的視野の位置づけを確認する。後半は、日本における動向に焦点を当て、戦後の国際理解教育の受容や近年のグローバル人材育成をめぐる議論について検討する。	
	Research Methodology	修士論文の作成に必要な研究方法の基礎理論について検討する。まず、これまでの各自の研究経験を振り返り、修士論文の作成に向けて必要となるステップを確認する。次に、研究の方法論を検討するために、実証主義、構築主義、批判理論といった研究上のスタンスの相違を比較検討し、研究上の問いや研究の意義を吟味する。また、これらのスタンスの相違が研究方法の選択にどのようにかかわってくるのかを理解する。最後に、量的研究と質的研究における代表的なデータ収集の方法として質問紙調査とインタビュー調査を取り上げ、可能となる分析や留意点について概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Research Design and Methods	修士論文の執筆に必要な理論と実践を修得する。前半部分では、研究計画の立案方法、具体的な「問い」の立て方、先行研究の分析、様々な研究手法について理論を中心に学習を進める。後半部分では、前半に学習した理論を基に実践力を高める授業を実施する。具体的には、修士論文作成のためのインタビュー調査、質問紙調査などを作成し、グループ学習、学校訪問、被験者の招聘などを通じて実際に調査を試み、研究スキルを向上させる。	
	Pedagogy for a Changing World I	国際バカロレア (IB) 等の国際教育の教育者として、教授上のアイデンティティを理解できるようになることを目標とする。振り返りによる批判的洞察を伴う経験学習及びその理論の検討を通して、21世紀の教育者としての行為主体性を理解する。授業では、国際バカロレアのビジョン、協働的探究、批判的思考、学習理論、社会的・情緒的・倫理的 (SEE) 学習、ホリスティック (包括的) 教育、多言語主義、認知的学習的言語運用能力 (CALP) 等をトピックとして扱い、国際教育における教授・学習理論について検討する。	
	Pedagogy for a Changing World II	本授業における学習を通して、国際的な教育者としての教授上のアイデンティティと行為主体性の育成を図る。授業では、国際バカロレア (IB) 等にみられる探究に基づく学習の教授実践の中心的原則である「知の理論 (Theory of Knowledge: TOK)」について検討する。授業では、TOKの枠組みである「知るための方法 (WOKs)」と「知識の領域 (AOKs)」を手がかりとして、感覚、芸術、言語、物語、感情、記憶などに着目し、批判的思考の育成方法及び変容を促す教育について理解する。	
	Assessment for Learning I	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法を理解しながら、学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて考察と実践を深める。ICT活用やポートフォリオといった取り組みについても学ぶ。経験学習を通して、協働活動も行う。授業の前半は、評価に関する理論とIBの各プログラムにおける評価の特徴を理解するとともに、形成的評価・総括的評価、セルフアセスメント、ピアアセスメント等の多様な評価方法を整理する。後半は、評価課題やルーブリックを作成し、発表を行う。	
	Assessment for Learning II	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育における様々な評価法についての理解を深化させる。学習内容の評価だけでなく、学びのための評価やフィードバックについて実践的に取り組む。経験学習を通して、協働活動も行い、実際の評価法についてプランナーを作成しながら検討する。授業の前半では、発達段階や学習活動に応じた評価方法について理解を深める。後半では、それらの理解をもとに各プログラムや発達段階に対応した評価課題及びルーブリックを作成し、発表を行う。	
	Curriculum as Process I	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを理解する。発達段階やそれぞれの国の文脈に対応したカリキュラムについても考察する。経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、まず、カリキュラム論における議論を参照し、イデオロギーの相違を整理した上で、IBの各プログラムのカリキュラムフレームを理解する。次に、各国における公的カリキュラムの検討を行い、その特徴を比較する。最後に、カリキュラムのデザインとそのプロセスについて検討し、発表を行う。	
	Curriculum as Process II	国際バカロレア (IB) を中心とする国際教育の理論、カリキュラム概要やフレームワークを深く理解する。IBのカリキュラムフレームワークを通して、具体的なカリキュラム・プランニングやデザインを実践する。討論や協働活動、課題発表も行い、探究を深める。授業の前半では、探究学習、概念学習、学際的・教科横断的学習、経験学習など学習形態に応じたカリキュラム・プランニングについて検討する。後半では、カリキュラム・マッピングを行い、ユニットプランナー (単元指導案) を作成し、発表を行う。	
	The IB Primary Years Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの初等教育プログラム (Primary Years Programme: PYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、PYPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、PYPの最終の評価課題であるエキジビションに取り組み、その成果を発表する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	The IB Middle Years Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBの中等教育プログラム (Middle Years Programme: MYP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、MYPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、MYPの最終の評価課題であるパーソナルプロジェクトに取り組み、その成果を発表する。	
	The IB Diploma Programme	国際バカロレア (IB) 全体、そして、IBのディプロマプログラム (Diploma Programme: DP) の教育理論、カリキュラムフレームワークや教授法を理解する。様々な状況や文脈での国際バカロレア教育の導入や実践についても考察する。IBの教育を模範にしながら、経験学習を通して、協働活動や発表も行う。授業では、DPに着目して、学習と指導の方法、カリキュラム開発、探究学習、評価について理解を深める。後半では、DPの最終の評価課題である課題論文に取り組み、その成果を発表する。	
	Professional Learning and Reflective Practice	国際バカロレア (IB) における振り返りと専門職能開発を中心として、その役割と意義について検討する。授業の前半では、IBのカリキュラムの改訂サイクル、教師に期待されるセルフスタディ及び生涯学習のあり方について検討する。また、IBによる定期評価及び専門研修の仕組みについて理解する。授業の後半では、振り返りの方法としてのアクションリサーチ、専門職能開発としてのポートフォリオに着目し、その意義と実践方法について理解を深める。	
	Field Research	国際バカロレア (IB) 認定校においてグローバルな文脈を取り入れた探究学習の授業実践を行う。まず、事前に学校訪問及び授業参観を行い、学校の特色や児童生徒の実態を把握しつつ、IBの各プログラムの授業について理解を深める。その後、IB校の教員の助言を受けながら探究学習のユニットプランナー (単元指導案) を作成し、実践する。毎回の授業後に振り返りを行い、授業実践スキルの向上を目指す。指導後には全体での振り返りを行い、各自の授業実践の振り返りを共有し、改善方策を検討する。	
	国際理解教育論	日本における国際理解教育について検討する。在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例としながら現代的な教育課題について考察する。授業では、まず、日本における国際理解教育の展開について整理し、その課題の変遷を把握する。次に、個別の教育課題として、在日コリアンの教育、帰国児童生徒教育、外国籍児童生徒教育等を事例として、その課題の背景にある社会変化及び関連施策について理解を深める。授業の後半では、これらの事例に共通する課題として、教育の機会均等、学校適応、母語保持などを取り上げ、子どもたちの文化的・言語的多様性に対応した学校教育のあり方を検討する。	
	グローバル化と教育	グローバル時代の教育に影響を与える社会・政治理論について検討する。ナショナリズム、多文化主義、新自由主義、シティズンシップ等を鍵概念としながら、現代の教育改革との関わりにおいてその理論的潮流を把握する。授業の前半では、新自由主義と教育改革に関する文献を講読する。新自由主義に基づく考え方が、どのように教育改革や学校経営、授業実践に影響を及ぼしているのか、また世界各国でその潮流にどのような相違がみられるのかを検討する。授業の後半では、多文化主義・間文化主義などの多様性と統合に関する文献を講読する。多様な社会統合モデルを比較検討しつつ、人びとの多様性を包摂するような社会及び教育のあり方について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際教育開発論	主に途上国の教育に焦点化し、各国の教育制度・事情を比較、検討しながら授業を進める。特に、サブサハラアフリカと東南アジアを事例として取り上げ、域内の教育制度や最新の教育改革の動向を検討していく。多くの途上国においては、1990年に開催された「万人のための教育 (Education For All: EFA) 世界会議」以降、初等教育の普遍化が国際的目標となり、2015年をEFA達成の目標年と位置づけ、無償化政策などを通して教育機会の拡大に尽力してきた。結果的に、これまで教育の量的拡大には一定程度、成功してきた。その一方で、教育の質（特に内部効率性とアウトプット）が低下し、格差の拡大、教員離職率の上昇など、急激な量的拡大に伴う様々な課題も引き起こしている。このような状況下において、如何に途上諸国が、教育の質や公平性を改善しようとしているのか、最新の教育改革動向を比較、検討していく。基本的な授業の進め方としては、担当教員の講義形式で実施するが、受講者には受け身の姿勢ではなく、積極的に議論に参加することを期待する。	
	国際教育協力論	国際教育協力について「理論」と「実践」の両面から学習を深めていきたい。まず、国際教育協力に係る仕組みと理論を整理し、概念整理を実施していく。次に、世界的な国際教育協力の歴史の変遷を概観しながら、「垂直的な援助」から「水平的な協力」へと変化してきた実態を確認する。その後、日本の教育協力について、ODA（政府開発援助）大綱の改定も踏まえながら、全体的な仕組みやJICA（国際協力機構）の役割や機能を確認していく。実際に日本の国際教育協力事例を取り上げ、映像や資料を参照しながら具体的な教育課題について議論を深めていく。当該議論においては途上国の中でも、特に東南部アフリカの事例と東南アジアの事例を詳細に取り上げて議論を進めていく計画である。基本的な授業の進め方としては、担当教員の講義形式で実施するが、受講者には受け身の姿勢ではなく、積極的に議論に参加することを期待する。	
	教員養成の国際比較	世界の教員養成改革について今日的な視点も交えて、より広い立場から考察したい。現在、世界中でグローバルに進展する教育改革動向に関連付けながら、教員を各国、地域が如何に養成しようとしているのか、最新の教員養成改革の動向について検証していく。 また、後半部分では諸外国の教員養成改革を日本の教員養成改革と相対的に比較、検証する視点を持ち、現在、日本で進展している教員養成改革についても見識を深め、理解を促す。授業は担当教員の講義形式で実施するが、受講者には積極的に議論に参加することを期待する。	
	Education in Japan: Principles Policies and Practice I	現代日本の教育をめぐる論点を政策、制度、実践といった多角的な視点から理解し、またその課題について十分な知識をもとに論じることができるようになることを目標とする。授業では、日本の教育をめぐるさまざまなテーマを取り上げ、その原理、政策、実践を概説する。具体的には、教育制度、学校経営、数学教育、理科教育、社会科教育、言語教育政策、道徳教育、特別支援教育、高等教育をテーマとし、近年の改革動向とその課題を提示する。授業の内容をもとに討論を行い、論点についての理解を深める。なお、主として英語で授業を行う。	
	Education in Japan: Principles Policies and Practice II	現代日本の教育政策、制度、実践を支える諸理論について理解を深めるとともに、諸外国との比較を行うことで、日本の教育の特徴を検討する。Education in Japan Iで履修した内容をより深化させ、日本の教育に対する理解を促す。具体的に扱う領域は、キャリア教育、学校経営論、特別支援教育の3点とし、近年の改革動向とその課題を提示する。授業の内容をもとに討論を行い、論点についての理解を深める。なお、主として英語で授業を行う。	
	初等国語特講A	小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項について、漢文学や国語学を中心に扱う。	
	初等国語特講B	小学校国語科での授業に必要な国語に関する基礎的な事項を確認したうえで、応用的な知見や技能を身につけることを目標とする。具体的には、小学校での国語科の授業に必要な国語に関する知識・技能の向上をねらう。特に伝統的な言語文化について国文学を中心に扱う。また、話すこと・聞くこと・読むこと・書くことなどの国語に関する技能についてもトレーニングしていく。なお、いずれの時間も小学校での実践的な指導や教材化に関する討議を含む。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	初等社会特講	<p>初等社会科教育課程の内容構成を前提として、教科「社会」を担当する教員に必要な教科の専門的知識及び技能を習得してもらうことを目標とする。本授業では、初等社会科教育課程を構成する「地域学習」(3・4年)「産業学習」(5年)「国土学習」(5年)「歴史学習」(6年)「政治学習」(6年)「国際学習」(6年)について、地理学・歴史学・社会諸科学(公民)の各学問領域の立場から、社会科の教材開発に必要な専門的知識及び技能を身に付けてもらう。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(14 井田仁康/3回) 産業学習及び国土学習について、地理学の観点から講義を行う。 (42 唐木清志/4回) 政治学習及び国際学習について、社会諸科学(特に、政治学と社会学)の観点から講義を行う。 (250 國分麻里/3回) 地域学習及び歴史学習について、歴史学の観点から講義を行う。</p>	オムニバス方式
	初等数学特講	<p>算数の背景にある数学の基礎的概念や、学問としての数学の知識や技能、数学的な論理の展開の方法を基に、算数についての理解を深めることを目標とする。</p> <p>具体的には、テキスト(新編 算数科教育研究)を輪読する。この過程で、基礎的概念を学び、問題演習、発表、数学に関する討議を行う。</p>	
	初等理科特講	<p>本授業では、①小学校理科の内容のうち、物理・化学・生物・地学分野に関係する基礎的・基本的知識を身につける、②小学校理科の実験のうち、物理・化学・生物・地学分野に関する基礎的・基本的技能を身につける、の2つを目標とする。具体的には、小学校理科(物理・化学・生物・地学)に関する基礎的・基本的な内容(実験を含む)について解説・検討するとともに、それらの内容から中学校理科の内容への接続という観点に基づいた議論を行う。</p>	
	初等英語特講	<p>年少者が外国語として英語を習得・学習する際のメカニズムを文献講読によって理解し、国内の小学校英語教育について理論的・批判的に考えを深めることができることを目標とする。具体的に、外国語としての英語の習得における年齢要因について、各技能や動機づけ、方略使用の観点から検討する。また、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論についても扱い、英語学や応用言語学などの知見にも触れながら、子どもの発達をふまえた複眼的な検討を行う。</p>	
	初等図画工作特講	<p>小学校学習指導要領の「図画工作」における目標と内容の理論的背景を検討しつつ、指導実践に向けた学習理論について理解することを目標とする。そのために、本授業では、小学校学習指導要領の目標と内容、ならびに学習理論について、表現領域と鑑賞領域ごとに子どもの発達をふまえて複眼的に検討を行う。具体的には、描画表現と鑑賞活動における子どもの発達理論、造形表現と鑑賞を支援する学習方略、造形表現と鑑賞を支援するツールの開発、表現と鑑賞をつなぐ図画工作の授業構想について議論する。</p>	
	初等体育特講	<p>小学校期の身体的・精神的・社会的発達の特徴を学習し、初等教育における「体育」の重要性を理解する。それらに対応した、動きづくり、運動の理解、態度形成と言語活動について専門的な知識を身に付ける。さらに、学習指導要領の学習内容に対応した具体的な運動プログラムを考えられるようになることを目標とする。具体的には、小学校段階の身体的な発育の特徴と身体活動の重要性を、講義を通して理解し、基礎的・発展的な「動きづくり」について検討する。また、認知的・精神的な発達の特徴を理解し、小学校体育で求められる運動に関する理解について検討する。社会的な発達と特徴について理解し、体育における仲間作りと態度形成、言語活動とコミュニケーションについて検討する。専門的な知識とともに、具体的な学習内容や指導方法について考える力を身に付ける。</p>	
専門科目	教育学研究Ⅰ	<p>教育学をテーマとして研究するにあたり、学術論文を執筆するための基礎的な理論と方法を学ぶ。</p>	
	教育学研究Ⅱ	<p>教育学の基盤を形成する各学問領域に関する最新の研究論文をそれぞれ2本ずつ選択し、その検討を通して研究論文の執筆に関わる専門的な知識と汎用的なスキルを身につける。また後半では受講者が研究テーマと論文構想を発表し、全員で討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育学研究Ⅲ	各自の研究テーマに即した担当指導教員のもとで、個別に指導を受けながら修士論文の執筆を進め、中間と期末に全員参加による発表と質疑応答を行う全体検討会を実施する。	
	(教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	<p>(134 濱田博文) 学校経営学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(151 藤井徳高) 教育制度学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 教育臨床学や教育相談などの領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(139 樋口直宏) 教育方法学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(215 上田孝典) 社会教育・生涯学習領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。</p> <p>(316 平田諭治) 日本教育史領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(289 田中マリア) 道徳教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(124 根津朋実) カリキュラム開発・評価領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(491 平井悠介) 教育哲学における基本文献を講読し、個別の研究課題との関連のうえで議論するとともに、議論を通じて得られた研究知見を現代的課題の探究へと応用する論文を作成するための方法を提示することで、現代教育哲学の思考法と研究法一般、および個別研究への応用について研究指導を行う。</p> <p>(481 徳永智子) 教育社会学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(451 京免徹雄) 特別活動学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p>	
	次世代教育研究Ⅰ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、教育学研究の領域別の特色、成果、課題、今後の経営戦略とスクールリーダーの役割等について、研究を展開する上での理論と方法を検討する。	
	次世代教育研究Ⅱ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、スクールリーダーおよび高度専門職業人の基礎的資質と能力形成に向けて、教育学研究の領域別の実践を分析・考察する。	
	次世代教育研究Ⅲ	次世代学校教育創成に関心をもつ受講者を対象に、修士論文・実践研究報告書の作成に向けて各自の専門領域に沿って学習を深め、成果を発表する。	
	(次世代教育研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	<p>(134 濱田博文) 学校経営学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(151 藤井徳高) 教育制度学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 教育臨床学や教育相談などの領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(139 樋口直宏) 教育方法学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(215 上田孝典) 社会教育・生涯学習領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。</p> <p>(316 平田諭治) 日本教育史領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(124 根津朋実) カリキュラム開発・評価領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p> <p>(473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(481 徳永智子) 教育社会学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	
	国語教育学研究I	国語科の各領域に関する研究を収集し、今日的な課題を把握すると同時に、現時点での達成水準を理解する。そのうえで、各自の研究テーマについてのレポートを作成し、討議をととしてそれらを分析し評価するとともに自ら新たな視点を提案するための提案するための知見や方法を獲得する。	
	国語教育学研究II	国語科の各領域に関する研究について、各自の問題意識に基づき研究目的を明確に設定する。そのうえで適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	
	国語教育学研究III	国語科の各領域に関する研究について、各自の研究目的にしたがって、適切な研究方法で調査を行う。そのうえでそれらを総合的に考察し修士論文を執筆する。適切な研究方法を選択し、調査を行う。各自の調査の途中経過について報告会を開き討議する。	
	(国語教育学研究I～IIIの担当教員)	(38 甲斐雄一郎) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (572 矢澤真人) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (231 長田友紀) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (535 石塚修) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (552 島田康行) 国語科教育学研究の手法を用いて、国語教育に関する課題の研究指導を行う。 (544 大倉浩) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (558 谷口孝介) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (601 橋本修) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (599 那須昭夫) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。 (616 吉森佳奈子) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (602 馬場美佳) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (581 稀代麻也子) 日本文学研究の手法を用いて、日本文学に関する課題の研究指導を行う。 (632 田川拓海) 日本語学研究の手法を用いて、日本語学に関する課題の研究指導を行う。	
	地理教育学研究 I	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、地理教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	地理教育学研究 II	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。地理教育学研究 I で身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、地理教育学に関するものと地理学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	地理教育学研究Ⅲ	地理教育学研究Ⅰと地理教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、歴史教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	（地理教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員）	（14 井田仁康）社会科教育学及び地理教育について研究指導を行う （624 森本健弘）人文地理学及び地理教育について研究指導を行う （614 山中勤）自然地理学及び地理教育について研究指導を行う	
	歴史教育学研究Ⅰ	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、歴史教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	歴史教育学研究Ⅱ	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。歴史教育学研究Ⅰで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、歴史教育学に関するものと歴史学に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	
	歴史教育学研究Ⅲ	歴史教育学研究Ⅰと歴史教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び公民教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	（歴史教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員）	（250 國分麻里）社会科教育学及び歴史教育について研究指導を行う （540 伊藤純郎）日本史及び歴史教育について研究指導を行う。 （594 谷口陽子）考古学及び歴史教育について研究指導を行う。	
	公民教育学研究Ⅰ	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。発表にあたっては、担当教員から事前に個別指導を受け、それに基づいて発表に臨むことにする。なお、ゼミには履修者とともに担当教員が複数名参加して、各人の発表に対して協議を行う。授業では基本的に、1時間に一人のペースで発表を継続させる。授業で受けた助言については、次の発表に生かす形で、公民教育学研究に関する能力を一步一步上達させることを目的とする。	
	公民教育学研究Ⅱ	週一回のペースで定期的開催されるゼミにおいて、関心のあるテーマについて、各人が個別に発表する。公民教育学研究Ⅰで身に付けた基礎的な知識や技能を活用しながら、履修者は個別の研究テーマをさらに深め、主として修士論文の作成を目指して、研究を展開する。修士論文のテーマとしては、大きく、公民教育学に関するものと社会諸科学・人文諸科学（社会学、経済学、法律学、倫理学、哲学等）に関するものの二つが考えられる。しかし、この二つは互いに往還するものであるため、修士論文には当然これらが統合されることが目指されるはずである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	公民教育学研究Ⅲ	公民教育学研究Ⅰと公民教育学研究Ⅱの授業を踏まえて、2回実施される修士論文指導会（1年次の2月と2年次の10月）と1回開催される修士論文発表会（2年次の1月）において個人発表を行い、大学院2年間の学習成果として修士論文を完成させる。また、発表に先立って、指導教員からの個別指導を受けることを前提とする。修士論文発表会には、これまで主として地理教育学関連の教員から受けてきた指導に加え、地理教育学及び歴史教育学の教員からも指導・助言を受けることになる。こうすることで、地理と歴史と公民を総合させた社会科教育学としてのアイデンティティが担保された修士論文が完成することになる。	
	(公民教育学研究Ⅲの担当教員)	(42 唐木清志) 社会科教育学及び公民教育について研究指導を行う。 (612 森直人) 社会学及び公民教育について研究指導を行う。 (621 鈴木創) 政治学及び公民教育について研究指導を行う。 (578 五十嵐沙千子) 哲学及び公民教育について研究指導を行う。 (607 星野豊) 法律学及び公民教育について研究指導を行う。	
	数学教育学研究Ⅰ	1年生を対象に、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、研究課題を明確化し、修士論文を作成するための準備を行う。	
	数学教育学研究Ⅱ	2年生を対象に、1年次の学修成果に基づいて、数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく討議を通して、修士論文の論構成を行い、内容を整理する。	
	数学教育学研究Ⅲ	数学教育における目標論、数学教育史、教育課程論、教授学習論、教材開発論等の多面的な研究動向を踏まえながら、数学教育研究の指導を行い、教育学における研究方法論を踏まえ、論文指導を行う。特に、各自の問題意識に基づいて数学教育に関する諸問題についてレポートをまとめ発表する。レポートに基づく実証的な討議を通して、修士論文を執筆する。	
	(数学教育学Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(84 清水美憲) 数学教育学において教授・学習の諸問題に関する研究指導を行う。 (12 磯田正美) 数学教育学において研究開発型課題の研究指導を行う。 (327 蒔苗直道) 数学教育学において数学教育史に関する研究指導を行う。	
	理科教育学研究Ⅰ	理科教育の各専門領域ならびに複合領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点から修士論文研究着手の指導を行う。具象的な授業内容は、修士論文完成までのプロセスの概要説明、研究倫理と情報倫理、中学校理科における教育方法、高等学校理科における教育方法、教育方法の観点から見た中学校理科と高等学校理科の接続・一貫性、理科教育学研究における研究方法、理科教育学研究における機器の取り扱い、先行研究の検索方法、外国語文献・資料の検索方法、研究テーマの構想と先行研究の収集、先行研究の分析などである。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	
	理科教育学研究Ⅱ	理科教育の各専門領域に関する研究方法・教育方法を習得させると共に、理科教育の観点からの修士論文作成の指導を行う。具象的な授業内容は、修士論文作成に関するスケジュールの確認、研究倫理と情報倫理、年間研究計画の確認と見直し、修士論文における図・表・引用文献リストの作成方法、章立ての検討、各章（研究背景、研究目的、研究方法、研究結果など）の執筆および推敲である。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理科教育学研究III	<p>社会人特別選抜学生の論文作成に必要な知識と技能を習得させるために、各人の研究に関わる指導を行う。特に理科教育の各専門領域ならびに複合領域に関する研究方法・教育方法を習得させる。具合的な授業内容は、修士論文作成に関するスケジュールの確認、研究倫理と情報倫理、年間研究計画の確認と見直し、修士論文における図・表・引用文献リストの作成方法、章立ての検討、各章（研究背景、研究目的、研究方法、研究結果など）の執筆および推敲である。この授業により、知識と理解力、企画力、問題解決能力、表現力、創造力の向上を図る。</p>	
	(理科教育学研究I～IIIの担当教員)	<p>(591 森下将史) 物理学教育 (特に低温物理学、量子固体、量子流体、量子スピン、超流動) について研究指導を行う。 (555 末木啓介) 化学教育 (特に無機化学、核・放射化学) について研究指導を行う。 (623 長友重紀) 化学教育 (特に生体関連化学、生物無機化学、ヘモグロビン 振動分光、共鳴ラマン分光) について研究指導を行う。 (584 佐藤智生) 化学教育 (特に物理化学、機能物性化学、光化学) について研究指導を行う。 (638 藤田健志) 化学教育 (特に有機化学、デバイス関連化学、合成化学) について研究指導を行う。 (564 野村港二) 生物学教育 (特に植物分子・生理科学、応用分子細胞生物学、細胞生物学、科学教育) について研究指導を行う。 (546 戒能洋一) 生物学教育 (特に植物保護科学、動物生理・行動、機能生物化学) について研究指導を行う。 (565 橋本哲男) 生物学教育 (特に遺伝子とタンパク質、ミトコンドリアの機能、生物の進化と系統) について研究指導を行う。 (587 澤村京一) 生物学教育 (特に遺伝・染色体動態、種分化) について研究指導を行う。 (598 中山剛) 生物学教育 (特にプロチスタ、微細構造、分子系統) について研究指導を行う。 (625 八畑謙介) 生物学教育 (特に生物多様性・分類、進化生物学、形態学、分類学) について研究指導を行う。 (634 出川洋介) 生物学教育 (特に菌類の多様性、微生物の働き、生態系の機能、生物の進化と系統) について研究指導を行う。 (559 角替敏昭) 地学教育 (特に地質学、変成岩、地殻進化) について研究指導を行う。 (577 上松佐知子) 地学教育 (特に地質学、層位・古生物学、古生物地理学、ジュラ紀付加体) について研究指導を行う。 (604 藤野滋弘) 地学教育 (特に地質学、地層・層序、堆積岩、津波堆積物) について研究指導を行う。 (620 興野純) 地学教育 (特に岩石・鉱物・鉱床学、無機化学、固体地球惑星物理学) について研究指導を行う。 (547 片平克弘) 理科教授学習過程、理科教育評価、化学教育、科学概念 (粒子概念など) の形成について研究指導を行う。 (428 遠藤優介) 理科教育目的論、ドイツ科学教育論、コンピテンシーの育成を目指した理科教授方略や理科授業の開発について研究指導を行う。 (528 山本容子) 科学的論述力を向上させる教授ストラテジー、国内外の生物教育のカリキュラム研究、理科教育における環境倫理の視点を導入した環境教育の理論的・実践的研究について研究指導を行う。</p>	
	英語教育学研究I	<p>英語教育学研究の基本的な進め方に関して、文献講読を通して理解を深める。具体的には、まず英語教育研究とは何かを学び、研究の目的や研究の種類、研究のプロセスについて知る。そして、研究テーマの決め方や先行研究とのつながりについて理解し、データ収集方法や量的・質的なデータ分析アプローチについても学ぶ。さらに、研究成果を公表する方法や論文の構成、及び引用文献の書き方などの基礎的な知識を得ることで、英語教育研究を行う素養を身に付ける。</p>	
	英語教育学研究II	<p>英語教育学研究の在り方や様々なトピックについて、文献講読によって理解を深める。具体的には英語教育研究の学際性について理解し、第二言語習得論や認知科学、心理言語学といった関わりが強い分野とのつながりについて学ぶ。さらに、教育工学や自然言語学、脳科学といった分野との関わりについても知る。そして、実際の英語教育研究のトピックとして、4技能や文法習得、教員養成、異文化理解など幅広い研究の在り方について学ぶことで、自身が行う研究を深めることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	英語教育学研究III	英語教育学研究の立案から実施までを行い、その成果を発表する。授業前半では、研究テーマ、研究方法について検討を重ねて決定することを目標とする。授業後半では実際のデータ収集及びデータ解析を行い、分析結果の考察、先行研究との比較などを通して、研究の教育的・学術的な示唆を導くようにする。最後に、研究成果発表に向けての準備を行い、最終的に研究成果をプレゼンテーションにより発表することを目指し、自身の研究成果の公表へとつなげる。	
	(英語教育学研究I～IIIの担当教員)	(484 名畑目真吾) 英語教育や応用言語学について研究の実践、指導を行い、英語教育研究についての論文指導を行う。	
	芸術科教育学研究 I	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、リサーチプランにおけるテーマと方法の発表、データ収集の実施、データの量的・質的分析の検討、先行研究との比較分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	
	芸術科教育学研究 II	芸術科教育におけるさまざまな実践課題の研究方法についての理解を深め、特定実践課題で立案した計画を遂行し、その成果と課題について考察することを目的とする。そのため、個別的教育実践研究テーマから策定した研究の目的と方法に基づいてリサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、芸術科教育におけるエッセンシャル・クエッション、ピラミッド・ストラクチャーによる研究構想の具体化、芸術科教育におけるリサーチメソッドの検討、各自の特定課題リサーチデータの分析を通して、リサーチに基づく今後の芸術教育の課題を検討する。	
	芸術科教育学研究 III	芸術科教育における課題解決に向けた研究方法について理解を深め、受講者の設定した特定課題についてリサーチを計画し、その遂行と結果について複眼的に考察することを目的とする。さらに、修士論文にかかわる個別の研究テーマに基づいて研究の目的と方法を具体化し、アートベース・リサーチ(Arts-Based Research)の方法論についての理解を深めつつ、それを活用した具体的リサーチを実施し、その成果と課題を考察する。具体的には、各特定課題に対するアートベース・リサーチのメリットや限界をふまえ、アートベース・リサーチの視点からのデータ分析と解釈を行い、各特定課題に対する結論を検討する。	
	(芸術科教育学研究I～IIIの担当教員)	(11 石崎和宏) 芸術科教育の理論と実践、芸術の表現と鑑賞に関わる学習方略について研究指導を行う。	
	保健体育教育学研究 I	保健体育教育学研究 I では、体育のカリキュラム論、学習指導論、指導方略・指導技術などの観点から体育科教育学の基礎を学び、理解する。また、体育科教育学の今日的課題を取り上げて議論することで、各自の問題意識を明確にする。さらに各自の問題意識に基づいた課題を設定し、課題に応じた基礎となる領域の文献を講読するとともに先行研究を探し手学習し、自身の研究についての枠組みをつくる。	
	保健体育教育学研究 II	保健体育教育学研究 I で身に付けた基礎をもとに、各自の問題意識に基づいた課題解決の方法を検討する。体育科教育学研究の進め方について先行研究をもとにさまざまな角度から学ぶことにより、自らの課題解決に適した研究計画を立案する。課題解決のためのプロセスを手順に則って進め、予備的な実践を行ってその成果と課題を明らかにし、現実的な研究の方法を追求する。	
	保健体育教育学研究 III	保健体育教育学 I および II における学習をもとに、自ら立案した研究計画に則って研究を進める。また、海外を含めた体育科教育学研究の動向や研究の基礎、進め方についても並行して学習を進め、自らの研究に役立つ理論や先行研究の知見を活用できるようにする。授業の中で研究発表を行って情報を共有するとともに、研究についての議論を行う。	
	(保健体育科教育学研究I～IIIの担当教員)	(341 宮崎明世) 体育科教育のカリキュラム論、学習指導論、指導方略・指導技術について研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際教育学研究Ⅰ	国際教育学に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際教育学に関する研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際機関（ユネスコ）やOECD、国際バカロレア教育に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	
	国際教育学研究Ⅱ	国際教育学に関する研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、教育の国際比較研究、学校改革と教師の専門性、キャリア教育・シティズンシップ教育、国際教育協力に関する文献の講読を行い、国際教育学研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	
	国際教育学研究Ⅲ	国際教育学に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際教育学に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	
	(国際教育学研究Ⅰ～Ⅲの担当教員)	(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。 (277 平明子) 国際バカロレア教育領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (446 川口純) 比較・国際教育学分野における国際教育開発及び国際教育協力、世界の教員養成改革、インクルーシブ教育／特別支援教育に関する課題について研究指導を行う。 (449 菊地かおり) 比較・国際教育学分野におけるグローバル化と教育改革、国際理解教育、移民／外国籍児童生徒に関する教育課題について研究指導を行う。 (473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar I	国際バカロレア教育を中心とした教育に関する理論枠組みと研究方法を修得し、研究計画を定めることを目標とする。そのために、国際バカロレア教育を中心とした教育研究を展開する上での、基礎的な理論と方法を学ぶ。授業では、先行研究の整理及び研究方法について概説するとともに、教育の国際化・グローバル化、国際バカロレア教育の教授法・カリキュラム・アセスメントに関する文献の講読を行い、国際バカロレア教育研究における理論枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究計画を発表し、フィードバックを得る。	
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar II	国際バカロレア教育を中心とした教育研究の展開を通して、専門的な知識と汎用的なスキルを身につけることを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識を修得し、データの収集・分析を進める。授業では、国際バカロレア教育の国際比較研究、ディプロマ・プログラム (DP)、中等教育プログラム (MYP)、初等教育プログラム (PYP)、概念学習、探究学習に関する文献の講読を行い、国際バカロレア教育研究における分析枠組みを検討する。これらの知見に基づき、各自の研究の進捗状況を発表し、フィードバックを得ることによって研究の質を向上させる。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	International Baccalaureate Education Graduate Seminar III	国際バカロレア教育に関する専門的な知識と汎用的なスキルをもとに、研究成果の発信方法とその応用可能性を検討し、教育政策・実践への提言を行うことを目標とする。国際バカロレア教育に関する専門的な知識に基づき、データの分析・解釈を進める。授業では、国際バカロレア教育に関連する文献を手がかりとして、データの分析及び解釈の妥当性について検討を行う。また、各自の研究成果を発表し、フィードバックを得ることによって研究成果の発信方法とその応用可能性を検討する。	
	(International Baccalaureate Education Graduate Seminar I~IIIの 担当教員)	(153 藤田晃之) キャリア教育学領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (265 佐藤博志) 日本や諸外国における学校経営に関して、政策分析、事例研究、国際比較等の方法を用いて研究指導を行う。先行研究の検討、研究・調査計画の立案、方法の選択、調査の実行、データの分析などについて指導を行う。 (277 平明子) 国際バカロレア教育領域の射程に位置する諸課題を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。 (446 川口純) 比較・国際教育学分野における国際教育開発及び国際教育協力、世界の教員養成改革、インクルーシブ教育／特別支援教育に関する課題について研究指導を行う。 (449 菊地かおり) 比較・国際教育学分野におけるグローバル化と教育改革、国際理解教育、移民／外国籍児童生徒に関する教育課題について研究指導を行う。 (473 Tastanbekova Kuanysh) 比較・国際教育学領域の射程に位置する諸課題等を取り上げ、指導対象者の関心に即した研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理学 関連科目	基礎科目 心理学方法論 I	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。研究者としての研究倫理、人を対象とする研究における研究倫理の重要性をふくめた講義を行う。 (オムニバス方式/全10回) (133 濱口佳和/1回) ガイダンス (133 濱口佳和/1回) 心理臨床における実践的仮説生成研究法 (362 湯川進太郎/1回) 比較思想的理論心理学の構築 (74 佐藤有耕/1回) 青年心理学研究の方法論 (480 登藤直弥/1回) 構造方程式モデリングの基礎 (357 山田一夫/1回) 脳神経科学と薬理に関する研究法 (34 小川園子・279 高橋 阿貴/1回) (共同) 遺伝とホルモンに関する研究法 (651 大山潤爾/1回) ICTを用いた心理学研究法(呈示刺激制御・映像解析) (297 外山美樹/1回) 心理学における研究倫理の考え方、研究倫理申請書の書き方 (708 Terry Joyce/1回) 英語論文の書き方	オムニバス方式 共同(一部)
	心理学方法論 II	心理学の測定から解析に至るさまざまな方法論(心理学的測定・調査・実験・観察・相互作用分析など)を集中的に学び、社会・人間事象を解析しうる十分な技能の修得をはかる。この講義の一環として修士論文の中間発表会、最終口答試問の聴講も行う。 (オムニバス方式/全10回) (480 登藤直弥/1回) 新しい統計結果の表記方法 (297 外山美樹/1回) 心理尺度の作成 (362 湯川進太郎/1回) 対人関係を対象とする指標の測定法 (200 青木佐奈枝/1回) 心理検査法—研究及び臨床活用 (137 原田悦子/1回) 言語プロトコル分析/高齢者研究の意義 (77 沢宮容子/1回) 認知行動療法における実践研究の方法 (4 綾部早穂/1回) ニューロイメージング計測法の原理 (152 藤生英行/1回) バイオフィードバック・トレーニングの考え方と介入法 (505 松田壮一郎/1回) 単一事例研究計画法・行動計測 (236 加藤克紀/1回) 行動の直接観察とその分析法	オムニバス方式
	心理学特別研究A	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目春学期に実施する。5月に実施される修士論文構想発表の事前事後指導を中心に指導を行う。	
	心理学特別研究B	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。博士前期課程1年目秋学期に実施する。修士論文の提出まで、ならびに最終口答試問のための指導を中心に行う。	
	心理学特別研究S	修士論文作成のための科目である。特定テーマを選び、関連する問題領域のレビューを行い、修得した心理学方法論に基づき調査・実験などを実施する。論文としてまとめて研究基礎能力の修得をはかる。留学、休学などの個人的事情により、心理学特別研究AないしBが履修できない学生について、博士前期課程2年目以後に心理学特別研究AないしBの代替科目として特に学位プログラム教育会議から許可を得た者を対象として実施する。	
	(研究指導)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する研究指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理学先端研究1	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として心理学全体の方法論や研究の在り方に関する世界的動向について、先端的研究者による講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。	集中
	心理学先端研究2	心理学研究における最先端の研究者を迎え、そのテーマについて集中的に講義を受け、議論をし、自らの研究推進に資する知識・考え方を獲得する。主として認知・知覚、社会・教育・発達、臨床の各領域での先端的研究者による講義を設置し、現在の研究展開の在り方に関する世界的動向を、講義・議論を通じて学び、心理学研究をする上での基盤としていくことを目的とする。	集中
	心理学キャリア形成	心理学の専門性を活かした職業について具体的に理解をし、主体的に考えることを目的とした高度専門職行事のためのキャリア育成科目である、国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職として最先端で活躍する講師を招き、その講義を聴き議論をすることにより、将来の進路決定に役立てると共に、心理学という研究領域とその社会との関連性についての考察を深める。	集中
	心理学インターンシップ	心理学の専門性を活かした職業について、実体験的に学び、その体験から心理学の学修・研究のあるべき姿を考えるための実習である。国内外の企業・官公庁や非営利団体などの現場において、心理学関連職としての就労体験を通じて、自らの能力涵養・適性の客観評価を図る。同時に、将来の進路決定に役立つ体験としても位置づける。	
専門科目	心理基礎科学演習Ⅰ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目春学期に実施するため、特に研究計画を立て、実施の準備を行っていくまでを中心に指導を行う。	
心理基礎科学 共通科目	心理基礎科学演習Ⅱ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程1年目秋学期に実施するため、特に自らの研究計画に基づきながら、研究導入とその際に必要な技能・知識の獲得方法を中心に指導を行う。	
	心理基礎科学演習Ⅲ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目春学期に実施するため、特に実際の研究を実施していきながら、その方法論や分析を自らモニターしていく方法とその際に必要とされる知識・技能の獲得の方法を中心に指導を行う。	
	心理基礎科学演習Ⅳ	心理学基礎科学の各領域について、専攻する指導学生の修士論文作成を支援するための演習である。テーマ決定から研究方法、論文作成の指導までに必要な情報収集、論文購読、批判的読解と展開などを行う。博士前期課程2年目秋学期に実施するため、特に研究計画に基づきながら、実施した研究成果をどのように整理をし、一つの論文としてまとめ上げていくかについて、具体的な指導を行う。	
	(心理基礎科学演習Ⅰ～Ⅳの担当教員)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	
	心理統計学基礎	心理統計に関する基礎的な考え方および知識について、講義および体験型実習を通して解説する。また、心理学において頻繁に用いられることの多い各種統計的検定を中心に、基礎的レベルからの復習を行い理解を深めるとともに、より専門的なレベルの統計学習への橋渡しを目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理基礎科学 領域専門科目	心理基礎科学英語1	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、広く心理学が関係する領域全体を対象として、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。加えて、英語で国際的な視点、方法で情報発信していくための基礎技能を身につける。	
	心理基礎科学英語2	心理学の研究法ならびに最先端の研究成果について、Web教材、ビデオ教材等を用いて英語で学習し、特に自分自身の研究興味に関連する領域について、国際レベルの知識を体系的に身につけていくことを目的とする。加えて、英語で国際的な視点、方法により情報発信していくための基礎技能を身につける。	
	(心理基礎科学英語1, 2の担当教員)	(74 佐藤有耕) 青年心理学に関する研究指導を行う。 (137 原田悦子) 認知心理学に関する研究指導を行う。 (297 外山美樹) 教育心理学に関する研究指導を行う。 (362 湯川進太郎) 社会心理学(身体心理学)に関する研究指導を行う。 (480 登藤直弥) 教育測定学、心理統計学に関する研究指導を行う。 (505 松田壮一郎) 行動デザイン学に関する研究指導を行う。 (651 大山潤爾) 感覚知覚・認知心理学(心理学と工学的認知支援)に関する研究指導を行う。	
	感覚知覚心理学特講	情報処理論的アプローチに基づき、感覚、選択、記憶、解釈、反応に関する基本的情報処理過程を探る。前年度に発表された海外雑誌論文の中から数報を選び、様々な観点から最新のデータと解釈、知見を学び、討論を行うことにより人間の情報処理の働きの理解を深める。	
	心理学と認知支援工学特論	感覚知覚心理学や認知心理学の実験心理学的アプローチを応用して、産業界や社会の課題に対するソリューションを提供できる研究の考え方、進め方について解説する。講義に加えて、受講生参加型ディスカッションと体験実習を含む。具体的には、2例以上の企業との実際の共同研究事例に基づいて、ニーズの抽出・心理学的知見との対応・共同研究のテーマと目標の設定・実験計画・データ解析・結果の解釈までをロールプレイ等を交えて学ぶ。	
	認知心理学特講	Psychonomic Society、Cognitive Science等各雑誌等の認知心理学研究の文献をとりあげ、それに基づく議論を中心に行う。毎回の授業では、1本の論文をとりあげ、当該の文献内容のレビューをしながら、認知心理学における考え方の枠組・前提を明確化する、当該論文における問題のとらえ方の特徴とその詳細化を把握し、具体的な研究方法とその分析の方法、得られた結果からの展開の仕方について、批判的に検討する。レビュー担当を務める者は、その論文の背景となる関連研究についても広く深く検討をしていくことが求められる。	
	学習心理学特講	学習心理学の最新の成果である、状況的学習論について解説する。状況的認知、活動理論、アクターネットワーク理論と学習環境のアレンジメント、パフォーマンス心理学等、最近の状況論的学習研究について論じる。この研究トレンドの大元にある、レフ・ヴィゴツキーの発達の学習論やヴィトゲンシュタインの言語論等基礎となる考え方、相互行為分析等の状況的学習研究のための方法論、実際に教員が教室で利用できるように開発されたパフォーマンスゲーム等についても解説する。	
	教育心理学特講	教育心理学の分野の文献を講読し、教育心理学の方法論や最新の研究成果についての知識を深める。また、授業を通して、発表レジュメのまとめ方、プレゼンテーションの仕方といったような卒業研究に結びつくようなスキルの獲得を目指す。具体的には、教育心理学のテーマに関する論文(英文を含む)や専門書を担当受講生が発表し、そのテーマについて受講者全員で討論する。各受講生が興味を持つ論文(英語、日本語)を2本ずつ程度発表する予定である。	
行動デザイン特講	人間行動の記述、予測、制御を目的とした応用行動分析学を中心に据え、「行動」の機能を分析することを達成目標とする。また、最新の発達研究を行動分析的観点から読み解くことにより、新たな研究パラダイムを創出することも目的とする。行動変容に用いることができる最新のテクノロジーを概観すると共に、他分野(医学・工学など)との協働を通じた新しい研究、及びビジネスの可能性を、ディスカッションを通じて探っていく。他分野との協働により、人の行動変容について、新たな視点を提供する、行動のデザインを共に創造していく。		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	青年心理学特講	青年心理学に関する重要な文献を教材として、青年心理学に関する知見を深める。すなわち、青年とは誰か、青年期あるいは思春期とはどのような時期かについて心理学的に理解を深め、さらに青年の心理を理解するための多様な観点について身につけ、自分の研究に活用できるようにする。講読する文献は、学位論文などの重厚な研究の購読を基本とし、それ以外にも青年心理学の古典、体系的なテキスト、レビュー論文、最新の学会誌論文、隣接する学問領域の文献などを含める。少人数で実施し、発表や討論などを活発に行う学生参加型の授業とする。	
	社会心理学特講	対人社会心理学に関する研究成果に関する最近の英語論文を紹介し合い、この分野についての理解を深める。文献は、審査付き学術雑誌に掲載された英語論文とする。受講者は、順番に論文紹介者となり、1本の英語論文の中身を紹介するレジュメを作成する。論文紹介後は、紹介者とほかの受講者との間で討論を行い、紹介した論文の問題点、質の高い論文にするための修正点を提案し合う。	
	臨床社会心理学特講（心の健康教育に関する理論と実践）	心の健康教育に関する概念や理論への理解を深め、心身の健康の維持増進やストレスマネジメント、ウェルビーイングへと結びつく具体的な実践的なアプローチを学習する。特に身体心理学の観点から、身体技法を通して感情制御に結びつく体験的気づきを得ることで、「こころ」と「からだ」への実践的理解を深める。受講者は、関連テーマをまとめて発表し、他の受講者との間で討議する。	
心理臨床学共通科目	臨床心理学特講Ⅰ	臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学の成り立ち、臨床心理学の領域、臨床心理学の方法論、心理臨床の職業倫理、心理臨床家の職業的発達等について、講義と内外の文献精読・討論を行う。以上に加え本講義では、臨床心理学及び心理臨床実務の中で、特に遊戯療法と箱庭療法の理論と実際について講義と内外の文献精読、演習、DVD視聴を通じて理解を深める。さらに、（公財）日本臨床心理士資格認定協会の定める臨床心理士の業務についても講義し、公認心理士との異同について説明する。	
	臨床心理学特講Ⅱ	臨床心理学特講Ⅰに引き続き、臨床心理学及び心理臨床実務の基礎知識の獲得を目指す。内外における臨床心理学及び心理臨床実務における主要な流派の理論と実際、特に、精神分析的療法、来談者中心療法、行動療法・認知行動療法、日本の心理療法について、講義と内外の文献精読・討論を通じて理解を深める。公認心理師法、公認心理師の職責、公認心理師の活動5領域についても講義と討論を行う。	
	臨床心理面接特講Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）	心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。授業前半は、心理面接に関する基礎の概説。また、関連文献の発表及び討論を行う。後半は、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法について体験的な学習を行う。	
	臨床心理面接特講Ⅱ	この授業では、心理臨床における面接法の基本的な知識とスキルを習得することを目的とする。そのため、授業では、ミニ・カウンセリングを行い、実際の面接方法に関する体験的な学習を行う。	
	臨床心理基礎実習	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて実習を行う。教員のインテークに同席し、またインテークカンファレンスに出席してケースを臨床心理学的に見立てる力を養う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (693 伊里綾子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	共同
	臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習ⅡC）	心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の習得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、ケースカンファレンス等を通して、相談者の問題や障害に関する理解を深め、心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
心理臨床学領域専門科目	臨床心理実習Ⅱ	臨床心理実習Ⅰに引き続き、心理的問題を抱えた学外者に有料で相談に応じている心理相談室を用いて臨床支援技術の修得を目的とした実習を行う。実習ではケースを直接担当し、相談者の問題や障害に関する支援アプローチについてグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して学ぶ。心理療法を行うのに必要な技能の習得に努める。	共同
	(臨床心理実習Ⅰ,Ⅱの担当教員)	(77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (693 伊里綾子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	
	発達臨床心理実習Ⅰ(心理実践実習ⅡD)	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室ケースカンファレンスへの出席も含める。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (85 庄司一子) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	共同
	発達臨床心理実習Ⅱ	教員のスーパーヴィジョンの下に、心理的・行動的問題を抱えた幼児・児童・青年とその保護者を対象として、学内の有料相談機関で臨床心理学的支援活動に参加する。受講生は1ケースごとに構成される支援チームに加わり、受理面接、継続面接、検査面接等の実地体験を積む。支援チームはセラピスト、観察者、親面接陪席者等の役割があり、様々なケースに参加する。プレイ・セラピー、行動療法、SEL、ペアレント・トレーニング等の理論と技法の学習を深める。1セッションあたり事前学習、心理的支援面接、事後学習があり、相談室の専任・非常勤相談員によるグループ・スーパービジョンへの出席、発表、討論への参加も含める。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (85 庄司一子) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。	共同
	臨床心理査定演習Ⅰ(心理的アセスメントに関する理論と実践)	臨床心理学の研究法で、同時に様々な心理臨床の現場で不可欠の技術でもある心理学的査定の方法について学ぶ。演習Ⅰでは、WISCや田中ビネー等の個別式知能検査、発達検査、ASDやADHDのスクリーニング検査、CBCL等の子どもの問題行動の概括的な評定尺度を扱う。理論的に学習するとともに、グループによる実技指導を通じて検査の具体的手続き等、査定技術の習熟を目指す。	
	臨床心理査定演習Ⅱ	臨床心理支援において必須とされる心理査定法(検査法)のうち、特にパーソナリティ検査についてその理論と実践方法を学ぶ。MMPI.P-Fスタディ、SCTやロールシャッハ・テストなど質問紙法、投影法について理論を学ぶと共に試行方法、結果のまとめ方、解釈、フィードバックの仕方を理解する。さらに、テストバッテリーを用いた事例検討を通して複合的アセスメントおよび支援への活用について習熟を目指す。	
	児童臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開X)	児童虐待、不登校、選択性緘黙、いじめ、非行等、学齢期に好発する児童・青年の心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを担当を決めて輪読する。これを通して、家庭と学校における子どもの問題行動や精神疾患に対する取り組みについて、理論と介入方法についての知見の獲得を目的とする。	隔年
	発達臨床心理学特講(教育分野に関する理論と支援の展開Y)	幼児期から青年期までの子どもの心や行動の諸問題について書かれた内外の専門書、雑誌論文などを取り上げ、担当を決めて輪読する。これを通して、発達精神病理学の基礎理論、発達臨床心理学の研究手法、発達障害、反抗挑戦性障害、うつ病性障害、不安障害等を中心に、病態、アセスメント、介入法などについての知見の獲得を目的とする	隔年

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アセスメント心理学特講I	臨床心理支援において必須となる心理アセスメントのうち、主にロールシャッハ・テストについてその理論背景と理論について学び、施行法、スコアリング、結果の整理の仕方、解釈法（質的解釈・継列分析）について学ぶ。また、ロールシャッハ・テストから得られる情報と各種アセスメントやその他の臨床情報の複合解釈の方法と実際について、特に、質的分析、継列分析、プロトコル分析を中心に学ぶ。進める。	隔年
	アセスメント心理学特講II	臨床心理支援において必須となる心理アセスメントのうち、主にロールシャッハ・テストについてその理論背景と理論について学び、施行法、スコアリング、結果の整理の仕方、解釈法（主に数量的解釈）について講義や実習、事例解釈を通して学ぶ。また、ロールシャッハ・テストから得られる情報と各種アセスメントやその他の臨床情報の複合解釈の方法と実際について、特に、数量的解釈を中心に学ぶ。	隔年
	精神医学（保健医療分野に関する理論と支援の展開X）	精神医学の枠組みについて理解を深めるとともに、精神医学の理論、アセスメント、治療について学ぶ。精神医学総論、アルコール・薬物依存、児童・思春期の精神疾患、気分障害、統合失調症、認知症、心因性精神障害、摂食障害、パーソナリティ症状精神病、医療連携、治療等について現役の精神科医が講義を行う。	隔年
	神経心理学特講（保健医療分野に関する理論と支援の展開Y）	神経心理学に関する最新の文献を取り上げて討論し、臨床心理学に関連する生物学的・神経科学的知識ならびに研究方法について学び、理解を深める。受講する学生が興味・関心のある学術論文、または専門書籍の章を担当・紹介し、受講生全員で討論する。	隔年
	産業臨床心理学特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開Y）	職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング、教育研修、職場復帰支援など）について解説する。講師が講義を行うだけでなく、受講生参加型の講義を実施する。この講義を通じて、最新の産業カウンセリングのトピックスについて学びつつ、カウンセリングの知識や技術がどのように現場で生かされているかということを考え、学ぶことを目的とする。	
	学校心理学特講（教育分野に関する理論と支援の展開Z）	学校心理学とは、子どもが出会う問題状況の解決や成長の促進を目指す援助サービスの理論と実践を支える学問体系である。この講義では、学校心理学の理論や心理教育的援助サービスの実際について講義で学ぶと同時に、学校心理学の中心概念である「援助サービス」についてロールプレー等を交えて実践力を高めることを目指す。	
	老年心理学特講	人間の生涯的発達の中での老年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」「家族関係も含めて人間関係はどのように変化していくのか」などのテーマについて事例も含めて考えていく。	
	キャリアカウンセリング特講（産業・労働分野に関する理論と支援の展開X）	キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。	
	非行・犯罪心理学（司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開）	非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。非行・犯罪のリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶこと、ならびに犯罪・非行臨床の枠組みについて理解を深めるとともに、犯罪・非行の要因、アセスメント、治療について学ぶことを目的とする。	
	臨床心理家族・地域援助特講（家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践）	<p>家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法、および地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法を学び、演習等を通して心理臨床実践に活かす。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（474 田附あえか・89 杉江征／1回）（共同）ガイダンスとイントロダクション （474 田附あえか／5回）家族心理学に関する講義を行う。 （89 杉江征／4回）集団と地域社会における心理支援に関する講義を行う。</p>	隔年 オムニバス方式 共同（一部）

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理実践実習 I A	年間を通じて行われる心理相談室及び子ども相談室の運営・管理業務実習、電話受付実習、インテーク実習（陪席）・各ケースの支援実習を通して、心理支援の基礎を学ぶ。随時グループ・スーパーにジョンや個別スーパービジョンを通して、臨床支援原則の理解、地域連携の実際について学ぶ。	
	心理実践実習 I B	医療機関等外部実習先の心理面接や心理検査実習、その他の実習、そして実習後のスーパービジョンを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶとともに、多職種との連携を実践的に学ぶ。その他相談機関の見学等実習を通して、心理援助職の役割や責務、支援原則など幅広い臨床実践について学ぶ。	
	心理実践実習 II A	年間を通じて行われる学内の心理相談室及び子ども相談室における個別ケースを担当する。心理相談室では主に青年・成人を対象とした面接実習を行い、子ども相談室では、子どもへの心理実践としては、プレイセラピー、行動療法、社会・情緒的教育の担当、行動観察、保護者面接陪席が、保護者には育児相談を行う。実習後に行われるグループスーパービジョン及び個別スーパービジョンを通して、心理支援の基礎・実践についての理解を深める。	
	心理実践実習 II B	医療相談機関等による実習を通して以下を学ぶ。①クライアント情報を基に見立て、導入面接、検査実施、報告書作成をスーパービジョンを受けながら行う。②受診陪席やデイケア実習などを通して、個別ケースの支援の実際を学ぶ。③多職種連携の実際を学ぶ。	
	(心理実践実習の担当教員)	(77 沢宮容子) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (89 杉江征) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (133 濱口佳和) 発達臨床心理学・発達心理学に関する実習指導を行う。 (200 青木佐奈枝) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (453 慶野遙香) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (474 田附あえか) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (475 田中崇恵) 臨床心理学に関する実習指導を行う。 (464 An Tingting) 臨床心理学に関する実習指導を行う。	
	心理臨床 I	心理臨床のアセスメントについての特別な理論や技法を学ぶ。特に医療機関などで高頻度で使用される心理検査（WISC等個別式知能検査、ロールシャッハ・テスト等の投射法検査）を取り上げ、現場における実施上の留意点、検査結果のまとめ、所見の書き方等、実際の心理臨床の現場で通用する水準の技能を指導する。受講生が現場で実施した検査の報告書にもとづいて、討論とスーパービジョンを行う。	
	心理臨床 II	心理臨床の面接や心理療法についての特別な理論や技法について学ぶ。特に医療機関などで高頻度で使用される心理療法を取り上げ、現場における実施上の留意点、事例報告のまとめ方等、実際の心理臨床の現場で通用する水準の技能を指導する。受講生が現場で実施した検査の報告書にもとづいて、討論とスーパービジョンを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
障害科学 関連科目	基礎科目 障害科学調査・実験実習Ⅰ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、その基本的な研究方法を実習形式で学習する。具体的には、文献検索および文献研究法、視覚検査法、聴覚機能評価法、知能・発達検査法、生理心理実験法、量的調査研究法、質的研究法、事例研究法等を取り上げ、グループ別に実習を行い、実習結果についてレポートを作成する。また、障害科学研究における研究倫理と研究倫理申請の手続きの実際についても説明する。	共同
	障害科学調査・実験実習Ⅱ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、その基本的な研究方法のうちのいくつかを、自身の研究関心に即して選択し、実際に適用し、予備的研究を行い、研究結果を報告としてまとめる。この作業を通して研究実践の基礎を学ぶ。ここでは、先行研究のレビュー、研究課題・方法の設定、研究の実施、結果の分析・考察という一連の流れに即した実習を行う。合わせて、自身の研究に関する研究倫理申請書の作成も行き、指導を受ける。	共同
	障害科学研究法Ⅰ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、先行研究のレビューを行い、その結果をもとに自身が取り組む研究課題および研究方法の明確化を行い、修士論文の研究デザインを作成する。専攻内の修士論文デザイン発表会における発表・討議・指導助言をへて、研究デザインを修正・確定する。なお、発表会における指導助言は論文指導小委員会の教員を中心に行う。	
	障害科学研究法Ⅱ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、修士論文の研究を進め、データの収集・分析を行い、中間発表資料を作成する。専攻内の修士論文中間発表会における発表・討議・指導助言をへて、修士論文の完成に向けて必要な研究内容の修正を行う。なお、発表会における指導助言は論文指導小委員会の教員を中心に行う。	
	障害科学研究法Ⅲ	障害科学分野の教育・心理・医学・福祉のそれぞれの側面について、応用的、あるいは最新の研究法を理解する。各学生は、修士論文指導教員の指導の下で、自身の研究関心に即して、修士論文の研究を進め、データの分析・考察を行い修士論文を完成させる。修士論文の研究成果を分かりやすくまとめた最終発表資料を作成し、専攻内の修士論文最終発表会における発表・討議を行う。	
	海外特別研修セミナー	韓国、台湾、中国、インドネシア、ベトナム等の特別支援教育に関する主要大学と連携し、各国の特別支援教育の制度・実情・研究状況等について調査・研究し、連携大学の大学院生・教員と共同セミナーを実施し、それぞれの調査・研究の成果を発表し、相互理解を深める。特別支援教育に関連する連携大学や関連諸機関を視察し、その実情の理解を深める。	共同
	障害科学講究	論文指導教員の指導を受けたうえで、障害科学学会において、修士論文で取り組もうとする研究の研究構想に関連した発表か、または、正式な研究発表（以下研究発表等）を行い、学会における研究発表等に関する質疑応答の結果も含めて、学会の参加内容をレポートにまとめ提出する。	共同
専門科目（共通）	特別支援教育総論	世界と日本の特殊教育・障害児教育の歴史的展開を概観するとともに、特別支援教育が目指すべき教育制度・実践について講述する。 （オムニバス方式／全20回） （365 米田宏樹／10回）わが国の特殊教育・障害児教育制度成立の歴史的意義、特殊教育の理念と制度、特別支援教育の理念・思想・制度及び社会的意義と教育動向について詳述する。 （29 岡典子／10回）わが国におけるインクルーシブ教育システムの構築と特別支援教育との関係について解説する。特別な教育的ニーズとインクルーシブ教育の関係、インクルーシブ教育導入の教育的・社会的要因、インクルーシブ教育の革新性と特殊教育・障害者教育との連続性等について詳述する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	視覚障害教育学	視覚障害児童・生徒の教育について、盲教育・弱視教育の視点から、その制度、教育内容、指導の特質などを解説する。具体的には、インクルーシブ教育システムと視覚障害教育、視覚障害の定義と分類、視覚障害児の学びの場それぞれの教育の特徴、視覚障害特別支援学校のセンター的機能、学習指導要領における視覚障害への配慮について、点字教科書と拡大教科書について、弱視児童生徒に対する見えにくさに対する対応、盲児童生徒の触覚の活用、点字の構成と日本点字表記法、視覚障害教育における交流・共同学習、視覚障害教育における専門性等について、詳述する。	
	視覚障害指導法	視覚障害児に対する指導について、教科と自立活動領域の指導を中心に、その指導内容、指導計画、指導方法、指導の評価等の視点から具体的内容を想定して検討する。 (オムニバス方式/全20回) (253 小林秀之/11回) 主に弱視児を対象とした自立活動領域の指導について詳述する。主として、自立活動の目標と内容、弱視児に対するアセスメント方法、自立活動の時間における点字指導のあり方、視覚補助具の一つとして弱視レンズの選定と活用指導について理解を深める。 (510 宮内久絵/9回) 視覚障害教育における教科指導や指導のあり方、また盲児を対象とした自立活動の指導について詳述する。主として、視覚障害特別支援学校、弱視特別支援学級、弱視通級指導教室における指導のあり方、触覚に関するアセスメントや触察指導について理解を深める。	オムニバス方式
	視覚障害心理学	講義形式で授業を行う。視覚障害幼児の発達特性、常同行動・パーバリズム、触知覚の特性と概念形成、聴覚の特性と空間概念、障害物知覚と環境認知、点字とコミュニケーション、弱視児の視知覚特性、弱視児の学習と教育について学ぶ。また、弱視児の見えにくさや盲児の触覚認知の特性に応じた学習について理解を深める。	
	視覚障害病態生理学	講義形式で授業を行う。視覚系の構造、視覚障害の原因疾患の病態、視機能への各疾患が及ぼす影響、視機能評価、弱視の見え方と支援方法について学ぶことを目的とする。視覚障害の概念、定義、分類とともに、視覚系の構造と視覚障害をもたらす疾患の病態生理、盲学校在籍者の視覚障害原因の年次推移と現状を概説する。さらに、視覚の獲得過程、視機能とその検査方法、弱視の見え方、指導上の留意点について論ずる。加えて、眼光学や視覚補助具について取り上げる。	
	肢体不自由教育学	わが国の肢体不自由教育の成立過程を欧米諸国と比較して概説するとともに、肢体不自由特別支援学校における児童生徒の障害の重度化、重複化の動向とこれが教員の専門性、教育の独自性に及ぼす影響について講述する。また、肢体不自由教育における今日的課題である障害の重度、重複化や多様化への対応について、教育課程の基準の弾力化、自立活動の指導、教授方法などの観点から概説する。	
	肢体不自由指導法	肢体不自由特別支援学校に就学する児童生徒のうち、脳性まひ等の脳性疾患に着目し、その障害特性を概説する。あわせて諸特性に基づく教科指導及び自立活動の指導の在り方について、具体的な実践を通じて概説する。	
	肢体不自由心理学	肢体不自由児者の発達および心理学的課題について、運動学習、肢体不自由という心理的課題、肢体不自由が子供の発達に及ぼす影響、運動発達と認知発達、運動発達と認知発達の相互作用、社会性の発達と課題、コミュニケーションの発達と課題、中途障害者の心理、障害受容と社会参加を取り上げ、論述する。	
	肢体不自由病態生理学	肢体不自由の病態生理について基礎的な理解をするため、骨・筋ならびに運動に関わる中枢神経系の機能と構造の基礎および、その障害について学ぶ。具体的には、運動障害の総論、骨のマクロの構造と機能、骨の微細構造とホルモンとの関係、骨格筋のマクロの構造とその機能、骨格筋の微細構造と筋収縮のメカニズム、運動に関わる神経系の構造と機能に関連し、大脳の機能、錐体路、錐体外路とその障害、脳性まひを中心に生理学、医学の観点から概説する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	障害児教育課程論	障害児教育における教育課程編成の原理と実際について概説し、障害の重度化、重複化あるいは多様化の中で、法令や学習指導要領に規定される特例を用いた弾力的な教育課程の編成について整理し、特別支援教育における教育課程の編成及び教育課程開発の在り方についての理解を深める。特に学校の社会的役割にもとづく教育課程の編成、教育課程編成に関わる法令・規定、特別支援教育における教材論・学習指導の原理等の特徴、各障害別の学習特性と教育的ニーズにもとづく教育課程の編成や授業実践の特徴等について講述する。	
	知的障害教育学	知的障害のある人々の生涯にわたる支援を実現するために、いかなる教育的支援や福祉的支援が必要なかを概観するとともに、知的障害のある人たちが「支援を受けながら自己実現を図る」力をつけていくために行われるべき学校における指導と支援のあり方、個別の教育支援計画を媒介にした学校と諸機関・地域資源との連携のあり方について講述する。具体的には、個人と家族、生活を取り巻く状況の変化（知的障害者教育・福祉の歴史）、知的障害のある人の生活と家族の生活、社会生活への参加とそれを支える仕組み、社会参加と自律・自立を促す教育実践のあり方、知的障害教育における教育実践情報の蓄積と個別の教育支援計画等をトピックとする。	
	知的障害指導法	知的障害児童生徒・自閉症児童生徒の学習特性とその特性に応じた指導法について解説し、合わせて、学校における授業実践の在り方を、特別支援学校、通常学校特別支援学級、通常学校通級指導教室（自閉症児）の別に講述する。また、学校卒業後の生活と支援の在り方についても学習する。具体的なトピックスは、知的障害児の学習特性と生活教育、知的障害教育教科の特徴、知的障害児童生徒教科等を合わせた指導（日常生活・遊びの指導・生活単元学習・作業学習）、教科別・領域別の指導（各教科の指導・自立活動の指導）、知的障害特別支援学校における授業の展開の実際、特別支援学級における授業の展開等。	
	知的障害心理学	知的障害の発達支援に必要な教育心理学および発達心理学の基礎について講義する。典型的な心理的発達と知的障害の心理的発達の異同について説明し、能力の水準に応じて考えるべき問題と、能力の水準に関係なく蓄積されていく知識や経験の区別について講義する。また、個の特性に応じた適切な発達支援について講義する。	
	知的障害病態生理学	知的障害および関連する発達障害の定義と、定義に関連する病態生理学的知見について基本的事項を講述する。また、虐待や非行、精神疾患についても概説し討論する。具体的トピックは、発達とその障害、中枢神経系の解剖学・生理学、操作的診断基準、知的障害、自閉症、注意欠如多動性障害、学習障害、知的障害・発達障害と虐待、知的障害・発達障害と非行等	
	聴覚障害指導法	聴覚障害指導法とりわけ言語指導の理論や指導方法に関する基本的な事項を中心に、歴史的背景や指導に対する考え方、実際の指導方法について講述する。また、近年の指導方法を巡るさまざまな考え方についても講ずる。 (オムニバス方式/全20回) (107 鄭仁豪/全10回) 聴覚障害指導法の中心テーマである言語指導法について、内外における歴史的経緯やその変遷から、指導の概要や方法を論じる。 (264 左藤敦子/全10回) 聴覚障害児の言語指導について、発達の観点から、最新の動向を含めた教育の内容とその指導法を論ずる。	オムニバス方式
	重複障害指導法	重複障害児の指導について、教育学、心理学、生理学の観点から理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。そのため、重複障害児の指導における教育課程、健康上の課題、感覚の発達、コミュニケーション、教材教具を取り上げる。 (オムニバス方式/全10回) (44 川間健之介/5回) 重複障害児の指導における教育課程、健康上の課題について講述する。 (263 佐島毅/5回) 重複障害児の指導における感覚の発達、コミュニケーション、教材教具について講述する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援学校教育実習	障害のある子どもたちの指導に必要な知識、技能、態度を習得するため、特別支援学校において3週間の実習を行う。附属視覚特別支援学校・附属聴覚特別支援学校・附属桐が丘特別支援学校（肢体不自由教育）・附属大塚特別支援学校（知的障害教育）・附属久里浜特別支援学校（知的障害教育、自閉症に特化）の5校を教育実習校とし、学生は単位習得状況に即して5校から1校を選択する。教科・自立活動等の授業の参観、ホームルーム・クラブ活動への参加、指導法や教材教具等に関する講義・実習の受講、および担当教科・領域の授業実習を行う。また、ホームルームの運営の実習も行う。	
	発達・行動・言語障害指導法	発達障害（LD、ADHD、自閉スペクトラム症等）、行動（情緒）障害（不登校、選択性緘黙等）、言語障害（吃音、構音障害等）について、それぞれについて「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」を講義する。 (オムニバス方式/全20回) (52 熊谷恵子/6回) 学習障害及び注意欠如多動症の「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。 (128 野呂文行/8回) 自閉スペクトラム症及び不登校・選択性緘黙の「心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。 (345 宮本昌子/6回) 吃音及び構音障害の「生理、心理的特徴」「指導法の基礎」「指導の実際」について講義する。	オムニバス方式
	発達・行動障害生理・心理学	発達・行動障害生理・心理学における今日的課題を科学的に分析、理解できること、および実践科学としての障害科学における発達・行動障害生理・心理学的側面からの課題解決の専門的な知識・技能を得られることを目的に、医学・生理学、心理学など基礎科学の知見から発達・行動障害生理・心理学における今日的課題を分析、整理するとともに、実践科学として解消すべき課題は何かを学ぶ。 (オムニバス方式/全10回) (108 柘植雅義/5回) 発達・行動障害生理・心理学とは/発達・行動障害生理・心理学における最新動向と課題とは/発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅲ（行動障害の理論的成果と課題）/発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅲ（行動障害の分析・支援方法の成果と課題）/発達・行動障害生理・心理学における課題別討議（行動障害の支援） (227 岡崎慎治/5回) 発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅰ（病態生理学的知見の実態）/発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅰ（病態生理学の成果と課題）/発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅱ（発達障害の心理学的成果と課題）/発達・行動障害生理・心理学における最新課題Ⅱ（発達障害のアセスメント・支援方法の成果と課題）/発達・行動障害生理・心理学における課題別討議（発達障害の支援）	オムニバス方式
	言語障害生理・心理学	正常な機能を備えた中枢神経系を有していれば、適切な言語環境からの刺激で、子どもは正式な訓練なしでも言葉を話すようになる。一方、言語発達障害のある子どもは期待された年齢段階で期待される水準の話し言葉を獲得できない。これまで、原因不明とされてきた言語発達障害の謎が近年、解明されつつある。本講義では、生理・心理学の側面から言語獲得を阻害する要因について学び、適切な支援法について考える。	
	病弱教育学	病弱児教育の対象や教育措置について概観するとともに、それぞれの教育措置に対応する教育課程を理解する。また、病弱教育の歴史の理解から、現在の病弱教育の成立過程を概観し、現在の病弱教育の動向及び課題について理解する。具体的には、病弱教育の歴史（戦前）、病弱教育の歴史（戦後）、病弱教育の意義、病弱教育の対象、病弱児の教育形態、病弱児の教育課程、病弱児の自立活動、移行教育、病弱児教育の現状と課題を中心に概説する。 (オムニバス方式/全10回) (99 竹田一則/2回) 病弱教育の意義、病弱教育の対象について講述する。 (711 深澤美華恵/8回) 病弱教育の歴史（戦前）、病弱教育の歴史（戦後）、病弱児の教育形態、病弱児の教育課程、病弱児の自立活動、移行教育、病弱児教育の現状と課題について講述する。	オムニバス方式 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	病弱指導法	<p>病弱児の指導について、教育課程・教育形態との関連をもとに、それぞれの教育的ニーズを概観し、それに応じた指導の基礎を理解し、指導のあり方を検討する。具体的にはアレルギー疾患、悪性新生物、心臓疾患、腎臓疾患、筋・骨格疾患、心身症、精神疾患を中心に疾患と教育的ニーズを理解し、さらに病弱児に対する指導、特別支援学校（病弱）における指導（訪問教育を含む）、特別支援学級における指導（院内学級を含む）、通常の学級における指導（通級による指導を含む）、病弱児に対する自立活動の実際それぞれについて概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（99 竹田一則／2回）アレルギー疾患、悪性新生物、心臓疾患、腎臓疾患、筋・骨格疾患、心身症、精神疾患を中心に疾患と境域的ニーズについて講述する。</p> <p>（711 深澤美華恵／8回）病弱児に対する指導、特別支援学校（病弱）における指導（訪問教育を含む）、特別支援学級における指導（院内学級を含む）、通常の学級における指導（通級による指導を含む）、病弱児に対する自立活動の実際について講述する。</p>	オムニバス方式 隔年
	病弱心理学	<p>病弱児の発達、中途発病による心理的特徴に関する基礎的な理論、発達・心理のとらえ方、発達臨床、心理臨床の基礎について解説を行う。具体的には病弱と発達、病弱児の心理的特徴（身体的疾患）、病弱児の心理的特徴（精神的疾患）、中途障害としての病弱児の心理的特徴、病弱児・者のための心理アセスメント方法I（幼児・児童）、病弱児・者のための心理アセスメント方法II（成人）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例I（幼児）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例II（児童）、病弱者の心理援助のための諸理論と実践事例（成人）などを中心に概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（99 竹田一則／2回）病弱と発達、病弱児の心理的特徴（身体的疾患・精神的疾患・中途障害としての病弱）について講述する。</p> <p>（711 深澤美華恵／8回）病弱児・者のための心理アセスメント方法I（幼児・児童）、病弱児・者のための心理アセスメント方法II（成人）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例I（幼児）、病弱児・者の発達、心理援助のための諸理論と実践事例II（児童）、病弱者の心理援助のための諸理論と実践事例（成人）などについて講述する。</p>	オムニバス方式 隔年
	病弱病態生理学	<p>病弱の原因となる基礎的な疾患や病的な状態の病態生理を理解するために、小児期における疾病の経過および特徴や病態生理ならびにその治療や対応の概略について理解する。具体的には気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、肥満・メタボリック症候群、小児がん、心身症・精神疾患、発達障害、心疾患・腎疾患などを中心に概説し理解を深める。</p>	
	聴覚障害教育学	<p>聴覚障害教育の原理や教育内容、特別支援学校・特別支援学級・通級による指導などの多様な学びの場における教育の実際について理解するとともに、インクルーシブ教育時代における聴覚障害教育の在り方を考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（107 鄭仁豪／10回）聴覚障害教育の原理や教育内容の理解を目指し、聴覚障害者の生涯教育の観点から、聴覚障害教育の原理、教育制度、教育内容、教育方法、その変遷などについて講述する。また、最近の話題にふれながら、今後のインクルーシブ教育の在り方について考える。</p> <p>（264 左藤敦子／10回）聴覚障害の特質、聴覚障害教育の概要と歴史の変遷をふまえて、聴覚障害教育の全般を聴覚障害乳幼児、児童、生徒の発達段階に基づいて講述する。また、聴覚障害教育が直面している今日的課題の視点にたち、特別支援学校（聴覚障害）、特別支援学級と通級指導教室における指導・支援のあり方について、理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	聴覚障害心理学	<p>聴覚障害児者における発達上の問題点の背景を理解するために、聴覚障害のある個人の個体的側面と環境的側面、それらの側面の関連から聴覚障害の発達を捉え、聴覚障害児者の理解と指導に必要な基礎的知識を理解するとともに、</p> <p>聴覚障害教育におけるコミュニケーションの発達や聴覚認知理論と実際について、聴覚障害児者の理解と指導に必要な基礎的知識を学習することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(107 鄭仁豪/10回) 認知や知能の特徴、リテラシーの発達、記憶の方略、社会性の発達などの発達要因と聴覚障害との関連を検討し、聴覚障害教育現場で必要とされる基礎的知識全般について概観</p> <p>(264 左藤敦子/10回) 聴覚障害児のコミュニケーション方法の理論や実際に関して、音声的側面、聴覚的側面、音楽的認知等を中心に、指導方法とその応用について概観する。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害病態生理学	<p>聴覚障害に関連する聴覚器官の生理機能について、外耳、中耳、内耳、中枢聴覚系、音響学の基礎ならびに聴覚活用を支援するための補聴器や人工内耳の基礎について学ぶとともに、聴覚障害の生理病理的側面への理解を深め、聴覚障害児の音声生成、発声発語についての正しい知識を身につけることにより、聴覚障害児の音声言語指導の基礎を学ぶことを目的とする。</p>	
	知的・発達障害心理学特講	<p>知的障害、自閉スペクトラム症、学習障害、ADHDなどについて、発達のメカニズムをふまえながら、認知、言語、記憶、情動といった心的機能の特性と、有効な指導法を講義する。また、知能検査を中心としたアセスメント結果を発達支援に結びつける考え方などについて、事例の検討も交えながら講義・演習を行う。</p>	
	知的・発達障害指導法特講	<p>知的障害、発達障害の発達支援に必要な教育心理学および発達心理学の基礎について講義する。典型的な発達と知的障害、発達障害の異同について説明し、能力の水準に応じて考えるべき問題と、能力の水準に関係なく蓄積されていく知識や経験の区別について講義する。さらに、知的障害、発達障害の能力の水準、認知能力の特徴に応じた適切な指導について理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(227 岡崎慎治/10回) 初回のガイダンス、知的障害の定義と分類、発達障害の定義と分類、基礎的心理機能と学力および習得度、発達障害と前頭葉機能、学習とメタ認知、日常生活・生活単元学習・あそびの指導について担当する。</p> <p>(52 熊谷恵子/10回) 知能検査における知能観の概説、知能検査演習、指導案作成の概要と既成の指導案検討、読み書きの特徴と指導、算数の特徴と指導、指導案の検討について担当する。</p>	オムニバス方式
	行動障害指導法特講	<p>行動障害に関する心理的特徴、アセスメント方法、指導計画の立案、指導法、指導の実際についての基礎的知識を講義するとともに、実践論文を取り上げ、指導の実際を演習形式により学ぶ。特に行動論的立場からの指導法について取り上げる。</p>	講義 10時間 演習 20時間
	臨床発達心理学	<p>発達心理学の最近の考え方、および基礎的な知見について理解する。またそれを教育や臨床の実践に結びつける方法について理解する。さらに教育や臨床の実践から発達心理学の理論に還元できることについて理解する。</p> <p>(1) 臨床発達心理学とは：新しい発達観、インクルージョン、基礎と実践、(2) 臨床発達心理士の職務、(3) 発達の支援とは：発達の最近接領域、足場作り、(4) 発達の原理・基盤的命題、(5) 発達課題、遺伝と環境、発達加速現象など、(6) 臨床発達心理学の研究法、(7) 対象の理解：査定・検査・評価・診断の方法、理解のプロセス、(8)～(11) 発達の各期とその特徴と臨床Ⅰ－乳児期・幼児期・児童期の特徴、臨床の実際、(12)～(15) 発達の各期とその特徴と臨床Ⅱ－成人前期・成人後期・高齢期の特徴、臨床の実際、(16) 知能の生涯発達について、(17) 言語の生涯発達について、(18) 社会的スキルの生涯発達について、(19)～(20) 最近のトピックス</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	教育臨床発達援助論	<p>定型発達の児童生徒も含めて、教育臨床場面における児童生徒の発達支援の原理と方法についての理解を深める。教育臨床場面における課題に対して、アセスメントを実施し適切な援助計画を立案できる力を涵養する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(52 熊谷恵子/10回) 教育臨床場面に必要とされる児童生徒のアセスメントについて講義する。また「いじめ」や「自殺」など深刻な学校臨床に関する対応方法について講義・実習を行う。</p> <p>(128 野呂文行/10回) 生徒指導に関する講義を実施する。特に、予防的対応としての学級全体・学校全体に対する指導の方法について解説する。</p>	オムニバス方式 隔年
	行動問題面接指導法特講	<p>知的障害を伴わない発達障害のある児童生徒の多くは、通常の学級において教育を受ける。そのような児童生徒の中には、多動による離席や教室からの飛び出し、他の児童生徒に対するちょっかいや他害など、行動上の問題を示すものも少なくない。この授業では、発達障害のある児童生徒の示す行動上の問題について、担任教師に対するコンサルテーションや学校組織内のコーディネーションを通じて、問題解決を行うための知識・技術の習得を目指す。特に応用行動分析学の分野で研究知見が示されている、包括的な行動支援の枠組みである「学校規模の積極的行動支援 (School-wide Positive Behavior Support)」の観点から、面接やコンサルテーション、コーディネーションの技法について演習や実習をまじえながら講義をする。</p>	
	臨床発達心理査定法特講	<p>学校教育場面において必要とされる臨床心理学的評価の諸方法について、演習をまじえながら具体的・実践的な講義を行う。認知機能・知的機能の評価(岡崎)、感覚の評価(原島)、行動・情緒面の評価(野呂)を中心に、基本的な理論、基本的技法、実際の臨床場面での適用方法と配慮事項について講述する。</p> <p>学校教育場面において必要とされる臨床発達心理学的評価の諸方法について、その理論と具体的な技法について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(128 野呂文行/5回) オリエンテーション: 心理教育的アセスメントの意義と方法、学級・学校内の実態把握の方法について</p> <p>(136 原島恒夫/5回) 感覚機能の評価方法と支援への適用について</p> <p>(227 岡崎慎治/10回) 認知機能・知的機能の評価方法と支援への適用について</p>	オムニバス方式
	行動臨床心理学	<p>障害のある児童生徒に加えて、定型発達児童生徒の支援の基礎となる臨床心理学に関する理論、アセスメント法、介入法に関する基礎的知識を習得する。アセスメント理論として「標準化された検査」「行動観察法」を中心に講義を行う。また介入の理論としては、「行動論的アプローチ」を中心に講義を行い、理解を深める。さらに実際の行動問題の理解に必要な理論と介入の実践について、詳細に講義する。さらに行動問題の開発に向けた連携の在り方についても解説する。</p>	隔年
	障害学生支援学特講	<p>高等教育機関における障害学生支援に関わる理念ならびに関連法案について講述する。また、支援対象となる障害種(視覚、聴覚、運動、発達障害等)ごと、支援領域(時系列的理解、バリア解消、生活、就職ほか)ごとに支援方法を検討する。大学等の高等教育機関における障害学生の支援について、支援対象となる障害と支援のあり方について習得することを目標とする。また、障害学生や支援学生にも参加してもらい、障害学生支援について具体的な理解をはかる。</p> <p>学校教育場面において必要とされる臨床発達心理学的評価の諸方法について、その理論と具体的な技法について理解することを目標とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(405 名川勝/4回) 障害学生支援の理念と背景、障害学生の現状および支援の流れ、支援体制、運動・健康障害学生の支援と介助、バリアの調査と解消、生活・就職の支援、国内外における障害学生支援</p> <p>(136 原島恒夫/2回) 聴覚障害学生の理解と支援</p> <p>(253 小林秀之/2回) 視覚障害学生の理解と支援</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(227 岡崎慎治/2回) 発達障害学生の理解と支援	
	障害学生支援学演習	<p>高等教育段階における障害学生への支援に関して、参加学生は各テーマに基づき、文献調査あるいはフィールド調査を行い、発表、議論する。議論結果によっては更にテーマを深めて発表を行う。受講学生は「障害学生支援学特講」をあらかじめ履修したものとして実施する。また「特講」内で本学における障害学生支援に参加する機会を紹介するので、これらにも関わることでフィールドを得ることが望ましい。</p> <p>大学等、高等教育機関における障害学生の支援について、関連文献あるいはフィールド調査に基づき議論を行うことにより、課題に対する理解を深める。テーマは支援理念、支援体制、高大連携、各障害（視覚障害、聴覚障害、運動障害、発達障害等）・各分野（入学、学習、試験、実習、研究、生活、就職、情報保障、バリア解消、人材育成、健康管理ほか）における支援方法ならびにそれらの研究方法などを対象とする。受講学生はそれぞれのテーマを定めて文献レビュー、調査報告を行う。</p> <p>受講学生は、障害学生支援に関するより総合的な視野と思考方法を学び、実践に寄与することのできる素養を身につけることを目標とする。</p> <p>(405 名川勝) 主に、身体障害の理解と支援（就職支援・生活支援、バリア調査と解消、試験時の配慮、研究方法ほか）の観点から、調査・研究の動向と紹介、報告と議論、最終報告とグループ</p> <p>(227 岡崎慎治) 主に、発達障害の理解と支援（就職支援・生活支援、バリア調査と解消、試験時の配慮、研究方法ほか）の観点から、調査・研究の動向と紹介、報告と議論、最終報告とグループディスカッションを行う。</p>	共同
	特別支援教育学	わが国の特別支援教育の理念と制度について、歴史的、社会的、あるいは国際比較の観点から講述するとともに、理念を実現するための学校組織マネジメントについても解説する。具体的なトピックスは、特別支援教育の理念の成立とその背景、特別支援教育の理念を実現する制度設計、特別支援教育の到達点と課題、欧米における障害児教育の動向と特別支援教育、インクルーシブ教育の国際動向と特別支援教育、特別支援教育における学校組織マネジメント、障害のある子どもの自立と自己実現と教育の役割等。	
	Special Lecture on Disability Sciences	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。諸外国における障害科学に関連する課題について、その背景にある歴史的・文化的背景と併せて理解し、課題解決に資する知識・技能を修得することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(510 宮内久絵/5回) 日本における障害科学に関連する諸課題について、講義とディスカッションを通じて理解を促す。10回目のまとめ・総括では、あらためて日本と他の諸国における課題を比較検討し、その根底にある歴史的・文化的背景を含め理解を深める。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/5回) 開発途上国における障害科学に関連する諸課題について、講義とディスカッションを通じて理解を促す。</p>	オムニバス方式
専門科目	視覚障害学特講 I	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。視覚障害学における諸事項について理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、視覚障害学領域における諸事項について論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文/4回) ガイダンスとして、視覚障害学について概説し、主に、視覚器と視覚障害原因疾患の理解と視機能評価方法の理解につながる授業を担当し、まとめとして総括・あらためて視覚障害と題し、講義を行う。</p> <p>(253 小林秀之/4回) 視覚障害特別支援学校、弱視特別支援学級及び弱視通級指導教室の現状について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/4回) 開発途上国における視覚障害教育について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(510 宮内久絵/4回) インクルーシブ教育と視覚障害特別支援学校及び、諸外国との比較から見る日本の視覚障害教育について詳述する。また、第1回目のガイダンス及び第10回の総括についても議論に参加する。	
	視覚障害学特講 II	<p>オムニバスの講義形式で授業を行う。視覚障害学における学問上・研究上の課題について理解し、障害科学としての課題解決に資する専門的な知識・技能を修得することを目的とする。生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文/4回) 視覚障害原因疾患の現代的課題と視機能評価の現代的課題について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(253 小林秀之/4回) 視覚障害教育に携わる教員の専門性と視覚障害教育における交流及び共同学習について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL/4回) 南アジアにおけるインクルーシブ教育の課題と可能性について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p> <p>(510 宮内久絵/4回) イギリスにおける視覚障害教育の変遷と現状及びインクルーシブ教育下における視覚障害教育とそれを支える条件について講義を行うとともに、受講者によるレポート発表とディスカッションを行い、視覚障害学領域における学問上・研究上の課題について理解を促す。</p>	オムニバス方式
	視覚障害学演習 I	<p>演習形式の複数の授業を行う。日本における視覚障害学の諸課題について、文献収集・分析力ならびに実践情報収集・分析力を身につけ、データに基づき議論できるようになることを目的とする。日本における視覚障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文) 主に、視覚障害生理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 主に、視覚障害心理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(253 小林秀之) 主に、視覚障害教育学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 主に、開発途上国における視覚障害教育に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 主に、先進国における視覚障害教育に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	共同
	視覚障害学演習 II	<p>演習形式の複数の授業を行う。諸外国における視覚障害学の諸課題について、文献収集・分析力ならびに実践情報収集・分析力を身につけ、データに基づき議論できるようになることを目的とする。諸外国における視覚障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(39 柿澤敏文) 主に、視覚障害生理学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 主に、視覚障害心理学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討議を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(253 小林秀之) 主に、視覚障害教育学に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 主に、開発途上国における視覚障害教育に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 主に、先進国における視覚障害教育に関する英文研究論文の検索と収集、世界の研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、諸外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	
	視覚障害学演習Ⅲ	<p>視覚障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、視覚障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(39 柿澤敏文) 生理学的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(253 小林秀之) 盲・弱視者への学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(367 LAMICHHANE KAMAL) 福祉経済学的手法内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(510 宮内久絵) 文献研究の手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(263 佐島毅) 心理・臨床的手法を用いた視覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	聴覚障害学特講Ⅰ	<p>聴覚障害学領域における教育、文化・社会、心理、医学生理、言語学的論点などの諸事項に関する基本的知識を学習することを目指し、聴覚障害学領域における諸事項について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の観点から、講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪/4回) 講義全般の概要(課題と方法)の説明を行うとともに、聴覚障害学における心理学的側面から、聴覚障害における発達の捉え方や認知発達について講ずる。</p> <p>(136 原島恒夫/3回) 聴覚障害学における病態生理学的観点から、聴覚障害幼児の早期発見の方法やそれに伴う診断・アセスメントについて講ずる。</p> <p>(264 左藤敦子/3回) 聴覚障害学における教育学的視点からコミュニケーションや文字言語といった言語教育と発達について講じる。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害学特講Ⅱ	<p>聴覚障害学領域の諸事項に関する学術的な最新の研究課題について、聴覚障害児者の教育、心理、病態生理、福祉などの側面から課題を整理し理解するとともに、示された課題の解決や対応のためのアプローチについて講述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪/4回) 聴覚障害学における研究の視点とアプローチについて概説を行うとともに、聴覚障害と認知と学習、問題解決方略について、最新研究の知見をまじえながら、講述する。</p> <p>(264 左藤敦子/3回) 聴覚障害児者の音声言語や文字言語について、発達の側面から、最新研究をまじえて、講ずる。</p> <p>(136 原島恒夫/3回) 聴覚障害児者の聴覚補償の現状や、聴能評価の教育への活用について、最新研究をまじえて講ずる。また、これらの聴能学的研究の進歩による専門性の変化についても講述する。</p>	オムニバス方式
	聴覚障害学演習Ⅰ	<p>聴覚障害学の諸課題に関する情報収集の方法や分析能力を身につけるために、関連分野の基礎的ならびに応用的研究論文を講読し、研究上の論点を整理する。また、示された課題とその解決方法について、聴覚障害学における教育学・心理学・生理病理学の諸側面から議論を行うことにより、具体的な事例に基づく問題解決方法を学ぶ。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪) 主に、聴覚障害心理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(136 原島恒夫) 主に、聴覚障害生理学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 主に、聴覚障害教育学に関する邦文研究論文の検索と収集、日本国内の研究動向の分析と討議、邦文論文のレビュー、国内研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	
	聴覚障害学演習 II	<p>聴覚障害学演習 I における研究課題に対応できる体系的学修の成果に基づき、特定の課題に関する課題の設定、分析方法、資料の収集と整理、研究成果のまとめと報告といった科学的手続きについて学習し、聴覚障害学に関する基礎的ならびに応用的研究能力を培う。具体的には、聴覚障害学における問題意識および各受講生の関心に基づき、聴覚障害学における特定課題を設定し、研究方法（事例研究、授業研究、調査研究、実験研究、文献研究など）の採用、データの収集と分析に基づく研究プロポーザルの作成、データ収集と分析、研究の展開とディスカッション、成果発表と課題の抽出といった一連の作業を通して、聴覚障害学における研究手法について学ぶ。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(107 鄭仁豪) 主に、聴覚障害心理学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英語論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(136 原島恒夫) 主に、聴覚障害生理学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英文論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 主に、聴覚障害教育学に関する英文研究論文の検索と収集、国際研究動向の分析と討議、英語論文のレビュー、外国の研究の成果と課題に関する討論を行う。</p>	共同
	聴覚障害学演習 III	<p>聴覚障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、聴覚障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(136 原島恒夫) 聴覚補償および読話、聴覚障害の早期発見・早期介入、聴覚障害インクルーシブ教育など聴能学視点および聴覚生理心理学的視点から研究指導を行う。</p> <p>(107 鄭仁豪) 心理学的手法を用いた聴覚障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(264 左藤敦子) 聴覚障害者に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教材等に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	運動障害学特講 I	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、運動障害学領域における教育学・指導法、心理学に係る基礎的事項について論述する。運動障害学について概説し、運動障害心理学に対する理解を深め、それに基づく運動障害教育学と指導法についての考察を深める。</p>	
	運動障害学特講 II	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、運動障害学領域における学問上・研究上の課題について論述する。運動障害教育学における課題である脳性まひの運動発達の特徴、脳性まひの知覚認知の発達特性など心理学的視点から論述するとともに、障害の重度・重複化に対応した教育課程、教員の専門性などについても考察する。</p>	
	運動障害学演習 I	<p>日本における運動障害学の諸課題について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点からの邦文論文を講読したり、特別支援学校の研究紀要等の教育実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。また必要に応じて、福祉や医療、労働等関連の状況についても文献等に基づき方法収集を行い、教育・福祉・医療の連携における障害科学の役割について考察する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	運動障害学演習Ⅱ	諸外国における運動障害学の諸課題について、生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点からの英文論文を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。また必要に応じて、福祉や医療、労働等関連の状況についても文献等に基づき方法収集を行い、教育・福祉・医療の連携における障害科学の役割について考察する。	
	運動障害学演習Ⅲ	運動障害学を専門研究領域とする教員の指導の下、運動障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。 (44 川間健之介) 心理学的手法を用いた運動障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	病弱特講Ⅰ	病弱領域における諸事項について、生理学・心理学等の障害科学の視点から講述する。具体的には病弱の原因疾患の理解と課題について、アレルギー疾患（気管支喘息・アトピー性皮膚炎・食物アレルギー）、生活習慣病とメタボリック症候群等を取り上げる。	
	病弱特講Ⅱ	病弱領域における諸事項について、生理学・心理学等の障害科学の視点から講述する。具体的には病弱の原因疾患の理解と課題について、小児白血病・心身症・発達障害・摂食障害・緘黙・重度重複障害等を取り上げる。	
	病弱演習Ⅰ	日本における病弱諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、課題解決能力を涵養する。具体的には、気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、生活習慣病とメタボリック症候群、白血病をはじめとする小児がんなどの病弱に関わる課題を設定し、それぞれ発表と討議を行い、問題意識高め、理解を深める。	
	病弱演習Ⅱ	日本における病弱諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、課題解決能力を涵養する。具体的には、摂食障害、心身症、自閉症スペクトラム症、ADHD、学習障害、重度重複障害などの病弱に関わる課題を設定し、それぞれ発表と討議を行い、問題意識高め、理解を深める。	
	病弱演習Ⅲ	病弱分野を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、病弱領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。 (99 竹田一則) 病弱教育に関連する内容を中心に研究指導を行う。	
	知的・発達・行動障害学特講Ⅰ	生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、知的・発達・行動障害学領域における諸事項について論述する。 (オムニバス方式/全10回) (担当者全員/1回) (共同) ガイダンス (担当者全員/1回) (共同) 「知的・発達・行動障害」とは (128 野呂文行/1回) 自閉症スペクトラムならびに情緒障害の理解 (108 柘植雅義/1回) Evidence-based Education Policyに基づく知的・発達・行動障害の教育 (52 熊谷恵子/1回) LDの理解と支援 (227 岡崎慎治/1回) ADHDの理解と支援 (252 小島道生/1回) 知的障害の理解と支援 (365 米田宏樹/1回) 知的障害教育の現状と課題 (担当者全員/1回) 知的・発達・行動障害の支援専門性 (担当者全員/1回) (共同) まとめと討論	オムニバス方式 共同 (一部)
	知的・発達・行動障害学特講Ⅱ	知的・発達・行動障害学の学問上・研究上の課題について、生理学・心理学・教育学等様々な障害科学の研究アプローチ方法の観点から講述する。 (オムニバス方式/全10回)	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(担当者全員/1回) (共同) ガイダンス (担当者全員/1回) (共同) 「知的・発達・行動障害」における研究とは (128 野呂文行/1回) 知的・発達・行動障害研究における応用行動分析的アプローチならびに認知行動療法的アプローチの現状と課題 (108 柘植雅義/1回) Evidence-based Education Policyを支える実践研究のあり方 (52 熊谷恵子/1回) 知的・発達・行動障害研究における学校臨床的アプローチの現状と課題 (227 岡崎慎治/1回) 知的・発達・行動障害研究における生理心理学的アプローチの現状と課題 (252 小島道生/1回) 知的・発達・行動障害研究における心理学的アプローチの現状と課題 (365 米田宏樹/1回) 知的・発達・行動障害研究における教育学的アプローチの現状と課題 (担当者全員/1回) 知的・発達・行動障害に係る研究の最新動向 (担当者全員/1回) (共同) まとめと討論</p>	
	知的・発達・行動障害学演習 I	<p>日本における知的・発達・行動障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(128 野呂文行) 主として自閉症児に対する応用行動分析に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (108 柘植雅義) 主として発達障害の教育に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (52 熊谷恵子) 主として発達障害の心理・指導法に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (227 岡崎慎治) 主として発達障害の生理・心理に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (252 小島道生) 主として知的障害の心理・指導法に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (365 米田宏樹) 主として知的障害の教育に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	知的・発達・行動障害学演習 II	<p>諸外国における知的・発達・行動障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(128 野呂文行) 主として自閉症児に対する応用行動分析に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (108 柘植雅義) 主として発達障害の教育に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (52 熊谷恵子) 主として発達障害の心理・指導法に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (227 岡崎慎治) 主として発達障害の生理・心理に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (252 小島道生) 主として知的障害の心理・指導法に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。 (365 米田宏樹) 主として知的障害の教育に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	知的・発達・行動障害学演習 III	<p>知的・発達・行動障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、知的・発達・行動障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(108 柘植雅義) 発達障害児に対する学校教育研究に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (52 熊谷恵子) 心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (128 野呂 文行) 応用行動分析学的手法を用いた知的障害児・自閉症児に関連する内容を中心に研究指導を行う。 (227 岡崎慎治) 生理心理学的手法を用いた発達障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(365 米田宏樹) 知的障害児に対する学校教育実践に資する教育課程・指導法・教育史・福祉史に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(252 小島道生) 心理学的手法を用いた知的障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	言語障害学特講 I	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、言語障害学領域における諸事項について論述する。具体的トピックは以下の通り。言語・発話・コミュニケーションの典型発達、言語障害の分類と原因、言語発達障害のアセスメント、構音障害のアセスメント、吃音のアセスメント、言語発達障害の支援、構音障害の支援、吃音の支援等。</p>	
	言語障害学特講 II	<p>生理学・心理学・教育学等の様々な障害科学の視点から、言語障害学領域における諸事項について論述する。具体的トピックは以下の通り。通常での生活を視野に入れた言語障害教育研究・実践の動向、通常学級と通級指導教室の連携の実態、言語障害のある子どもが通常学級で感じる困難さ、発達障害を重複する言語障害のある子供の支援、教育現場における言語指導の現状と課題、通級指導教室での支援の実際と課題、親指導の実際と課題、言語障害教育に携わる教員の専門性、言語障害教育に携わる教員と他職種連携等。</p>	
	言語障害学演習 I	<p>日本における言語障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。言語障害生理学に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害心理・指導法に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害教育の理念と制度に関する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。</p>	
	言語障害学演習 II	<p>諸外国における言語障害学の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。言語障害生理学に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害心理・指導法に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題、言語障害教育の理念と制度に関する世界の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。</p>	
	言語障害学演習 III	<p>言語障害学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、言語障害学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(345 宮本昌子) 心理学的手法を用いた音声・言語障害に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	障害福祉学特講 I	<p>社会福祉学における諸事項について理解し、課題解決に資する専門的な知識・技能を修得するために、障害福祉学領域における諸事項について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) *第1回は合同でガイダンス</p> <p>(405 名川勝/全3回) 障害福祉に関する諸政策の現状と課題について、障害のある人の地域での暮らしと障害福祉について、障害福祉における権利擁護について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(517 森地徹/全3回) 障害者権利条約と障害福祉の関係について、障害福祉における当事者性について、障害福祉における障害児福祉について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(433 大村美保/全3回) 障害福祉サービスの利用プロセスについて、障害福祉における就労及び所得補償の支援について、障害福祉における地域包括ケアシステムについて、それぞれ講義を行う。</p>	オムニバス
	障害福祉学特講 II	<p>障害福祉学における学問上・研究上の課題について理解し、課題解決に資する専門的な知識・技能を修得するために、障害福祉学領域における学問上・研究上の課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) *第1回は合同でガイダンス</p> <p>(405 名川勝/全3回) 生活学領域から見た障害福祉について、意思決定支援と障害福祉について、障害者の介助にかかわる制度と介助関係について、それぞれ講義を行う。</p>	オムニバス

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(517 森地徹/全3回) 障害福祉とICFとの関係について、障害福祉と合理的配慮との関係について、障害福祉とケアマネジメントとの関係について、それぞれ講義を行う。</p> <p>(433 大村美保/全3回) 障害者虐待とその対応について、犯罪行為のある障害者への対応について、障害者の社会的孤立とその対応について、それぞれ講義を行う。</p>	
	障害福祉学演習 I	<p>日本における障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題について、文献収集とその分析力並びに福祉実践に関する情報収集とその分析力についてそれぞれ身につけ、それらを踏まえた上でデータに基づいて議論できるようになるために、日本における基礎的及び応用的な研究論文を収集及び分析をしたり、福祉実践に関する情報の収集及び分析をしたりして、そのことを踏まえた上で障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題の解決に向けた方法について討議することとする。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関する邦文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	障害福祉学演習 II	<p>海外における障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題について、文献収集とその分析力並びに福祉実践に関する情報収集とその分析力についてそれぞれ身につけ、それらを踏まえた上でデータに基づいて議論できるようになるために、海外における基礎的及び応用的な研究論文を収集及び分析をしたり、福祉実践に関する情報の収集及び分析をしたりして、そのことを踏まえた上で障害福祉に関する研究上及び実践上の諸課題の解決に向けた方法について討議することとする。</p> <p>(複数担当方式/以下の教員全員 全10回)</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関する英文研究論文の検索と収集・講読・討論を中心とする。</p>	共同
	障害福祉学演習 III	<p>障害福祉学を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、障害福祉学領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。</p> <p>(405 名川勝) 権利擁護に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(433 大村美保) 成人障害者の生活支援・就労支援に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(517 森地徹) 障害児童福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(36 小澤温) 知的障害者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p> <p>(360 山中克夫) 高齢者福祉に関連する内容を中心に研究指導を行う。</p>	
	障害原理論特講 I	<p>障害とは何かという本質的問いについて、人間社会と障害という観点から講述する。「障害」ということばは、純粋に心身の疾患や生理学的な状態像を意味する場合と、より社会的文脈において用いられる場合があるが、本講義ではとくに後者の内容を中心に扱う。種々の社会的条件が障害に及ぼす影響を及ぼすかについて、縦軸（時間軸）と横軸（国や地域）の異同を意識しながら考えていく。具体的には、政治・経済、諸科学、文化・宗教等を指標の例として取り上げる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	障害原理論特講Ⅱ	障害原理論とはどのような研究分野なのかについて、基礎的事項を講述する。前半部分では、研究手法や研究課題の特徴について、具体的なテーマを例示しながら説明する。この段階ではとくに、複数の障害種を横断的に捉える観点や特別支援教育と障害者福祉の交点にかかわるテーマ等、障害原理論分野に固有の課題設定について学ぶ。後半では、いくつかの研究テーマを事例的に提示しながら、実際に研究を行う際のデータ収集の方法、分析の観点、留意事項等について解説する。	
	障害原理論演習Ⅰ	障害原理論分野の研究を行ううえで必要となる手続きの基礎を修得する。まず実際に障害原理論分野の学術論文を輪読し、そもそも障害原理論の研究とはいかなるものかについて、内容と方法論の両側面から特徴を把握する。次に、データベース等を活用して障害原理論分野の文献検索・収集方法を学び、キーワードを手がかりに英文および邦文の二次資料を収集する。さらに一次資料を用いて、データの読み取り方、分析の仕方、考察の導き方等の基本的技術を獲得する。	
	障害原理論演習Ⅱ	障害原理論分野の研究の幅広さを理解する。とりわけ近年の研究動向を把握することで、実際に障害原理論研究に取り組むための予備的学習を行う。具体的には、いくつかの研究テーマを設定したうえで英文で書かれた学術論文をレビューし、内容についてディスカッションを行う。取り上げるテーマとしては、特別支援教育・障害者福祉の歴史に関するもの、障害概念や障害者の権利に関するもの、障害者にかかわる法制度・政策にかかわるものを想定している。	
	障害原理論演習Ⅲ	障害原理論を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、障害原理論領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。 (29 岡典子) 文献研究的手法によって障害と社会の関係を明らかにするような内容を中心に研究指導を行う。	
	理療科教育特講Ⅰ	理療科教員養成施設は、我が国唯一の特別支援学校自立教科(理療)の教諭を養成する教育機関として位置づけられている。歴史・現状・法規等の様々な障害科学の視点から、理療科教育領域における諸事項について論述する。 (オムニバス方式/全10回) (31 緒方昭広/5回) 理療科教育、あん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師(理療)免許、視覚障害者とあん摩マッサージ指圧師・はり師・きゅう師、特別支援学校自立教科(理療)免許について講述する。 (370 和田恒彦/5回) 理療科教員養成施設の設置目的、法的位置づけ、理療科教員養成施設の現状(入学状況、就職状況など)、理療科教育の歴史的変遷、理療科教員養成施設の歴史的変遷、教員免許更新講習、専修免許等などの動向について講述する。	オムニバス方式
	理療科教育特講Ⅱ	様々な障害科学の視点から、理療科教育領域における学問上・研究上の課題について論述する。具体的トピックは以下の通り。理療および理療科教育の先行研究、視覚障害者と理療教育、理療教育の現状と課題、理療教育における視覚補償、個々の視覚障害のニーズに応じた理療臨床教育、ICTを利用した理療教育、理療科教員養成の現状と課題、理療教員養成の将来展望に関する討議 (オムニバス方式/全10回) (31 緒方昭広/5回) 理療および理療科教育の先行研究、視覚障害者と理療教育、理療教育の現状と課題について講述する。 (370 和田恒彦/5回) 理療教育における視覚補償、個々の視覚障害のニーズに応じた理療臨床教育、ICTを利用した理療教育について講述する。	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	理療科教育演習Ⅰ	日本における理療科教育の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的トピックは以下の通り。日本における理療（あん摩マッサージ指圧・鍼・灸）の諸課題、日本におけるおよび理療科科教育の諸課題、あん摩マッサージ指圧鍼灸する日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題、理療科教育にする日本国内の研究動向の分析と討議及び成果と課題等。	共同
	理療科教育演習Ⅱ	諸外国における理療科教育の諸課題について、基礎的・応用的研究論文等を講読したり、実践現場の情報収集・分析を行うなどし、具体的事例に基づいて問題解決方法を討議する。具体的には、あん摩マッサージ指圧鍼灸する諸外国における研究論文の検索・収集・研究動向の分析と討議を行う。	共同
	理療科教育演習Ⅲ	理療及び理療科教育を専門研究領域とする教員から論文指導教員を決定し当該教員の指導の下、理療及び理療科教育領域に関する研究方法を具体的課題に即して習得し、研究論文の作成を行う。当該研究領域の先行研究のレビュー・研究課題の設定・研究方法の選定・データの収集・整理・分析・考察を指導教員の監督・指導の下で実施し、指導教員との共同討論を経て、研究論文を作成する。 (31 緒方昭広) 理療に関する内容を中心に研究指導を行う。 (370 和田恒彦) 理療科教育に関する内容を中心に研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
カウンセリング 関連科目	基礎科目 カウンセリング方法論基礎II	論文の読み方、書き方等研究構想発表に向けた基本を学び、2年生の修士論文中間発表会・口述試験への参加により、自らの研究テーマを検討する。自らの研究構想を発表し、発表に対する助言指導を通して、研究テーマ・指導教員の選択などの検討を進め、修士論文作成への準備とする。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング方法論基礎III	2年生の修士論文中間発表会・口述試験への参加および自らの研究構想発表を通じて、最終的な研究テーマの決定・指導教員の選択を行い、具体的な修士論文作成への準備を進める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	(研究指導)	(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床 (22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント (30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ (138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学] アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP)、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか (152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究 (207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究 (222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究 (320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ (cyberbullying) の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか	
	カウンセリング研究法I	修士論文構想発表会にてプレゼンテーションを行い、全教員の指導を受け、修士論文の調査と執筆を進める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	カウンセリング研究法II	修士論文構想発表会および中間発表会にてプレゼンテーションを行い、全教員の指導を受け、修士論文の執筆をすすめる。最終的には修士論文最終口述試験にて執筆した論文の内容について、全教員の審査を受ける。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。	
	(研究指導)	(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床 (22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント (30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング] 仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ (138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学] アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床 (Evidence-Based Practice: EBP)、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか (152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究</p> <p>(222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究</p> <p>(320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ（cyberbullying）の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか</p>	
専門科目	<p>カウンセリング心理学</p> <p>カウンセリング特別研究I</p> <p>カウンセリング特別研究II</p> <p>カウンセリング特別研究III</p> <p>(研究指導)</p>	<p>授業概要：カウンセリングとは、言語および非言語コミュニケーションを通して、行動変化を試みる人間関係である。その人間関係を研究対象とする、「カウンセリング心理学」に基づき、カウンセラーの意義と役割について明らかにするとともに、カウンセリング関係の成立条件、カウンセラーの資質と能力、職業倫理などを取り上げて、カウンセラーとして期待される態度と行動について学ぶ。授業では配付される講義資料とスライドを中心に進められる。また、カウンセリングの実際をより具体的に理解するために、適宜ワークシート、事例提示等を用いて講義する。受講者はカウンセリングの倫理について授業担当教員と契約を結ぶ必要がある。</p> <p>目的・ねらい：対人援助の状況で展開する人間関係のダイナミズムと、援助対象者一人ひとりの心理学的現実を理解し、カウンセラーとして必要なカウンセリングの視点や理論について理解を深める。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、各人の関心に合わせた研究計画の立て方・具体化の方法・作業の進め方や、重点的な履修の内容・方法に対してアドバイス・指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、修士論文の骨子や草稿の作成や、論文作成に向けての文献の調査・消化方法、中間報告会の準備について、計画の進捗度合いに応じて指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>各専任教員が指導学生に対して、修士論文の草稿の完成および最終原稿の作成および完成に取り組むとともに、表現や文献表記など最終段階としての指導を行う。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄のとおり。</p> <p>(6 安藤智子) 専門領域：[発達臨床心理学]子育て支援、アタッチメント、産後の抑うつ、家族臨床</p> <p>(22 大川一郎) 専門領域：[老年心理学、老年臨床心理学、心理アセスメント]多職種連携協働による仮説検証型事例検討、高齢者の認知機能維持に関する心理学的検討、生涯発達臨床心理学、心理アセスメント</p> <p>(30 岡田昌毅) 専門領域：[キャリア発達の心理学、キャリア・カウンセリング]仕事、職業キャリア発達、心理・社会的発達の関係とそのプロセスについての研究、キャリア・カウンセリングを応用した人材育成へのアプローチ</p> <p>(138 原田隆之) 専門領域：[臨床心理学、犯罪心理学、精神保健学]アディクション臨床、エビデンスに基づく心理臨床（Evidence-Based Practice: EBP）、EBPの啓発・国際発信、薬物問題支援のための技術支援 ほか</p> <p>(152 藤生英行) 専門領域：[カウンセリング心理学、認知行動カウンセリング]カウンセリングの訓練方法・効果測定に関する研究、内在化問題行動と外在化問題行動とに共通する認知的要因の解明、メンタルヘルス・サポート・システムに関する研究</p> <p>(207 飯田順子) 専門領域：[学校心理学、スクールカウンセリング]学校における予防教育（学校生活スキル、いじめ予防等）、知能検査の開発・活用、スクールカウンセラーの効果的な活用に関する研究</p> <p>(222 大塚泰正) 専門領域：[職場のメンタルヘルス、産業カウンセリング]職場のメンタルヘルス活動を担う心理専門職養成に関する研究、労働者のうつ・自殺予防に関する研究、組織や個人を活性化させるための介入研究</p> <p>(320 藤桂) 専門領域：[社会心理学、メディア心理学]研究テーマ：インターネット利用が現実生活に及ぼす影響、ネット上での行動内容の分析・測定尺度の作成、ネットいじめ（cyberbullying）の心理的過程、震災時におけるSNSの役割・影響 ほか</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達臨床心理学Ⅰ	<p>授業概要：胎生期から成人期までの発達とそれを支える環境について概説する。また、乳幼児期から発達過程における心理臨床的な課題や、支援について論じる。特に、実験や観察等の映像も用いながら、具体的な行動のどこに発達のな特徴や支援の視点をみることができるとかを提示する。</p> <p>目的・ねらい：個性をもって生まれた一人の人間が、周りの人や環境と相互作用をしながら成長する、ダイナミックで柔軟な発達をイメージできることを目指す。</p>	
	生涯発達臨床心理学Ⅱ	<p>授業概要：人間の生涯的発達の中での特に中高年期に焦点を当てる。「生まれてから死ぬまでの生涯発達の過程における中高年期の位置づけ」「その心理的な意味」「老いるとはどういうことなのか」「加齢に伴い、身体機能、知的機能はどう変化していくのか」「また、そのことが日常生活上にどのような変化をもたらすのか」そして、これらの知見を踏まえた上で、問題を抱えた高齢者をどのように理解し、どのように対応していったらいいのか」などのテーマについて実習や事例検討も含めて考えていきたい。</p> <p>目的・ねらい：生涯発達の視点からみた老年期の心理的な特徴について学ぶ。老年期の一般的な心身の変化、日常生活に及ぼす影響について学ぶ。また、様々な高齢者に対する個別的理解、対応のあり方について学ぶ。</p>	
	学校心理学	<p>授業概要：一人ひとりの子どもを対象とした心理教育的援助サービス（アセスメント、カウンセリング、コンサルテーション、コーディネーション）の理論と実践の体系である「学校心理学」について、講義、文献購読、実習を通して学習する。具体的には、現代の子どもがもつ学校生活での苦戦に対応した心理教育的援助サービスについて、実践例を通して検討する。また援助サービスのシステムやコーディネーターの役割について焦点をあてる。*「学校心理士」申請における必須科目である。</p> <p>目的・ねらい：学校心理学の基礎理論を学ぶとともに、子どもや子どもの援助者（教師、保護者、学校組織）を援助することに関する理論や方法論を学ぶ。</p>	
	学校教育相談	<p>授業概要：認知行動カウンセリングの視点から、学校教育相談の実践について理解を深める。とくに学校不適応の心理、不登校、いじめ、自殺予防、学校危機介入の課題を取り上げる。履修学生は、以下のいずれかの授業発表レポートが課される。a. 教育相談の対象となる病理について、カプラン精神医学テキストをもとに資料を作成し他学生に説明する。b. これまで職場などで対応してきた事例について報告する。様式は講義中に指定する。</p> <p>目的・ねらい：学校教育相談の現代的課題についての基礎知識の習得、その解決に向けての実際的な技能・能力の獲得・向上を目指す。</p>	隔年
	健康心理学	<p>授業概要：心理学的ストレスモデルやそれに関連する諸理論について解説するとともに、本モデルを応用した実践（認知行動療法など）について紹介する。なお、ポジティブ心理学に関するグループまたは個人発表が課される。</p> <p>授業のねらい：ストレッサーとコーピングなどのストレス理論、感情と健康に関する諸理論を学ぶことで、今後の健康の維持・向上について考えを深める。</p>	
	職場のメンタルヘルス	<p>授業概要：本講義では職場のメンタルヘルスに関する一次予防から三次予防までの幅広い話題（カウンセリング、教育研修、職場復帰支援など）について解説する。単に講師が講義を行うだけでなく、受講生参加型の講義を行う。なお、職場のポジティブ・メンタルヘルスに関するグループまたは個人発表が課される。</p> <p>授業のねらい：わが国における職場のメンタルヘルス対策の意義や推進方法についての知識や技能を獲得するとともに、心理専門職として社会の要請に応えられるような素養を身に付ける。また、人々がさらに健康にいきいきと働けるようになるために役立つポジティブ・メンタルヘルスの概要についても理解を深める。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	組織心理学	<p>授業概要：組織とは、人間からなり人間のためにある。その中で人間同士の相互作用により生じてくる心理学的・行動学的特性について学び、組織の在り方、制度、組織間の連携および運営などについて企業組織をベースに概観する。さらに、それぞれの受講者が所属する組織について事例発表、およびケーススタディを通じ、組織心理学に関する実際的課題について議論する。</p> <p>目的・ねらい：組織心理学の過去の研究で得られた基本的な知見、理論、方法論などの概要を理解するとともに、現実場面を通じ、さまざまな組織の理解を深める。</p>	
	キャリア心理学	<p>授業概要：キャリア・カウンセリングの基礎である「キャリアの心理学」を概説し、その理論的背景であるキャリア関連の諸理論・アプローチを紹介する。さらに実際のキャリア・インタビューを通じて、諸理論・アプローチの現実への応用についてグループ毎に整理し、全体発表・討議を実施する。</p> <p>目的・ねらい：キャリア・カウンセラーがクライアントを適切に支援していくには、クライアントの抱える問題・課題に対して多様な視点からアプローチすることが望まれる。キャリア関連の諸理論・アプローチを広く学ぶことで、その相互の関係性や相違を理解し、実践への応用の基盤を習得する。</p>	
	人格心理学	<p>授業概要：心理学における重要な構成概念である人格（パーソナリティ）について、その概念、理論を解説するとともに、人格査定（心理テスト）について体験的に学ぶ。さらに、人格の障害としてのパーソナリティ障害について、その疾病概念、診断基準、病態、治療等について解説するとともに、他の精神疾患や社会病理としての犯罪との関連について解説する。</p> <p>目的・ねらい：パーソナリティについて理解を深めるとともに、パーソナリティ障害の概念、アセスメント、治療について実践的な方法を学ぶ。</p>	
	人間関係論	<p>授業概要：現代社会の対人関係に関するトピックスを取り上げ、研究の動向を紹介する。</p> <p>目的・ねらい：現代の社会心理学の研究動向を学習し、日常生活の心理現象が社会によって規定されていることを理解し、科学的アプローチの基本的態度を学ぶ。</p>	
	非行・犯罪心理学	<p>授業概要：非行・犯罪について、心理学的な観点から、社会的な不適応行動としてとらえ、その要因を生物学的、心理学的、社会的観点から多面的にとらえるとともに、非行・犯罪のアセスメント、治療方法について実践的に解説する。</p> <p>目的・ねらい：非行・犯罪のリスク要因に対する理解を深めるとともに、リスクアセスメント、およびリスクに焦点を当てた治療方法を学ぶ。</p>	
	家族心理学	<p>家族心理学に関する基本的な理論の学習とロールプレイを組み合わせることで、理論を実践的に学習する。まず、家族の構造と関係性、コミュニケーション理論、家族の中で育つ子どもの心、問題のエコシステムックに見立てる方法を学ぶ。その上で、家族・組織の中で困っている状況にある人に対するシステムズコンサルテーションの模擬事例を作成し、ロールプレイを通して学ぶ。</p> <p>目的：ねらい：</p> <ol style="list-style-type: none"> ①家族心理学に関する基本的な理論を知る。 ②家族心理学に関する基本的な理論を、支援の現場に活用するために必要な「システムックなものの方」を身につける。 	
	グループプロセス	<p>授業概要：グループプロセスについて体験的に理解し、学校、組織、地域におけるグループプロセス（グループカウンセリング、相互コンサルテーション、コーディネーション）について知識と方法を獲得する。またコミュニティアプローチをもちいて、グループづくり、傾聴、援助的関わりについて、体験的に学習する。</p> <p>目的・ねらい：グループプロセスの理論や方法論を学ぶこと、およびグループプロセスのファシリテーションを行うスキルを習得することを目的とする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理・教育アセスメント	<p>授業概要：心理臨床場面においては、まず、問題となる心理・行動を明確にした上で、その原因を探り、解決への糸口を探っていく。この一連の過程の中で、重要な役割を担っているのが心理・教育アセスメントである。本講義においては、まず、心理・教育アセスメントの意義と全体像を理解するために実践例を詳細に報告する。その上で、心理検査の標準化の過程、活用法について知能検査を中心にその理論的背景、実施法、採点法、解釈および活用する方法について学ぶ。その上で、産業領域、学校・教育領域、病院臨床領域、発達・福祉領域におけるアセスメントの実際について学んでいく。</p> <p>目的・ねらい：心理・教育アセスメントの意義と全体像について学ぶ。心理検査の理論的背景及び作成過程について学ぶ。心理・教育アセスメントの実際について学ぶ。</p>	
	ヘルピング・スキル	<p>授業概要：ヒューマン・サービス（心理・医療・教育・福祉・司法・矯正・産業・官公庁）で必要とされる援助スキル全般を学習する。</p> <p>目的・ねらい：カウンセリングとは、言語および非言語コミュニケーションを通して、健常者の行動変化を試みる人間関係である。本授業では、インテークから終結までのCl、Th両者の課題、指針を理解するとともに、以下のスキルを身につける。まず、従来のカウンセリング訓練で行われている探求段階のスキル（初対面のクライアントに接し、クライアント自身が自分自身の思考・感情・行動を積極的に探求していこうとすることを促すコミュニケーション・スキル）を身につける。次に、洞察段階のスキル（クライアント自身が何故その問題が生じ維持しているか理解するスキル）を身につけ、行動段階のスキル（クライアント自身が新しい行動や思考を相談室や生活の中で試し生活改善に役立てていく）へと展開することを実験することを目的とする。</p>	隔年
	カウンセリング方法論	<p>授業概要：対話を用いる対人援助の目的や方法、変容過程について、講義、映像視聴、ディスカッション、演習を通して学ぶ。</p> <p>目的・ねらい：カウンセリングを統合的に行うために必要な、基本的な理論や技法について学ぶ。例えば、クライアントの語りや態度のどこに注目して見立てるのか、共感をどう伝えて関係をどう使うのか、内的な経験を探索する手助けはどのようにするのかなどについて、体験的に学ぶことを目的とする。</p>	
	心理療法	<p>授業概要：心理療法は人間の心まつわる諸問題の理解と援助に関する学問である。この授業では、心理臨床及び臨床心理学の歴史的背景、基礎となる理論、領域と対象、援助の実際、研究の現状について事例研究も交えながら、学習していく。</p>	隔年 集中
	認知行動療法	<p>授業概要：認知行動療法の基礎となる学習理論、その応用となる技法の紹介を行う。さらに認知行動療法における治療の実際について概説する。</p> <p>目的・ねらい：認知行動療法について、理論に基づく基礎知識を身につける。その実際と応用について、事例も交えながら、深く把握する。</p>	集中
	心理診断法	<p>授業概要：心理検査の科学性について解説するとともに、質問紙法検査、知能検査、投映法検査などを紹介する。</p> <p>目的・ねらい：心理診断（査定）の基本的な考え方、目的、方法について体験を通して体系的に学ぶ。</p>	隔年 集中
	心身医学	<p>授業概要：心理社会的ストレスが原因となる神経症、うつ病などの精神性疾患や、種々の身体症状を呈する心身症が増加しつつあり、一般社会、職場、学校などにおけるメンタルヘルスが重要視されるようになって来た。この講義では心身医学、医療心理学の視点より、人間の精神と身体の関係についての理解を深め、ストレスに対する心と体の反応、ストレスと各種疾患の関係、さらにその予防と治療、対策について学習する。</p> <p>目的・ねらい：これらの講義を通して心身の健康管理やストレスの対処法を学び、自分自身のみならず、他人の心をも理解する能力を養いたい。また心理専門家として必要な心身医学の知識の習得を目指す。</p>	隔年 集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	心理・教育統計法	<p>授業概要：社会科学における統計学の用い方の基礎を解説する。本講義は、「社会調査法」「データ解析法」履修のための基本要件である。</p> <p>目的・ねらい：質問紙や実験等で得られた数量データを統計的に解析する方法を学び、第一に、修士論文作成に備えること、第二に、課程修了後の実務でも広く役立つ統計的な知識やデータの見方を身に付けることを目的とする。</p>	
	社会調査法	<p>授業概要：社会調査のスキル習得のために実習を行う。グループで小規模な調査を行い、データ解析を体験する。本実習は、カウンセリング学位プログラム所属の学生で「心理・教育統計法」を受講済みであることを受講要件とする。</p> <p>目的・ねらい：社会調査の基本的技能（現象の規定要因の整理、質問項目の作成と調査票の設計、データ入力と単純集計、多変量解析、考察とプレゼンテーション）を、実習を通して、学習する。</p>	
	データ解析法	<p>授業概要：研究に必要なデータ解析の具体的な手法について、統計解析ソフト（SPSS）を用いて実習する。本授業は、原則として「心理・教育統計法」「社会調査法」を受講済みであることを基本要件とする。</p> <p>目的・ねらい：質問紙や実験等で得られた数量データを、実際にパソコンと統計解析ソフト（SPSS）を使って解析する方法を学び、修士論文作成に向けての実践的な力を養うことを目的とする。</p>	
	事例研究法	<p>授業概要：実践の問題からはじまる研究の一連の流れと様々な判断のポイントを研究例を参考に解説する。特にグラウンデッドセオリーを中心として質的研究法に焦点を当てる。さらに、実際のデータ収集から分析、その結果をまとめることまで研究の一連の流れを実習する。</p> <p>目的・ねらい：臨床実践における問題や課題を研究につなげ、臨床的妥当性と科学的研究としての質を確保する質的な研究を計画実施するための方法について学ぶ。</p>	集中
	人間行動基礎論Ⅰ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、生物としての人間の行動の生理学的な背景について論議する。</p> <p>目的・ねらい：生物としての人間の行動の生理学的な背景について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅱ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人の言語使用についての諸問題を考察する。</p> <p>目的・ねらい：人の言語使用の諸問題について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅲ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人間の記憶と認知過程について、特に記憶を中心に論議する。</p> <p>目的・ねらい：人間の記憶と認知過程について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	人間行動基礎論Ⅳ	<p>授業概要：カウンセリングの学習と実践の基礎として、人間の知覚についての諸問題を論議する。</p> <p>目的・ねらい：人間の知覚に関する諸問題について理解し、カウンセリングの学習と実践の基礎を築く。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅰ	<p>授業概要：カウンセリングと心理療法のトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。毎回、本学位プログラムの修了生を講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい：</p> <p>①最新のカウンセリングと心理療法のトピックスについて学ぶ。</p> <p>②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。</p> <p>③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということ具体的に考える。</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達カウンセリング特講Ⅱ	<p>授業概要：家族・福祉カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で家族・福祉カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい： ①最新の家族・福祉カウンセリングのトピックスについて学ぶ。 ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。 ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅲ	<p>授業概要：学校カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で学校カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい： ①最新の学校カウンセリングのトピックスについて学ぶ。 ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。 ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング特講Ⅳ	<p>授業概要：産業カウンセリングのトピックスを取り上げ、その現状と課題について概説を行い、討論する。本学位プログラムの修了生で産業カウンセリング領域で勤務するOBを講師として招き、本学位プログラムで学んだカウンセリングの知識や技術、研究法がどのように実際の現場で生きているかという点で話題提供をしてもらい、その後、討論を行う。</p> <p>授業のねらい： ①最新の産業カウンセリングのトピックスについて学ぶ。 ②カウンセリングの知識や技術が、どのように現場で生かされているかということを考える。 ③修了後、自分が現在学んでいることをどのように生かしていくか、ということをも具体的に考える。</p>	隔年集中
	生涯発達カウンセリング基礎面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室心理相談部主催で行われるケースカンファレンスへの参加ならびに各教員によって行われる実習指導を通じて、相談実習に関する基礎的技術や相談内容のまとめと報告の方法を学ぶ。 ※本実習を履修する場合は、「カウンセリング心理学」を履修済みもしくは履修中であること。 目的・ねらい：相談の実例を通じた学習を通じて、カウンセリング各理論の理解を深めるとともに、相談記録のまとめ方や発表方法に関する基礎的理解を深める。</p>	
	生涯発達カウンセリング応用面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室心理相談部主催で行われるケースカンファレンスへの参加ならびに各教員によって行われる実習指導、同相談室での相談研修活動等を通じて、相談技術の向上とカウンセリング各理論の実践への応用方法を学び、対人援助における基礎的スキルを習得する。 ※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。 目的・ねらい：相談の実例を通じた学習を通じて、諸講義で学んだカウンセリング各理論が実際の相談場面でどのように応用されているのかについての理解を深める。</p>	
	生涯発達カウンセリング特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、生涯発達に関連した相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。 ※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。 目的・ねらい：生涯発達に関連した相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	産業カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、産業・組織領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	非行・犯罪心理学 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、非行・犯罪心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	教育カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、教育に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	家族カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、親子関係及び家族心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	学校カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、学校心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	健康心理カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、健康心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	精神衛生カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、メンタルヘルス領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	
	臨床心理カウンセリング 特別面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室他で行われる、臨床心理学領域に関連する相談実習活動に参加し、それに対して指導助言を受けることを通じて、相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し、単位を取得した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	生涯発達カウンセリング 実践面接実習	<p>授業概要：筑波大学心理・発達教育相談室における相談室事例への継続的な関与とそれに対する指導助言を受けることを通じて、実践的な相談技術の向上を目指す。</p> <p>※本実習の履修は、「生涯発達カウンセリング基礎面接実習」を前年度までに履修し単位を取得し、特別面接実習のいずれか1科目を選択した学生に限る。</p> <p>目的・ねらい：相談の実例に継続的に参加し、今まで学習したカウンセリング各理論を実践活動の中で応用することを通じて、対人援助技術を向上させることを目指す。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
リハビリテーション科学関連科目	リハビリテーション方法論基礎Ⅱ	<p>目的・ねらい：研究テーマの設定、文献研究を中心に先行文献要約、資料・データの収集・解析、論文の書き方・まとめ方、プレゼンテーションの方法等について理解し、抄録を作成して全体発表会で発表することができる。</p> <p>授業概要：研究能力・論文作成能力を高めるために、担当教員の指導のもとに文献研究を行う。主に研究テーマの設定、文献資料の収集・解析、論文の書き方・まとめ方、プレゼンテーションの方法等について指導を受ける。また、研究成果について学会形式に準じて発表を行い、プレゼンテーション方法について実習し、学習課題について理解を深める。研究テーマは修士論文の作成に向けたものであることが望ましい。研究指導は、2～3名の学生について1教員が対応する個別指導の形式で行う。担当教員と指導日を相談して決める。担当教員の研究指導領域等の概要は下記（研究指導）欄の通り。</p> <p>キーワード：生涯発達、研究方法、研究発表</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学, 社会福祉学, 精神神経科学] 認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学, 特別支援教育, 社会心理学, 神経生理学] 学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p>	
	リハビリテーション方法論基礎Ⅲ	<p>目的・ねらい：修士論文研究のテーマの設定、研究計画、資料・データの解析方法等についてグループ指導で検討を深め、研究の意義、研究方法の適切さ、具体的な実施可能性等などについて、充分論考した研究計画を作成することができる。</p> <p>授業概要：第1回目に、2年次の研究テーマや研究計画について学会に準じた形式で発表する（1年次研究計画発表会）。第2回目以降、修士論文の作成を念頭において、研究テーマの設定や方法、研究計画などについてグループ指導を行う。グループごとに数名の教員が担当し、学生を交えて多面的に議論を深め、研究計画等の充実を図る。</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学, 障害福祉学] 障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育] 重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育] 視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション, リハビリテーションカウンセリング, リハ工学] リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学, 高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究] 介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p>	
	リハビリテーション 研究法 I	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、研究デザインを考えると同時に、研究の倫理的な配慮についても学ぶことを目的とする。 授業概要：生涯発達科学の研究法について演習を通して具体的に指導する。 キーワード：修士論文、研究倫理審査</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション 研究法 II	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、調査・実験の実施及びその結果の集計・分析を行い、実践的な研究能力を身につけることを目的とする。 授業概要：生涯発達科学の研究法について演習を通して具体的に指導する。 キーワード：修士論文、集計、分析</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[療育教育・スポーツ領域における療育の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	リハビリテーション概説	<p>目的・ねらい：障害児・者に対するリハビリテーションの理論と実践について、横断的・総合的な視点で各分野の概要を理解し、支援のあり方について理解を深める。</p> <p>授業概要：医学、心理学、教育学、社会学等の幅広い観点から、リハビリテーションの発展過程と現代社会における定位を解説するとともに将来へのあり方を展望し、リハビリテーションの理念と実際について概説する。</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(136 原島恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(31 緒方昭広) 専門領域：[療育科教育]ペインクリニック(痛み)科における疾患・症状、鍼通電による精神性発汗の脊髄統合気候に関する研究、療育教育に関する研究、鍼通電と自律神経機能</p>	
	リハビリテーション研究基礎論	<p>目的・ねらい：リハビリテーション関連分野における修士論文作成のために研究法の概要を理解し、論文作成について理解を深める。</p> <p>授業概要：リハビリテーション分野の研究法の基礎として、研究デザイン、学術論文の要件、臨床研究の倫理、実験計画法、調査法、観察法、面接法、質的研究法、事例研究法、文献研究法、検査法などについて概説する。</p> <p>キーワード：生涯発達、生涯発達科学、研究デザイン</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学, 特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学, 特別支援教育, 科学教育]視覚障害幼児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(403 徳竹忠司) 専門領域：[特別支援教育]はり、きゅう、あん摩マッサージ指圧、末梢循環、視覚障害、特別支援教育</p> <p>(406 濱田淳) 専門領域：[泌尿器科学、泌尿器科学]東洋系物理療法、前立腺疾患の鍼療法</p> <p>(264 左藤敦子) 専門領域：[特別支援教育、聴覚障害、言語発達、読み書きの発達]インクルーシブ教育、聴覚障害時の読み書きに関する研究</p> <p>(136 原島恒夫) 専門領域：[特別支援教育]聴覚心理・生理学、聴覚障害学、聴覚障害教育学</p> <p>(128 野呂文行) 専門領域：[特別支援教育]応用行動分析学、行動療法</p> <p>(405 名川勝) 専門領域：[社会福祉学、特別支援教育]障害者、地域生活支援、権利擁護、成年後見、意思決定支援</p>	
	リハビリテーション特別研究	<p>目的・ねらい：修士論文の指導を通じて、これまで得られた結果をまとめて、先行文献を参照しながら考察を加え、修士論文を完成させることを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションに関する研究を、文献研究、実験実習などを通して具体的に指導する。</p> <p>キーワード：修士論文、論文執筆、最終発表会</p> <p>(36 小澤温) 専門領域：[社会福祉学、障害福祉学]障害者の地域生活支援システムの分析と評価、障害者に対するケアマネジメントの評価研究、知的障害者の権利擁護および意思決定支援</p> <p>(44 川間健之介) 専門領域：[運動障害心理学、特別支援教育]重度・重複障害児の認知発達を促すポジショニング、肢体不自由児の社会参加と教育課程、障害のある幼児児童生徒の認知発達を促す指導法および教科の指導法の開発</p> <p>(263 佐島毅) 専門領域：[視覚障害学、特別支援教育、科学教育]視覚障害児の認知発達、盲児の概念形成と教材教具、重複障害児の視機能評価</p> <p>(353 八重田淳) 専門領域：[職業リハビリテーション、リハビリテーションカウンセリング、リハ工学]リハビリテーションカウンセリング、学校から職場への移行、援助付き雇用、ジョブコーチ、リハビリテーション工学、職業リハビリテーション、リハビリテーションの哲学</p> <p>(188 山田実) 専門領域：[老年学、高齢者のフレイルに関する疫学研究・臨床研究]介護予防（転倒予防、サルコペニア予防、認知機能低下予防など）を目的とした介入研究、検診や社会調査による虚弱の促進因子やメカニズムの検証</p> <p>(448 河野禎之) 専門領域：[臨床心理学、社会福祉学、精神神経科学]認知症、高齢者、ダイバーシティ、神経心理学、臨床心理学、老年心理学</p> <p>(52 熊谷恵子) 専門領域：[教育心理学、特別支援教育、社会心理学、神経生理学]学習障害児の療育指導の研究、学習障害児の神経心理学的アプローチ、算数障害児の研究、発達障害者の光感受性障害の研究、発達障害児者のSST</p> <p>(108 柘植雅義) 専門領域：[特別支援教育]発達障害、自閉症、知的障害、障害児心理学、指導・授業、教育政策</p> <p>(370 和田恒彦) 専門領域：[理療教育・スポーツ領域における理療の研究]腰痛等の運動器疾患</p>	
	医学的リハビリテーション	<p>目的・ねらい：さまざまな障害の医学的背景についての理解を深め、包括的なりハビリテーションを実践する能力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業概要：医学的リハビリテーションをめぐる今日的課題について、医学生物学的側面から制度的な問題まで多面的に検討し、今後のリハビリテーションのあるべき姿を考察する。</p> <p>キーワード：リハビリテーション医学、精神疾患、神経疾患、当事者、チーム医療、連携</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育特講	目的・ねらい：本講義では、特別支援教育の理念及び歴史、社会的・制度的・経営的事項を含めた現状を踏まえ、障害種別ごとの教育の基本的な考えを理解する。 授業概要：特別支援教育の制度、カリキュラムを踏まえて視覚障害、聴覚障害、知的障害、肢体不自由、病弱、及び発達障害の、その教育の理念と歴史及び現状について解説し、関連諸分野との連携について概説する。	共同
	ダイバーシティ概論	目的・ねらい：ダイバーシティに関する知識、研究動向について理解を深める。 授業概要：ダイバーシティ（LGBT、障害等の多様な状況に対応した社会づくり）をめぐる今日的課題について、多面的に検討し、今後のダイバーシティのあるべき姿を考察する。 キーワード：ダイバーシティ、LGBT、障害	
	職業リハビリテーション	目的・ねらい：職業リハビリテーションの知識、研究動向、研究手法を習得する。 授業概要：障害をもつ人々の85%は、「働く機会さえあれば働きたい」というアメリカの調査結果がある。「働く機会」が十分に創造されていないのはなぜか？本講義では、リハビリテーションそのものへの問いかけから始まり、働くことを手段とする職業リハビリテーションの哲学、職業リハビリテーションの科学、海外における職業リハビリテーションの実践等について紹介し、職業リハビリテーション領域における具体的な研究アプローチを学習する機会を提供する。 キーワード：就労移行支援、競争的雇用、就労継続支援、援助付き雇用	
	地域リハビリテーション	目的・ねらい：地域リハビリテーションの国際及び国内の経過を学び、地域リハビリテーションの内容と実践、その重要性を理解することにより、実践に関われるようにする。あわせて、地域福祉および地域ケア、ケアマネジメントとの関係を理解する。 授業概要：地域リハビリテーションのサービスシステムを検討し、現状と課題を学習する。さらに、地域福祉論と地域ケア論における地域リハビリテーションの位置づけを検討する。 キーワード：地域リハビリテーション、地域福祉、地域ケア、ケアマネジメント	
	統計学	目的・ねらい：基礎的な統計処理能力の向上を目的とする 授業概要：記述統計及び推測統計の基礎を学び、研究デザインに応じた統計解析の手法を選択する力を養う。 キーワード：記述統計、推測統計、尺度、データ収集、データ解析	共同
専門科目	特別支援教育授業論	目的・ねらい：特別支援教育における学級経営や指導計画の立案、授業実践の方法について理解する。 授業概要：特別支援教育の理念に基づき、特別支援学校及び小中学校特別支援学級における学校体制、学級経営、指導計画の立案・作成と評価、授業実践の在り方の実際について考究する。 キーワード：学級経営、個別指導計画、授業評価、授業実践、教材研究	共同
	特別支援教育教育課程論	目的・ねらい： ・学校の社会的役割にもとづく教育課程の編成を考える。 ・教育課程編成に関わる法令・規定等を理解する。 ・特別支援教育における教材論・学習指導の原理等の特徴を知る。 ・各障害別の教育課程の編成や授業実践の特徴を知り、重複障害教育における教育課程を考える。 授業概要：障害児教育における教育課程編成の原理と実際について概説する。とくに、障害の重度化、重複化あるいは多様化の中で、法令や学習指導要領に規定される特例を用いた弾力的な教育課程の編成について整理し、特別支援教育における教育課程の編成及び教育課程開発の在り方について考究する。 キーワード：教育課程編成、学習指導要領、指導原理	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	特別支援教育 コーディネーター論	<p>目的・ねらい：通常の学校等に在籍する障害のある児童生徒に対する支援における特別支援教育コーディネーターの役割と専門性、およびその実際を理解する。</p> <p>授業概要：特別支援学校および小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割と専門性、学校間の協力体制の構築、校内支援体制の構築、コーディネーターの育成について取りあげ講義するとともに、特別支援教育コーディネーターの実際について学ぶ。</p> <p>キーワード：校内体制、特別支援教育コーディネーター、校内委員会、個別の指導計画、個別の教育支援計画</p>	
	障害者福祉論	<p>目的・ねらい：障害者福祉の理念、思想、歴史の流れを理解する。そして、障害者の生活実態を踏まえて、障害者自立支援法等の諸制度を理解する。</p> <p>授業概要：障害および障害者の社会福祉学における概念を理解し、障害者福祉の理念、思想、歴史を理解する。さらに、障害者の生活実態とその生活を取り巻く環境を理解する。障害者総合支援法と関連する諸制度に関する理解を深め、障害者支援に関して学習する。</p> <p>キーワード：障害者福祉、障害者施策、身体障害、知的障害、精神障害、発達障害</p>	
	職業指導論	<p>目的・ねらい：障害児の職業指導に関する必要な知識を取得し、学校卒業後の職業生活に関する種々の制度等について理解する。</p> <p>授業概要：障害児・者の雇用と就労に関する国内外の動向と法制度の概要、就労支援サービス利用者のニーズ、就労支援・職業リハビリテーション関連機関と関連専門職の役割と機能、就労支援のプロセスと就労支援技術、医療・教育分野との連携について述べる。</p> <p>キーワード：職業指導、キャリア開発、キャリア教育</p>	
	リハビリテーション 事例研究	<p>目的・ねらい：事例報告やディスカッションを通じ、それぞれの専門領域における実践技術の向上、他領域の実践を知るによりリハビリテーションへの理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションの観点から事例を検討し、リハビリテーションにおける連携の諸問題について理解を深め、相談援助のための知識・技術を修得する。</p> <p>キーワード：事例研究、ケーススタディ、連携事例</p>	共同
	特別支援教育 事例研究	<p>目的・ねらい：障害児・者等の事例報告やディスカッションを通じ、それぞれの専門領域における実践技術の向上、他領域の実践への包括的理解を深めることを目的とする。</p> <p>授業概要：障害児・者等の事例を検討し、事例を中心とした各領域・職種間における連携の諸問題について理解を深めるとともに、相談援助のための知識・技術を修得する。</p> <p>履修条件：専修免許取得予定者に限る</p> <p>キーワード：事例研究、ケーススタディ、連携、移行支援</p>	共同
	視覚障害学特論	<p>目的・ねらい：本講義では、視覚障害の正しい理解と、それに基づく指導・支援の方向について考える視点を明確に持つことをねらいとする。</p> <p>授業概要：視覚障害児・者の感覚・知覚・認知の特性を概観し、医学的・心理学的視点を含めて包括的に発達、学習、教育支援の視点を学ぶ。</p> <p>キーワード：視覚障害 弱視 盲</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	聴覚障害学特論	<p>目的・ねらい：聴覚障害の機序と評価・診断・指導法について学ぶ。さらに、聴覚障害によって生じる幼児期の言語コミュニケーションの課題を理解し、言語発達評価と指導の実際について理解を深める。コミュニケーション障害が、聴覚障害児の生活や生涯発達に及ぼす影響について、受講者の議論を通じた思索を支援する。</p> <p>授業概要：本講では、小児期の聴覚障害児における聴覚認知、言語・社会的相互交渉の特性と障害について、聴覚医学 (Audiology) の観点で、障害の実態とメカニズム、さらに指導法について講義を行う。</p> <p>聴覚障害のリハビリテーションについて、基礎的な用語の解説から、最近の医学的知見に基づいた、聴覚の補償（補聴器・人工内耳）や、コミュニケーション障害の指導、および家族支援の実際まで幅広く講義する。小児のコミュニケーション障害において誤り易い聴覚障害児と知的障害児との共通性と相違点など鑑別に必要な視点について、事例や最近の研究知見をとおして理解を深める。</p> <p>さらに、近年、特別支援教育学や言語聴覚障害学で注目される、新生児聴覚検査による超早期診断、軽中等度難聴児の聞こえとコミュニケーション、心理・社会的適応の課題、手話によるコミュニケーション法の選択などのトピックスに触れ、支援の科学的根拠について議論する。</p> <p>キーワード：聴覚障害、リハビリテーション、言語コミュニケーション障害、生涯発達</p>	
	言語障害学特論	<p>目的・ねらい：言語・コミュニケーション障害にはどのような種類・原因・特徴があり、生活にどのような影響を及ぼしうるか、さらに言語障害に対する指導・支援の実際と研究動向を理解し、専門家および関連職種との役割と責任、研究の方向性について考察する能力を養う。</p> <p>授業概要：まず言語・コミュニケーション障害の種類、言語・コミュニケーション障害に対する評価・診断、治療および支援の枠組みについて概説し、次に小児期から老年期までにわたる各障害の基本概念、原因と発生メカニズム、症状、評価・診断、指導・訓練・相談・マネジメントの方法と実際について概説する。</p> <p>キーワード：言語障害、コミュニケーション障害、リハビリテーション</p>	
	運動障害学特論	<p>目的・ねらい：運動障害のある人のリハビリテーションのアプローチについて説明できる。</p> <p>授業概要：運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、医学的・教育的・心理学的側面から学習する。</p> <p>キーワード：運動障害、リハビリテーション</p>	
	知的障害学特論	<p>目的・ねらい：知的障害に関して、教育および福祉の理念、心理的アセスメント、指導法の理論的背景と概要が理解でき、具体的な支援方法を考えることができることを目標とする。</p> <p>授業概要：知的障害の心理や認知特性、教育課程や指導法、そして福祉制度ならびに評価や支援の実際について概説する。</p> <p>キーワード：知的障害、認知特性、教育課程、福祉制度、支援方法</p>	共同
	精神障害学特論	<p>目的・ねらい：統合失調症と躁うつ病に関する実践的な知識や対応能力を身につける。</p> <p>授業概要：現代における二大精神障害とされる統合失調症とうつ病に関する臨床的・実践的な講義を行う。</p> <p>キーワード：統合失調症、うつ病</p>	
	高次脳機能障害特論	<p>目的・ねらい：高次脳機能障害とそのリハビリテーションについて理解する。</p> <p>授業概要：高次脳機能障害について、まず総論として概念・方法論について、次に各論として個々の高次脳機能障害についてできるだけ具体的な事例を提示しながら概説し、研究動向とリハビリテーションについても触れる。</p> <p>キーワード：高次脳機能障害、神経心理学、リハビリテーション</p>	
	健康障害学特論	<p>目的・ねらい：各種疾患や社会の諸問題についての理解を深め、リハビリテーションの実践能力を高める。</p> <p>授業概要：健康障害を有する者および高齢者および健康障害を有する者をめぐる諸問題を多面的に検討し、包括的なリハビリテーションのあり方を考察する。</p> <p>キーワード：脳血管障害、神経疾患、老化、高齢者</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高齢障害学特論	<p>目的・ねらい：高齢者をめぐる諸問題についての理解を深め、リハビリテーションの実践能力を高める。</p> <p>授業概要：高齢者をめぐる諸問題を多面的に検討し、包括的なリハビリテーションのあり方を考察する。</p> <p>キーワード：老化、高齢者、虚弱</p>	
	発達障害学特論	<p>目的・ねらい：発達障害を理解し、通常の学校にいる子ども達がどのように支援されるべきかについて学ぶ。</p> <p>授業概要：発達障害を理解する上で必要となる心理学的な知識（認知的な特徴、発達、行動等）、学習上での特徴を取り上げ、さらに、支援のための通常学校でのシステム、教育相談など、指導につなげるためのリソースについても講義する。</p> <p>キーワード：発達障害、学習障害（症）LD、注意欠如多動障害（症）ADHD、自閉スペクトラム障害（症）</p>	
	視覚障害学演習	<p>目的・ねらい：視覚障害教育、医療、福祉、リハビリテーションにおける今日的課題と、その実際における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：視覚障害教育、医療、福祉、リハビリテーションに関する内外の文献及び実際例をもとに、医学的・教育的・心理学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：視覚障害 弱視 盲</p>	
	運動障害学演習	<p>目的・ねらい：リハビリテーションの実践現場における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：運動障害児(者)のリハビリテーションに関するアセスメントとインターベンションに焦点を当てて、内外の文献及び実際例をもとに、教育的・心理学的側面から学習する。小児期から高齢期にいたる運動障害はじめとする障害のリハビリテーションの今日的課題について事例及び文献を通して医学生物学的側面を踏まえて理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：運動障害、小児、高齢者、肢体不自由者</p>	
	高齢障害学演習	<p>目的・ねらい：高齢期におけるさまざまな障害の医学的背景についての理解を深め、あわせてリハビリテーションに関係する医療・福祉制度や倫理的課題についても学ぶことにより、包括的なリハビリテーションを実践する能力を身につけることを目的とする。リハビリテーションに関わるさまざまな職種間の理解を深める場としたい。</p> <p>授業概要：高齢期におけるさまざまな障害のリハビリテーションをめぐる今日的課題について、事例及び文献を通して理論的・実践的に考察する。</p> <p>キーワード：高齢障害、虚弱、リハビリテーション</p>	
	発達障害学演習	<p>目的・ねらい：発達障害教育、医療、福祉、リハビリテーションにおける今日的課題の観点から、子どもの観察や支援における問題発見能力や問題解決能力、さらにそれを研究として深め発表する能力などを身につける。</p> <p>授業概要：発達障害児者の学校場面における様子を観察する時のポイントについて学んだ上で、主に教育相談室に来室した発達障害の子どもとの面接（初回面接ならびに学習支援やSSTなど）に立ち会うなどし、子ども達のニーズを把握するために重要な観察ポイントを学ぶ。それを踏まえて、論文に書かれている子ども達の実態をイメージできるようにする。</p> <p>キーワード：学習障害（症）LD、注意欠如多動性障害（症）ADHD、高機能自閉スペクトラム症ASD、発達障害</p>	
	社会リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：社会リハビリテーションの理論と内容、方法、具体的な実践活動を理解し、実践における応用力を学ぶ。</p> <p>授業概要：社会リハビリテーションの理論に基づいて、社会生活力を高める各種プログラムや、機会均等化、環境改善を進めるための具体的な実践方法や課題を学ぶ。</p> <p>キーワード：社会リハビリテーション、社会生活力、ソーシャルスキル、エンパワメント、社会環境改善</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	職業リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：生涯発達科学の視点による職業リハビリテーション関連研究のリーサークエスチョンを探り、その答えを探すための研究デザインを演習から学ぶことを目的とする。</p> <p>授業概要：キャリアデザイン、キャリア移行支援、キャリア開発などをキーワードに、生涯発達科学における職業リハビリテーション研究方法論を演習形式により修得する。研究法に慣れ親しみ、学術論文を読める力を養い、研究計画を策定・実施するために必要な基本能力を養うために、実際に調査票を作成し、仮データに基づいた分析等を行う。</p> <p>キーワード：リーサークエスチョン、研究デザイン</p>	
	リハビリテーションカウンセリング	<p>目的・ねらい：リハビリテーションカウンセリングの研究によって得られた知見がサービスの実践でどのように活かされているか、リハビリテーションサービスの連携役として果たすべき役割と機能とは何かについて学習する。</p> <p>授業概要：リハビリテーションカウンセリングは、障害をもつ人々の総合的な自立生活と自己実現を総合的に支援するカウンセリング心理学の応用科学領域であり、もともとは職業リハビリテーションを総合的にマネジメントするための手法としてアメリカを中心に展開されている。したがって本講義では、アメリカの大学院リハビリテーションカウンセラー教育法を取り入れ、Scientist-Practitionerに必要なスキル習得を目指す。</p> <p>キーワード：リハビリテーション心理学、リハビリテーションサービス管理学</p>	
	リハビリテーション課題研究	<p>目的・ねらい：得られた研究成果について全国規模の学会や研究会で発表し、研究論文を学術誌に投稿することで、それぞれの専門領域における研究課題について研究力向上を図る。</p> <p>授業概要：当年度春学期開始後（2年次の院生は12月1日以降）になされた各自の関連学会等におけるの発表をもとに、その際の議論に基づいて、研究を深める。また、この発表をもとに学会誌等へ論文を投稿する。</p> <p>キーワード：学会発表、論文の投稿</p>	
	リハビリテーション英語	<p>目的・ねらい：リハビリテーションの領域で使われる英語に慣れ親しむことを目的とする。</p> <p>授業概要：リハビリテーションの英語論文を効果的に読む方法、妥当な検索キーワードの選び方、英語の図表の書き方と読み方、正しい英語文献の書き方、国際共同研究の進め方、国際学会プレゼンテーションなどについて実践的に学ぶ。</p> <p>キーワード：Rehabilitation、evidence-based practice、APA、reading statistics、oral presentation</p>	
	国際リハビリテーション演習	<p>目的・ねらい：国際学会発表や国際ジャーナルへの投稿論文執筆に関するスキルを向上することを目的とする。</p> <p>授業概要：英語による学会発表用ポスターの作成、プレゼンテーション技法、アカデミックライティング力を向上するために、グループワークによる演習を行う。</p> <p>キーワード：国際ネットワーク、国際比較研究、国際障害リハビリテーション関連学会</p>	
	質的研究法	<p>目的・ねらい：基礎的な質的研究の手法を学び、研究設問に応じたテキストデータの分析能力を向上することを目的とする。</p> <p>授業概要：グラウンデッドセオリー、修正版グラウンデッドセオリアプローチ、KJ法、内容分析、ケース媒介法、テキストマイニング等、研究デザインに応じた質的分析の手法を選択する力を養う。</p> <p>キーワード：GT、M-GTA、KJ、CM、TEM</p>	
	多変量解析法	<p>目的・ねらい：基礎的な多変量解析の手法を学び、量的研究における多様な統計処理能力の向上を目的とする</p> <p>授業概要：主成分分析、因子分析、重回帰分析、共分散構造分析等、研究デザインに応じた多変量解析の手法を選択する力を養う。原則として「統計学」の受講を前提とする。</p> <p>キーワード：探索的因子分析、確認的因子分析、多変量分散分析、クラスター分析、重回帰分析、共分散構造分析、AMOS</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
フロンティア 医科学 関連科目	人体構造学概論	<p>目標：人体を構成する各器官の構造について、構成する細胞と組織を含めて理解する。人体を構成する器官（運動器、神経系、感覚器、内分泌系、循環系、呼吸器系、消化器系、泌尿生殖器系）の特徴について機能と関連づけて論じることができる。</p> <p>（オムニバス方式／全12回）</p> <p>（490 濱田理人／4回）運動器（骨格系、筋系）、循環系、呼吸器系の構造について概説する。 （395 首藤文洋／4回）感覚器、内分泌系、消化器系の構造について概説する。 （79 志賀隆／4回）神経系、泌尿器系、生殖器系の構造について概説する。</p>	オムニバス方式
	人体構造学実習	<p>目標：人体を構成する運動器、神経系、内臓の構造について理解する。人体を構成する各種器官について、全身における相互の位置関係を含めて論じることができる。</p> <p>（79 志賀隆／3回）骨学標本を用い骨の構造を修得する。 （79 志賀隆／2回）人体模型の観察を通して人体の構造を修得する。 （328 増田知之／5回）ご遺体を用いて内臓、脳の観察をする。</p>	
	臨床医学概論	<p>臨床医学の実践は病める人を対象とする。その人の持つ医学的問題点を明らかにし、対応策を講じる。考え得る治療法の中から、その人の価値観と決定に従って最善のものを実行する。</p> <p>目標：医学及び医療の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な診療において頻繁に関わる負傷又は疾病に適切に対応できるよう基本的な診療能力を身に付ける。同時に患者さんの思いを理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（86 正田純一／2回）医学と医療、臨床研究および神経・筋疾患について臨床的に概説する。 （123 二宮治彦／1回）輸血及び血液疾患（造血幹細胞、貧血の成因）について概説する。 （106 千葉滋／1回）輸血および血液疾患（血液疾患の診断と治療）について概説する。 （86 正田純一／2回）消化器疾患について概説する。 （43 川上康／2回）内分泌代謝疾患（間脳、下垂体疾患の診断と治療および糖・脂質代謝異常）について概説する。 （376 磯部和正／1回）検査概論（正常値と基準値）について概説する。 （98 竹越一博／1回）検査概論（血液生化学検査、腫瘍マーカー）について概説する。 （86 正田純一）／2回）画像診断学（定量的画像解析および3次元画像解析）について概説する。 （66 榮武二／2回）粒子線の物理学的・生物学的特徴および粒子線治療について概説する。 （281 高橋伸二／1回）麻酔薬の歴史および吸入麻酔薬と静脈麻酔薬、筋弛緩薬について概説する。 （86 正田純一／2回）自己免疫病（病因と制御）について概説する。 （382 大原佑介／1回）外科総論（疼痛制御と感染症予防、輸血の歴史）について概説する。 （5 新井哲明／1回）内因性精神障害、心因性精神障害および精神障害の生物学的背景について概説する。 （122 西山博之／1回）男性生殖器とホルモンについて概説する。</p>	オムニバス方式
医科学特講	<p>目標：最先端医学研究について理解を深め、ヒトの各種疾患や病態を理解する。また、その研究で用いられている最新の研究手法を自身の研究に活かすことを目的とする。最先端の研究成果を理解し説明できる。</p> <p>医学研究の最先端や基礎医学、臨床医学、社会医学の境界を越えた学際的なテーマについてのトピックスを取り上げ、希望によりコースを選択して学習する。各教員が研究者としてどのようなテーマに取り組んでいるかを学びながら、問題点を的確にとらえ、解決するための方法論、その評価法、現代医学の限界や今後の展望について学習する。</p>		

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医情報処理学特論	<p>目標：いわゆる「電子カルテ」システムの概要について理解する。医療情報とその処理技術が、いかに我が国の現代医療を支え、病院機能並びに、医療安全を支えているかを理解する。現在の我が国の医療の今日的課題に医療情報とその処理技術がいかに役立つかを論じることができる。</p> <p>イントロダクション・総論で解説を行った後、医療と個人情報保護、病院情報システム概説について解説する。また、附属病院医療情報経営戦略部を見学後、「電子カルテ」システムについて、地域連携システムおよび医療情報システム標準化の課題について解説する。さらに、医療安全へのITの活用事例について解説した後、最後に総合討論を行う。</p>	
	医学英語I	<p>The goal of this course is for students to develop the English proficiency they need to effectively and energetically communicate their professional achievements within the international scientific community. To this end, students will be divided into three classes and will take four modules. In the first module, they will study the basics of scientific communication. Thereafter, they will rotate through three modules on scientific writing, scientific presentation, and multimedia communication. Classes will be conducted entirely in English, so students will also hone their listening skills.</p> <p>Upon completion of the course, students will have a foundation for sharing knowledge and ideas with other scientists in English.</p> <p>英語を用いた国際的な科学コミュニケーションスキルを習得し、他の科学者と知識や考えを共有できる英語能力を身に着ける。講義はすべて英語で行うためリスニング能力の向上も図る。</p> <p>本コースは4つのモジュールから成る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 科学コミュニケーションの基礎 (2) 記述 (3) プレゼンテーション (4) マルチメディアコミュニケーション 	
	医学英語II	<p>The goal of this course is for students to develop the English proficiency they need to effectively and energetically communicate their professional achievements within the international scientific community. To this end, students will be divided into three classes and will take four modules. In the first module, they will study the basics of scientific communication. Thereafter, they will rotate through three modules on scientific writing, scientific presentation, and multimedia communication. Classes will be conducted entirely in English, so students will also hone their listening skills.</p> <p>Upon completion of the course, students will have a foundation for sharing knowledge and ideas with other scientists in English.</p> <p>英語を用いて他の科学者へ自身の意見を伝え、双方向性のコミュニケーション（ディスカッション）できる英語能力を身に着ける。医学英語IIでは特に医学分野に特化した表現技法の習得を目的とする。講義はすべて英語で行うため、リスニング能力の向上も図る。</p> <p>本コースは4つのモジュールから成る。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 医学分野における科学コミュニケーションの基礎 (2) 記述 (scientific writing) (3) プレゼンテーション (scientific presentation) (4) マルチメディアコミュニケーション 	
	研究マネジメント基礎	<p>目標：研究開発を中心とした各種プロジェクトの推進に必要な様々な基礎専門知識とスキルの基礎を習得する。自分自身の修士論文研究の研究計画の立案、マイルストーンの設定ができる。また、研究推進のためのマネジメントができる。各回の授業計画は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) - (2) プロジェクト・マネジメント概論および医学部門で進行中の研究の進め方の実際について解説する。 (3) プロジェクトをスムーズに推進するための知識とスキル（意思決定法、マイルストーン管理、リスク・マネジメント、知的財産マネジメントなど）について学ぶ。 	講義 6時間 演習 9時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(4) プロジェクトをスムーズに推進するための知識とスキル（チームプレイ、コミュニケーション力、交渉力、プレゼンテーション力、文章力、企画力など）について学ぶ。</p> <p>(5) - (7) 研究企画演習（グループワーク）</p> <p>(8) - (10) プロジェクト・マネジメント演習（グループワーク）</p>	
	医科学特別演習	<p>修士論文を作成するための研究の実践および指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(2 青沼和隆・56 小池朗・158 本間覚・173 宮内卓) 循環器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(5 新井哲明) 精神医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(13 磯辺智範) 放射線健康リスク科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(18 井上貴昭) 救急・集中治療医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(19 入江賢児) 分子細胞生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(25 大根田修) 再生医学・幹細胞生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(23 大鹿哲郎) 眼科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(41 加藤光保) 実験病理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(43 川上康) 臨床検査学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(66 柴武二) 医学物理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(68 櫻井武) 分子行動生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(69 櫻井英幸) 放射線腫瘍学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(75 佐藤幸夫) 呼吸器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(82 島野仁) 代謝・内分泌内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(86 正田純一) 分子スポーツ医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(90 杉山文博) モデル動物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(95 高橋智) 解剖学・発生学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(98 竹越一博) スポーツ医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(104 田中誠) 麻酔・蘇生学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(106 千葉滋・123 二宮治彦) 血液内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(110 土屋尚之) 分子遺伝疫学・社会健康医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(122 西山博之) 腎泌尿器外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(125 野口恵美子) 遺伝医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(126 野口雅之) 診断病理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(129 橋本幸一) 臨床研究地域イノベーション学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(135 濱田洋実) 産婦人科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(140 久武幸司・303 西村健) 遺伝子制御学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(141 檜澤伸之・9 石井幸雄・73 佐藤浩昭) 呼吸器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(144 兵頭一之介) 消化器内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(147 平松祐司) 心臓血管外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(159 本間真人) 臨床薬理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(149 武川寛樹) 顎口腔外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(162 前野哲博) 地域医療教育学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(163 榎正幸) 分子神経生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(164 増本幸二) 小児外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(168 松崎一葉) 産業精神医学・宇宙医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(176 森川一也) 細菌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(182 柳沢裕美) 血管マトリックス生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(184 山縣邦弘) 腎臓内科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(187 山崎正志) 整形外科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(224 大林典彦) 生理化学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(304 丹羽隆介) 発生遺伝学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(323 Ho Kiong) 分子寄生虫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(174 村谷匡史・525 山田朋子) ゲノム生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(390 小林麻己人) 分子発生生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(240 川口敦史) 分子ウイルス学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(456 小金澤禎史) 神経生理学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(79 志賀隆) 解剖学・神経生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(80 設楽宗孝) システム神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動神経内分泌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(169 松本正幸) 認知行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(563 長崎幸夫) バイオマテリアル領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(566 深水昭吉) 分子生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(246 杓村憲樹) 創薬化学・有機化学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(195 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(366 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(259 坂口昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(313 林悠) 脳機能発達学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(223 大庭良介) 細菌学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	
	インターンシップI	<p>企業における就業体験を通して、コミュニケーションスキルの重要性を認識し就業意識を高める。働く場での自身を振り返ることで自己理解を深め、自分自身に不足している能力を補うために必要な知識・技術を整理しキャリアパスを形成する。</p> <p>(1) インターンシップ説明会、(2) インターンシップ学習の実施、(3) レポート提出ならびに報告会</p>	
	インターンシップII	<p>研究所における技術開発などの就業体験を通して、研究開発に必要な専門能力の向上と職業意識の啓発の場とする。専門技術が実務の中でどのように活用されているのかを把握し、自身に必要な知識や技術を整理しキャリアパスを形成する。</p> <p>(1) インターンシップ説明会、(2) インターンシップ学習の実施、(3) レポート提出ならびに報告会</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	基礎医科学演習	<p>修士論文研究の遂行上必要となる先端的な研究論文を紹介すると共に、討論することによって自身の研究戦略を明確にすることを目的とする。学生は所属する各研究グループの研究について、以下のことを修得する。</p> <p>(1) 修士論文研究に関連する文献を収集し、その内容について正しく理解し、分析することを学ぶ。</p> <p>(2) 文献の内容についてまとめ、発表・討論することを修得する。</p> <p>(3) 自身の研究に必要なプロトコールを作成し、研究を組み立てることを学ぶ。</p> <p>所属する研究グループとその専門分野は以下のとおりである。</p> <p>(2 青沼和隆・56 小池朗・158 本間覚・173 宮内卓・197 渡邊重行・375 石津智子・394 下條信威・348 村越伸行・49 久賀 圭祐) 循環器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(5 新井哲明・70 佐藤晋爾・305 根本清貴・396 白鳥裕貴・102 太刀川弘和) 精神医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(13 磯辺智範・518 森祐太郎) 放射線健康リスク科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(18 井上貴昭・394 下條信威・415 丸島愛樹) 救急・集中治療医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(19 入江賢児・470 須田恭之・507 水野智亮) 分子細胞生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(25 大根田修・520 山下午晴) 再生医学・幹細胞生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(23 大鹿哲郎) 眼科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(41 加藤光保・274 鈴木裕之・533 渡邊幸秀) 実験病理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(43 川上康・356 山内一由・376 磯部和正) 臨床検査学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(53 熊谷嘉人・629 新開泰弘) 環境医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(66 榮武二・248 熊田博明) 医学物理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(68 櫻井武) 分子行動生理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(69 櫻井英幸・10 石川仁・229 奥村敏之・380 大西かよ子) 放射線腫瘍学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(75 佐藤幸夫・389 後藤行延) 呼吸器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(269 澁谷和子・399 田原聡子・438 小田ちぐさ・485 鍋倉宰) 免疫制御医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(82 島野仁・273 鈴木浩明・167 松坂賢・355 矢作直也・180 矢藤繁・597 中川嘉) 代謝・内分泌内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(86 正田純一) 分子スポーツ医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(90 杉山文博・336 水野聖哉) モデル動物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(311 林太智・332 松本功・391 近藤裕也・400 坪井洋人) 膠原病内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(95 高橋智・247 工藤崇・490 濱田理人) 解剖学・発生学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(98 竹越一博) スポーツ医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(104 田中誠・212 猪股伸一・281 高橋伸二) 麻酔・蘇生学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(209 石井一弘・374 石井亜紀子) 神経内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(106 千葉滋・123 二宮治彦・309 長谷川雄一・260 坂田麻実子・384 加藤貴康・388 栗田尚樹・420 横山泰久) 血液内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(110 土屋尚之・322 古川宏・447 川崎綾) 分子遺伝疫学・社会健康医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(122 西山博之・81 島居徹・387 河合弘二・251 小島崇宏) 腎泌尿器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(125 野口恵美子・512 宮寺浩子) 遺伝医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(126 野口雅之・283 高屋敷典生・385 加野准子) 診断病理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(129 橋本幸一) 臨床研究地域イノベーション学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(135 濱田洋実・339 水口剛雄) 産婦人科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(140 久武幸司・318 福田綾・303 西村健) 遺伝子制御学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(141 檜澤伸之・9 石井幸雄・73 佐藤浩昭・350 森島祐子) 呼吸器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(144 兵頭一之介・204 安部井誠人・409 福田邦明・412 松井裕史) 消化器内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(147 平松祐司・261 坂本裕昭) 心臓血管外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(159 本間真人・310 篠野健太郎・401 土岐浩介) 臨床薬理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(149 武川寛樹・181 柳川徹) 顎口腔外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(162 前野哲博・407 瀧野淳) 地域医療教育学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(163 榊正幸・393 塩見健輔・410 榊和子・434 岡田拓也) 分子神経生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(164 増本幸二・284 高安肇・397 新開統子) 小児外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(168 松崎一葉・262 笹原信一郎・429 大井雄一) 産業精神医学・宇宙医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(330 増本智彦・349 森健作) 放射線診断学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(176 森川一也・340 宮腰昌利) 細菌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(182 柳沢裕美) 血管マトリックス生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(184 山縣邦弘・213 臼井丈一・254 齋藤知栄・383 甲斐平康) 腎臓内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(187 山崎正志・119 西浦康正・335 三島初・386 鎌田浩史) 整形外科領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(224 大林典彦・498 船越祐司) 生理化学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(304 丹羽隆介) 発生遺伝学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(323 Ho Kiong) 分子寄生虫学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(174 村谷匡史・525 山田朋子) ゲノム生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(390 小林麻己人) 分子発生生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(240 川口敦史・443 加藤広介) 分子ウイルス学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(456 小金澤禎史) 神経生理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(79 志賀隆・328 増田知之) 解剖学・神経生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(80 設楽宗孝・509 水挽貴至) システム神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動神経内分泌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(169 松本正幸) 認知行動神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(563 長崎幸夫) バイオマテリアル領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(566 深水昭吉) 分子生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 分子薬理学・機能神経解剖学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(246 杓村憲樹) 創薬化学・有機化学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(195 LIU QINGHUA) 生化学・ケミカルバイオロジー・行動神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(292 鶴嶋英夫) 脳神経外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(366 LAZARUS MICHAEL) システムズ睡眠生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(259 坂口昌徳) 睡眠と記憶の脳科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(313 林悠) 脳機能発達学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(223 大庭良介) 細菌学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(15 市川政雄・500 堀愛) 国際社会医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(61 近藤正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(105 田宮菜奈子・425 伊藤智子) ヘルスサービスリサーチ領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(157 本田克也・467 菅野幸子) 法医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子・493 福重瑞穂・58 五所正彦・333 丸尾和司) 臨床試験・臨床疫学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(63 斎藤環・351 森田展彰・431 大谷保和) 社会精神保健学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(111 徳田克己・337 水野智美) 臨床心理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(306 橋爪祐美・435 岡本紀子) 高齢者ケアリング学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(354 柳久子) 福祉医療学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) 国際発達ケア・エンパワメント科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(27 大原信) 医療情報学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(54 倉田昌直) 先端消化器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(382 大原佑介・398 高橋一広) 消化器外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(143 人見重美) 感染症内科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(156 堀米仁志) 小児科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(217 内田和彦) 分子腫瘍学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(285 竹内薫) 環境微生物学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(342 宮園弥生・408 福島紘子) 小児科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(344 MIYAMASU Flaminia・506 Mathis Bryan James・516 Mayers Thomas David) 医学英語教育学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(371 和田哲郎) 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(416 三好浩稔・379 大川敬子) 医工学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(417 三輪佳宏) 分子薬理学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(421 蕨栄治) 環境医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(96 武井陽介・395 首藤文洋) 解剖学・神経科学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(185 山岸良匡) 社会健康医学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(482 Togoobaatar Ganchimeg) 国際看護学領域の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(557 田中俊之) 構造生物化学の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(85 庄司一子) 強制教育学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(100 武田文) 健康社会学・ストレスケアマネジメント分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(89 杉江征・200 青木佐奈枝) 臨床心理学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p> <p>(133 濱口佳和) 発達臨床心理学分野の関連論文の抄読と、研究成果の報告や討議を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	留学生セミナー	<p>This course provides international students with an opportunity to get prepared for disasters they might face in Japan.</p> <p>By the end of this course, students will be able:</p> <ul style="list-style-type: none"> - To understand the concept and principles of disaster prevention and preparedness. - To obtain practical skills for disaster prevention and preparedness. <p>留学生が日本での災害に備えることを目的とする。東京消防署での1日スキルトレーニングを含む2日間のフルセミナーに参加し、このコースを通して、防災の考え方と知識を学び、実践できる能力を身に付ける。</p>	
	医科学セミナーV (キャリアパス)	<p>アカデミアや企業の医科学研究者育成だけでなく、サイエンスコミュニケーター、産官学マネージャー、医系事務官等、様々な分野の医療人育成を目指す。各方面で活躍している外部講師陣による講義・面談、及び、グループディスカッション・ライティングなどの実習を実施する。</p> <p>目標:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の修士論文研究の目的や社会的意義を領域外の人に説明できる。 2. 自身の将来計画を説明ができ、その実現のための具体的方策を提言できる。 3. 自身のキャリアについて、社会人と意見交換することができる。 	
	医科学セミナーVI (疫学・生物統計学)	<p>疫学や生物統計学に関する講義の補完として、疫学や生物統計学分野で活躍する第一線の研究者が行う最新のトピックスに関する講義に参加し、現場の最前線を知るとともに、疫学や生物統計学の最新の研究成果について、自分自身の研究分野との関連で議論する。また、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。</p> <p>トピック: 疫学、生物統計学</p>	
	人体生理学特論	<p>人体機能のメカニズムに関する様々なトピックを解説する。</p> <p>目標: 人体機能のメカニズムについてさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(80 設楽宗孝/2回) インTRODクシヨンで講義の概要説明の後、視覚認識の脳内メカニズムを解説する。 (456 小金澤禎史/2回) 循環の調節および呼吸の調節を解説する。 (169 松本正幸/2回) 前頭前野と認知機能および中脳ドーパミンニューロンの役割を解説する。 (524 山田洋/2回) 意思決定の神経経済学を解説する。 (509 水挽貴至/2回) 情動とモチベーションの神経機構を解説する。</p>	オムニバス方式
	生化学特論	<p>DNAの複製、転写、翻訳および代謝、細胞周期、細胞シグナル伝達などの分子基盤について解説する。</p> <p>目標: 人体機能の分子メカニズムについて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(318 福田綾/3回) DNA、染色体、ゲノム、転写と遺伝子発現調節、代謝について解説する。 (19 入江賢児/1回) DNAの複製、修復、組換えについて解説する。 (140 久武幸司/1回) 翻訳の機構と調節について解説する。 (393 塩見健輔/2回) 代謝について解説する。 (507 水野智亮/1回) 細胞周期について解説する。 (410 榊和子/1回) 細胞内シグナル伝達について解説する。 (217 内田和彦/1回) 細胞増殖とガンについて解説する。</p>	オムニバス方式
	国際実践医科学研究特論I	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学の研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 自身の活動や研究について英語で説明ができる。 2. 活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	国際実践医科学研究特論II	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <p>さらに、海外の担当者あるいは研究者との短期間の協働研究、調査活動、技術トレーニング等の活動の中で修得した知識や技術を自らの研究課題や将来のキャリアに活かす。活動の中で学んだ国際的な活動あるいは研究の動向を、自身のキャリア計画にどのように生かすかを考えることができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の活動や研究について英語で説明ができる。 活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。 新しいキャリアを開拓できる。 	
	国際実践医科学研究特論III	<p>国際学術集会や短期のワークショップなどに参加し、自身の活動内容・研究成果を英語にて発表出来る能力を身につけ、かつ海外の担当者あるいは研究者と活動や研究に関して意見交換し、医科学研究や実践に役立つ知識や視野を習得する。</p> <p>複数箇所あるいは長期の主体的な国際活動を行い、その中で見出した医科学分野のニーズや動向および自身の特性に基づき世界の発展や持続に貢献するキャリア計画を構築することのできる視野を身につける。または新たな取り組みを提案し実行に移すことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 自身の活動や研究について英語で説明ができる。 活動あるいは研究に関して海外の担当者あるいは研究者と意見交換ができる。 新しいキャリアを開拓できる。 	
専門基礎科目	人体病理学概論	<p>目標：ヒトの代表的な病気概念と発病のメカニズムの基本を理解する。ヒトの病気の種類とそれぞれの成り立ちの概略を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(126 野口雅之/2回) 病理学で学ぶ事、細胞診断学について概説する (283 高屋敷典生/2回) 基礎病理と診断病理について概説する。 (41 加藤光保/4回) 循環障害、炎症について概説する。 (126 野口雅之/5回) 腫瘍について概説する。 (126 野口雅之/1回) 免疫・アレルギーについて概説する。 (274 鈴木裕之/1回) 腫瘍について概説する。 (126 野口雅之/1回) 病理診断技術について概説する。 (126 野口雅之/1回) 中枢神経について概説する。 (385 加野准子/1回) 消化器について概説する。 (126 野口雅之/1回) 消化器について概説する。 (126 野口雅之/1回) 腎泌尿器について概説する。</p>	オムニバス方式
	実験動物科学特論・同実習	<p>目標：マウスをはじめとする実験動物の特性、マウスの胚発生、遺伝子改変マウスを用いた最新の研究成果を理解する。動物実験の規制、実施方針、原則を理解し、適正な動物実験計画を立案でき、動物の取扱い、麻酔、投与、試料採取等の基本的な動物実験を実践できる。</p> <p>(1) 動物実験関連法規、ガイドラインについて解説する。(2) 動物実験における苦痛の軽減について解説する。(3) マウス遺伝学について解説する。(4) マウス胚の初期発生について解説する。(5) 遺伝子導入マウスについて解説する。(6) 遺伝子欠損マウスについて解説する。(7) ゲノム編集マウスについて解説する。(8) 生命科学動物資源センター利用法およびマウス・ラットの取扱い、麻酔、投与方法、試料採取法について解説する。(9) マウスの胚操作法、体外授精、マイクロインジェクションについて解説する。(10) In vivo イメージングについて解説する。</p>	
	内科学概論	<p>内科学、小児科学の概要について、特に成人、小児の基本的疾患について疾患概念、発症機序、診断、治療の概要について学ぶ。</p> <p>目標：成人、小児の基本的疾患についてさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(342 宮園弥生/2回) 小児科学 (小児成長発育・栄養、小児循環器・呼吸器) について概説する。 (184 山縣邦弘/1回) 小児科学 (水・電解質・小児消化器) について概説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(184 山縣邦弘/1回) 小児科学 (小児内分泌・代謝) について概説する。</p> <p>(43 川上康/2回) 成人内分泌 (甲状腺疾患・副甲状腺疾患・副腎疾患・下垂体疾患) について概説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 栄養・代謝 (糖尿病・脂質代謝異常) について概説する。</p> <p>(106 千葉滋・309 長谷川雄一/全2回) 血液学 (造血幹細胞・血球分化・凝固・線溶系・出血傾向、貧血・輸血・造血器腫瘍・骨髄移植) について概説する。</p> <p>(2 青沼和隆・49 久賀圭祐/1回) 循環器病学 (不整脈・心臓突然死・植え込み型除細動器) について概説する。</p> <p>(197 渡邊重行/1回) 循環器病学 (虚血性心疾患・高血圧・心不全 (心臓弁膜症・心筋症)) について概説する。</p> <p>(141 檜澤伸之・350 森島祐子/1回) 呼吸器病学 (気管支喘息・慢性閉塞性肺疾患・間質性肺疾患) について概説する。</p> <p>(184 山縣邦弘・254 齋藤知栄/2回) 腎臓病学 (一次性糸球体疾患・糸球体腎炎症候群・ネフローゼ症候群・二次性糸球体疾患 (代謝性疾患に伴う糸球体病変・血管疾患に伴う糸球体病変・全身性疾患に伴う糸球体病変)、急性腎不全・慢性腎不全・血液透析・腹膜透析) について概説する。</p> <p>(204 安部井誠人/1回) 消化器内科学 (肝炎・肝硬変・肝癌・胆石症・膵炎) について概説する。</p> <p>(144 兵頭一之介/1回) 消化器内科学 (消化器の癌・潰瘍・炎症性疾患) について概説する。</p> <p>(391 近藤裕也/1回) 自己免疫疾患 (関節リウマチ・シェーグレン症候群・全身性エリテマトーデスなど) について概説する。</p> <p>(374 石井亜紀子/1回) 神経疾患 (脳血管障害・神経筋疾患・感染症) について概説する。</p> <p>(184 山縣邦弘/1回) 加齢と神経 (アルツハイマー病・変性疾患) について概説する。</p>	
	外科学概論	<p>外科学の概要を、各科の基本的疾患を中心にそれらの疾患概念、疫学、発症機序、診断、治療の進歩について学ぶ。</p> <p>目標：外科学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(335 三島初/1回) 運動器の機能再建について概説する。</p> <p>(54 倉田昌直/1回) 胆道癌の外科治療について概説する。</p> <p>(75 佐藤幸夫/1回) 増加する肺癌とその手術最前線について概説する。</p> <p>(147 平松祐司/1回) 最前線の小児心臓外科について概説する。</p> <p>(75 佐藤幸夫/1回) 脳神経外科の最先端について概説する。</p> <p>(212 猪股伸一/1回) 麻酔薬と麻酔の進歩について概説する。</p> <p>(18 井上貴昭/1回) ショックの病態生理について概説する。</p> <p>(292 鶴嶋英夫/1回) 脳神経外科とテクノロジーについて概説する。</p> <p>(164 増本幸二/1回) 新生児外科疾患治療の進歩について概説する。</p> <p>(371 和田哲郎/1回) 聴平衡覚の最前線について概説する。</p>	オムニバス方式
	ライフサイエンスにおける病態生化学	<p>代表的疾患のアップデートなトピックスを含め、病因、病態、診断、治療について、分子レベルあるいは遺伝子レベルまでほりさげて生化学的観点から学習する。特に生体内の代謝内分泌制御において重要な働きをもつホルモンやシグナル分子について理解を深め、生命科学研究に必要な様々な生理と病態の理念を学ぶ。</p> <p>目標：臓器や領域を越えたサイエンスにれてもらいたい。生化学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(43 川上康/2回) CaとPの代謝とその異常、甲状腺疾患の生化学について解説する。</p> <p>(597 中川嘉/2回) 肥満の分子病態について解説する。</p> <p>(274 鈴木裕之/2回) 癌遺伝子と癌抑制遺伝子について解説する。</p> <p>(143 人見重美/2回) 感染免疫とエイズの病態について解説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 骨の代謝異常について解説する。</p> <p>(82 島野仁/2回) 神経・筋の代謝とその異常 (神経変性疾患、進行性筋ジストロフィー、ミトコンドリア脳筋症) について解説する。</p> <p>(180 矢藤繁/2回) 糖尿病の基礎知識と研究トピックス、脂質代謝異常、動脈硬化症の基礎知識と研究トピックスについて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(82 島野仁/2回) エネルギー代謝の転写因子 (生理)、エネルギー代謝と生活習慣病 (病態) について解説する。 (355 矢作直也/2回) ニュートリゲノミクスについて解説する。 (273 鈴木浩明/2回) 内分泌疾患の分子病態 (副腎、脳下垂体) について解説する。</p>	
	臨床検査総論	<p>最新の臨床検査医学に関連する項目を学び、臨床検査が医療と密接に関連することを理解する。 目標：臨床検査の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(376 磯部和正/2回) 臨床検査の基礎 (正常値、感度/得意度、検査後確率) および加齢、栄養評価と臨床検査について解説する。 (384 加藤貴康/1回) 血液一般検査、血液凝固検査と診断治療について解説する。 (356 山内一由/2回) 血液生化学検査と診断治療および先端医療を支える臨床検査について解説する。 (98 竹越一博/1回) 遺伝子検査について解説する。 (43 川上康/2回) 臨床検査と治療および腫瘍マーカーと診断治療について解説する。 (375 石津智子/2回) 超音波検査と診断治療および生理機能検査の現状と未来について解説する。</p>	オムニバス方式
	English Discussion & Presentation I	<p>テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業 (分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論) を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。Iでは、分子細胞生物学をトピックとする。</p> <p>(1) タンパク質の立体配座、ダイナミクス、酵素学、(2) 転写、(3) 遺伝子発現における転写後調節、(4) 遺伝子発現の制御動物における small RNA を介した遺伝子サイレンシング、(5) シグナル伝達、(6) 細胞応答と環境要因への適応 (I) --- 酸素、(7) 細胞の反応と環境要因への適応 (II) --- 発生、(8) 細胞の反応と環境要因への適応 (III) --- 細胞の移動、(9) 細胞応答と環境要因への適応 (IV) --- 細胞死、(10) 細胞間コミュニケーションを解析するための先端技術、(11) 学生による論文発表I、(12) 学生による論文発表II</p>	
	English Discussion & Presentation II	<p>テレビ会議システムを使った国立台湾大学、京都大学との交流授業 (分子細胞生物学に関する英語による講義と討論、英語による論文紹介と討論) を通して、生命科学の知識、および英語によるサイエンスコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を身につける。IIでは、がん生物学をトピックとする。</p> <p>(1) がん生物学、(2) RNA制御とその癌との関係、(3) 腫瘍ウイルス学、(4) テロメア生物学、(5) ゲノム不安定性のメカニズムとその癌との関連性、(6) がんのエピジェネティクス、(7) 癌はどのように成長しますか?、(8) 腫瘍の微小環境、(9) 癌細胞におけるシグナル伝達、(10) がんゲノミクス、(11) 癌研究における動物モデル</p>	
	神経科学特論	<p>神経科学分野において重要な論文を読み、内容を深く理解することで、基礎から応用までの幅広い知識を養う。 目標：原著論文を読みこなし、トピックについて論じることができる。さらに、英語によるプレゼンテーション能力が向上し、自身自身の研究分野においても英語で議論ができる。</p> <p>(オムニバス方式/全11回)</p> <p>(183 柳沢正史/1回) カプサイシン受容体：疼痛経路における熱活性化イオンチャネル (183 柳沢正史/1回) Homer1aは睡眠中の興奮性シナプスを恒常的に縮小する (313 林悠/1回) 子猫の片側閉眼による生理的影響を受けやすい期 (259 坂口昌徳/1回) 睡眠は洞察力を刺激する (183 柳沢正史/1回) 不安を選択的に緩和するための分子および神 (502 本城咲季子/1回) Arc / Arg3.1とCaMKIIβの動的相互作用による不活性シナプスの逆シナプスタギング (366 LAZARUS MICHAEL/1回) 哺乳類の概日振動子のユニバーサルリセット合図としての温度 (183 柳沢正史/1回) 慢性的な睡眠制限後の神経行動学的力学：一晚の回復に対する用量反応効果 (68 櫻井武/1回) 海馬の波紋はシナプスを下方制御する</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(183 柳沢正史/1回) 性的に二形性の視床下部回路は、母体のケアとオキシトシンの分泌を制御する (183 柳沢正史/1回) 鎮痒 κ オピオイド作動薬TRK-820 (塩酸ナルフラフィン)	
	神経科学英語	神経科学研究における英語でのコミュニケーションスキルを涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下のことを学ぶことを目的とする。 ・神経科学英語の基礎知識 ・神経科学研究の基礎的な概念およびコミュニケーション方法 ・神経科学に関する効果的なプレゼン方法 I. 講義：口述および記述による理解と表現、神経科学論文の作製と表し方、神経科学研究の概念とコミュニケーション、神経科学研究の効果的な記述方法 II. テュートリアル：ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	神経回路	中枢神経系における神経回路の基本的な機能について系統的な理解を涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下における神経回路の機能を解析し理解することを目的とする。 ・細胞およびシナプスの機能 ・正常および異常な可塑性 ・個体発生 I. 講義：神経回路の統合原理：中枢性パターンジェネレーター、研究方法、ケーススタディー：歩行神経回路他、可塑性、発達、神経回路の相互作用、神経回路とロボット、 II. ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	認知神経科学	認知と生物学との関係に関する理解を涵養する。 目的：本コースを通して、学生は以下について認知神経科学を理解し、議論することを目的とする。 ・認知過程における分子および細胞変化の関連性 ・認知過程 ・神経科学と認知科学 ・脳活動による認知機能表現 I. 講義：記憶表現、古典的条件付け課題、外傷性脳損傷と認知、宣言記憶、行動計画、前頭前野の機能、ニューロイメージング、線条体と認知 II. プレゼンテーション、課題学習	
	分子細胞神経生物学	分子細胞神経生物学の統計的理解を涵養する。 目的：本コースを通して、以下について理解することを目的とする。 ・細胞および細胞内における神経および脳機能の解析と理解 ・神経およびグリア細胞の機能解析における解剖学的、遺伝学的、生理学的、薬理的、生化学的アプローチ I. 講義：シナプス伝達の電気生理学およびイメージング、推測統計における誤りと混同、神経形態研究における新たな手法、シナプス形成・成熟・可塑性、大脳基底核におけるGABA性神経伝達、シナプス前組織と小胞サイクル、神経モデリング、脳組織における細胞内分画、マイクロRNA、グリア細胞の基礎、アストロサイト、マイクログリア、 II. ケーススタディー、シミュレーション、課題学習	
	Scientific Ethis	倫理的行動を定義する科学および法的枠組みで一般的に認められている慣習について学習する。この学習により、学生は多数の倫理的問題とそれらを適切に議論し解決する方法を習得する。そのため、授業では伝統的な講義とソクラテス式問答法を用いた双方向の議論を行う。さらに、グループに別れて議論を行い、その結果をホームワークとしてレポートにまとめる。 (1) クラス紹介と倫理ディスカッション、(2) 一般倫理、(3) 一般科学的問題パートI、(4) 一般科学的問題パートII、(5) ラボの問題パートI、(6) ラボの問題パートII、(7) 科学的不正行為の事例研究その1、(8) 科学的不正行為の事例研究その2、(9) 全トピックの包括的なレビューその1、(10) 全トピックの包括的なレビューその2	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Scientific Critical Reading & Analysis	<p>学術ジャーナルや専門書などの科学的な文献の構造や作法について講義を行うとともに、文献の内容について学生が互いに発表、観察、ピアレビューを行うことで、学生がこれら文献を十分に理解するための読解力を身につけ、またそれを他者に分かりやすく伝えるためのプレゼンテーション技術を向上させることを目的とする。</p> <p>授業の構成は次のとおりである。まず、文献の内容について図表を用いて整理する技術、またそれを他者に伝えるための技術について講義する。次に、個々の学生が文献の内容についてプレゼンテーションを行うとともに、担当教員の監督の下、参加学生間でディスカッションを行う。最後に、未知の課題文献に対する総括的な演習を行う。なお、本授業はすべて英語により実施する。</p> <p>(1) イントロダクション、データと言語I、(2) データと言語II、(3) 学術論文の作法I、(4) 学術論文の作法II、演習、(5) 学術論文の構造と分解、(6)～(8) 文献のプレゼンテーションとディスカッション、(9) 授業の振り返りと集中的なレビュー、(10) 未知の課題文献に対する総括演習</p>	
専門科目	機能形態学特論・同実習	<p>組織学の研究で用いられる基本的な研究手法について、原理と応用を理解する。特に、電子顕微鏡、in situハイブリダイゼーション法、免疫組織化学、神経路トレーシング法を学び、実習では組織の電子顕微鏡観察の実際を学ぶ。</p> <p>目標：形態学の基本的な研究手法について、理論に基づいて論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全5回)</p> <p>(96 武井陽介／1回) 細胞構造の可視化について解説する。 (395 首藤文洋／2回) 電子顕微鏡の原理と応用について解説する。 順行性および逆行性神経路トレーシング法の原理と応用について解説する。 (462 佐々木哲也／1回) 免疫組織化学の原理と応用について解説する。 (490 濱田理人／1回) in situハイブリダイゼーションの原理と応用について解説する。</p>	オムニバス方式
	腫瘍学	<p>悪性腫瘍の定義、病因、進展のメカニズムを学ぶ。</p> <p>目標：悪性腫瘍の診断、治療の基盤も理解する。腫瘍の病因、悪性化の機構、および診断治療の基本を説明できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(41 加藤光保／2回) 腫瘍の概念と定義について解説する。細胞周期、がん遺伝子、がん抑制遺伝子、幹細胞と発がんについて解説する。 (274 鈴木裕之／2回) 化学発がん、増殖抑制、老化、アポトーシスとがんについて解説する。 (126 野口雅之／1回) 細胞増殖について解説する。 (140 久武幸司／1回) 転写とがんについて解説する。 (19 入江賢児／1回) 細胞間接着と細胞運動について解説する。 (126 野口雅之／1回) 腫瘍診断学（内視鏡診断）について解説する。 (126 野口雅之／1回) 腫瘍診断学（放射線診断）について解説する。 (283 高屋敷典生／1回) 腫瘍診断学（組織・細胞診断）について解説する。 (126 野口雅之／1回) 腫瘍診断学（遺伝子診断）について解説する。 (144 兵頭一之介／1回) 腫瘍治療学（化学療法・分指標的治療）について解説する。 (69 櫻井英幸／1回) 腫瘍治療学（放射線治療）について解説する。 (75 佐藤幸夫／1回) 腫瘍治療学（手術療法）について解説する。 (106 千葉滋／1回) 造血器腫瘍と骨髄移植について解説する。 (387 河合弘二／1回) 生殖器・泌尿器の癌について解説する。 (164 増本幸二／1回) 小児のがんについて解説する。 (126 野口雅之／1回) 消化器の癌について解説する。 (126 野口雅之／1回) 神経系の癌について解説する。 (339 水口剛雄／1回) 婦人科の癌について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	薬理学	<p>目標：薬理学の概念と最新の薬理学的研究、創薬技術を理解し説明できる。薬理学に関する基礎的知識を学修する機会を提供している。</p> <p>(1) 薬理学の基本概念を述べることができる。 (2) 受容体とシグナル伝達について説明できる。 (3) 薬物の生体への作用について説明できる。 (4) 薬理学分野の最先端研究に触れ、その内容を理解し説明できる。 (5) 創薬の方法を説明できる。</p> <p>(163 榎正幸/2回) 薬理学概論を説明する。神経系の薬理について解説する。 (434 岡田拓也/1回) 生理活性物質とシグナル伝達について解説する。 (163 榎正幸/1回) 創薬について解説する。 (417 三輪佳宏/1回) 薬物動態学について解説する。 (393 塩見健輔/1回) 神経系の薬理について解説する。 (410 榎和子/1回) 神経系の薬理について解説する。 (224 大林典彦/1回) 循環器系の薬理学について解説する。 (498 船越祐司/1回) 代謝系の薬理について解説する。 (68 櫻井武/1回) 新規神経ペプチドの生理機能について解説する。</p>	オムニバス方式
	ゲノム医学概論	<p>ゲノム科学の基本原理とその医学への応用方法を修得する。</p> <p>目標：ゲノム解析研究、診断・治療におけるゲノム診断とゲノム情報の臨床応用について、方法と課題を論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(125 野口恵美子/7回) ヒトの遺伝子と染色体、その解析法、分子遺伝学的解析法の原理、メンデル遺伝病、ヒトの染色体異常の種類と発生機構、主な染色体異常症および遺伝カウンセリングについて概説する。学期末には試験を実施する。 (174 村谷匡史/2回) 微細欠失/増幅、トリプレットリピート、エピジェネティクスと疾患およびミトコンドリア遺伝病、インプリンティング病について概説する。 (110 土屋尚之/2回) 多因子疾患の遺伝因子および免疫疾患の遺伝因子について概説する。 (322 古川宏/1回) HLAと免疫遺伝学について概説する。 (512 宮寺浩子/1回) パーソナルゲノム医療の原理について概説する。 (125 野口恵美子/1回) 出生前遺伝子診断について概説する。 (98 竹越一博/1回) 臨床検査と遺伝子診断について概説する。 (126 野口雅之/1回) がんの遺伝子診断について概説する。 (176 森川一也/1回) 感染症の遺伝子診断について概説する。 (408 福島絃子/1回) 血液疾患の遺伝子診断について概説する。 (387 河合弘二/1回) 固形がんの遺伝子治療について概説する。 (159 本間真人/1回) ゲノム薬理学について概説する。</p>	オムニバス方式
	医工学概論	<p>医療機器の開発だけでなく、生物学的素材（細胞や組織など）や体内情報の評価・解析にも工学的な視点が活かされていることを理解する。</p> <p>目標：医療機器のしくみと課題、あるいは生体の特性について、工学的な観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(416 三好浩稔/5回) 医工学と生体情報計測、生体電極とトランスデューサー、治療機器について概説する。 (563 長崎幸夫/1回) バイオマテリアルと人工臓器について概説する。 (379 大川敬子/4回) バイオメカニクス、生体材料の力学特性、血液レオロジーと微小循環、細胞のバイオメカニクスについて概説する。</p>	オムニバス方式
	放射線医科学特論	<p>放射線医学を基礎および臨床の両面から理解する。基礎は放射線物理学と生物学に関し、臨床は画像診断学、放射線腫瘍学および核医学を含め、その現状を学習する。また、放射線管理についても習得する。</p> <p>目標：放射線医学の基礎的事項・臨床応用をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(66 榮武二／2回) コースの概説をする。 (472 武居秀行／2回) 放射線物理学と放射線計測学について解説する。 (518 森祐太郎／2回) 放射線生物学と放射線防護学について解説する。 (66 榮武二／2回) 放射線工学と加速器について解説する。 (248 熊田博明／2回) 放射線シミュレーションについて解説する。 (13 磯辺智範／2回) 放射線の利用と安全取り扱いについて概説する。 (13 磯辺智範／2回) 放射線診断の基礎について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 放射線診断の臨床応用について解説する。 (69 櫻井英幸／2回) 放射線腫瘍学の基礎と臨床応用について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 放射線リスクコミュニケーションについて解説する。</p>	
	精神医学概論	<p>精神医学の実践は心を病む人を対象とする。その人の持つ精神医学的問題点を明らかにし、対応策を講じる。考え得る治療法の中から、その人の価値観と決定に従って最善のものを実行する。患者さんの思いと精神医学の果たすべき社会的役割を認識しつつ、一般的な精神疾患と神経科学に関する基本的な知識を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(5 新井哲明／2回) 精神医学総論について概説する。 (5 新井哲明／1回) 内因性精神障害について概説する。 (221 太田深秀／1回) 認知症・器質性精神障害について概説する。 (396 白鳥裕貴／1回) 精神科救急と精神医療の役割について概説する。 (102 太刀川弘和／1回) 薬物依存症・自殺予防について概説する。 (280 高橋晶／1回) 災害精神支援について概説する。 (5 新井哲明／1回) バイオマーカーについて概説する。 (305 根本清貴／1回) 精神障害の脳画像について概説する。 (5 新井哲明／1回) 睡眠学について概説する。</p>	オムニバス方式
	臨床老年病学	<p>高齢者に多発する疾患について学び、老年病の特異性を理解する。また、高齢社会を迎えた現在、老年病対策の現状を分析し、今後を展望する。</p> <p>目標：臨床老年病学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス形式／全10回)</p> <p>(374 石井亜紀子)／3回) アルツハイマー病の病態機序と臨床について解説する。 (412 松井裕史／2回) 老化と消化管の形態・機能、消化管疾患について解説する。 (374 石井亜紀子)／2回) 高齢者のサルコペニアやフレイルの問題 (354 柳久子／3回) 高齢者の社会保障制度について解説する。</p>	オムニバス方式
	臨床薬理学特論	<p>薬物の効果や副作用には薬物の体内動態（体液・組織中濃度）が関与している。薬物の効果や副作用を理解するために1) 薬物体内動態解析法、2) 薬物動態を制御する特殊製剤、3) 薬物動態に影響する代謝酵素や輸送蛋白の基礎知識と研究方法について学ぶ。</p> <p>目標：薬物の効果や副作用について薬物動態を用いて解析し論じることができる。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(401 土岐浩介／2回) 臨床薬物動態学、薬物の吸収について解説する。 (310 篠野健太郎／2回) 薬物の組織分布、医薬品開発における薬物動態試験について解説する。 (159 本間真人／4回) 薬物代謝酵素・輸送タンパク、薬物の副作用、薬物間相互作用および治療薬物モニタリングについて解説する。 (159 本間真人／2回) 薬物動態学（トピックス）について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	橋渡し研究概論	<p>医薬品や医療機器（治療器具、医用材料、治療・診断装置など）等の開発・応用において科学技術的シーズが如何にして臨床現場におけるニーズに結びつけられているかの全体プロセスを理解する。併せてそのプロセスの効率的な運用のために必要な各種の先進的技術、経済的要因、各種規制・手続き、人材等について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスについて説明できる。 2. 安全性・有効性の科学的実証研究（前臨床研究、臨床研究（治験））の重要性につき説明できる。 3. 医薬品・医療機器開発の置かれている社会的状況、開発に関わる関係者・関係機関につき説明できる。 4. 医薬品や治療器具、医用材料の開発や治療・診断装置の開発プロセスにおいて用いられる技術、知的財産確保の重要性について説明できる。 <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（129 橋本幸一／3回）橋渡し研究プロセス概論について概説する。医薬品開発Ⅱ（前臨床試験、臨床試験の進め方）、プロジェクトマネジメントについて概説する。</p> <p>（174 村谷匡史／2回）医薬品開発（探索の進め方）、先進技術（バイオインフォマティクス）について概説する。</p> <p>（129 橋本幸一／1回）医薬品開発の世界的潮流と日本の役割について概説する。</p> <p>（129 橋本幸一／2回）技術イノベーション論、橋渡し研究の実際例について概説する。</p> <p>（292 鶴嶋英夫／1回）橋渡し研究の実際例（医療機器）について概説する。</p> <p>（251 小島崇宏／1回）橋渡し研究の実際例（医薬品）について概説する。</p>	オムニバス方式
	創薬フロンティア科学	<p>現在、製薬企業をはじめとする創薬分野では、従来型の経験や偶発的事象に基づく創薬から、コンピュータシミュレーション技術を駆使した論理的な創薬へとパラダイムシフトしている。つまり、ゲノムワイドでの創薬ターゲットタンパク質分子の同定と創薬リード化合物のin silicoスクリーニング/分子設計及びコンビナトリアルケミストリーなどの手法による化学合成が行われるようになってきている。また、薬物体内動態の評価系や薬物送達系の進展も目覚ましい。このような新薬開発のプロセスを俯瞰的に基礎から理解するとともに、医学-薬学の連関を深めることを目的とする。</p> <p>目標：新薬開発のプロセスの今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 創薬の概要について説明できる。 2. 低分子化合物について説明できる。 3. 構造変換について説明できる。 4. in silico解析について説明できる。 5. ドッキングシミュレーションについて説明できる。 6. 抗体創薬を説明できる。 7. ドラッグデリバリーについて説明できる。 8. 薬物動態を説明できる。 9. 漢方薬について説明できる。 10. 創薬開発の問題点を説明できる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒトの感染と免疫	<p>感染症を惹起する病原微生物、特に病原細菌とウイルスの生物学的な特性、宿主免疫システム、および病原微生物と宿主の免疫との相互関係を分子レベルで理解する。これらの基本的知識をもとに、ヒトの感染症の制御法を開発する基盤的能力を養う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 細菌の生物学的特性を説明できる。 2. 病原細菌および非病原細菌の特徴を説明できる。 3. 細菌の病原性の機構と制御を説明できる。 4. 感染症の制御、抗菌剤、薬剤耐性などについて説明できる。 5. 寄生虫や真菌の複製機構を説明できる。 6. 寄生虫や真菌の病原性について分子レベルで説明できる。 7. ウイルスゲノムの複製の分子機構について説明できる。 8. ウイルスの病原性について分子レベルで説明できる。 9. ウイルス工学の概要を説明できる。 10. ウイルスに対する制御メカニズムや戦略を説明できる。 11. 免疫システムを構成する細胞や組織を説明できる。 12. 抗体の構造と機能を説明できる。 13. リンパ球の分化と抗原受容体の遺伝子再構成を説明できる。 14. 自然免疫について説明できる。 15. 獲得免疫について説明できる。 16. 免疫病の病理を説明できる。 <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(176 森川一也/全4回) 細菌の生物学的特性について概説する。/PBL・グループ討論を通して問題解決能力を養う。 (323 Ho Kiong/全2回) 寄生虫や真菌の病原性発現機構および寄生虫や真菌感染の宿主応答について概説する。 (240 川口敦史/全4回) ウイルスの病原性の分子機構について概説する。/PBL・グループ討論を通して問題解決能力を養う。 (269 澁谷和子/全4回) 免疫学入門について概説する。/免疫システム(獲得免疫)について概説する。 (438 小田ちぐさ/全2回) 免疫システム(自然免疫)について概説する。 (399 田原聡子/全2回) 感染症に対する免疫について概説する。 (332 松本功・400 坪井洋人/全2回) 自己免疫病、アレルギーについて概説する。</p>	オムニバス方式
	Stem cell therapy	<p>The objective of this class is to learn basic knowledge and the latest research progress on regenerative medicine and stem cell biology fields by reading original articles. In addition, this class aims to improve individual ability to extract the point at issue of the article and discuss with other participants.</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. To be able to find and select the appropriate original article from major scientific journals by using online searching system. 2. To be able to read and understand the contents of the article, prepare document for the presentation, review the findings of the article within a limited time period. 3. To be able to understand the explanation of the presenter, ask question, and have discussion about significance of the articles or problems to be solved. 4. To be able to value the importance and scientific position of the selected articles in the related research field. <p>再生医療と幹細胞生物学の分野の論文を読み、基礎知識と最先端の研究について学ぶ。さらに、論文の論点を抽出し他者と議論する能力を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. オンライン検索システムを使い、主要学術雑誌から適切な論文を探すことができる。 2. 論文を理解してプレゼンテーション資料を作成し、限られた時間内で要約することができる。 3. 発表者の説明を理解して質問し、問題点について議論できる。 4. 関連分野における論文の重要性と位置づけを理解できる。 	
	医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス	<p>目標：医薬品、医療機器、再生医療製品等の医薬品医療機器等法による規制と承認審査について体系的に理解する。医薬品医療機器等法による医薬品等の規制、承認制度、安全対策について説明できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の薬価制度について説明できる。 2. 医薬品副作用被害救済制度について説明できる。 	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(1) イントロダクションを説明する。(2) 医薬品・医療機器レギュラトリーサイエンス総論について解説する。(3) 医薬品の規制と審査について解説する。(4) 再生医療等製品の規制と審査について解説する。(5) 医療機器の規制と審査について解説する。(6) 医薬品・医療機器等規制における国際協力関係について解説する。(7) 薬価制度について解説する。(8) 医薬品・医療機器の安全対策について解説する。(9) 医薬品等副作用被害救済制度について解説する。(10) 総括を行う。	
	適正技術教育	<p>現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。それにより、これからの社会で必要とされる問題解決力、現場対応力、起業力を身につける。</p> <p>1. 適正技術の科目の履修に必要な基礎知識（適正技術教育、途上国や過疎地域の現状、フィールド活動等）について、講義と討論により学修する。</p> <p>2. 現地（途上国、国内過疎地域）のニーズ、文化、環境、人などを考慮したうえで、現地の人に必要とされる最善の技術を創出する。</p> <p>授業項目：</p> <p>(1) 適正技術教育入門の受講 (2) 現地（途上国、国内過疎地域）へのフィールドトリップ (3) 途上国向けの製品開発と討議、最終報告会での発表 (4) (1)～(3)のレポートの提出</p>	
	医学物理学詳論IA	<p>医学物理分野において、基礎となる放射線物理学について教授する。</p> <p>目標：放射線の物理特性を理解し、医学・工学双方の観点から幅広い知識と技術を臨床応用できる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(66 柴武二／2回) 原子と原子核の構造について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 放射線の分類について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 電離放射線の量と単位について解説する。 (472 武居秀行／2回) 間接電離放射線（光子ビーム）について解説する。 (472 武居秀行／2回) 光子と物質の相互作用について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 間接電離放射線（中性子ビーム）について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 中性子と物質の相互作用について解説する。 (248 熊田博明／2回) 直接電離放射線について解説する。 (248 熊田博明／2回) 直接電離放射線と物質の相互作用について解説する。 (472 武居秀行／2回) 放射性崩壊について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論IB	<p>医学物理分野において、基礎となる放射線計測学について教授する。</p> <p>目標：放射線計測の原理を理解し、目的に応じた線量計の選択および取扱いができる。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(13 磯辺智範／2回) 放射線の量と単位について解説する。 (472 武居秀行／2回) 荷電粒子平衡と放射平衡について解説する。 (13 磯辺智範／2回) 線量測定について解説する。 (518 森祐太郎／2回) 熱量計による線量測定と化学（フリッケ）線量計について解説する。 (472 武居秀行／2回) 空洞理論について解説する。 (472 武居秀行／2回) 電離箱について解説する。 (518 森祐太郎／2回) 電離箱線量計による光子および電子ビームの校正について解説する。 (66 柴武二／2回) 相対線量測定技術について解説する。 (472 武居秀行／2回) パルスモード検出器について解説する。 (66 柴武二／2回) 計数と統計について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医学物理学詳論II	<p>医学物理分野の治療領域における臨床応用の一部として、放射線治療物理学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線治療技術全般について正しく説明できる。 2. 放射線治療関連装置・機器の精度管理を行うことができる。 3. リスクを最小限にした放射線治療の計画を立てることができる。 <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(66 榮武二/2回) 放射線治療に関わる物理のミニマムエッセンスについて解説する。 (13 磯辺智範/2回) 放射線治療に関わる技術のミニマムエッセンスについて解説する。 (13 磯辺智範/4回) 放射線治療関連装置・機器について解説する。 (472 武居秀行/2回) 放射線治療に関わる放射線計測について解説する。 (66 榮武二/2回) 吸収線量と線量分布計算について解説する。 (248 熊田博明/4回) 治療計画手法について解説する。 (248 熊田博明/2回) 中性子捕捉療法について解説する。 (13 磯辺智範/2回) 放射線治療に関わる品質管理について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論III	<p>医学物理分野の診断領域における臨床応用の一部として、放射線診断および核医学に関する物理学および診断学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各種画像検査機器の原理について正しく説明できる。 2. 各種画像検査におけるイメージング手法および解析法について説明できる。 3. 核医学における放射性医薬品の性質を理解し、安全に取扱うことができる。 4. 各種画像診断装置の特性を理解し、疾病ごとに適切なモダリティを選択することができる。 <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(13 磯辺智範/16回) X線撮影・透視、X線CT、磁気共鳴、超音波、測定装置(核医学)、核医学イメージング装置の性能評価と保守管理、画像診断学総論、脳神経の画像診断、頭頸部の画像診断、呼吸器の画像診断、乳腺の画像診断、消化器の画像診断、泌尿器の画像診断、婦人科の画像診断、骨軟部の画像診断、造血器の画像診断および小児の画像診断について解説する。 (66 榮武二/2回) 放射性同位元素、トレーサ動態・定量解析について解説する。 (248 熊田博明/1回) 放射性医薬品について解説する。 (66 榮武二/1回) 画像処理(核医学)について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理学詳論IV	<p>医学物理分野の情報工学における臨床応用の一部として、情報処理や画像工学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータシステムに必要な各種理論を説明できる。 2. 医療情報システムについて説明できる。 3. 運用性と安全性を考慮し、理想的な医療情報システムの実践プランを提案できる。 <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(66 榮武二/2回) 情報理論について解説する。 (66 榮武二/2回) 信号理論について解説する。 (66 榮武二/2回) 画像工学について解説する。 (66 榮武二/2回) コンピュータシステムについて解説する。 (248 熊田博明/4回) 医療情報システム(情報処理学)について解説する。 (472 武居秀行/2回) 医療における情報について解説する。 (472 武居秀行/2回) 医療情報学について解説する。 (13 磯辺智範/2回) 放射線治療における情報について解説する。 (472 武居秀行/2回) セキュリティについて解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医学物理学詳論V	<p>医学物理学の応用として、放射線生物学と放射線腫瘍学について教授する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 放射線による細胞の損傷、回復、さらに放射線と化学療法剤や温熱療法との相互作用、増感効果を説明できる。 2. 腫瘍の成り立ちとメカニズムについて説明できる。 3. 各領域の放射線治療法の概要を説明できる。 <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(69 櫻井英幸/2回) 放射線腫瘍学の総論について解説する。 (13 磯辺智範/2回) 放射線治療技術と方法について解説する。 (229 奥村敏之/6回) 脳神経、頭頸部、呼吸器、乳腺、および小児の放射線治療について解説する。 (10 石川仁/4回) 泌尿器、骨軟部および造血器の放射線治療について解説する。 (69 櫻井英幸/4回) 消化器および婦人科の放射線治療について解説する。 (66 榮武二/2回) 放射線の人体への影響について解説する。</p>	オムニバス方式
	医学物理問題解決型演習	<p>医学物理学は物理工学の知識と成果を医学に応用する分野である。この分野に携わる研究者は、何か問題が生じたときに解決手段を見出す能力を持たなければならない。本演習では、幾つかの課題を解くことで、医学物理分野における種々の問題を解決する能力を養う。</p> <p>目標：臨床の医学物理分野における種々の問題を解決できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(66 榮武二/6回) 医学物理学分野の論文抄読、放射線防護に関する理論および放射線検出器の制作について学ぶ。 (13 磯辺智範/6回) 医学物理学分野の演習問題、画像検査分野に関する理論および核医学分野に関する理論について学ぶ。 (66 榮武二/2回) 医用画像処理等の理論について学ぶ。 (66 榮武二/4回) 放射線計測、標準測定、患者線量校正等の理論について学ぶ。 (248 熊田博明/2回) 放射線治療分野に関する理論について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	医学物理問題解決型実習	<p>医学物理学は物理工学の知識と成果を医学に応用する分野である。この分野に携わる研究者は、何か問題が生じたときに解決手段を見出す能力を持たなければならない。臨床現場で生じる問題を想定したテーマの実習により、問題解決型の実用的な知識と技術を養う。</p> <p>目標：臨床の医学物理分野における種々の問題を解決できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(13 磯辺智範/8回) X線の発生と装置の出力、散乱X線の除去、撮影と透視の品質管理、超音波、磁気共鳴イメージング (MRI) 装置、コンピュータ断層撮影 (CT) 装置、放射性同位元素の放射能測定装置および個人線量計 (中性子) について学ぶ。 (66 榮武二/4回) シンチレーションカウンタ、吸収線量測定、光子線 (基本的な線量記述用語) および電子線治療について学ぶ。 (66 榮武二/4回) ガンマ線スペクトロメータ (NaI)、シンチレーション検出器によるサンプル分析、個人線量計 (光子、電子) および放射線機器について学ぶ。 (66 榮武二/2回) 線形加速器からの漏洩放射線、線量評価および品質保証/品質管理について学ぶ。 (248 熊田博明/2回) 中性子サーベイ機器、遮蔽計算および確率的サンプリングによる粒子輸送について学ぶ。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境医学概論	<p>環境中には多くの化学物質が存在し、人体に重大な影響をもたらす。しかし、近年の分子学的研究が明らかにしているように、環境科学物質への曝露が引き起こす疾病は、少なくともその一部が、生体中のタンパク質のようなマクロ分子との相互作用に起因する。本講義では、環境科学物質への曝露がもたらす諸症状と、それら物質への初期反応と細胞防御について学ぶ。</p> <p>目標：環境医学の今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(1) 概論 (2) 環境物質の化学的特性について概説する。(3) 環境化学物質の解毒および代謝活性化-1について概説する。(4) 環境化学物質の解毒および代謝活性化-2について概説する。(5) 環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-1について概説する。(6) 環境化学物質に対する生体応答および毒性防御-2について概説する。(7) 環境中発がん物質について概説する。(8) 遺伝的多型について概説する。(9) エクスポソーム-1について概説する。(10) エクスポソーム-2について概説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
公衆衛生学関連科目 基礎科目	疫学概論	<p>健康ないし疾病の要因について人間集団を対象にして宿主 (host)、病因 (agent)、環境 (Environment) の各面から包括的に究明し、法則性を見いだす疫学の原理について学ぶ。</p> <p>目標：初歩的な研究デザインについて概観し、人間集団を対象とした研究を行う際の研究実施計画の重要性を理解する。疫学の基本を理解し、その基本的手法と用法について説明することができる。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/6回) 疾病とその予防に関する疫学的アプローチ、疾病頻度の測定 (罹患と死亡)、診断検査の妥当性と信頼性の評価、ランダム化比較試験、疫学と公共政策および疫学における倫理的課題について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/4回) コホート研究、ケースコントロール研究、因果関係の推論 (バイアス、交絡、相互作用) および疾患における遺伝要因と環境要因の役割について解説する。</p>	オムニバス方式
	医生物統計学概論	<p>目標：医学研究で用いられる統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医学研究のタイプを指摘できる。 2. 統計手法の基礎および手法の原理を説明できる。 3. 確率と確率分布の意味を説明できる。 4. 研究目的が定まったとき、相応しい評価項目のデータの形、および相応しい解析手法を選択できる。 5. 解析結果等解釈が困難な結果に対し、解決への考察ができる。 <p>(1) 医学研究の紹介、医学研究の分類について概説する。(2) データの記述について概説する。(3) 確率と確率分布について概説する。(4) 推定と仮説検定について概説する。(5) 群間比較について概説する。(6) 相関分析と線形回帰分析について概説する。(7) カテゴリカルデータ解析について概説する。(8) ロジスティック回帰分析について概説する。(9)-(10) 生存時間解析について概説する。</p>	共同
	医生物統計学実習	<p>目標：統計解析ソフトウェアSAS OnDemand for Academicsを使用した医学データ解析の考え方や解析手法を習得する。SAS OnDemand for Academicsを使用して基本的なデータ操作、統計解析を行い、結果の解釈を行うことができる。</p> <p>(1) 操作方法、基礎文法について学ぶ。(2) データセットの作成と管理について学ぶ。(3) 記述統計とデータの可視化①について学ぶ。(4) 記述統計とデータの可視化②について学ぶ。(5) 仮説検定と群間比較について学ぶ。(6) 線形回帰分析について学ぶ。(7) カテゴリカルデータについて学ぶ。(8) ロジスティック回帰分析について学ぶ。(9) 生存時間解析について学ぶ。(10) 付加的話題とまとめ</p>	共同
	公衆衛生学特別演習	<p>修士論文を作成するための研究の実践および指導を行い、論文指導を行う。</p> <p>(15 市川政雄) 国際社会医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(61 近藤正英) 保健医療政策学・医療経済学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(105 田宮菜奈子) ヘルスサービスリサーチ領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(157 本田克也) 法医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(196 我妻ゆき子) 臨床試験・臨床疫学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(58 五所正彦) 生物統計学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) ヘルスプロモーション領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(63 斎藤環) 精神保健学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(351 森田展彰) 社会精神保健学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(168 松崎一葉) 産業精神医学・宇宙医学領域の研究テーマ設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(111 徳田克己) 臨床心理学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。</p> <p>(337 水野智美) 臨床心理学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(306 橋爪祐美) 高齢者ケアリング学領域の研究テーマの設定と研究方法選択の指導を行う。	
	疫学・生物統計学セミナー	疫学や生物統計学に関する講義の補完として、関連する教科書を読み、原著論文を担当を決めて紹介し、セミナー形式にてディスカッションすることで学習効果を高める。 目標：疫学や生物統計学の手法やその応用についてさまざまな観点から論じることができる。	共同
	量的研究の批判的評価法	The course will provide students with experience in critically appraising a range of research methods and familiarize them with a variety of bio-statistic approaches. Students will use a variety of frameworks to critically appraise literature from their chosen field of study and examine and discuss the implications for evidence-based practice. この科目では、科学論文において使用された手法や解析について、クリティカル・アプレイザルを行う機会を提供する。それぞれの専門領域におけるクリティカル・アプレイザルのフレームワークを応用して、エビデンスに基づく実践について議論を行う。	
	システマティックレビュー・メタアナリシス入門	Systematic reviews and meta-analyses are useful for decision-making as well as evidence-based clinical and public health practice. This course will provide a detailed description of the systematic review process, discuss the strengths and limitations of the method, and provide step-by-step guidance on how to perform a systematic review and meta-analysis. Specific topics to be covered include: formulation of the review question, searching of literature, quality assessment of studies, data extraction, meta-analytic methods, assessment of heterogeneity and report writing. RevMan statistical software will be used to perform meta-analysis during the computer lab, along with tutorials on how to effectively use tools such as PubMed for conducting reviews. システマティックレビューやメタ解析は、エビデンスに基づく臨床や公衆衛生実施を含め、意思決定のために大変有用な手法である。この科目では、システマティックレビューに関する詳しい説明を段階を踏んで行う。また、その強みや限界についても討議する。レビュークエスションの作成、文献検索、研究の質の評価、データ抽出、メタ解析手法や報告書作成についてを含める。RevMan統計ソフトを利用し、PubMedによるレビューやメタ解析演習を行う。	
専門科目	健康行動科学論	目標：ヘルスプロモーションの概念および保健行動の変容の理論と方法を環境ストレス各分野での実例を通して理解する。保健行動の変容について様々な観点から論じることができる。 (オムニバス方式/全10回) (262 笹原信一朗/2回) ヘルスプロモーションの概念と健康生成論について解説する。 (429 大井雄一/1回) ヘルスビリーフモデルと対人関係ストレスについて解説する。 (479 道喜将太郎/1回) 変化のステージモデルと復職支援について解説する。 (351 森田展彰/1回) プリシードプロシードモデルと家族関係におけるストレス・児童虐待について解説する。 (63 斎藤環/2回) 自己効力感と社会的引きこもり、ソーシャルサポートとコントロール所在とオープンダイアログについて解説する。 (431 大谷保和/1回) ストレス、ストレス対処と薬物依存について解説する。 (168 松崎一葉/10回) 計画的行動モデルとハラスメントについて解説する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	疫学特論	<p>疫学の原理と応用について学ぶ。情報科学や統計科学を用いて行われる疫学研究や臨床研究への応用についても学び、EBM (Evidence-Based Medicine) の研究に役立たせる。また、疫学的手法を用いた演習を実施し、疫学の実際を理解する。</p> <p>目標：疫学研究の目的、方法、解析結果とその意義について説明できる。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/10回) 研究をデザインする、リサーチクエスチョン、サンプリングとリクルートメント、測定方法(精度と正確性)およびサンプルサイズとパワーについて解説する。</p> <p>(196 我妻ゆき子/2回) がんの疫学研究について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/8回) コホート研究をデザインする、ケースコントロール研究をデザインする、ランダム化比較試験をデザインする、質問調査法をデザインする。</p>	オムニバス方式
	臨床試験論	<p>臨床試験は病気に対する新しい治療法や薬の安全性・有効性を検証するために行われる、ヒトを対象とした医学研究である。臨床試験は厳密な科学性と倫理性を兼ね備える必要があるため、GCP (Good Clinical Practice) と呼ばれる基準に則って実施される。本講義ではGCPに沿って臨床試験のデザインから実行までを概観する。</p> <p>目標：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. GCPに準拠した臨床試験の実施ステップについて説明できる。 2. 臨床試験に関する倫理指針を理解し、適切な研究デザインを企画し、実施するための研究プロトコールを作成できる。 3. 臨床試験の実際に関する内容を理解し、その意義と欠点を理解し、その向上のためになる質問や討論することができる。 <p>(オムニバス方式/全6回)</p> <p>(196 我妻ゆき子/3回) 臨床研究に関する倫理、GCPについておよびプロトコール作成について解説する。</p> <p>(58 五所正彦/1回) 臨床試験における生物統計について解説する。</p> <p>(493 福重瑞徳/1回) 臨床試験の品質保証について解説する。</p> <p>(196 我妻ゆき子/1回) 臨床試験におけるデータマネージメントについて解説する。</p>	オムニバス方式
	ヘルスプロモーション	<p>ヘルスプロモーション、アドボカシー、コミュニケーション、エンパワメントの理論と実践について、多面的な研究成果を活用し取得することを目的とする。</p> <p>目標：ヘルスプロモーションの今日的課題をさまざまな観点から論じることができる。</p> <p>(1) ヘルスプロモーション国際動向、(2) ヘルスプロモーション理論、(3) ヘルスプロモーション方法、(4) ヘルスプロモーション技術、(5) エンパワメント理論、(6) エンパワメント技術、(7) ヘルスプロモーションとアドボカシー、(8) ヘルスプロモーションとコミュニケーション、(9) ヘルスプロモーション演習1、(10) ヘルスプロモーション演習2</p>	
	環境保健学	<p>環境保健学的方法論の一つである疫学の基礎を理解し、気候変動の健康影響など、環境疫学に関する問題群に関する知識を得る。</p> <p>目標：健康に影響を与える基本的な環境疫学の問題について説明することができる。</p> <p>(1) Introductionと疾病発生の計測について解説する。(2) 因果モデルについて解説する。(3) 誤分類、validity & precisionについて解説する。(4) 研究デザインと解析について解説する。(5) 各論：大気汚染について解説する。(6) 各論：水汚染について解説する。(7) 各論：放射線、電磁場について解説する。(8) 内分泌攪乱化学物質について解説する。(9) 各論：地球環境変化の健康影響Iについて解説する。(10) 各論：地球環境変化の健康影響IIについて解説する。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	医生物統計学特論	<p>目標：生物統計に関する専門書 Applied Survival Analysis の抄読会を通し、統計手法の理解及びその結果の正しい解釈ができ、自らの医学研究に応用できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生存時間解析の原理や結果を理解できる。 2. 生存時間データの解析に対して適切な統計手法を選択することができる。 3. 生存時間解析における結果の解釈を正しく説明できる。 	共同
	保健医療政策学	<ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療政策論の基礎を学び世界の保健システムの課題を学ぶ。 2. わが国の保健医療制度の現状と課題を学ぶ。 <p>目標：保健医療システムについて、基礎的な理論を踏まえたうえで、保健医療政策学的な視点から論じることができる。</p> <p>(1) 健康、保健医療、政策について解説する。(2) 健康の決定要因と政策について解説する。(3) 国家の役割と保健システムについて解説する。(4) 日本の医療提供制度について解説する。(5) 日本の医療保障制度について解説する。(6) 保健医療政策学の実践について解説する。(7) グローバルヘルスポリシーについて解説する。(8) 保健医療政策過程論について解説する。(9) 保健医療計画論について解説する。(10) 健康政策、保健医療政策の広がりについて解説する。</p>	
	医療管理学	<ol style="list-style-type: none"> 1. わが国の保健医療介護サービスの管理に必要な制度を学ぶ。 2. わが国の保健医療介護福祉のサービスの実態を学ぶ。 3. 保健医療介護 サービス管理の視点からヘルスサービスリサーチを学ぶ。 <p>目標：保健医療介護福祉の制度とその現場での管理について、基礎的な理論を踏まえたうえで、ヘルスサービスリサーチの視点から論じることができる。</p>	
	医療経済学	<p>医療経済学の基礎として、ミクロ経済学や厚生経済学の健康への応用を解説する。</p> <p>目標：保健医療システムをサービスの市場としての理解できる。保健医療サービスの経済評価を吟味できる。</p> <p>(1) 保健医療とお金・景気について解説する。(2) 医療保険の経済学について解説する。(3) 需要の法則について解説する。(4) 生産理論について解説する。(5) 市場メカニズムについて解説する。(6) 医療供給者の行動について解説する。(7) 厚生経済学入門について解説する。(8) 保健医療サービスの経済評価について解説する。(9) 衡平性：正義と公正について解説する。(10) 総合討論を行う。</p>	
	ヘルスサービスリサーチ概論	<p>本講義では、保健医療福祉分野の各職種において、自らのサービス（病院だけでなく、施設ケア、在宅ケアも含む）の質を科学的に評価・分析し、日常業務に還元し、さらには学術論文に発展させる方法の初歩を取得することを目的とする。</p> <p>目標：保健医療福祉サービスに関する今日的課題をヘルスサービスリサーチの視点から論じることができる。</p> <p>(オムニバス形式／全10回)</p> <p>(105 田宮菜奈子／1回) サービスの質の評価の概念とヘルスサービスリサーチ (425 伊藤智子／1回) Andersonモデルと生存分析、法医学データ (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービスリサーチの実際 (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービスリサーチの医療政策への応用 (105 田宮菜奈子／1回) 臨床医学とヘルスサービスリサーチ (105 田宮菜奈子／1回) 薬剤ヘルスサービスリサーチ (105 田宮菜奈子／1回) ヘルスサービスリサーチに必要な統計学 (105 田宮菜奈子／1回) 内的妥当性とヘルスサービスリサーチ (105 田宮菜奈子／1回) 公衆衛生とヘルスサービスリサーチ (105 田宮菜奈子／1回) まとめ</p>	オムニバス形式
	精神保健学	<p>目標：精神健康の問題を持つ人の評価や援助における基本的な概念、手法および社会的なシステムを理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスのメカニズムや評価について、説明できる。 2. 心理学的な発達や危機について説明できる。 3. メンタルヘルスケアを行う方法について説明できる。 4. 精神障害を持つ人の現状や援助システムについて説明できる。 <p>(オムニバス方式／全10回)</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(63 斎藤環／3回) 発達障害、不登校・ひきこもり、人格障害について解説する。</p> <p>(351 森田展彰／3回) 精神医学入門、児童虐待、自殺について解説する。</p> <p>(431 大谷保和／3回) ストレスとメンタルヘルス、心理発達、心理療法について解説する。</p> <p>(63 斎藤環／1回) アルコール・薬物乱用について解説する。</p>	
	高齢者ケアリング学特論	<p>高齢者とその家族及び地域社会を対象にしたヒューマン・ケアリングの意味と効果を探求するために、その研究方法として質的研究法およびミックス法の理論と実際を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p> <p>(306 橋爪祐美／4回) 超高齢社会におけるヒューマンケアリングの探求の意味、高齢者の家族・地域社会を対象としたミックス法による研究について解説する。</p> <p>(435 岡本紀子／4回) 高齢者を対象としたミックス法による研究について解説する。</p> <p>(306 橋爪祐美・435 岡本紀子／2回) 質的研究法およびミックス法を使用したデータ分析の実際について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ニューロサイエンス関連科目	基礎科目 Seminar for Career Development キャリアプランセミナー	前期課程における科目履修の方法、必要単位、修了要件についての理解を促す。特に、修士論文研究資格審査、最終審査の内容と準備の方法について指導する。その上で、修士取得に向けて、課程修了後のキャリア形成プランも含めて、各自で計画を立案する。一部は学位プログラム宿泊（1泊2日）として行う。	共同
	専門基礎科目 Introduction to Neuroscience A 神経科学基礎論A	指定の教科書に沿って、分子・細胞神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、分子・細胞神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。 (オムニバス方式/全10回) (169 松本正幸/1回) 1. Introduction, イントロダクション (357 山田一夫/1回) 2. Structure of the Central Nervous System, 中枢神経系の構造 (96 武井陽介/1回) 3. Neurons, 神経細胞 (502 本城咲季子/1回) 4. Action Potential, 活動電位 (502 本城咲季子/1回) 5. Midterm Review/Discussion (633 鶴田文憲、395 首藤文洋/1回) (共同) 6. Synapses I, シナプス I (645 佐藤主税・656 三尾和弘/1回) (共同) 7. Synapses II, シナプス II (79 志賀隆/1回) 8. Development of the Nervous System I, 神経系の発生 I (328 増田知之/1回) 9. Development of the Nervous System II, 神経系の発生 II (328 増田知之/1回) 10. Final Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
	Introduction to Neuroscience B 神経科学基礎論B	指定の教科書に沿って、システム神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、システム神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。 (オムニバス方式/全10回) (80 設楽宗孝/1回) 1. Visual System, 視覚 (4 綾部早穂/1回) 2. Smell and Taste, 味覚・嗅覚 (456 小金澤禎史/1回) 3. Motor System I, 運動制御 I (452 國松淳/1回) 4. Motor System II, 運動制御 II (452 國松淳/1回) 5. Midterm Review/Discussion (524 山田洋/1回) 6. Cerebellum and Basal Ganglia, 小脳と大脳基底核 (313 林悠/1回) 7. Brain Stem, 脳幹 (509 水挽貴至/1回) 8. Motivation and Emotion, 意欲と情動 (366 LAZARUS MICHAEL・430 大石陽/1回) (共同) 9. Sleep and Biological Rhythm, 睡眠とリズム (524 山田洋/1回) 10. Final Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
Introduction to Neuroscience C 神経科学基礎論C	指定の教科書に沿って、行動・認知神経科学領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、行動・認知神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。 (オムニバス方式/全10回) (646 高島一郎/1回) 1. Neurological Disorders and Repairment, 神経疾患と脳の修復 (462 佐々木哲也/1回) 2. Neurotransmitter and Neuropharmacology, 神経伝達物質と神経薬理学 (34 小川園子/1回) 3. Hormones and Behavior, ホルモンと行動 (279 高橋阿貴/1回) 4. Genes and Behavior, 遺伝子と行動 (279 高橋阿貴/1回) 5. Midterm Review/Discussion (236 加藤克紀/1回) 6. Early Experience and Neural Development, 初期経験と発達 (259 坂口昌徳/1回) 7. Learning and Memory I, 記憶と学習 I (203 阿部高志/1回) 8. Learning and Memory II, 記憶と学習 II (653 武田裕司/1回) 9. Basic Concepts in Cognitive Neuroscience, 認知神経科学の基礎	オムニバス方式	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(203 阿部高志/1回) 10. Final Review/Discussion 2 classes	
	Introduction to Neuroscience D 神経科学基礎論D	指定の教科書に沿って、障害・臨床・支援神経科学の領域の基礎的内容についての講義をオムニバス方式で行う。4回の講義が終了するごとに、その内容についての疑問点や、関連文献の学習などからなる、Midterm及びFinalのReview/Discussionを担当教員及びTFが主導して行い、障害・臨床・支援の神経科学の基礎知識の十分な習得を促す。 (オムニバス方式/全10回) (305 根本清貴/1回) 1. Introduction to Psychiatry, 精神医学概論 (377 井出政行/1回) 2. Psychiatric Disorders I, 精神疾患I (221 太田深秀/1回) 3. Psychiatric Disorders II, 精神疾患II (5 新井哲明/1回) 4. Neurodegenerative Disorders, 神経変性疾患 (221 太田深秀/1回) 5. Midterm Review/Discussion (360 山中克夫/1回) 6. Dementia, 認知症 (227 岡崎慎治/1回) 7. Developmental Disorders, 発達障害 (80 設楽宗孝・534 秋山英三/1回) (共同) 8. Decision-making, 意思決定 (642 岩木直/1回) 9. Non-Invasive Measurements of Brain Function, 非侵襲脳機能測定 (360 山中克夫/1回) 10. Review/Discussion	オムニバス方式 共同 (一部)
	Research Proposal Writing in English 1 基礎科学英語1	履修学生各自の研究内容に関する口頭発表と質疑応答などからなる基礎英語コミュニケーション演習で、英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となって行う。「修士論文研究の英語プロポーザル及び修士論文英語アブストラクト」を作成するに足る基礎科学英語力、論理的思考力、表現力の養成を目指す。	共同
	Research Proposal Writing in English 2 基礎科学英語2	基礎科学英語1の単位取得者を対象とした応用英語コミュニケーション演習。履修学生の各自の研究内容に加えて、関連する研究領域に関して、英語で的確に説明することを学ぶ。英語を母語とする神経科学学位プログラムの研究指導教員が中心となって行う。「修士論文を英語で執筆」するに足る科学英語力、論理的思考力、表現力を養成する。	共同
専門科目	Neuroscience Laboratories A 神経科学実験・実習A	分子・細胞神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories B 神経科学実験・実習B	システム神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories C 神経科学実験・実習C	行動・認知神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	Neuroscience Laboratories D 神経科学実験・実習D	障害・臨床・支援神経科学領域が開講する1週間程度の研究室実験・実習。担当教員の研究室の研究ミーティングや実験への参加を通して、当該領域の基礎知識や研究手法などについて、実践的に学ぶ。各々の領域で1年ごとに異なる内容で開講し、原則として3年間でローテーションする。	共同
	English journal Club 1 英語ジャーナルクラブ1	分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の基礎的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	English journal Club 2 英語ジャーナルクラブ2	英語ジャーナルクラブ1の単位取得者のみ受講可能。分子・細胞、システム、行動・認知、障害・臨床・支援の神経科学の各領域の先端的、応用的な英語論文を講読し、理解力、発表力、ディベート力を養う。後期課程学生が、プレゼン指導やディスカッションのファシリテーターの役割を担うTFとして参画する。	共同
	Neuroscience Research seminar 1 神経科学先端セミナー1	遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的の研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、ニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学ぶ。	共同
	Neuroscience Research seminar 2 神経科学先端セミナー2	神経科学先端セミナー1の単位取得者のみ受講可能。遺伝子、分子、細胞、組織、生理、システム、数理、行動、認知、応用、支援など、ニューロサイエンスの各領域の先端的の研究について、担当教員が毎回ゲストとして招く研究者によるセミナー講演を通して学ぶ。最新の研究手法や理論についての知識を深めるとともに、講師とのインフォーマルディスカッションを通して、ニューロサイエンスの醍醐味、面白さを学ぶ。	共同
	Translational Neuroscience Internship 実践的神経科学インターンシップ	神経科学の実践的研究の現場を体験することにより、前期課程修了後のキャリア形成に役立てる。原則として、企業、研究所、支援現場での実習とする。 1) 産業技術総合研究所：技術研修制度、食品総合研究所：インターン制度、NTTコミュニケーション科学研究所：インターンシッププログラム、情報通信研究機構：研修員制度 等 2) 附属特別支援学校、近隣の病院、リハビリテーション、高齢者介護施設 等	共同、集中
	Neuroscience Thesis Research 1 修士論文研究指導1	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究のテーマを決定し、関連する基礎的な先行研究についての文献を検索、学習し、必要に応じて予備実験・研究を実施する。	
	Neuroscience Thesis Research 2 修士論文研究指導2	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。合わせて、2年次4月の修士論文研究資格試験に向けての準備を行う。単位認定には、修士論文研究構想発表会での発表が必須条件とする。	
	Neuroscience Thesis Research 3 修士論文研究指導3	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する修士論文研究を進める。単位認定には、修士論文研究資格試験合格が必須条件とする。	
	Neuroscience Thesis Research 4 修士論文研究指導4	神経科学、行動科学、実験心理学、障害科学、精神医学を専門とする主研究指導教員の指導のもと、分子・細胞神経科学、システム神経科学、行動・認知神経科学、障害・臨床・支援神経科学のいずれかの領域に関する、修士論文の作成を進める。合わせて、修士論文最終試験、修士論文最終公开发表に向けての準備を行う。	
	(研究指導)	(79 志賀隆) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (96 武井陽介) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (259 坂口昌徳) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (328 増田知之) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (366 LAZARUS MICHAEL) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (502 本城咲季子) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (656 三尾和弘) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (645 佐藤主税) 分子・細胞神経科学領域についての研究指導を行う。 (80 設楽宗孝) システム神経科学領域についての研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(169 松本正幸) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(313 林悠) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(524 山田洋) システム神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(4 綾部早穂) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(34 小川園子) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(203 阿部高志) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(279 高橋阿貴) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(357 山田一夫) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(646 高島一郎) 行動・認知神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(5 新井哲明) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(360 山中克夫) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(227 岡崎慎治) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(221 太田深秀) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(653 武田裕司) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(642 岩木直) 障害・臨床・支援の神経科学領域についての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
看護科学 関連科目 専門基礎科目	看護科学論	<p>卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論や看護に関する諸理論と看護現象との関係について理解を深める。さらに看護に関する普遍的な法則性の追究、看護の経験的あるいは実証的な合理性の明確化などを通して看護を科学的に探求する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/6回) 看護における知と知識開発、看護における経験的知識・理論、まとめ：看護理論の科学性と看護の発展 (175 森千鶴/2回) 精神看護における経験的知識・理論 (171 水野道代/2回) がん看護における経験的知識・理論 (268 柴山大賀/2回) 慢性看護における経験的知識・理論 (369 涌水理恵/2回) 家族看護における経験的知識・理論 (469 杉本敬子/2回) 看護理論 (大理論・中範囲理論) (492 福澤利江子/2回) 看護理論の教育 (482 Togoobaatar Ganchimeg/2回) ヘルスケアにおける経験的知識・理論</p>	オムニバス方式
	看護コミュニケーション論	<p>看護職の基本的な資質である豊かな人間性を発展させ、看護の対象となる様々な生活背景をもつ人々の理解のためのコミュニケーションについて、看護の視点から理論と方法を教授する。ヘルスコミュニケーションやノンバーバルコミュニケーションの技法や実際を学び、その上で集団指導・個別指導および実際に起こりえる看護場面を想定したロールプレイを行う。アクティブラーニング手法を用いた教育により学生の学びを深める。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(444 金澤悠喜/2回) 看護コミュニケーションの実際 (225 大宮朋子・476 出口奈緒子/5回) 概要、ヘルスコミュニケーション (142 日高紀久江/2回) 看護におけるノンバーバルコミュニケーション (242 川野亜津子・444 金澤悠喜/11回) 個別指導・集団指導におけるコミュニケーション</p>	オムニバス方式
	看護コンサルテーション論	<p>専門看護師に必要なコンサルテーションの概念、過程、タイプとモデル、技法、チーム医療におけるコンサルテーションの機能と役割、コンサルテーションの実際について学び、討議をとおして理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(175 森千鶴/18回) コンサルテーションの概念、過程とモデル、チーム医療におけるコンサルテーション、コンサルテーションの事例分析、精神看護におけるコンサルテーションの実際、がん看護におけるコンサルテーションの実際 (40 Katsumata Asako Takekuma/2回) 在宅看護におけるコンサルテーションの実際</p>	オムニバス方式
	看護学研究法	<p>看護研究における科学的研究プロセスの理解と、その基本的な手法の帰納的・質的研究法、演繹的・量的研究法の研究方法論を学際的に教授する。また研究倫理と、具体的な対象者の関わり方について、人間の尊厳を前提とした関わり方、およびそれに基づく研究者としての基本的資質について論じ、看護を科学的に探究する研究方法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/3回) 看護研究の基礎、研究課題の設定方法 (40 Katsumata Asako Takekuma・469 杉本敬子/3回) 研究の問いの設定方法、文献レビューの方法 (7 安梅勅江/3回) 質的研究の例から考える実践の理解、質的研究の実践法 (423 阿部吉樹/9回) 量的研究のデザインと方法、質的研究のデザインと方法、質的デザインと量的デザインの統合 (469 杉本敬子/3回) 理論、モデル、概念枠組みの活用と開発 (489 萩野谷浩美/9回) 標本抽出の方法、測定とデータ収集の方法、データの質の評価</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健統計学	<p>統計学の基礎の理解を深め、看護研究の中でも量的研究に求められる統計解析法の基本的内容を習得する。全20回で構成し、うち前半10回は後期課程「応用統計学」と合同で行う。講義の前半10回を統計基礎として、推測統計学の基礎を学び、後半10回においては、量的研究を実施するために必要な知識の習得、実際に用いられている統計手法を学び、統計分析ソフトウェアSPSSの使用方法について基礎的な演習を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(78 山海知子/8回) オリエンテーション、統計思想の歴史、データと尺度、平均値の比較(パラメトリックとノンパラメトリック)、分散分析と多重比較、実験計画法など、交絡、交互作用、偏り、因果関係、多変量解析の基本、量的研究論文のクリティーク、多変量解析の実際</p> <p>(201 浅野美礼/5回) 重要な確率分布、推定(正規分布、t分布)、量的研究のデザイン、サンプルサイズの求め方、多変量解析</p> <p>(423 阿部吉樹/7回) 標準偏差と標準誤差、統計的検定(第1種の過誤と第2種の過誤、対立仮説と検出力)、測定の妥当性と信頼性、多変量解析の実際、SPSSの基礎演習</p>	オムニバス方式
	国際看護学	<p>国際的な視点からみた看護活動、人材育成、組織化、施策化を行うため、健康をめぐる世界動向と課題、国際機関及び国際協力の役割と展望を概観する。</p> <p>異文化と多様性を科学的・論理的に分析・理解し、当事者主体の倫理に裏づけされたエンパワメント、ネットワーキング、システム構築等を活用した看護実践方法、国際協力実践方法、国際比較研究方法を学ぶ。</p>	
	看護倫理学	<p>看護現場において倫理的問題・葛藤について関係者間での倫理的調整を行うために必要な知識について、総論的知識のレクチャーと事例を用いた討論を通して教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(171 水野道代/6回) 看護者の倫理綱領の講義と討議、倫理原則に沿った事例検討</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma/2回) 看護者の倫理綱領の討議</p> <p>(521 山下美智代/4回) 倫理原則に沿った事例検討</p> <p>(142 日高紀久江/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(225 大宮朋子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(242 川野亜津子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p> <p>(514 牟田理恵子/2回) 葛藤ケースに対する事例検討</p>	オムニバス方式
	看護教育論	<p>看護ケアの質を高めるために必要な看護職への教育的働きかけ、教育環境づくり等、看護の継続教育に関する知識と技術を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(175 森千鶴/8回) 継続教育の現状と課題-新人看護師の実践力の育成と方法、看護の実践と発展を支えるリフレクション</p> <p>(489 萩野谷浩美/4回) 卒後継続教育-中堅スタッフの育成</p> <p>(142 日高紀久江/4回) 卒後継続教育-スタッフのキャリア開発</p> <p>(175 森千鶴/2回) 専門看護師が担う教育的役割</p> <p>(175 森千鶴/2回) ベッドサイドにおける卒後教育</p>	オムニバス方式
	フィジカルアセスメント	<p>複雑な健康問題を持った対象の身体状況を審査し、臨床判断を行うために必要な知識と技術を学ぶ。専門看護師として必要な知識や技術について、講義やシュミレーション等による演習を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(eラーニング/9回) 医学的診断の考え方、呼吸器、循環器、消化器、運動系、中枢神経・感覚系のアセスメント、生殖器系のアセスメント、痛みのアセスメント、精神症状のアセスメント</p> <p>(142 日高紀久江/3回) 健康状態の包括的なアセスメント、適切に症状を訴えられない患者のアセスメント(中枢神経・感覚系)</p> <p>(521 山下美智代/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント(消化器系)</p> <p>(489 萩野谷浩美/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント(呼吸・循環系)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(437 小澤典子/2回) 適切に症状を訴えられない患者のアセスメント (疼痛) (175 森千鶴・468 菅谷智一/2回) 複雑な症状を訴える患者のアセスメント (精神症状)	
	病態生理学	エビデンスに基づき、対象の病態生理学的変化を解釈、判断するために必要な知識と技術について教授し (e-ラーニング)、専門看護師として対象の治療及び療養過程を総体的に支援する上で必要な知識と技術をグループ発表と討議を通して教授する。 (オムニバス方式/全20回) (171 水野道代・521 山下美智代/10回) 呼吸、循環、消化、水・電解質バランスを中心とする生体機能の臨床病態について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (423 阿部吉樹/10回) 脳、自律神経、運動、内分泌・代謝、造血、生体防御を中心とする生体機能の臨床病態について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。	オムニバス方式
	臨床薬理学	エビデンスに基づき、薬物療法の身体への影響を臨牀的な観点から解釈、判断するために必要な知識と技術について教授し (e-ラーニング)、専門看護師として対象の薬物治療と療養過程を総体的に支援する上で必要な知識と技術をグループ発表と討議をとおして教授する。 (オムニバス方式/全20回) (268 柴山大賀/7回) 呼吸器系、循環器系、代謝異常、自己免疫異常など、様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (159 本間真人/2回) 薬物動態と薬力学、薬物処方上の留意点と調整、薬物の与薬と服薬管理について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (423 阿部吉樹/7回) 消化器系、感染症、神経系、腎疾患など、様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。 (175 森千鶴・468 菅谷智一/4回) 精神疾患を含む様々な疾患に対する薬物療法について、e-ラーニング等で学習した知識に基づいた討議を通して専門看護師に必要な知識を教授する。	オムニバス方式
	看護教育学	看護専門職者として看護基礎教育にかかわる基盤となる力を養う。看護基礎教育に必要な学習理論、教授方法、教育評価に関する知識を教授する。 (オムニバス/全20回) (175 森千鶴/4回) 看護師教育課程における今日的課題、教育制度、看護学教育と学習理論 (33 岡山久代/10回) 看護学教育におけるカリキュラムの構築、評価看護教育における倫理、看護教育における実習指導と評価、助産教育における教授活動の実際、母性看護学教育における授業案及び演習指導案の作成、助産師教育の歴史と諸外国の助産教育制度 (242 川野亜津子/6回) 看護学教育基礎教育における教授活動の実際	オムニバス方式
	地域母子保健論	地域母子保健の意義について理解し、変化する社会における地域母子保健の課題、政策、看護活動について学ぶ。また、地域母子保健における事例を通して、母子への支援や政策的課題を研究的視点から考察する能力を養う。 (オムニバス方式/全10回) (444 金澤悠喜/4回) 地域母子保健と地域連携の実際 (225 大宮朋子・476 出口奈緒子/1回) 地域母子保健活動における家庭訪問とは (225 大宮朋子・444 金澤悠喜・476 出口奈緒子/3回) 地域母子保健活動における家庭訪問の実際 (492 福澤利江子/2回) 国際協力と母子保健活動、グローバル化における母性保健	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	女性と健康	<p>女性のライフステージにおける健康問題の特徴について、概論的に教授する。女性の健康問題の予防・改善のためのエビデンスに基づいたケアについてプレゼンテーションとディスカッションを通して学ぶ。講義での学びを基に大学生を対象とした健康教育を企画・実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(33 岡山久代/18回) 女性のライフステージにおける健康問題、助産師による思春期の性に関する健康教育、女性の健康問題と支援、プレコンセプションケア、健康教育グループワーク、健康教育プレゼンテーション (72 佐藤豊実/1回) 女性の健康問題と支援、婦人科疾患 (241 川崎彰子/1回) 不妊症と生殖補助医療</p>	オムニバス方式
	女性の精神保健学	<p>女性のライフサイクルに伴って変化する精神の健康と健康問題、および妊娠・出産・産褥を経験する女性の精神の健康と健康問題を理解し、アセスメントするための能力を養う。周産期のメンタルヘルスにおけるケアシステムの課題と政策を分析し、研究的視点から考察する力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(33 岡山久代/5回) 女性のライフサイクルとメンタルヘルス、メンタルヘルスの問題を持つ周産期事例の検討、周産期のメンタルヘルスの現状と課題 (175 森千鶴/2回) 妊娠・出産・産褥を経験する精神障害者の理解とケア (429 大井雄一/2回) 働く女性の精神保健、働くパパ・ママのメンタルヘルス、健康生成論に関する調査研究 (444 金澤悠喜/1回) 暴力被害を受けた女性へのケア</p>	オムニバス方式
	生殖生命倫理学	<p>助産領域において生じる倫理的問題を理解するための知識について、総合的な講義と倫理的葛藤に関わる倫理的調整に必要な技能を養うために、事例を用いた討論を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(171 水野道代/6回) 看護職者の倫理綱領と看護倫理、誠実・正義・忠実の原理を中心とする問題の理解と討議 (40 Katsumata Asako Takekuma/2回) 看護職者の倫理綱領と専門看護師の役割・機能 (521 山下美智代/4回) 善行の原理を中心とする問題の理解と討議、自律の原理を中心とする問題の理解と討議 (125 野口恵美子/1回) 生命倫理 (242 川野亜津子/2回) 生殖医療に関する葛藤の事例 (33 岡山久代/5回) 生命倫理、助産実践における倫理事例</p>	オムニバス方式
	周産期のフィジカルアセスメント	<p>助産領域におけるエビデンスに基づいたフィジカルアセスメントの知識と技術を習得する。そのうえで、エビデンスに基づいた創造的看護実践についてディスカッションを通して学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(79 志賀隆/2回) 妊娠・分娩・産褥に関する解剖・生理学 (242 川野亜津子・444 金澤悠喜/5回) 妊娠期・分娩期・産褥期のフィジカルアセスメント (342 宮園弥生/1回) 新生児のフィジカルアセスメント (242 川野亜津子/2回) 妊娠・分娩・産褥期の超音波診断、胎児のフィジカルアセスメント：NST/CTG</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	国際保健・公衆衛生看護学特論	<p>この科目の授業目標は以下の3点にある。①World Health Organization(WHO)のPrimary Health Care等の国際看護理論や国際保健の実践モデルについて学び、グローバルヘルスへの看護の役割を理解する。②国際的な視野でのエンパワメント理論に基づく発達ケアの研究手法、実践技術を学び、研究の展開を考える。③国内外の様々な住民を対象とした疫学研究成果を健康支援活動に展開するための疫学的研究方法や実践の実例を学ぶとともに、わが国における保健行政や医療・介護保険の仕組みを理解し、学校・地域・職域など様々な人々へのQOL向上を目的とした公衆衛生学・公衆衛生看護学的な健康支援を考案する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma・469 杉本敬子・482 Togoobaatar Ganchimeg・492 福澤利江子/5回) 目標①を担当する。 (7 安梅勅江/5回) 目標②を担当する。 (78 山海知子・225 大宮朋子・476 出口奈緒子・196 我妻ゆき子/10回) 目標③を担当する。</p>	オムニバス方式
	国際保健・公衆衛生看護学演習	<p>グローバルヘルスにおける看護研究、エンパワメント理論に基づく発達ケアに関する研究、疫学並びに学校保健・地域保健における公衆衛生学および公衆衛生看護学研究の文献クリティーク等を通じて、研究の動向と課題を捉え、研究への展開を探究する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma, 469 杉本敬子, 482 Togoobaatar Ganchimeg, 492 福澤利江子/7回) グローバルヘルスに関する演習を担当する。 (7 安梅勅江/6回) エンパワメント理論に基づく発達ケアに関する演習を担当する。 (78 山海知子, 225 大宮朋子, 476 出口奈緒子/7回) 疫学、公衆衛生学・公衆衛生看護学を担当する。</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学特論	<p>思春期から成熟期・更年期にかけての女性の健康に焦点を当て、ウィメンズヘルスの視点から看護の方法を体系的に把握する。海外の文献を中心に論文講読を行い、女性と家族の健康と看護に関する最新の研究動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解する。</p>	共同
	ウィメンズヘルス看護学演習I	<p>思春期から更年期にある健康リスクの高い女性あるいは健康問題を抱えた女性について、科学的思考を実践に生かすために、より高度な看護活動の方策、研究課題や研究方法、看護実践の質を評価する意義と方法等について理解し、看護実践研究の基礎的能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(33 岡山久代/9回) 健康問題のある女性と家族への支援、ウィメンズヘルス看護学・助産学領域の研究対象と研究動向、健康リスクのある女性への支援に関する論文クリティーク、母子関係・母性性の発達過程の障害と支援に関する論文クリティーク、ウィメンズヘルス看護学・助産学領域の研究の今後の方向性 (242 川野亜津子/8回) 周産期女性の健康障害と看護に関する論文クリティーク、家族・サポートシステムの障害と看護に関する論文クリティーク (444 金澤悠喜/3回) 胎児・新生児の障害と支援に関する論文クリティーク</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学演習II	<p>思春期から更年期の発達課題にそった健康支援における最新の研究内容および水準を理解し、実践科学として意味のある研究計画を作成する能力を修得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/8回) 性成熟期の健康支援に関する研究論文のクリティーク、包括的文献レビューと討論 (33 岡山久代/7回) 思春期・更年期の健康支援に関する研究論文のクリティーク (444 金澤悠喜/5回) 周産期の健康支援に関する研究論文のクリティーク</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ウィメンズヘルス看護学演習III	<p>ウィメンズヘルス看護学・助産学領域における看護実践や文献等から研究テーマを見出し、課題に則した研究デザイン、研究計画を検討し、自らが取り組むべき研究課題を探索できる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(33 岡山久代/4回) ウィメンズヘルス看護学、助産学領域における課題の探索 (242 川野亜津子/12回) リサーチクエスションの明確化、課題研究の計画と検討、倫理審査書類の作成、研究計画書検討会 (444 金澤悠喜/4回) 研究デザインの作成 (242 川野亜津子・33 岡山久代・444 金澤悠喜/10回) 研究計画発表</p>	オムニバス方式
	ウィメンズヘルス看護学演習IV	<p>授業概要：科学的根拠に基づいたケアを提供するために、周産期および女性の生涯を通じての助産実践について、Evidence-baseで思考し、研究していく過程について、ウィメンズヘルス看護学・助産学分野の研究を例に、講義、討議、および演習を通して学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(33 岡山久代/14回) 助産ケアにおけるEvidence-based practiceの現状、助産に関するRCTを用いた研究、システムティックレビュー (242 川野亜津子/10回) 助産ケアにおけるEvidence-based practiceの研究動向、助産ケアに関するコホート研究 (444 金澤悠喜/6回) 助産に関するシステムティックレビュー、助産ケアの質を評価するための研究</p>	オムニバス方式
	助産学特論I	<p>ローリスク妊産婦および新生児・乳児に対して、高度専門職者としての質の高い助産実践と確かな診断をするための知識・技術および問題解決能力を習得する。助産師の倫理、助産診断とは、妊娠期・分娩期の助産診断、妊娠期・分娩期の医学診断と治療、乳房の診断と母乳育児、産褥期・新生児期の助産診断、胎児・新生児期の医学診断と治療について学習する。</p>	
	助産学演習I	<p>ローリスク妊産婦および新生児に対して、高度な助産実践者として確かな技術と科学的根拠に基づいた助産ケアを提供するための基本的知識・技術を習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/6回) 産褥・新生児の助産診断および基本的な分娩介助法 (444 金澤悠喜・242 川野亜津子/11回) 基本的な分娩介助法の実践、分娩進行の診断に基づいた分娩介助 (444 金澤悠喜/3回) 分娩直後のケア、フリースタイルにおける分娩介助法</p>	オムニバス方式
	助産学特論II	<p>最新の周産期のエビデンスやガイドラインに基づく診断と治療、助産ケアを学ぶ。またローリスクのみではなくハイリスクの管理や、異常の診断と救急処置、異常分娩介助など緊急時の対応方法について学ぶ。さらに、ハイリスク事例を分析し、エビデンスに基づいた助産ケアを検討することにより、臨床における課題について解決するための研究・教育的基礎能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(242 川野亜津子/4回) 帝王切開分娩の管理とケア、ハイリスク妊娠・分娩に対するケア (242 川野亜津子/11回) 胎児機能不全と助産ケア、切迫早産の管理とケア、分娩誘発の管理とケア、NRF Sと分娩管理、母子感染、個別的産科管理と合併症妊娠の対策、脳神経系の発達・神経学的診察法、先天性代謝異常、小児の救急医療 (242 川野亜津子・444 金澤悠喜/2回) ハイリスク妊娠・分娩に対するケア (135 濱田洋実/3回) 妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病の病態と理解、多胎妊娠の病態と分娩管理の実践、産科出血の要因と病態、医療処置</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	助産学演習II	<p>身体的、心理・社会的にハイリスク状態にある周産期の母子とその家族の事例を通して、プライマリーケアを踏まえ、予防・早期発見、異常の診断、周産期救急への対応について、質の高いケアを学ぶ。さらに、ハイリスク事例に関する政策的課題を分析し対策すること、ハイリスク事例に関する臨床の課題を研究的に分析することを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(444 金澤悠喜/5回) 出生直後の新生児ケア、新生児蘇生法、我が国の地域母子保健と子育て包括支援センターの現状 (444 金澤悠喜・242 川野亜津子/5回) ハイリスク妊娠・分娩に対するケア (242 川野亜津子/10回) 低出生体重児を出産した母親と家族のアセスメントと育児支援、母子保健と地域連携：要支援事例、疾患をもつ子どもと家族のアセスメントと支援、分娩時の救急対応、ペリネイタルロス、感染症・予防接種、遺伝カウンセリング</p>	オムニバス方式
	助産学特論III	<p>質の高い助産ケアを提供するための実践能力を育成する教育、助産ケアの質を保証するための組織における管理方法について学習する。また、母子保健サービスの領域における高度な専門職者に求められる管理能力について学習する。</p> <p>助産師に求められるウィメンズヘルスケア能力、助産師の高度実践教育、助産業務ガイドライン、産科医療保障制度、助産師のキャリアプラン、助産実践能力の評価、助産所の開設と法的義務・規則、助産における人材育成と教育、大学病院でのトップマネジメント、パースセンターの立ち上げと管理、MFICUの管理、産科病棟および産科外来管理の実際について学習する。</p>	
	助産学演習III	<p>助産の質を評価し保障することについて助産管理の視点から研究的に学習する。エビデンスに基づく助産ガイドラインをクリエイトすることにより、研究的視点で助産ケアを学習する。また、助産院の開設・運営に必要な事業計画を作成することにより、助産ケアの質を保証するための管理について学習する。</p>	共同
	助産学実習I	<p>ローリスクの妊産婦および新生児の助産ケアについて、科学的根拠に基づいた実践が可能となる能力を習得する。また、助産実践の過程を通じて、対象への問題解決能力と個別対応が可能な能力、さらには高度専門職者としての助産観を育む。</p> <p>(分娩介助実習 10例) 正常な分娩経過の産婦を受け持ち、分娩期の経過診断と分娩予測、健康生活診断を行う。助産診断に基づき、ケアプランを作成・実施する。分娩介助を行い、その後、退院まで褥婦と新生児のケアを行う。</p> <p>(継続事例実習 1例) ローリスクで、経膈分娩が可能と予測される妊婦を継続事例として受け持つ。妊娠中期から受け持ち、妊婦健康診査に合わせて外来実習を行う。妊娠期には必要な保健指導を計画・実施する。分娩介助を行い、その後、退院まで褥婦と新生児のケアを行う。産褥入院中に必要な保健指導を計画・実施する。産後2か月頃に家庭訪問を実施する。</p>	共同
	助産学実習II	<p>ハイリスク事例とその家族を対象に、科学的根拠をもって個別対応の助産過程を展開し、可能な範囲でケアの実際に関与する。また、受け持ったケースをレポートにまとめることでケアの質の改善に向けた研究課題、政策的課題、助産実践能力の養成について検討する。</p> <p>(妊娠期ハイリスク実習) MFICUに産科合併症で長期安静入院・薬物治療を要する妊婦を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索する。</p> <p>(分娩・産褥期ハイリスク実習) 帝王切開分娩の母児を受け持ち、助産ケアを展開するとともに、ケアの質の改善に向けた課題を探索</p> <p>(NICU・GCU実習) 入院児を受け持ち、看護ケアを展開するとともに、母児へのケアの質の改善に向けた課題を探索する。</p>	共同
	発達支援看護学特論	<p>講義および文献詳読をとおして、発達支援看護学の視点から科学的根拠に基づいた看護の方法を体系的に教授する。また、子ども・女性・家族の健康と看護に関する最新の動向を理解し、看護課題およびそれらを解決・評価する方法や理論を理解できるよう導く。</p>	共同
	家族看護学特論	<p>講義および討議をとおして、小児を教育する家族を中心に、家族を取り巻く社会や地域、保健医療制度のなかで家族への支援調整ができる能力を教授する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族看護学演習	講義および討議をとおして、家族看護専門看護師による卓越した介入が必要な患者やその家族の健康や生活に関するアセスメント、家族への具体的な看護介入の方法、家族員の健康障害に関わる治療の過程について教授する。	共同
	家族看護トランスレーショナル・リサーチ演習	<p>家族看護援助方法に関する最新の研究動向を調査・整理し、家族への独創的な新しい看護援助法の検討や、臨床の場で有効性や安全性の検討等を行う能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/3回) トランスレーショナル・リサーチの概要および家族を対象とした調査研究の手法についての教授 (482 Togoobaatar Ganchimeg/3回) リサーチレビューについて教授および討議 (33 岡山久代/2回) 家族看護領域の国内研究の動向 (268 柴山大賀/2回) 家族看護領域の国内研究の動向と新しい実践方法の検討 (40 Katsumata Asako Takekuma/3回) 家族を援助するための新しい実践方法の検討および実践に向けてのトランスレーショナルリ (492 福澤利江子/2回) 家族を対象とした調査研究の手法についての教授 (437 小澤典子/3回) 新しい実践方法の検討と研究計画立案の討議 (369 涌水理恵、437 小澤典子/2回) 研究計画立案・倫理についての教授</p>	オムニバス方式
	家族生活アセスメント学	<p>家族看護の対象である家族を系統的に捉え、家族の健康および生活をアセスメントするために必要な理論および方法とその活用について知識および能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/5回) 家族のセスメントツールについての討議および高齢者を介護する家族のアセスメント (437 小澤典子/3回) 家族のアセスメントモデルについての討議 (514 牟田理恵子/2回) 慢性疾患患者および家族のアセスメントについての討議 (469 杉本敬子/2回) パーストラウマに関する母子および家族のアセスメントについての討議 (175 森千鶴/2回) 精神疾患を有する患者の家族のアセスメントについての討議 (225 大宮朋子/2回) 地域で暮らす患者家族のアセスメントについての討議 (142 日高紀久江/2回) 意識障害を持つ患者家族のアセスメント (369 涌水理恵、437 小澤典子/2回) 家族アセスメントツール・モデル活用事例についての討議</p>	オムニバス方式
	家族アセスメント/インターベンション学	<p>事例を通していくつかの特徴的な家族の「機能」「構造」「成長・発達区分」のアセスメントおよび、家族看護過程を展開する能力を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(369 涌水理恵/4回) 家族アセスメントとインターベンションについての概説および家族カウンセリング・家族療法についての討議 (437 小澤典子/4回) 小領域の家族症候のアセスメントと看護過程についての討議、および小児がんターミナル期の患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議 (225 大宮朋子/2回) 家族のストレス対処力についての教授 (242 川野亜津子/2回) 妊娠期から産後の母親のアセスメントおよび看護過程についての討議 (425 伊藤智子/2回) 訪問看護を受ける患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議 (423 阿部吉樹/2回) 慢性疾患を有する患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議 (468 菅谷智一/2回) 精神疾患を有する患者家族のセスメントおよび看護過程についての討議 (521 山下美智代/2回) 急性期にある患者家族のアセスメントおよび看護過程についての討議</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	家族看護実践学	<p>家族を対象とし看護介入について、理論を復習しつつ事例を検討する能力を教授する。また健康障害を有する家族員の治療の過程を踏まえたうえで、家族に援助計画（看護介入）を立案し、専門看護師の役割・機能に照らし合わせながら科学的に介入を評価する能力を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（369 涌水理恵／6回）家族を対象とした理論及びモデルについての教授および小児患者と家族を対象とした看護過程についての討議 （437 小澤典子／2回）がん患者と家族を対象とした看護過程についての討議 （369 涌水理恵・437 小澤典子／12回）実習と並行して受け持ち患者家族のアセスメントおよび計画立案の実施と評価修正についての討議</p>	オムニバス方式
	家族看護学基盤実習	<p>家族看護に関する専門的知識に基づき、家族をアセスメントする能力と家族支援の実戦能力の基盤となる能力を家族看護過程の展開を通して教授する。</p>	共同
	家族看護学展開実習	<p>家族看護に関する専門的知識に基づき高度な実践能力、さらに援助成果について科学的に評価できる能力を教授する。また家族看護のケア開発能力および倫理的判断能力を教授する。</p>	共同
	家族看護学統合実習	<p>看護科学特別実習および家族看護学実習Iで習得した援助方法を活用して、健康障害を抱えている家族員と家族に対して健康障害査定や家族査定の能力および看護介入能力を教授する。</p>	共同
	がん看護学特論I	<p>がん患者の保健行動を理解するために必要な看護理論・基本概念をテーマとして討論を行い、専門的ながん看護を行っていく上で基盤となる主要理論ならびにその活用について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／8回）自己概念、社会学習理論 （521 山下美智代／8回）ストレス・コーピング、ソーシャルサポート （514 牟田理恵子／4回）QOL</p>	オムニバス方式
	がん看護学演習I	<p>がん患者や家族によくみられる問題をアセスメントし援助する方法を教授するために、専門的ながん看護を实践する上で基盤となる主要理論を用いた援助プログラムを題材に、その主要理論を活用しながら、がんがもたらすあらゆる苦痛症状及び苦痛を包括的に理解し、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合して適切に提供する方法について教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／10回）認知行動療法 （521 山下美智代・514 牟田理恵子／10回）危機介入療法</p>	オムニバス方式
	がん看護学特論II	<p>がん看護において重要な、治療の選択、診断・治療、病名・予後告知、種々の症状に伴う諸問題を的確にアセスメントし、包括的な支援を提供できるための看護援助の方法を教授する。</p> <p>（オムニバス方式／全20回）</p> <p>（171 水野道代／4回）治療の選択 （521 山下美智代／8回）遺伝診断、家族ケア （514 牟田理恵子／8回）病名・予後告知、症状管理</p>	オムニバス方式
	がん看護学演習II	<p>がんによる苦痛症状および苦悩を抱える患者・家族を包括的にアセスメントし、その苦痛症状および苦悩を緩和するために理学療法的介入や心理的支援などの看護実践指針を作成する。作成をした看護実践指針とその評価は発表を行い、医療スタッフやがん看護の専門家を交えた討議をとおして、科学的、実証的、論理的妥当性のある看護実践指針を作成する方法について教授する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	がん看護学特論III	<p>薬物療法や代替・相補療法などを用いて創意工夫をこらしながら、がんがもたらすさまざまな苦痛症状および苦悩を緩和するために必要な能力を習得させるために、専門看護師の役割と機能を踏まえた事例の討議を活用しながら心理、社会、霊的な援助に対する知識と・技能について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(171 水野道代・437 小澤典子/4回) 家族支援事例の発表・討議 (521 山下美智代/4回) 臨床判断事例の発表・討議 (514 牟田理恵子/12回) コンサルテーション、コーディネーション、教育事例の発表・討議</p>	オムニバス方式
	基礎腫瘍学特論	<p>病態生理学全般の中から、特に、腫瘍の発生・進展プロセス、がんの診断や病期決定・経過観察のために必要な種々の検査方法に関して、がん看護に関連した専門的な知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/計10回)</p> <p>(171 水野道代/4回) 基礎腫瘍学、がん発生と予防、(内科的・外科的)治療について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (521 山下美智代/3回) がん検査医学について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (514 牟田理恵子/3回) 悪性腫瘍の疫学治療について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。</p>	オムニバス方式
	臨床腫瘍学特論	<p>病態生理学全般の中から、特に、代表的な治療法および代表的疾患(腫瘍)の標準治療および症状管理に関して、がん看護に関連した専門的知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式/計10回)</p> <p>(521 山下美智代/5回) 代表的疾患(腫瘍)の標準治療および症状管理、oncology emergency/支持療法について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識 (171 水野道代/3回) 薬物療法の諸理論、がん看護における腫瘍学知識の活用について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。 (514 牟田理恵子/2回) 放射線腫瘍学/放射線生物学について、e-ラーニングで学習した知識に基づいた討議を通してがん看護専門看護師に必要な知識を教授する。</p>	オムニバス方式
	緩和ケア特論	<p>がん患者に頻繁に見られる苦痛症状をマネジメントする上で必要な医学的知識を教授し、それらの苦痛症状が患者の身体面、心理面、社会面に及ぼす影響を理解するとともに、症状マネジメントに必要な看護援助を探求するために討議を行う。さらに、ケース発表を通してがんがもたらすあらゆる苦痛症状および苦悩を包括的に理解したうえで、エビデンスに基づいてキュアとケアを統合し、適切に援助を提供する方法を考察し、実践能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/計20回)</p> <p>(171 水野道代/13回) 苦痛症状の理解と管理についてe-ラーニングで学習した知識に加え、臨床判断や緩和ケア介入におけるリソース活用法について学生との討議を交えて教授する。 (521 山下美智代/3回) 心理社会的支援について学生との討議を交えて教授する。 (514 牟田理恵子/4回) 緩和ケアにおける看護師の役割、患者・家族とのコミュニケーションについて学生との討議を交えて教授する。</p>	オムニバス方式
	がん看護学実習I	<p>専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、がんの診断・治療に関わる臨床場面(診療や症例・退院調整カンファレンス等)を通して、がん患者の療養管理をするために必要な能力を習得できるよう指導する。</p>	共同
	がん看護学実習II	<p>複雑で対応困難な問題をもつがん患者やその家族への看護を通して、高度ながんの専門的知識・技術・判断能力を用いた質の高い看護援助法の開発、倫理的判断能力を習得できるよう指導する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	がん看護学実習III	がん看護専門看護師の役割（相談・調整・教育・倫理調整）を実践の場で遂行できる能力を習得できるよう指導する。	共同
	精神保健看護学特論	専門性の高い精神看護を行う上で必要な精神保健医療福祉に関する制度と体制、精神的な問題を抱えた人の精神・身体状態の評価に必要な理論と方法、精神力動理論に基づいたアセスメントについて、心身相互作用の面、精神科診断学の側面、精神科臨床検査から理解できるよう講義及びプレゼンテーション、討議を通して学習を深める。	共同
	精神保健看護学演習	精神的な問題を抱えた人とその家族に対して、専門性の高い精神看護を展開する上で必要な精神領域の治療に関する理論と方法、看護介入の理論と方法について、講義と演習、討議、またプレゼンテーションを通して学習を深める。 また、精神科治療の技法を理解し、セルフケア理論や対人関係理論に基づく看護介入方法、ケースマネジメント及び精神科チーム医療について学習する。 (オムニバス方式/全20回) (175 森千鶴/16回) 精神科治療技法と看護：薬物療法、精神力動的介入、行動療法、認知行動療法、SST、心理教育、危機介入、認知行動理論に基づく看護介入、精神科ケースマネジメント理論と介入、精神科リーム医療の展開 (468 菅谷智一/4回) 対人関係論に基づく看護介入、セルフケア理論に基づく看護介入	オムニバス方式
	精神看護学特論I	精神看護の専門看護師として、ケアとキュアを融合した高度な実践に必要な精神保健医療福祉の制度と体制に関する知識、精神的な問題を抱えた人とその家族の理解および精神・身体状態の評価に必要な基礎的理論と方法について、講義及び学生自身のプレゼンテーション、研究論文のクリティーク、討議を通して学習する。 特に精神・身体状態のアセスメントにあたってセルフケア理論や精神機能の発達、心理社会的成長発達の特徴をふまえた討議を通して学習を深める。	共同
	精神看護学特論II	精神看護の専門看護師として、ケアとキュアを融合した高度な実践に必要な精神科薬物療法と精神療法に関する概論と各論について、講義および事例や最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学習する。 特に慢性期にある精神疾患をもつ患者の理解を深め、対象者が受けている薬物療法、精神療法、認知行動療法、自律訓練法などの治療法を理解し、対象者への指導方法について討議を通して学習を深める。 (オムニバス方式/全20回) (175 森千鶴/14回) 精神科薬物療法、精神療法概論、精神療法各論、行動療法、認知行動療法理論とその具体例 (468 菅谷智一/6回) リラクゼーション法、自律訓練法、漸進的筋弛緩法、危機理論	オムニバス方式
	精神看護学特論III	精神看護の専門看護師として、慢性期精神疾患患者へのケアとキュアを融合した高度な看護実践を展開するために必要な理論と方法について、講義および事例展開、最新の研究に関する学生自身のプレゼンテーション、討議を通して学習する。 特に慢性期精神疾患である統合失調症、アディクション傾向のある患者、遷延性うつ病患者の特徴を理解し、精神機能の評価及び生活状態のアセスメント方法について討議を通して深く学習する。	共同
	精神看護学演習I	精神看護の専門看護師によるケアとキュアを融合した高度な看護介入が必要な患者やその家族に対するアセスメントと具体的な看護介入方法について事例展開をすることによって学習する。特に急性期、回復期、慢性期の違いについて理解し、それぞれの時期に必要な看護介入方法について討議し、活用方法を演習する。また精神療法の技法である認知行動療法やSST・心理教育などを体験することによって理解を深める。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	精神看護学演習II	精神看護の専門看護師に必要な機能と役割である、高度実践、コンサルテーション、倫理調整、コーディネーション、教育、研究活動について、事例の分析とエビデンスに基づく援助計画の立案、討議を通して学習する。特に倫理調整では処遇困難事例や重度の慢性疾患患者や家族の葛藤について事例を分析することによって理解を深める。またケースマネジメントや精神科医療チームにおける専門看護師の役割について討議を通して理解を深める。	共同
	精神看護学実習I	ケアとキュアを融合した高度な精神看護実践に必要な精神看護に関連する理論・技法に基づき、また精神看護学演習Iで立案したケアプランに沿って、専門性の高い看護ケアを実施し、科学的視点から評価を行う。精神看護専門看護師としてケアとキュアを融合した高度な看護実践能力を習得する。 学生は2名以上の患者を受け持ち、診療場面や治療について理解を深め、医療チームメンバーと連携を踏ると共に、実践内容について文献を活用したり、専門看護師との討議を通して評価を行う。	共同
	精神看護学実習II	精神看護学実習I、看護科学特別実習（CNS役割実習）を基盤とし、精神看護学演習II、精神看護学特論IIIで立案したケアプランに沿って、慢性期精神疾患患者に対してケアとキュアを融合した高度な看護ケアを実施し、科学的視点から評価する。慢性期精神疾患患者のQOLの向上をめざしたケアとキュアを融合した高度な看護実践能力、さらに援助成果について科学的に評価できる能力を習得する。 特に倫理調整や精神科保健医療福祉チームでの調整が必要な患者を2名以上受け持ち、看護実践を行い、文献を活用したり専門看護師との討議を通して評価を行う。	共同
	慢性看護学特論I	講義と討議により、慢性、病者や家族が抱える慢性病特有の複雑で解決困難な問題とその背景および、そのような状況におかれる人々の行動理解に役立つ諸理論を教授する。 (オムニバス方式/全20回) (142 日高紀久江/4回) 慢性病者の特徴と看護の役割の講義と討議 (268 柴山大賀/4回) 病みの軌跡の講義と討議 (201 浅野美礼・489 萩野谷浩美/4回) (共同) 看護理論の講義と討議 (268 柴山大賀・423 阿部吉樹/4回) (共同) 慢性看護の理論の講義と討議 (142 日高紀久江・268 柴山大賀・201 浅野美礼・423 阿部吉樹・489 萩野谷浩美/4回) (共同) 慢性看護の理論の実践応用に関する討議	オムニバス方式 共同 (一部)
	慢性看護学演習I	演習形式で、慢性病者の複雑な状態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントの方法を修得し、高度実践に応用可能な標準的な看護計画を立案する。看護計画は、専門領域の代表疾患事例について看護理論や健康行動理論を活用して立案し、身体機能、生活、心理社会の各視点を網羅したアセスメントツール、問題（看護診断）の抽出および問題構造の明確化(関連図)、解決目標と介入プランの実際（他職種との連携を含む）、介入効果の評価方法、のすべてを含むものとする。	共同
	慢性看護学特論II	慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術の理論と方法について理解することを目的としており講義形式で実施する。慢性病の発症予防、発病期、慢性安定期、急性増悪期、進行期、終末期、各病期の経過の特徴の理解（計6回）と、慢性病の各病気に対応する支援技術として、慢性疾患の予防、診断・治療、患者の自己管理支援や患者教育、リハビリテーション、症状マネジメント、ターミナルケアについて学習を深め、また慢性病の治療やケアには自己決定を要することが多いため患者の権利擁護や自己決定支援についての理解を深める（計14回）。	共同
	慢性看護学演習II	ロールプレイや実技演習を通して慢性病の様々な変化する時期に対応した支援技術を学習し、高度看護実践の場で応用可能な支援技術を習得することを目標とする。授業は演習形式で行い、慢性病の発症予防のための健康教育、診断ならびに治療に伴う専門的な看護支援、患者の自己管理支援、症状の維持向上を目的としたリハビリテーション、長期的な視点で考える症状マネジメントや患者教育、ターミナルケア、そして患者と家族を対象とした権利擁護や自己決定支援などの倫理調整について、計10項目の支援技術についてその実際を学ぶ。	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	慢性看護学特論III	<p>慢性病者に適用される医療・福祉の制度や体制、および質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策とその評価方法について学習することが目的であり、講義形式で実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(142 日高紀久江/16回) 慢性病者を支える保健・医療・福祉制度、質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策 (7 安梅勅江/2回) 質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策：コミュニティ・エンパワメント (201 浅野美礼/2回) 質の高い生活に向けた地域社会支援の革新方策：看護情報の管理</p>	オムニバス方式
	慢性看護学特論IV	<p>講義と討議により、慢性病者の治療環境を質の高い生活に向けて調整する方策とその評価方法の理論と実際について教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(268 柴山大賀/8回) 病棟・外来・地域における治療環境の調整の講義と討議 (201 浅野美礼/2回) 病棟における治療環境の調整の講義と討議 (423 阿部吉樹/4回) 地域・職場における治療環境の調整の講義と討議 (142 日高紀久江/2回) 居宅における治療環境の調整の講義と討議：在宅看護の現状と課題 (489 萩野谷浩美/2回) 居宅における治療環境の調整の講義と討議：在宅での患者・家族への指導 (78 山海知子/2回) 職場における治療環境の調整の講義と討議</p>	オムニバス方式
	慢性看護学演習IV	<p>演習形式で、病棟、外来、地域、居宅、職場のそれぞれの臨床現場を見学し、関連する文献の検討結果をふまえて、教員、慢性看護の専門家、学生同士で討議を行うことをとおして、慢性病者の治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策の実際について考察を深める。授業計画としては、5つの場のそれぞれについて、現地の見学とその後の文献検討と討議で2回分とし、合わせて10回で構成する。</p>	共同
	慢性看護学実習I	<p>医療機関において慢性病の医療、看護の実践経験をもつ看護師、医師、大学教員の指導のもと、地域社会で療養生活を営む慢性病者を対象に実習を行う。</p> <p>実習内容として、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理についての理解を深め、治療環境や地域社会での療養生活の質を高めるために必要な調整の方策の実際について学習することを目的にしている。</p>	共同
	慢性看護学実習II	<p>専門的能力を有する看護師および大学教員の指導のもと、多様な治療環境（病棟・外来・地域）において支援対象者を設定し、入院から退院後の期間にわたる支援を継続することにより、慢性疾患看護専門看護師の役割機能を各自の専門領域に関して実践する。授業計画としては、病棟、外来における慢性疾患医療が実施され、地域との連携が充実している医療施設において、高い専門性を持つ看護師の指導のもと実習を行う。発病期または急性増悪により入院した慢性疾患患者を受け持ち、包括的なアセスメントに基づいて、専門看護師の役割を発揮するための支援計画を立案し、実施、評価する。実習での実践内容については、実践・相談・調整・倫理調整・教育・研究のそれぞれの視点から実習報告書を作成する。</p>	共同
専門科目（共通）	インターンシップ	<p>看護実践経験を持たない学生が、看護を科学的に捉える実践経験を得るための実習である。学生は病院、学校、保健所・保健センター、訪問看護ステーションなどで自らの課題に応じた計画を主体的に実践、評価し、看護科学特別研究に繋がるように探求する。授業計画としては、学生自らが設定した課題について実習計画を立案し、実習施設の調整を主体的に行い、実習計画に基づいた実践と評価をしたのち、その成果を報告書としてまとめる。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	看護科学特別実習	看護学における高度専門職業人になるための自分自身の課題を明確にし、自己成長するために、看護職としての自分自身の現状をアセスメントし、個人の現状に合致した場において課題を設定し研究的視点を持ちながら実践する実習である。さらにそこで得られた知見を、臨地における実証的研究として特別研究につなげられるように探求する。授業計画としては、学生自らが設定した課題について実習計画を立案し、実習施設の調整を主体的に行い、実習計画に基づいた実践と評価をしたのち、その成果を報告書としてまとめる。	
	看護科学特別研究	<p>看護科学に関する各専門研究領域で、各専任教員が指導学生に対して、科学的視点から文献検索、研究計画書の作成、研究デザイン、データ収集、データ解析、結果の考察、倫理的配慮など一連のプロセスを通して、修士論文または特定の課題についての研究成果の作成に向けた研究指導を行う。</p> <p>(7 安梅勅江) 国際発達ケアおよびエンパワメント科学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(33 岡山久代) 周産期のメンタルヘルスやウィメンズヘルス看護学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(78 山海知子) 公衆衛生学、疫学（コホート研究など）、産業保健、地域健康学に関する課題の研究指導を行う。</p> <p>(40 Katsumata Asako Takekuma) 国際看護、プライマリヘルスケア、看護倫理、高齢者ケア、看護管理に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(142 日高紀久江) リハビリテーション看護学や慢性看護学に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(171 水野道代) がん看護や緩和ケアに関する研究課題について、適切な研究手順により調査を実施し、その結果を系統的に示すために必要な研究能力を教授しながら、研究指導を行う。</p> <p>(175 森千鶴) 精神科リハビリテーション看護や看護学教育に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(201 浅野美礼) 主に成人の療養環境におけるソフト面（看護情報の活用）あるいはハード面（物理的な生活環境）に関する課題について、機能や効能を測定する方法を開発・改良することをめざした研究指導を行う。</p> <p>(225 大宮朋子) 公衆衛生看護学、健康社会学、産業保健、学校保健に関する研究の実践、指導ならびに健康生成論salutogenesisに立脚したヘルスプロモーション、ストレス対処に関連した研究についての論文指導を行う。</p> <p>(242 川野亜津子) 周産期の健康支援と家族発達支援、精神的・身体的ストレスマネジメントに関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(268 柴山大賀) 量的手法を用いて、成人期にある慢性疾患患者に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(369 涌水理恵) さまざまな生活環境あるいは発達段階また健康状態にある子どもと家族に関する研究課題について、質的・量的の手法を用いて、臨床実践やアプローチに主眼をおいた研究指導を行う。</p> <p>(423 阿部吉樹) 慢性看護学に関する課題のうち、とくに学生が強く関心をもっている課題に対する研究指導を行う。</p> <p>(437 小澤典子) あらゆる健康状態にある子どもと家族に関する研究課題について、質的・量的の手法を用い、研究指導を行う。</p> <p>(469 杉本敬子) グローバルな視点での、母子保健、ウィメンズヘルス、ヘルスケア教育に関連したトピックについて研究指導を行う。</p> <p>(489 萩野谷浩美) 看護技術、および看護教育、患者のストレス評価等に関する研究指導をする。</p> <p>(492 福澤利江子) 女性の周産期の体験の国際比較、出産中の継続的・非医療的支援（ドゥーラサポート）、尺度翻訳と文化的改変、プライマリヘルスケアに関連したトピックの研究について研究指導を行う。</p> <p>(521 山下美智代) 急性期にあるがん患者及びがん体験者への支援に関する課題について研究指導を行う。</p> <p>(482 Togoobaatar Ganchimeg) 公衆衛生学・疫学の分野で発達している最新の研究方法を看護研究に活かすため、主に母子保健分野における国際共同研究プロジェクトの計画と実施、システムティックレビューの方法論、海外論文の読み方、統計的手法について研究指導を行う。</p> <p>(444 金澤悠喜) ウィメンズヘルス看護学および助産学の分野を専門とし、特に子どもが誕生後の夫婦関係および親への発達過程や育児支援に関する研究指導を行う。</p> <p>(468 菅谷智一) 精神科看護、児童・思春期精神科看護、活動集団療法等、精神看護に関する課題について研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(514 牟田理恵子) がん看護および緩和ケアに関する課題について 研究指導を行う。 (476 出口奈緒子) 学校保健を中心とした公衆衛生看護学に関する 課題について研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
体育学 関連科目	専門基礎科目 研究基礎科目 体育・スポーツ学分野研究方法論	人文社会科学の研究にとって必要な知識基盤として、様々な研究方法論の基礎を学習する。論文執筆のために必要な手順について理解し、人文社会科学の研究方法論について興味を持ち、理解するための基礎を自ら学んでいくことを目的とする。 (オムニバス方式/全10回) (148 深澤浩洋/1回) (1) イントロダクション (554 清水論/1回) (2) 社会調査の手法 (219 大石純子/1回) (3) 歴史研究I:文献学的手法 (148 深澤浩洋/1回) (4) 科学的思考とは何か:哲学的思考、科学的思考 (299 仲澤真/1回) (5) 数理統計的手法I:大規模社会調査とデータ分析 (65 坂入洋右/1回) (6) 心理臨床的方法:カウンセリング (530 李燦雨/1回) (7) 歴史研究II:歴史人類学的手法 (266 澤江幸則/1回) (8) 数理統計的手法II:質問紙調査とデータ分析 (457 國部雅大/1回) (9) 数理統計的手法III:実験計画法と統計データ分析 (65 坂入洋右/1回) (10) 研究計画書を書く:プロジェクト申請、博士論文への手順	オムニバス方式
	健康体力学分野研究方法論	体育学における健康体力学分野の研究に必要な概念と研究方法について学び、自ら研究計画を立案できる基礎を作る。 (オムニバス方式/全10回) (161 前田清司/1回) 健康体力学分野における様々な研究方法について概説し、文献研究、研究計画、研究実施、研究成果の公表など、一連の研究の手順について解説する。 (150 藤井範久/1回) ヒトを対象としたバイオメカニクスに関する研究方法について、身体の力学的構造と機能や動きの観点から解説する。 (220 大藏倫博/1回) ヒトを対象とした健康増進に関する研究方法について、特に運動による介入研究の観点から解説する。 (234 麻見直美/1回) ヒトを対象とした栄養学に関する研究方法について、特に食事による介入研究の観点から解説する。 (48 木塚朝博/1回) ヒトを対象とした発育・加齢研究に関する研究方法について、幼少年期、青年期、中高年期における運動の観点から解説する。 (100 武田文/1回) ヒトを対象とした公衆衛生学的研究に関する研究方法について、健康、心理社会的変数、質問紙、横断・縦断調査の観点から解説する。 (28 大森肇/1回) 動物を対象とした生理・生化学的研究に関する研究方法について、組織、臓器、全身レベルの観点から解説する。 (101 武政徹/1回) 動物を対象とした分子生物学的研究に関する研究方法について、遺伝子、蛋白質、細胞レベルの観点から解説する。 (92 征矢英昭/1回) 動物からヒトへの橋渡し研究に関する研究方法について、特に運動に関連するトランスレーショナルリサーチの観点から解説する。 (120 西嶋尚彦/1回) 健康体力学分野の研究に必要な統計学的手法について、特に統計の必要性や統計方法の観点から解説する。	オムニバス方式
	コーチング学分野研究方法論	コーチング学の様々な研究方法に関して方法別に学ぶ。コーチングを学問として捉えるには様々な分野研究方法を学ぶ必要がある。学際的に応用できるように、様々な角度から学習を行う。 第1回 イントロダクション:研究方法の紹介、第2回 コーチング学研究法:チームマネジメント、コーチング原論、第3回 バイオメカニクス研究法1:3次元動作分析法、キネマティクス、キネティックス、第4回 トレーニング学研究法:トレーニングの諸原則、体力評価、第5回 質的研究法:エピソード記述、事例、第6回 アンケートの方法:質問紙法、多変量解析、第7回 運動学研究法:マイネル、現象学的還元、第8回 生理学研究法:最大酸素摂取量、AT、第9回 コーチング学における統計学:確率、基本統計量、第10回 まとめ	
	研究ワークショップ	スポーツ・健康科学分野のテーマに関する研究について、各自の研究をまとめて学会等において発表ができるようになることを目標として、必要な知識と具体的方法を、講義、演習、発表練習およびディスカッションを通して学ぶ。 (オムニバス方式/全10回)	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(65 坂入洋右/3回) テーマ設定と研究計画法、調査法、実験法、観察法・質的研究法について解説する。 (471 仙石泰雄/4回) データ解析法について解説する。 (220 大藏倫博/3回) 発表資料の作成法、研究発表の方法(プレゼンテーション法)について解説する。	
	研究基礎共通実習 (PBL)	本授業は、スポーツ科学や体育科学にかかわる問題を自ら発見し解決する過程を、グループでの協働作業を通して学ぶことを目的とする。授業は、チューターとしての教員と少人数のグループを構成する学生によって進められる。具体的には、毎時間、あるテーマに沿ってシナリオを読み、疑問点を出し合う。そして、問題点を整理し、各自が自分の意見を述べ、さらに深い問題を発見する。まとめとして、個人あるいはグループで問題を解決する方法を探り、レポートする。学生は、こうした過程を通して、発言者の意図を理解し、グループの目的を達成するために効果的なコミュニケーションのあり方を学ぶ。	共同
	健康・スポーツ科学のための統計学	健康科学研究とスポーツ科学研究での実験と調査から得られるデータ分析の手法を実践し、数理モデルなどの理論を理解することを通して、研究データの統計分析の実践技能を養う。 基礎的および先端的健康・スポーツ科学研究に用いる統計的分析法について概説する。 (オムニバス方式/全20回) (120 西嶋尚彦/16回) 大学のサイトライセンスソフトのSPSSとRを使用した研究データの統計分析を実践し、技能を向上させる。統計分析は、平均値構造の分析、分散分析モデルでの分析、共分散分析、相関構造の分析、回帰分析、多変量統計解析と構造方程式モデリング、質的データの要因分析と回帰分析、達成度評価のテスト理論の分析、データマイニング手法での分析などを実践する。 (220 大藏倫博/4回) 健康科学研究における基礎的・応用的なデータの統計分析の実際を講義する。	オムニバス方式
	つくばサマーインスティテュート	Tsukuba Summer Instituteは次の5つのコースからなる短期研修プログラムである。(1) CoRP (Collaborative Research Planning) スポーツのホットトピックに関する研究の計画立案(担当 233 小野誠司)、(2) SPAC (Sport, Physical Activity and Culture in Japan) 日本のスポーツ・身体文化理解(担当 609 松元剛)、(3) LAB (Laboratory Workshop) 運動生理・生化学、神経科学、リハビリテーション等の実験方法(担当 28 大森肇)、(4) IDS (International Development through Sport) スポーツによる国際開発(担当 219 大石純子)、及び(5) QSPE (Quality School Physical Education) 学校体育のカリキュラム、教師教育及び授業研究について; JICA研修員対象(担当 308 長谷川悦示)。大学院受講生はこのうち主に(1)に参加する(条件を満たせば、(5)を除く(2)(3)(4)の参加は認められる)。自国の体育・スポーツの現状と課題、自分の研究について他国の研究者や学生に伝えられること、研究テーマの設定から論文投稿までのプロセスを理解し、自分の研究テーマと研究方法についてプレゼンテーションができること、国際交流や共同研究の重要性を認識することを目標とする。	集中講義 10時間 演習 20時間
	International Sport Policy Studies (国際スポーツ政策研究)	本講義では、主に英国やヨーロッパにおける事例を紹介しながら、スポーツ政策の国際的動向について把握するとともに、それらの諸実践を分析するための理論的枠組みについて理解することを目的とする。具体的には、教員による講義および履修学生によるプレゼンテーションを通じて、開発と平和のためのスポーツ、エリートスポーツ、オリンピック・パラリンピックのレガシーなどに関わる政策を対象としながら、スポーツ政策の国際的動向と課題、そして今後の可能性について学修する。	集中
	Advanced Coach Education (上級コーチ教育論)	トレーニング方法、情報戦略、国際的な動向など、指導者の質保障を多面的にとらえ、指導者育成の観点からコーチ教育について考える。 (オムニバス方式/全10回) (609 松元剛/4回) 「スポーツにおける戦略論」、「スポーツ・コーチングの国際的枠組み」、「Long Term Athlete Development モデル等に対する考え方」、「コーチングにおけるTGfU理論の活用」の4テーマを設定し、国際的枠組みの観点から学ぶ。 (372 渡部厚一/1回) 「アンチ・ドーピングの考え方」について (494 福田崇/1回) 「トレーニング・コンディショニングの意義・事例・研究動向」について学ぶ。 (609 松元剛/2回) 「メンタルトレーニングの意義・事例」、「メンタルトレーニングに関する最新の研究動向」といった心理学	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(691 和久貴洋/2回)「我が国のスポーツシステムの現状と展望・情報戦略」、「日本のトップスポーツの競技力向上の取組と課題」のテーマでスポーツ政策の観点から学びを深める。	
	Management and Organization (経営マネジメント論)	スポーツ国際開発学の理論と実践を概観し、国際的・社会的・文化的な課題解決に向けたスポーツによる取り組みを学ぶ。 講義では、特に開発課題に焦点化して、諸課題の特性と持続可能な平和的社会の実現に向けたスポーツの役割に関して討論形式で学ぶ。 更に、スポーツ国際開発 (IDS) のマッピング、NGOでのIDS活動、組織マネジメント理論、ケース探索と理論的適応などを議論を踏まえて検討する。	集中
	Project Management (プロジェクトマネジメント論)	開発援助の実践力を高めるべくロジックモデルを改変された「プロジェクト・サイクル・マネジメント」に沿った計画・評価の手法を学ぶ。 ・基礎講座：国際協力のトレンド、プロジェクトのPDCAサイクル ・実践講座：ケールスタディーを用いた実践的検討：プロジェクト・サイクル・マネジメント (PCM)、プロジェクト・デザイン・マトリックス (PDM)、評価・モニタリング手法	集中
	JSC Seminar (JSCセミナー)	スポーツの推進に寄与するスポーツイノベーション人材を戦略的に発掘・育成する。日本スポーツ振興センターの持つ資源や事業を活用してスポーツ現場における組織間の越境学習を行い、人材育成ノウハウ、カスタマイズ型の育成プログラムを学ぶ。目標は、以下の通り。 1. 国際舞台において、「1 指導的役割 (コーチング)」や「2 スポーツ事業を企画・推進する役割 (スポーツアドミニストレーター)」を担う人材に求められる資質や能力を育成する。 2. グローバルかつイノベーション人材の発掘や育成、活用のために必要なシステムおよびプログラムなどについて実践的に学習する。プロジェクト会議、ワークショップ、カンファレンス企画及び開催、コンサルテーション活動などを視察・支援するために不可欠な基礎知識や情報、物事の見方等を身につける。	共同
	JSC Project (JSCプロジェクト)	スポーツ界の最前線における多種多様な職務経験の機会を幅広い候補者に提供していく。日本スポーツ振興センターが保有する資源 (各種受託事業、JISS、国際連携等) を活用することによって、パートナーシップ締結団体の組織の壁を越えた「越境学習」プログラムを遂行する。組織や人材の連携と協働、あるいは「スポーツ資源の開発」の基礎的経験を通して、「人の間」に入り尽力するために、自分自身の課題や将来構想のヒントを経営的な視点から整理できる能力を身につける。	共同
	On the Job Practice (Domestic)	日本スポーツ振興センターなどのスポーツおよび国際開発に関連する組織において4週間の研修を行う。 スポーツと国際開発に関連のある組織の活動に関わることにより、実践経験を積む。各自の興味関心、ニーズや強みなどの理解し、組織における事業の特徴や経営方策などを理解する。こうした学習を通して、受講生各自がキャリアプランを構築する。	共同
	Sport, Culture and Society (スポーツ・文化・社会)	スポーツ社会学における理論と実践的研究を基礎にして、スポーツを通じた国際開発と平和構築に関する批判的思考力を身につける。 スポーツと身体に関する具体的事例について討議を行い、権力の作用について学習する。IDS・SDPの理論について理解し、実践に関する批判的思考力を身につける。	
スポーツ文化・経営政策	スポーツ経営学	体育・スポーツの推進に相応しいスポーツ経営の考え方、及び経営組織と事業運営について解説する。まず、各組織体のスポーツ経営に直接・間接的に多大な影響を及ぼすスポーツ関連法および国のスポーツ政策 (スポーツ基本計画2000、スポーツ基本法2011、スポーツ基本計画2012等) について批判的に検討した上で、スポーツ経営の現代的課題とその解決に向けた経営方略を概説する。次に、スポーツ関連法及び政策の理解を基に、学校体育と地域スポーツが直面している経営課題を整理し、この領域におけるスポーツ事業や経営過程をめぐる実態と課題について検討する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
系列	体育・スポーツ哲学	<p>体育ならびにスポーツの概念、現状、背景となる思想・社会的状況について洞察する力を養うことを目指す。体育・スポーツ概念の鍵の一つである身体の捉え方や身体を経験をめぐって、体育哲学とスポーツ哲学のそれぞれのスタンスから講義を行う。</p> <p>スポーツに関しては、身体的契機、知的契機、感性的契機の三契機から、また、体育に関しては、関係性、重層性、超越性という三つの視点から論ずる。</p> <p>こうした基本的な考え方を踏まえつつ、体育・スポーツに関する現代の特徴を取り上げ、哲学的に考察、ディスカッションする。</p>	集中
	スポーツ史学	<p>人間の歩みの総体である歴史、その歴史に対するより正しい認識と解釈を求め人類が試みてきた様々な方法を学習する。資料を取り扱う諸学問に通じる質的研究方法、とりわけ史学の営みを通して、驚嘆する感性と懐疑する精神を身に付け、現代の体育・スポーツを意識的に探究する。講義は、受講生とのコミュニケーションを取りながら講義形式をベースに行い、人類進化の序幕、歴史とは何か、歴史研究とは何か、歴史学における原則、史料収集論、史料解説と解釈、歴史学における理論とスポーツなどを通して、スポーツを史的に探究する。</p>	
	スポーツ産業学	<p>レジャー・スポーツ産業を対象に人文・社会科学的な視点から検討し、レジャー・スポーツ産業に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/10回)</p> <p>(299 仲澤眞/8回) レジャー・スポーツ産業について、消費者行動論および企業行動論を中心に講義する。 (257 嵯峨寿/1回) レジャーの思想とスポーツの関係を中心に講義する。 (282 高橋義雄/1回) オリンピック思想とスポーツビジネスの関係を中心に講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ社会学	<p>スポーツ社会学に関する研究方法や基本的概念について学習する。スポーツと地域の暮しや環境問題などについて様々なトピックスなどを取り上げて、社会学の立場から検討し、討議を行っていく。こうした学習活動を通じて、スポーツ社会学に関する理解を深める。</p>	
	スポーツ政策学	<p>スポーツ政策の現状と課題に対する理解を深めるとともに、スポーツ政策学の理論と視座を考える。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(62 齋藤健司/4回) 国内外のスポーツ政策の動向の現状と課題及び政策学の理論を概説した後、政策決定、政策実施、政策評価などの政策過程論の視点から実際のスポーツ政策を分析する。 (47 菊幸一/3回) スポーツの公共性からみたスポーツ政策の現状と課題、及び文化政策からみたスポーツ政策の特徴について理解する (487 成瀬和弥/3回) 国内の地方自治体のスポーツ政策を中心に、その特徴、現状と課題などについて解説する。</p>	オムニバス方式
	フェアプレイ論	<p>フェアネスの歴史的概観やフェアプレイを奨励する運動を踏まえ、フェアプレイが主張される意味について、複数の価値観、道徳観から考察する。また、フェアプレイを奨励する運動に言及する。実際にフェアプレイに徹するスポーツパーソンを育成するにはどうしたらよいか、どのようにフェアプレイ教育を展開していけばよいかということについて考察し、自分なりの見解を論理的に展開できることを目標とする。毎回あるテーマについて、グループディスカッションを行い、その結果を発表する。</p> <p>フェアネスの概念、スポーツのルールとエトス、フェアプレイの歴史、フェアプレイをめぐる問題の語られ方(個人と組織)、アンフェアの背景、フェアプレイキャンペーン、フェアプレイ奨励の方策、フェアプレイ教育の構想</p>	
	身体文化論	<p>伝統文化、体操、体育、スポーツなどを具体的に取り上げながら、文化的社会的に構築される身体と身体観について理解を深める。文化社会学、歴史学、哲学を基礎にしながら領域を越えて議論し、身体文化に対するアプローチを切り開く。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(148 深澤浩洋/5回) (1)身体文化の背景と枠組み、(2)身体文化の諸事例と枠組みとの関連性、(3)身体文化の可能性、(4)身体の捉え方、(5)コミュニケーションする身体</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(530 李燦雨/5回) (1) 伝統的な武文化―東・西洋の戦士文化、(2) 近代以降の武文化―軍事と体育、(3) 身体の武化から文化へ―訓練から祭りへ、術から芸へ、(4) 戦争で点綴される人類の歴史と文化、(5) 武文化の視点と「我が人生の城」	
	スポーツ法学	<p>スポーツに関する基本法令、判例、法制度及び法的諸問題について概説し、スポーツ法学に関する理論、スポーツ法の体系及びスポーツ法政策の基礎知識を学ぶ。</p> <p>スポーツ法の体系、スポーツ基本法、スポーツ権、スポーツ仲裁法、アンチ・ドーピング法、体育に関する法令、スポーツの知的財産権、スポーツ放送法、プロスポーツ関連法、スポーツビジネス関連法、選手契約などを解説し、議論する。</p>	
	スポーツ行政学	<p>行政学の視点から、日本のスポーツを検討し、中央政府や地方自治体の組織、制度及び政策などについて、その基礎知識を学ぶ。日本のスポーツ行政過程の構造や機能について理解を深める。また、授業の後半(5回目以降)にはグループディスカッションを行う。グループごとに日本のスポーツ問題を検討し、仮説を設定してその問題を解決するための方策を立案する。グループごとに、その内容を発表し、他のグループとディスカッションを行う。</p>	
	スポーツビジネス論	<p>(1) プロスポーツの運営や(2) スポーツメーカーのブランディング、(3) スポーツツーリズムなどを事例に、スポーツとビジネスの関係について理解を深めていく講義である。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(299 仲澤眞/4回) プロスポーツの事例を中心に講義する。 (257 嵯峨寿/3回) スポーツメーカーのブランディングを中心に講義する。 (282 高橋義雄/3回) スポーツツーリズムの事例を中心に講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツを通じた開発論	<p>国際社会では、複雑に相互依存が深化する世界構造の下で、社会課題を改善するために、「地域・地球規模の連携」、「社会関係資本の構築」、「国際的課題の改善」を求める「スポーツを通じた開発」或は「開発と平和のためのスポーツ」行動が地球規模的に展開され始めている。</p> <p>本講座では、国内外の課題を探求し、その課題に対して採られる「スポーツを通じた開発」の事例を各専門領域の理論によって読み解くために議論を交わしながら検討する。</p> <p>(1) 既存研究によるケースの批判的検討(3回)、(2) 課題的検討(2回)、(3) 方法論的検討(2回)、(4) 実践的検討(3回)</p>	
	スポーツメディア論	<p>現代社会におけるスポーツイベントとメディアの親和性について、その歴史について学習し、映像メディアを介して表象化される人種、ジェンダー、ナショナルリティの諸問題について理解を深める。</p> <p>1. スポーツイベントの成立構造について、スポーツの組織と連盟、メディア、資本主義企業、そして代理店の関係から説明することができるようにする。</p> <p>2. 身体パフォーマンスをもとにした集合的想像力と表象、及びその文化政治について例をあげながら説明することができるようにする。</p> <p>3. 人間とメディアとの関係について、歴史を踏まえて、例をあげながら説明することができるようにする。</p>	共同, 集中
	スポーツ文化・経営政策共通実習	<p>スポーツ文化・経営政策に関連する諸事象について問題発見・課題解決能力の涵養を図り、生きた知識を身につけることを目的とする。各自が選択した担当教員の指導の下、スポーツ関連施設や組織等で行われている活動に触れたり調査を行ったりする。</p> <p>(148 深澤浩洋) スポーツ文化に関連するテーマでシンポジウムを企画し実施・運営の実験を経験する。また、オリンピック・ムーブメントに関連するテーマでセミナーやシンポジウムを企画し実施・運営の実験を経験する。</p> <p>(62 齋藤健司) スポーツ政策や法に関する研究会・発表会等を組織、運営し、実際の学会大会の実施を支援し経験する。</p> <p>(299 仲澤眞) 公共性や公益性に配慮したスポーツビジネスの実際と理論について学び、実務者との意見・情報交換を基礎に、スポーツマーケティングについての理解を深める。また、スポーツ経営の実践的領域に赴き、経営実践を経験したり資料を収集し、経営課題の整理とその解決策を検討する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、行政機関、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	スポーツ文化・経営政策インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、行政機関、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	地域スポーツ経営論	地域スポーツをめぐる政策動向とその背景をふまえ、地域スポーツクラブの現代的意義とその組織化の方法論について理解する。まず、地域スポーツ経営領域の特質と固有のミッションを基準としながら、わが国におけるクラブ育成状況やクラブマネジメントの実態を評価する。次に、この現状評価とクラブ理念型との乖離を埋めるクラブの戦略的課題を特定化する。さらに、経営課題を克服するための組織マネジメントの要点を、いくつかのクラブ先進事例から読み解くことで、コミュニティ振興とスポーツ振興の同時達成の方法を解説する。	隔年
	スポーツリスクマネジメント論	スポーツ活動におけるリスクマネジメント理論の応用を検討するとともに、スポーツ事故の法的責任、安全対策および事故防止策についての理解を深める。 リスクマネジメントの枠組み、プロセスなどの理論とそのスポーツへの応用、体育・スポーツ事故の統計データと事故原因、突然死、頭部外傷、脳震盪、熱中症、溺水事故、自然災害などの原因と対策、中止基準、健康調査、スポーツ事故の法的責任、スポーツ施設の法的責任、免責同意書等の法的防御書類などについて、事故事例及び判例を交えて解説する。	
健康・スポーツ教育系列	体育科学習指導論	良質な体育授業を実施するために必要な学習指導上の諸条件とそれを具体化していくために必要な教員の資質について模擬授業の立案計画と実施による直接的な実践体験を通して学修する。体育科教育に必要とされる学習指導方略、学習指導過程、学習組織、学習指導モデルなど専門知識と技能について理解を深める。 受講生は複数の授業者グループごとに、授業計画を立案し、教師役・生徒役・観察者を相互に役割分担して模擬授業を実施する。体育授業を分析する方法と授業を省察する能力の向上をねらって、受講者はe-Learningによる授業評価システムを用いてビデオ収録された授業映像を視聴しながら、観察分析データを参照して授業評価・省察を実施し、反省会ではそれをもとに討議する。第1～3回は指導案作成、第4～6回は模擬授業実施。第7回に中間反省会。第8～10回は修正案による模擬授業実施。第11回は最終反省会（最終課題の確認）を実施する。	
	学校健康教育論	本授業では、学校における健康および安全の課題について、教育的視点から論じる。具体的には、学校における健康教育の現状と課題について解説するとともに、喫煙防止教育、飲酒防止教育、薬物乱用防止教育、食に関する指導、性に関する指導等を取り上げ、その内容と方法について講義する。また、学校における健康教育の指導者として身に付けるべき資質・能力について概説する。本授業を通して、学校における健康教育の課題、考え方や進め方等について、理解を深めることを目的とする。	集中
	アダプテッド・スポーツ教育論	特別支援教育におけるアダプテッド・スポーツ教育について、特別支援教育の制度とアダプテッド・スポーツ、障害のある生徒とアダプテッド・スポーツ、インクルーシブ体育とアダプテッド・スポーツ、体育・スポーツにおける支援という視点から講述し、アダプテッド・スポーツの方法について ICF (International Classification of Functioning, Disability and Health) の概念をもとに説明できること、発達障害のある子どもの実態を複合的に説明でき、発達障害のある子どもの支援に対して多面的にアイデアを出すことができることを目標としている。	共同
	スポーツカウンセリング論	カウンセリングの基本的な理論と技法を理解するとともに、スポーツ競技者や生徒や一般成人の心身の健康増進および競技や日常生活におけるパフォーマンスの向上を目的とした指導や援助の基本的技術を学ぶ。スポーツ競技者や生徒や一般成人の心身の問題の改善やパフォーマンス向上を目的とした心理的サポートとして、指導者や援助者に必要なカウンセリングの理論と方法を、健康心理学およびスポーツ心理学の最新の知見を踏まえて学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	保健社会学	健康の概念に関する医学モデルと社会モデルの各理論、健康づくり、健康増進および健康の社会的要因に関する基本パラダイムを学ぶ。また超少子高齢社会における公衆衛生の基本戦略、親子保健・老人保健の各領域における直近の健康課題とそれに対応する各種の法制度・政策・サービスの現状を理解する。	共同
	学校体育経営論	現在生じている学校体育及びその関連問題についての相互批判的議論を通じて、多角的で俯瞰的な視野をもつと共に、学校体育の総合的な経営理念や経営哲学を鍛える。具体的には、「学校体育における専門性とは何か」「学校体育における教育内容の選択原理は何か」「義務教育における自由化（競争原理の導入）の是非」等の本質的問いについて、ディベート形式の集団討議を通じて議論を深める。そして最終的には、学校体育経営の哲学の根幹となる「学校体育の存在意義」について批判的に考察し、各自の教育改革プランを構想する。	隔年
	武道授業指導論	学校における武道の指導法について検討し実習する。 (オムニバス方式/全10回) (329 増地克之/2回) 柔道の基本動作である礼法、姿勢、進退、組み方、崩し、体捌き、受身の指導法について理解を深める。 (228 岡田弘隆/3回) 学習指導要領に挙げられている技の中から代表的な投技、抑込技の指導法について解説し、実習させる。 (57 香田郡秀、302 鍋山隆弘、205 有田祐二/5回) 学校における剣道の指導法について検討し実習する。学校における武道の指導法について検討し実習する。	オムニバス方式
	スポーツ心理学	アスリートの心理サポート現場での心理的諸問題の解説ならびに課題への対処方法について概説する。 授業項目：スポーツ心理学（臨床スポーツ心理学）の歴史と概観、心理サポートのアプローチ、スポーツメンタルトレーニングの概要、スポーツカウンセリングの概要、実践と研究、心理臨床学的方法、タレント発掘、青年期におけるスポーツ経験と人格形成、スポーツ傷害と心理（事例中心）、メンタルトレーニング事例、アスリートの相談事例	集中
	保健教材論	本授業では、中学校および高等学校における保健科教育の教材について分析し、実践的に演習する。保健の教育内容を踏まえて、学習者の思考・判断を促したり、学習意欲を高めたりするような教材のあり方について理解するとともに、その具体的な教材づくりを行う。また、作成した教材を授業の中でどのように活用するかについてディスカッションする。本授業では、保健科教育における教材の分析を通して、教材開発や活用方法についての理解を深めることを目的とする。	
	野外教育プログラム論	本授業では、野外教育で展開される各種プログラムを多面的に理解し、野外教育プログラムを自ら計画・運営・評価する能力を高めることを目標とする。具体的には、各種プログラムの特徴・目的・指導法・安全管理等について理解を深めるとともに、プログラムの計画や運営する能力を高め、地域の様々な資源（自然環境、地域文化等）を生かしたプログラム開発に取り組む。授業の最終回には、グループワークとして、ある条件を満たした「野外教育プログラム」のプレゼンテーションが課される。	
	野外教育指導論	野外教育プログラムであるキャンプやASE (Action Socialization Experience) 指導の特徴の一つは、グループを指導することにある。本時では、1) キャンプやASEなどのグループカウンセリングの理論と方法について理解すること。2) グループの特徴について体験的に理解すること。3) 自然体験活動を活用したプログラムにおけるカウンセリングの諸課題について理解することが目的である。なお、2) については、野性の森内のASE施設における活動を実際に体験することによって理解を深める。	
	体育授業観察分析法I	体育授業の組織的観察法についての、そのねらい、手段、手順を学習し、この方法を用いて実際の体育授業を観察し分析し評価する能力を育成する。 学習目標：体育の学習指導を方向付けている様々な研究法や理論について理解する。また、実際の授業を観察し、そこに適用されている学習指導論を分析、評価することによって、基礎的な研究力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体育授業観察分析法II	アダプテッド体育の視点をもった授業づくりのための理論を学び、特別支援学校や特別支援教育対象生徒が参加する体育授業を観察評価するとともに教材開発を行う。 (オムニバス方式/全10回) (256 齊藤まゆみ/全5回) アダプテッド体育と授業観察の方法について、ニーズの把握、課題の設定と場の設定を行えるよう具体例をもとに演習を行う。また、開発した教材の評価と再構成を行う。 (266 澤江幸則/全5回) アダプテッド体育の対象となる子どもの運動場面の観察を通して事例検討を行い、体育教材の開発を行う。	集中 オムニバス方式
	健康・スポーツ教育インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	健康・スポーツ教育インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織(例えば、学校における授業や部活動、行政機関など)において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	野外教育実習(キャンプ)	本授業では、代表的な野外教育プログラムの形態である「組織キャンプ」について、自らその教育的価値を実体験しながら、基本的な計画(事前授業)・運営(本実習)・評価(事後授業)の方法を実践的に学習する。具体的なプログラムや学習内容は、野外生活スキル、冒険教育プログラム、環境教育プログラム、キャンプマネジメント、キャンプカウンセリング、指導法、安全教育と安全管理、環境倫理、環境配慮スキル、サバイバル技術等を含んでいる。	集中 共同
	舞踊授業指導論	体育授業としての舞踊(ダンス)の授業(学習指導)における理論と実践方法について関連する文献と実践事例を基に検討するとともに、主な学習内容(創作系、リズム系、フォークダンス系)の特性を踏まえた指導計画を作成し検討していく。ダンスの特性、学習内容、指導計画、指導言語、学習評価などに着目し、舞踊の授業指導への理解を深める。それらの知見を基に、学習者と指導者の関係性から授業をどのように創造していくのかを検討する。	隔年
ヘルスフィットネス系列	体力学特講	体力・運動能力に関する様々な概念や構成要素を復習し、発達加齢段階や各種レベルに応じた測定法、最新の解析法を解説することを通して、運動遊び、エクササイズ、トレーニングなどが、健康体力や競技体力に及ぼす効果について学ぶ。 (オムニバス方式/全10回) (48 木塚朝博/3回) 体力概念の多様性と再定義について解説し、体力・運動能力における新しい測定評価法を開発する意義を理解させる。 (118 鍋倉賢治/2回) エネルギー代謝の概念と評価法を解説し、持久性体力とパフォーマンスとの関係について理解させる。 (218 榎本靖士/2回) パワーと運動効率の評価方法および発達特性について概説し、さまざまな運動場面で応用できるよう理解させる。 (233 小野誠司/3回) 視覚情報や平衡感覚を主とした感覚情報が体力・運動能力に及ぼす影響について解説し、視覚-運動系や動体視力を基盤とする体力・運動能力の意義を理解させる。	オムニバス方式
	スポーツ生理学特講	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環及び体温調節系の役割について理解するため、以下のキーワードに関連して解説する。 骨格筋系のキーワード：重村式トレーニング法、筋肥大、遺伝子ドーピング、サルコペニア、冬眠、レーシングパフォーマンスを上げる遺伝子、老化を遅らせる運動 呼吸循環系のキーワード：ガス交換、酸素摂取量、血管調節、発汗調節、高地トレーニング、暑熱順化、水分調節	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ生化学特講	スポーツ生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、スポーツ生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に着ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関してスポーツ生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。演習の最後に受講生の発表会を行い、教員と受講生の間で討議を行う。参考図書；脳を鍛えるには運動しかない（NHK 出版）、からだの中からストレスをみる（学会出版センター）、使えるスポーツサイエンス（講談社サイエンティ）	共同
	スポーツ栄養学特講	時代に即したスポーツ・運動栄養学への理解を深めるために、運動（身体活動）、トレーニング、スポーツに関連した栄養、食生活、食事摂取基準、酸化ストレス、抗酸化ビタミン、エネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、タンパク代謝、骨（フィーマールアスリートトライアドを含む）、貧血、水分代謝、休養（睡眠・時差）などのトピックスを取りあげて、講義を行う。加えて、スポーツ栄養の今日的現場課題について問題理解と解決策検討について議論する。	
	ヘルスフィットネス橋渡し研究概論	ヘルスフィットネス分野における基礎的研究と応用・臨床的研究の関係性および研究をスポーツ実践（現場）や生活・健康に生かすための課題や工夫について解説する。 （オムニバス方式／全10回） （48 木塚朝博／1回）ヘルスフィットネスにおける基礎から応用への橋渡し （120 西嶋尚彦／1回）測定評価における統計分析データからトレーニング現場への橋渡し （220 大藏倫博／1回）生活機能に関する研究から健康づくり指導への橋渡し （233 小野誠司／1回）サイバネティクス系能力の研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （118 鍋倉賢治・218 榎本靖士／1回）（共同）持久系能力の研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （121 西保岳／1回）呼吸循環および体温研究から競技パフォーマンスへの橋渡し （101 武政徹／1回）分子レベル研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （92 征矢英昭／1回）動物実験研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （28 大森肇／1回）サプリメント研究からヒューマン・パフォーマンスへの橋渡し （234 麻見直美／1回）栄養摂取から食生活実践への橋渡し	オムニバス方式 共同（一部）
	体育測定評価学特講（発育発達学を含む）	目標：運動能力とその発達、体育、運動・スポーツにおける測定学および評価学の基礎的および先端的な研究方法について理解する。専門とする研究分野における基礎的および先端的な実験方法、調査方法における測定方法を理解する。 授業計画の概要：尺度水準と水準ごとの記述統計量、体育評価で用いる達成度評価テストの構成、運動技能の達成度評価、動作技能の達成度評価、戦術技能の達成度評価、構造方程式モデリングを適用した因果関係の測定、実験デザインと分散分析による平均値の差で要因の効果を測定する。スポーツビッグデータからプレーの達成度を測定する。	
	スポーツ栄養学実験実習	スポーツ栄養学領域の調査、実験を行うに必要な知識と技術を、実験・実習を通して学習する。それぞれの履修者のこれまでの学習背景、現在からこれからの研究領域を考慮して、履修者それぞれの知識ニーズに個別に対応した課題設定を行って実施する。	集中
	スポーツ生理学実験	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関する研究方法を理解することを目的として、実験実習を行う。履修はスポーツ生理学の基礎を学んだものに限る。 骨格筋系のキーワード：筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮を誘導する動物（マウス）実験系、打撲刺激、鍼刺激、切片の免疫組織化学、蛋白質解析（ウェスタンブロット）、mRNA解析（Real-time PCR）、培養骨格筋細胞、細胞外フラックスアナライザ 呼吸循環系のキーワード：最大酸素摂取量、血管機能測定、呼吸機能測定、体温調節機能	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ生化学実験	実験を行うことを通して、実験機材の取り扱いかた、研究資料の収集法、実験材料の分析法を身に着ける。これによって、運動と代謝・内分泌応答に関する基礎的測定と評価法を理解し、研究を遂行できる実践能力を養成する。	共同
	体力学実習	<p>体力科学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における研究計画、研究方法、プレゼンテーションについて実習する。</p> <p>(オムニバス方式/全40回)</p> <p>(118 鍋倉賢治/10回) 体力学に関する測定方法の実習 (218 榎本靖士/10回) 体力学に関する分析方法の実習 (233 小野誠司/10回) 体力学に関する評価方法の実習 (48 木塚朝博/10回) 体力学に関する研究計画およびプレゼンテーションの実習</p>	オムニバス方式
	健康増進学実習	<p>一般健常者、高齢者、有疾患者を対象とした健康指標の検査・測定方法およびトレーニング方法の実際を学習する。学習目標は、中年から高齢者、有疾患者を対象とした健康運動指導法および健康支援法に関する実際を学び、基本的な指導ができるようになることである。</p> <p>(オムニバス方式/40回)</p> <p>(161 前田清司/20回) 第1回～10回は健康運動指導法および健康支援法の実際を学ぶ。第11回～20回は中年者を対象とした健康度評価法の実際を学ぶ。 (220 大藏倫博/20回) 第21回～40回は高齢者を対象とした健康度評価法の実際を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	体育測定評価学実習 (発育発達学を含む)	<p>目標：実験や調査のデータを統計分析して、結果を図表でまとめる。スポーツデータサイエンスのデータ分析手法を適用して、試合のプレー、トレーニング分析などのデータから知見をマイニングする。</p> <p>授業計画の概要：自分の研究データを用いて、実験デザインおよび調査デザインに適合した統計分析手法を適用し、データを分析する。研究論文を参照して、方法を記述し、結果の図表を作成する。データ分析の手続きに従い、従属変数と独立変数、平均値構造と相関構造、因果関係の分析モデルを理解する。</p>	
	基礎ヘルスフィットネス演習	<p>最新のヘルスフィットネス分野の研究に関する動向を学び、研究デザインの組み立て方や分析方法について修得する。健康体力学分野に所属する教員がオムニバス方式で担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(48 木塚朝博/1回) ヘルスフィットネスにおける基礎とは何かを考える (120 西嶋尚彦/1回) 体育測定評価学からヘルスフィットネスを考える (220 大藏倫博/1回) 健康増進学からヘルスフィットネスを考える (233 小野誠司/1回) 体力学サイバネティクス特性からヘルスフィットネスを考える (118 鍋倉賢治・218 榎本靖士/1回) (共同) 体力学エネルギー特性からヘルスフィットネスを考える (101 武政徹/1回) 運動生理学筋生理系からヘルスフィットネスを考える (121 西保岳/1回) 運動生理学呼吸循環器系からヘルスフィットネスを考える (92 征矢英昭/1回) 運動生化学神経内分泌系からヘルスフィットネスを考える (28 大森肇/1回) 運動生化学代謝系からヘルスフィットネスを考える (234 麻見直美/1回) 運動栄養学からヘルスフィットネスを考える</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	ヘルスフィットネスインターンシップ春	<p>春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織 (例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など) において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ア ス レ テ ィ ッ ク コ ン デ ィ シ ョ ニ ン グ 系 列	ヘルスフィットネスインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、地域スポーツクラブ、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	運動器のしくみと働き（基礎編）	運動器を構成する骨格、筋、神経系の概要を学ぶ。生物の形態は、その機能と深いかかわりを持っている。地上性の脊椎動物（哺乳類）では、基本的に自身の身体の移動のために最も適した、骨格に基盤とする身体プロポーションをもち、その骨格をその目的（歩行、走行）が効率的に行えるように筋が配置され、また筋の特性もその運動にあっている。歩行、走行以外にも重要な運動があるが、いずれの運動においても関節の構造も大切であり、関節が運動を「制限」することによって目的とした運動が実現されることとなる。運動器にはさらに、腱、靭帯も重要な要素としてかかわっている。神経系は、これらの特性も考慮して筋に指令を出している。このようなことがらについて、詳細を解説していく。	
	スポーツバイオメカニクス特講	スポーツ動作や様々な基礎的運動をバイオメカニクスの側面から考察するために必要な基礎事項や分析手法、特に逆動力学的計算について解説する。具体的には、並進運動および回転運動における力学的法則を確認した後、剛体リンクモデルによる関節トルク算出手法について解説する。その際に、身体部分慣性特性係数についても解説するとともに、体育総合実験棟において身体運動の計測方法、地面反力の計測方法についても実演を行う。さらに、得られたデータをもとに、動作の変動性係数や動作逸脱度を用いた身体運動を評価する方法を解説する。	隔年
	スポーツ用具と動きのしくみ	スポーツ用具の性能向上のためのしくみについて紹介するとともに、パフォーマンス実現のための動きのしくみ（メカニズム）について解説する。用具として、各種打具、シューズ、各種ボール、水着などを例に挙げ、パフォーマンスに関係する各種特性について、物理的な現象面あるいは生体力学的な視点から解説する。つぎに、スポーツ動作の各種分析手法を紹介したのちに、これらの分析手法を活用して得た各種動作の分析結果から、スポーツ動作における動きのしくみについて解説し、パフォーマンスの発揮メカニズムについて紹介する。	
	女性スポーツ医学論特講	<p>月経の調節機構と加齢による変化、妊娠による身体機能の変化と胎児の発育を学ぶ。激しいスポーツ活動に起因する月経異常の発現機転を理解する。また、妊婦のスポーツ活動が母体および胎児に及ぼす影響を理解する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（346 向井直樹／6回）全体を概観するとともに整形外科医の立場から運動器の外傷障害の女性の特徴、無月経と外傷や障害の関係の解説し、さらに妊娠とスポーツ、閉経にかかわる諸問題についての最新の知見について紹介する。</p> <p>（372 渡部厚一／4回）内科医の立場から、女性特有の機能である妊娠・分娩と月経の調節機構について発達加齢の観点も含め概説し、運動性無月経や月経困難症などの婦人科的問題、栄養障害や貧血などの内科的問題の各論をスポーツ活動と関連付けて解説する。</p>	オムニバス方式
	機能解剖学実験	<p>身体運動の分析法について、以下の実験を行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Anakin Systemを使用したマーカーを使用しない動作計測法のデモンストレーションと実際にその装置を使用してヒトの動作の計測を行う。 2) 力の測定として、ロードセルを使用した筋力の測定を行う。ロードセルの原理、使用法についても学習する。 3) 筋電図法の種類や測定時の注意事項について学び、実際に表面電極を使用した筋電図測定を行う。 5) 立位における重心動揺を、フォースプレートを使用して測定する。 6) 歩行分析に関して、動作と床反力の測定を行う。 	集中
	運動器のしくみと働き（応用編）	<p>上肢の運動を上肢帯の運動、肩関節、肘関節、手関節における運動、さらに手部における運動に分け、それぞれの運動に関与する筋について、詳細を学習するとともに、これらの関節の詳細も学習する。下肢に関しても同様に、股関節、膝関節、足関節及び足部における運動に関与する筋の詳細を学習し、これらの関節の詳細も学習する。さらに、呼吸運動も含む体幹の運動についても、それに作用する筋について学習する。さらに、身体の総合的な運動である姿勢保持や歩行について、それらの分析法についても学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツ医学基礎論実習I	<p>スポーツ医学（内科系）に関連する実習として、一般健常者、中高齢者、肥満者などにおける運動プログラムや食生活改善プログラムなどの生活習慣改善プログラムの実践により、その実際を学ぶ。さらに、これら生活習慣改善プログラムを通じて、種々の健康関連指標の評価方法や解析方法などを学習し、運動や食生活改善などの生活習慣改善が健康関連指標に与える影響を学ぶ。この実習により、スポーツ医学（内科系）の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論実習II	<p>スポーツ傷害に関する基本的な身体特性の評価、受傷機転の解析、予防法について、実習を通して理解を深め、スポーツ医学に関する基本的能力を養う。この実習により、スポーツ医学（外科系）の基礎的な実験手法などを身につけることを目標とする。スポーツ傷害に関する基本的な身体の評価方法について学ぶことで、受講生がテーマを決定し、研究計画を立てることが出来るようにする。</p>	共同
	アスレティックコンディショニング論特講	<p>競技力向上を目的としたスポーツ傷害予防やコンディショニングの課題と方法論を多面的に解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(88 白木仁/2回) 「コンディショニングトレーニング総論」と「競技力向上のためのコンディショニングトレーニング」を担当する。</p> <p>(49 久賀圭祐/2回) 「突然死・過換気症候群とコンディショニング」を2回にわたり詳説する。</p> <p>(346 向井直樹/2回) 「競技別コンディショニング」と「アンチドーピングとコンディショニング」を担当する。前者では陸上・スケート競技のサポートを解説し、後者では薬物の利用とアンチドーピングの情報を提供する。</p> <p>(618 金森章浩/2回) 「骨・関節系の外傷・障害のリコンディショニング」を2回にかけて概説する。</p> <p>(372 渡部厚一/2回) 「感染症に対するコンディショニング」と「高所・暑熱環境に対するコンディショニング」を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/8回) : 世話人「コンディショニング・コンディショニングの概念」を再考し、「コンディショニングのエビデンス」を吟味し、フィールドで利用できる情報を提供する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 「疲労回復を促すためのコンディショニング」と「トレーニング計画とコンディショニング」を担当する。</p>	オムニバス方式
	アスレティックリハビリテーション論特講	<p>スポーツ選手が傷害から復帰するために必要なリハビリテーションの基本を学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p> <p>(88 白木仁/8回) 部位別のアスレティックリハビリテーションとして肩と体幹を担当する。またエクササイズ以外の方法としてテーピング・マッサージを概説する。</p> <p>(346 向井直樹/4回) 部位別の中で下腿、足・足関節を担当し、手術後のアスレティックリハビリテーションについて解説する。また代表的な外傷・障害については症例を基にした事例を供覧する。</p> <p>(618 金森章浩/2回) 部位別の中で骨盤・大腿・膝関節を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/4回) アスレティックリハビリテーションで用いられるエクササイズと併用される物理療法につき概説し、上肢を例に具体的なリハビリテーションを紹介する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 競技特性を考慮したアスレティックリハビリテーションを概説する。</p>	オムニバス方式
	アスレティックトレーナー特講	<p>アスレティックトレーナーの現状を把握し、現在まで発展してきた経緯と遺産を理解する。歴史的背景からみたアスレティックトレーナー成り立ちや現代社会における特徴をまとめ、その将来を展望する能力を養う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(88 白木仁/5回) アスレティックトレーナーの概論・歴史及びプロスポーツにおける競技力への貢献・社会的貢献についての講義を担当する。</p> <p>(287 竹村雅裕/4回) アスレティックトレーナーのアマスポーツにおける役割・資質・教育についての講義を担当する。</p> <p>(494 福田崇/1回) アスレティックトレーナーの養成についての講義を担当する。</p>	集中 オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	テーピング・マッサージ実習	<p>テーピング及びマッサージを実施する上での運動学的、解剖学的、生理学的な基礎知識や方法について解説しながら、実習を行う。実習はベーシックとアドバンストの2つに分かれて実施する。</p> <p>(88 白木仁) マッサージの講義とアドバンストのグループを主として担当 (287 竹村雅裕) テーピングの講義とベーシックのグループを主として担当 (494 福田崇) ベーシック・アドバンストの両方のサポートをするとともに実技試験を担当</p>	集中 共同
	スポーツ内科学特講	<p>スポーツ現場で頻繁に認められる内科的疾患について、診断・治療・予防法の概要を解説するとともに、スポーツ種目別の特徴、ヘルスプロモーションの視点としてのチームマネジメントとの関連性について事例を挙げ、ディスカッションを行う。具体的テーマとして、心臓突然死とメディカルチェック、スポーツ貧血、運動誘発喘息とアナフィラキシー、インフルエンザやノロウイルス等の感染症対策、過換気症候群、熱中症と低体温症、内科的コンディション評価とオーバートレーニングなどを取り上げる。</p>	集中, 隔年 共同
	アスレティックコンディショニング論演習	<p>競技力向上を目的としたコンディショニングやトレーニングを実践し、パフォーマンスに関わるスポーツ傷害予防やコンディショニングの方法についてグループで実習を行う。</p> <p>(88 白木仁) 骨・関節系の問題を抱えるアスリートに関する指導・助言をする。 (346 向井直樹) スポーツドクターという立場から、特にコンディショニングをの悪化を予防する・回避するコンディショニングにつき指導・助言する。 (287 竹村雅裕) 人の動き・動作の面からコンディショニングの調整・ベストパフォーマンスの発揮に関わる指導・助言をする。 (494 福田崇) オーバートレーニングの防止やコンディショニング作りにも重きをおいたコンディショニングの観点から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックリハビリテーション論演習	<p>スポーツ傷害からの早期復帰に必要な知識を駆使して、アスレティックリハビリテーションプログラムを作成できるようになる。</p> <p>(88 白木仁) 骨・関節系の問題を抱えるアスリートに関する指導・助言をする。 (346 向井直樹) 個人競技・種目に関わるスポーツドクターという立場から、指導・助言する。 (287 竹村雅裕) 人の動き・動作の面からコンディショニングの回復・ベストパフォーマンスの回復に関わる指導・助言をする。 (494 福田崇) 競技特性を考慮したプログラミングの観点から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックコンディショニング論実習	<p>アスレティックコンディショニング論特講・演習で身に着けた知識・手段・方法・技術を実践を通じて確認をする。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。 (346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。 (287 竹村雅裕) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。 (494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックリハビリテーション論実習	<p>アスレティックリハビリテーション論特講・演習で身に着けた知識・技術・プロセスを実際に体験して学習する。</p> <p>(88 白木仁) 柔道整復学の面から指導・助言をする。 (346 向井直樹) 整形外科の面から、指導・助言する。 (287 竹村雅裕) スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。 (494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	アスレティックトレーナー演習	<p>アスレティックトレーナーの組織的将来展望についての知見を習得することを目的として、アスレティックトレーナーとしての役割、資質、養成、教育、競技力への貢献、社会的貢献に関する文献的検討を演習形式で行う。更に、アスレティックトレーナーのアマスポーツ（学校における授業や部活動、地域スポーツクラブなど）での役割、プロスポーツ（ナショナルレベル、インターナショナルレベル）での役割に関する文献的検討も行う。</p>	共同 集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アスレティックコンディショニングインターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	アスレティックコンディショニングインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、医療機関、スポーツや健康に関連する企業や研究所など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
コーチング系列	コーチングのバイオメカニクス	スポーツの技術やトレーニングを考えるための基礎となるバイオメカニクスの諸原則、動作の改善ループの考え方とその応用法、バイオメカニクスデータの解釈などについて解説し、これらの知識を動作の改善に活用するための基礎的能力を身につけることを学習目標とする。具体的には、スポーツ技術のバイオメカニクスのとらえ方、力学的エネルギー・効率・有効性指数の算出法の解説、選手の動きを評価・診断・改善するためのバイオメカニクスの知識の重要性の解説などを通して、客観的知識を基礎とするコーチングについて学習させる。	隔年
	コーチング論（事例討議）	コーチには、当該スポーツ競技／種目の技術・戦術、トレーニングの指導だけでなく、トレーニング環境を整備したり、多様なステークホルダーと連携し目標を達成していくための能力も求められる。また、その前提となる「コーチング哲学」をどのように構築するかも重要である。本講義では、コーチング現場で活躍中のコーチを招いて、コーチング実践の場における現状と課題を知り、それらをもとに学生相互で討議することによって将来のコーチングに資する実践知の獲得をめざす。	共同
	身体技法論	目標：気功、呼吸法、武術、整体法、体操、ボディワーク等の身体技法について理解し、それらと体育やスポーツとの関係や意味について、個々の身体技法として活用する方法を知る。 授業計画：東洋の身体知（embodied wisdom）に対し、西洋の身体知ともいべきソマティクス（Somatics-身体を内側から捉える理論）の臨床的実践技法であるボディワークをテーマに、その理論的背景を学びながら、技術（art）の習得を図る。体験的解剖学に基盤づき、基本的な身体の構造や機能を学びながら、実際に動き（movement）、触れ（touch）、声を出し（vocalization）、身体の経験や気づきを言語化し（verbalization）討議を加える。前半は骨格系、後半は内臓を中心に取り上げる。	
	身体表現論	<私>にとって身体とは何かを問うことを通して、「身体表現」について考察する。自らの「身体表現」と他者の「身体表現」の違いを捉え、私たちがどのようにコミュニケーションを成立させているのかを検討する。特に、ダンスの場面における事例を取り上げ、「身体表現」の特性について考える。また、身体を持つ力に着目し、「身体表現」という括りでダンスとスポーツを捉えることで、体育・スポーツ学を多角的に検討することを試みる。	
	スポーツ運動学	発生運動学としてのスポーツ運動学の学問成立の経緯、基本概念、運動の分析法を講義して、運動の実践現場および研究においてもスポーツ運動学の意義、価値の理解を深める。具体的には、体育・スポーツ領域において使われている運動の概念についての整理、運動をゲシュタルト（運動ゲシュタルト）として認識することの重要性、現場において取り上げられる動きの質の問題、実際の動きを取り上げる際に重要になる生命的な時空間の問題、そして、「できる」ということを考える際に不可欠な身体知の問題、その「できる」を支える「動感」の問題、動きの意味と価値の問題、スポーツ運動学と現象学の関係、などについて講義する。	
	武道文化論	武道は日本で発祥し、長い歴史の中で宗教や芸能など様々な文化と交流をもちつつ独自の運動文化として成立したものである。そのユニークさゆえに海外ではジャパノロジー（日本学、日本研究）の対象ともなっている。世界で日本人がリーダーシップを取っていける数少ない領域であり、将来国際社会で活躍する者にとって必須の学習課題である。近年、日本刀ブームであるが、刀剣は単なる武器ではなく古来神聖なものとして扱われてきており、実に深淵な思想体系を有している。本講義は、武道文化の中でも刀剣の思想に焦点を当て、最新の研究成果をテキストとし、PBL（Problem Based Learning）方式で学習・議論を重ねていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	体操コーチング総合演習	<p>目標：体操についての国内外の映像資料や文献を調査し、本領域特性を理解するとともに、各種のねらいや対象に応じた体操の実践力と指導力を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(418 本谷聡/5回) 学校体育における「体づくり運動」教材のあり方を検討し、各種のねらいに応じた動きの高め方や「体ほぐしの運動」についての運動プログラムを考案し、教育現場における指導方法を学習する。</p> <p>(130 長谷川聖修/5回) 国内外の先駆的な体操指導の実践例を比較検討し、乳幼児から、親子、障がい者、高齢者までの幅広い対象者がアクティブなライフスタイルを構築するための体操プログラムを考案し、指導現場に役立つ体操コーチングのあり方を学ぶ。</p>	オムニバス方式
	体操競技コーチング総合演習	<p>体操競技および器械運動に関する国内外の文献講読と実習を行い、それぞれの種目の基本技の技術と指導方法、安全に関する配慮などについて理解する。器械運動の内容に関しては、マット運動、とび箱運動、平均台運動、鉄棒運動の基本的な技を身に付けてるとともに、効果的に指導する方法を学習する。また、体操競技の内容については、男子6種目(ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒)、女子4種目(ゆか、平均台、段違い平行棒、跳馬)のそれぞれについて種目特性を理解するとともに実習を通して基本技術と指導法を学習し、専門家として必要な資質を身に付ける。</p>	
	陸上競技コーチング総合演習	<p>陸上競技の技術、トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにして、体育的側面及び競技的側面から有効なコーチングへの手がかりを検討する。</p> <p>(オムニバス形式/全10回)</p> <p>(226 大山下圭悟/5回) 主に投擲競技のコーチングにかかわる知見、陸上競技における傷害の予防やコンディショニングに関わる文献から得られる知見を手掛かりとして、コーチング実践への適用につなげるための検討および討論を行う。</p> <p>(450 木越清信/5回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技のコーチングにかかわる文献から得られる知見を手掛かりとして、コーチング実践への適用につなげるための検討および討論を行う。</p>	オムニバス方式
	水泳競技コーチング総合演習	<p>水泳競技(競泳・水球・シンクロ・飛込み)に関するバイオメカニクスおよび運動生理学的な測定手法を学習し、実験プロトコルを作成した上で各種測定を実施し、正確にデータを収集する能力の獲得を目指す。また、実験で得られたデータの分析方法も学習し、測定データを正しく解釈する能力の獲得を目指す。</p>	
	バレーボールコーチング総合演習	<p>国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バレーボールのコーチとしての基礎的資質を高める。</p>	共同
	バスケットボールコーチング総合演習	<p>バスケットボールの複雑な競技特性に言及する、1) 吉井四郎(1985)バスケットボール指導全書(全3巻、大修館書店)、2) ウドゥン(2000)UCLAバスケットボール(武井光彦監訳・内山治樹他訳、大修館書店)、3) Krause, J. and Pim, R. L. (ed.) (1994) Coaching basketball, Contemporary Books、4) Weineck, J. und Haas, H (1999) Optimales Basketballtraining, Spitta Verlag など、日英独の代表的な古典というべき文献の精読を通じて、コーチングの前提要件たる理論知の獲得を図る。併せて、実際のコーチング場面で直面する諸問題を解決するための方策について発表・討議することで、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題についての理解を深める。</p>	
	ハンドボールコーチング総合演習	<p>ハンドボールのコーチング実践に必要な理論の学習とコーチング実践活動を通して、さまざまな問題に対処できる専門的な指導力を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(1 會田宏/4回) ハンドボールにおけるコーチングの目的と目標、個人戦術、グループ戦術、チーム戦術のコーチングについて解説する。</p> <p>(497 藤本元/3回) ハンドボールにおける発達段階に応じたコーチング、指導計画の作成について解説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(523 山田永子/3回) ハンドボールにおけるコーチング実践活動をスーパーバイズし、コーチング活動の評価について解説する。	
	サッカーコーチング総合演習	演習形式でサッカーのコーチングに関わる理論の理解を深めると同時に、コーチングの実践を通してサッカーコーチとしての能力を高める。授業の前半は主に講義形式で「サッカーの構造」「プレーの原則」「タレント発掘」「サッカーのコーチング」等について整理する。その後、各自でコーチングプランを作成し、受講者間でそのプランを洗練する作業をおこなう。後半ではそのプランに基づきコーチング実践と省察によって自身のコーチング能力を改善する。	
	ラグビーコーチング総合演習	授業は演習形式とし、ラグビーコーチングの現場で直面する様々な問題に対して、その対処法や考え方について学び、各自の指導論・指導法を構築していくことを目的とする。授業の前半ではラグビーのコーチングに必要な理論(指導法、ゲーム分析の視点、パフォーマンス評価、スカウティングなど)を学習した後、後半から各自で設定したテーマに対するコーチングの実践活動を行い、コーチとしての指導力の向上を図るものとする。	
	テニスコーチング総合演習	国内外の専門文献や研究書を講読し、テニスのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、テニスのコーチとしての基礎的資質を高める。	
	バドミントンコーチング総合演習	国内外の専門文献や研究書を講読し、バドミントンのルール、競技特性、発達史、基本的な技術と応用技術、基本的戦術とその発展、バドミントン競技者に必要な体力要素、ストローク、ボレー、サービス動作の技術指導のやりかた、競技力を向上させるための指導の方法などについて学習する。演習を通して、バドミントンのコーチとしての基礎的資質を高める。	
	野球コーチング総合演習	野球のコーチングに関して、チームのリクルート、マネジメントの仕方及び戦略、戦術、戦法、試合の進め方、投球および打撃動作の観察方法、さらには走塁および守備の考え方、改善方法、チーム練習方法、年代別の課題などに焦点を当て、新たな考え方に関して討論し、提案していくことで、野球の指導者としての資質を高める。	共同
	柔道コーチング総合演習	柔道における技の分類について説明し、理解させる。投技(手技16本、腰技10本、足技21本、真捨身技5本、横捨身技16本)、固技(抑込技10本、絞技12本、関節技10本)全般について実習するとともに、併せてその指導法についても学び、実践する。柔道のすべての技についてその理合を説明し、それを理解させた上で実践させるとともに、効果的な指導法について、各自で考えさせた上で必要に応じて補足説明を行い、実践させる。それにより、柔道の指導者としての基礎的資質を高めることを目的とする。	共同
	剣道コーチング総合演習	<p>剣道の試合・審判規則について学習し、審判の理論と実践能力を高める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(205 有田祐二/3回) 剣道における審判員の意義と目的、任務と心得について学習し、剣道審判法の重点事項内容を解説しつつ、理解を深める。</p> <p>(302 鍋山隆弘/3回) 審判要領や現行の規則についての解釈とその運用、協調性と連携について解説し、実習を行いつつ、理解を深める。</p> <p>(57 香田郡秀/4回) 見落としやすい有効打突、判定にあたっての留意点、審判員としての注意点について解説し、実習を行いつつ、理解を深める。</p>	オムニバス方式
	弓道コーチング総合演習	日本の伝統的運動文化としての「弓道」の特性を理解するとともに、弓道指導における基礎・基本となる「基本体(基本の姿勢・基本の動作)」「射法八節」についてその理論学習と実践を通じて弓道コーチングの実践を学習する。「基本の姿勢」「基本の動作」を合わせた「基本体」を正しく身につける。また、弓射の基本法則である「射法八節」の理論を理解し、正しく身につけ実践する。また初級者への示範・指導ができるようにする。対象に応じた指導法を理解し、安全かつ効果的に学習できる指導法を理解・習得する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	舞踊指導総合演習	舞踊（ダンス）教育における内容の中でも表現・創作ダンス（モダンダンス）とリズム系ダンスを中心に、各々の特性と技法、指導法、上演に関する理解を深めるとともに、実習を通して基礎的、応用的な能力を養う。舞踊における身体、イメージ、リズム、動きの関係について、多様なテーマ（課題）から即興的に表現・創作するとともに、舞台に向けたダンス作品を創作、上演する。自らの踊る力を養成すると共に、どのように学習者の実態を捉えた指導法についても学んでいく。	
	スポーツコーチング総合演習	個別研究領域に含まれていないスポーツ競技／種目を専門とする学生を対象に、種目横断的にその指導法についての理論や指導実践を学び、望ましいコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。各教員の専門スポーツ競技／種目におけるコーチング実践の知、またその背景となる科学的知見を手がかりにして、自身の専門スポーツ競技／種目における先行研究の調査、コーチング実践などを行う。	共同
	コーチングインターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	コーチングインターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、プロスポーツクラブ、学校における授業や部活動、スポーツ施設など）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	競技マネジメント論	国内外のスポーツ競技団体、スポーツリーグ組織、スポーツクラブ・チームを対象にマネジメントの視点から検討し、スポーツ関係組織・機構の経営に関する基本的な知見を学習するとともに、当該領域における当面の問題を明らかにし、基本的研究課題を理解する。 (オムニバス方式／全10回) (282 高橋義雄／4回) 国内外のスポーツ組織について、事例をあげて説明するとともにグループワークを導入し、受講生の調査報告方法についても学ばせる。 (186 山口香／3回) 講師が関与するJOCや柔道関係の組織団体をはじめとした各種団体のマネジメントの動向と、マネジメントに必須な知見を教授する。 (32 尾縣貢／3回) 講師が関与するJOCや陸上競技関係の組織団体をはじめとした各種団体のマネジメントの動向とマネジメントに必須な知見を教授する。	集中 オムニバス方式
	舞踊上演マネジメント論	舞踊公演やイベントの企画・運営を取り扱い、過去に行われた舞踊公演の例に、実情や問題点を検証する。また、現在、活発に行われている舞踊公演の仕組みや、様々な形態のイベントについて学ぶ。さらに、独自のイベントを企画・運営するための知識として、イベントに関わる経済的問題、様々な助成制度とその活用方法を学ぶ。	
	スポーツ情報戦略論	競技スポーツにおいて、情報をどのように活かすかが競技パフォーマンスに大きく影響する。競技スポーツにおける「情報」とは、単に自チームやライバル／相手チームのスカウティング情報だけでなく、ルールや人事に関する情報、マテリアルやテクノロジーに関する情報などの競技を取り巻く情報、さらには経済や社会の環境変化に関するより広い視点での情報も競技パフォーマンスに関係している。これらの情報を戦略にマッチさせながら、どのようにマネジメントするかについて、実践知をもとに体系的に学ぶ。	
ナショナルリー	プログラム特別インターンシップ春	春学期から夏季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン コーチ 系列	プログラム特別インターンシップ秋	秋学期から春季休業期間にかけて、スポーツや健康に関連する様々な組織（例えば、日本代表、プロスポーツクラブ、地域スポーツクラブなど）において、事前の学習計画に基づいて現場で実習を行う。このインターンシップによって、通常の教育課程では学ぶことのできない高度で実践的な経験を積むことができ、より専門的な知識やスキルを学び、社会で実践できる能力を養う。	
	日本文化論（宗教, 思想, 古典芸能など）	スポーツ界のリーダーとして世界で活躍するためには、グローバル化社会における自文化のオリジナリティーを自覚することも必要である。こういった考えのもと、日本文化論として宗教、思想、古典芸能などを取り上げ、フィールドワークも含めつつ学習し、日本文化の粋を理解する。 本授業では特に宗教の中でも日本古来の民俗信仰であるところの神道に焦点をあて、武神タケミカヅチを祀る鹿島神宮と霊峰筑波山に鎮座する筑波山神社におけるフィールドワークを含めながら、両神宮・神社の宮司に特別にお願いをしてレクチャーをしていただく。	共同
専門科目	体育・スポーツ哲学演習I	体育哲学およびスポーツ哲学における研究方法について理解を深め、文章の解釈力や洞察力の涵養を目指す。併せて、修士論文のテーマを掘り下げ、研究計画として結実させる。関連文献の講読を行い、問題設定の仕方や研究方法論についての理解を深める。 演習の前半では、体育・スポーツ哲学の基礎的な文献を講読する。選定する文献は、受講者の研究テーマに基づいて定めるが、形而上学、実践学、倫理学、美学などの大枠に沿ったものとする。 後半では、受講者の研究テーマに対して、先行研究に当たる文献のテキストクリティークを行う。	共同
	体育・スポーツ哲学演習II	体育哲学およびスポーツ哲学に関連する研究課題、問題群における理路や問題の背景等を理解し、受講者自身の問題意識を掘り下げ明確化することを目指す。 文献（論文や著書）のうち、受講者の研究テーマに関連するものについて、概要をまとめ、報告・議論を行う。それとともに、受講者自身のリサーチクエスチョンとそれを解決する方法を探り、その方法に則って思索を深め、論じてゆく。 また、受講者同士でディスカッションを行い、説明力ならびに質問力を養う。	
	体育史・スポーツ人類学演習I	自身の研究したいテーマに基づき、体育・スポーツ史およびスポーツ人類学（スポーツ国際開発学含む）に関する論文を以下の学術雑誌あるいは学術書「スポーツ人類学研究（スポーツ人類学会機関誌）、スポーツ史研究（スポーツ史学会機関誌）、体育史研究（体育史学会機関誌）、体育学研究（日本体育学会機関誌）」から選び、その研究論文の内容、研究方法について検討する。 研究方法については、史料批判を含め文献研究の方法論について検討する。また特定の地域のスポーツ文化に関する参与観察の方法論についても考察し、それらについて発表してディスカッションする。より良い発表の方法についても修得する。	共同
	体育史・スポーツ人類学演習II	自身の修士論文のテーマを意識して、それに関連する体育・スポーツ史、スポーツ人類学およびスポーツ国際開発学に関する論文を外国の学術雑誌や学術書から選び、その研究方法と論文の構成について検討する。諸外国の学術雑誌は主に「International Journal of Sport History」、「Journal of Sport for Development」の中から選択する。 これらを先行研究とし、その批判的なまとめを各自が作成して発表し、ディスカッションする。	共同
	スポーツ社会学演習I	スポーツ社会学に関する専門文献、研究論文の講読を、スポーツ社会学を研究するための基本的能力を身に付ける。スポーツ、体育、舞踊そして伝統スポーツにおける身体の歴史と政治推力についての文献資料を用いる。また、フィールドワークを通して、スポーツ社会学の基本的な研究能力を向上させる。	
	スポーツ社会学演習II	社会学の理論を基礎にしなが、スポーツ社会学を研究するための研究方法論について学習し、論文執筆を自主的、自立的に行っていく。その際、学生や教員との議論を繰り返す、応答する中で、自らの立ち位置と思考を深めていく。こうした演習を通して、研究力を向上させ、論文執筆を行う	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	武道学演習I	<p>武道学全体を鳥瞰的に把握し、武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学における新たな問題を設定して修士論文のテーマを決める。</p> <p>具体的には中林信二『武道のすすめ』、源了圓『文化と人間形成』、相良亨『武士の思想』、寒川恒夫『日本武道と東洋思想』、前林清和『武道における身体と心』、酒井利信『刀剣の歴史と思想』などの研究成果に加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、武道学全体の動向を把握した上で、自らの問題意識を明確にする。</p>	
	武道学演習II	<p>武道史・武道思想に関する先行研究を精読することにより、武道学領域における研究方法論を学び、自らの修士論文テーマに適した方法論を確立する。</p> <p>具体的には、中林信二『武道論考』、前林清和『近世日本武芸思想の研究』、酒井利信『刀剣観の日本精神史的研究』、酒井利信編『武道研究の道標』『武道研究の最前線』などに加え、日本武道学会発刊の『武道学研究』所収論文を精読し、文献学手法を学ぶ。特に事例の収集の仕方および分類方法、さらに行間の読み方を身につける。</p>	
	体育・スポーツ経営学演習I	<p>体育・スポーツ経営学に関する内外（外国は主にアメリカ合衆国を中心に）の文献を購読しながら、経営理論の動向及び方向性を検討する。</p> <p>学校体育・大学スポーツのマネジメント、地域・コミュニティスポーツのマネジメント、スポーツマネジメントの研究手法に関する文献を中心にレビューし、わが国のスポーツ経営との比較考察を行う。</p> <p>スポーツビジネス、プロスポーツ、スポーツマーケティングに関連する文献を中心にレビューし、海外におけるスポーツビジネスの変遷やトレンドを把握するとともに、今後の発展性について議論する。</p>	
	体育・スポーツ経営学演習II	<p>体育・スポーツ経営をめぐるトピックスや具体的な経営課題を取り上げ、関連する文献や論文を収集するとともに、研究の視点や課題解決の方法について議論し、研究論文としてまとめる。</p> <p>地域スポーツ、民間スポーツ施設、プロスポーツをめぐるマネジメント課題を特定化し、その課題に関する先行研究や資料を収集し研究課題や研究方法について議論する。</p> <p>学校体育（主に運動部活動と教科体育）のマネジメント課題が、時々の学習指導要領の改訂に伴ってどのように変容してきたのかを、文献に基づいて議論する。</p>	
	スポーツ政策学演習I	<p>国内及び国外のスポーツ政策及びスポーツ政策研究に関する動向について調査検討し、スポーツ政策の実務的な課題を理解するとともに、スポーツ政策学に関する内外の文献を購読し理論的な認識を深める。スポーツ政策に関する特定の調査研究課題を議論し、決定した後、各自の課題に関して報告発表を行い、全体で議論する。また、関連する文献を選定し、概要をまとめ報告し、全体で当該文献の理論の検討及び批判を行い、議論する。</p>	共同
	スポーツ政策学演習II	<p>スポーツ政策に関する各自の研究テーマに関する文献及び資料の収集・批判及び検討、研究方法論及び分析の枠組みの検討を行い、実際の調査研究の成果を発表し、議論を深める。まず、研究テーマに関する先行研究の検討、援用する研究方法・理論のレビューを行い、分析の枠組みとして応用可能か議論する。また、実際に選定した方法論に基づき、研究テーマに関する調査内容を発表し、議論する。</p>	共同
	スポーツ法学演習	<p>国内及び国外のスポーツ法に関する動向を調査検討し、現状の認識を深めるとともに、スポーツ法学に関する文献資料を購読し、研究の方法や理論に関する理解を深める。スポーツ法に関する動向についていくつかのトピックを紹介する。スポーツ法学に関する国内外の基本的な文献および資料の中から課題を選定し、報告発表を行い、全体で議論する。さらに、課題と関連する法学文献の理論内容を検討する。</p>	
	スポーツ産業学演習I	<p>スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、当該領域の研究手法論について学習する。本授業はいずれの回においても複数指導体制（299 仲澤眞、257 嵯峨寿）で行い、主要先行研究の解説、主要な研究方法論の解説、研究計画の立案についての指導を通して、学位論文の作成に必要な基礎的な内容の習得を目的とする。</p> <p>（299 仲澤眞）主に数理統計学的手法を用いて、スポーツ消費者行動に関する研究指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(257 嵯峨寿) 主に社史分析の手法を用いて、スポーツ関連企業行動に関する研究指導を行う。	
	スポーツ産業学演習II	<p>スポーツ産業研究に必要な理論や実務的な知見について学ぶとともに、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き、研究の独自性・意義、学位論文の作成に必要な実践的な内容を習得することを目的とする。本授業はいずれの回においても複数指導体制(299 仲澤眞、257 嵯峨寿)で行う。</p> <p>(299 仲澤眞) 主に数理統計学的な手法を用いて、スポーツ消費者行動に関する研究指導を行う。</p> <p>(257 嵯峨寿) 主に社史分析の手法を用いて、スポーツ関連企業行動に関する研究指導を行う。</p>	共同
	体育科教育学演習I	<p>体育の教科論、カリキュラム論、学習指導論、教師教育論に関する内外の文献を講読し、体育授業の学習指導論並びにその研究方法論について理解する。また、学校での校内授業研究に参加して、体育授業を分析・省察する視点について実習する。さらに学生が教師・生徒役を担当する模擬授業を利用して、授業の計画立案・実行・分析・省察の過程を通して学生が授業を発達させていくことを検証する。授業では、模擬授業等で収集した組織的観察データや授業省察データを活用して、統計手法や質的分析によって結果をまとめたり、ゲームパフォーマンス分析のためにStudioCode等による分析方法についても学修する。春・秋学期に数回の学校での授業研究を参観する機会がある。授業分析の演習については、授業参観ごとに実施する計画である。秋C学期については、つくば模擬授業の授業計画立案を課題とする。</p>	
	体育科教育学演習II	<p>体育科教育学の研究領域における学術論文を講読して、研究テーマの設定方法、先行研究のレビュー方法、研究における理論の選択、研究デザインの設定、データ収集の方法、データ分析の方法、結果のまとめ方、考察の進め方、さらに結論の書き方を学修して、最終的な修士論文を完成させる能力を身につける。</p> <p>春学期においては、月曜日の午後の授業時間を基本として、毎週1回のゼミ形式で実施する。受講生は、研究論文を購読しながら、論文の背景となっている問題点と理論的な基盤を明確にして、研究デザインを具体的に構想する。研究方法に応じて教的データ並びに質的データの処理方法を決定して、修士論文研究に取り掛かる。秋学期においては、修士論文の進捗状況を随時、確認しながら、論文完成に向けて探求する。1ヶ月に1回程度、体育科教育学研究室での研究会(月曜17時から19時)において成果を発表して教員と所属学生からの意見交換を行う。</p>	
	体育授業観察分析演習	<p>体育授業の観察法に関する基礎的知識を習得する。また、実際の授業を計画立案して観察法を分析し、その活用方法について理解することを学修する。</p> <p>受講者はガイダンスにつづいて、数回の授業案検討会を行い、授業グループに分かれて教材研究、授業計画案を討議・作成し、模擬授業のリハーサルを行う。模擬授業は、筑波大学内体育施設(中央体育館等)で実施し、その後最終反省会を行う。</p> <p>また、受講者はe-Learning授業評価システムを活用して模擬授業動画を視聴しながら授業省察を学修することを最終課題として学修する。</p>	
	アダプテッド体育・スポーツ学演習I	<p>アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を購読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回) (うち10回共同)</p> <p>(256 齊藤まゆみ/全20回) アダプテッドスポーツの体験とその指導法について実践を通して学ぶとともに、アダプテッド・スポーツ科学に関する文献購読とディスカッションを行い、アダプテッド・スポーツ科学に関する研究動向と課題が説明できるようにする。</p> <p>(266 澤江幸則/全20回) アダプテッド・スポーツ科学に関する文献購読とディスカッションを行い、アダプテッド・スポーツ科学に関する研究動向と課題が説明できるようにするとともに、運動指導場面において計画の立案、実践、検討会を行い質の高い指導者を育成する。</p>	オムニバス方式 共同(一部)
	アダプテッド体育・スポーツ学演習II	<p>アダプテッド・スポーツ科学に関する文献を購読するとともに、アダプテッド・スポーツ現場を体験し、研究の動向と課題について議論し、アダプテッド体育・スポーツ学についての論文指導を行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(256 齊藤まゆみ) アダプテッド体育・スポーツのなかでも聴覚障害、視覚障害、肢体不自由のある人を対象とした体育・スポーツ指導法について、実践研究、質的研究の手法を用いた研究指導を行う。</p> <p>(266 澤江幸則) アダプテッド体育・スポーツのなかでも発達障害、知的障害のある人を対象とした体育・スポーツ指導法について、発達心理学、質的研究の手法を用いた研究指導を行う。</p>	
	体育心理学演習I	<p>体育心理学の研究法に関する講義と体験的学習を通して、スポーツ・体育心理学領域における研究の実際を知り、心理学的研究法に関する理解を深める。また、海外の文献を読んで実際の研究を理解し、各自の問題意識に基づいて研究計画を立てる。本演習を通して、スポーツ・体育心理学領域における諸問題を解決するための研究遂行能力の基礎を身につける。</p> <p>(65 坂入洋右) スポーツ・体育心理学領域における、健康心理学およびスポーツカウンセリングの調査的・実践的研究法に関する概説を行う。受講生各自は関心のある海外の文献を探して紹介し、自身の研究計画を立てる。</p> <p>(457 國部雅大) スポーツ・体育心理学領域における、知覚運動制御および運動学習の実験研究法に関する概説を行う。受講生各自は関心のある海外の文献を探して紹介し、自身の実験研究計画を立てる。</p>	共同
	体育心理学演習II	<p>体育・スポーツ心理学関連の学術雑誌から関心のある掲載論文を受講生自身が探し出し、抄録を作成して発表し、研究課題等について討議する。本演習を通して、関連テーマの理解および研究論文作成の方法を学ぶ。また、修士論文作成に繋がるよう各自の研究課題を具体化し、実際に研究を遂行する取り組みを行う。</p> <p>(65 坂入洋右) スポーツ・体育心理学関連の領域における過去の研究を参照しながら、健康心理学およびスポーツカウンセリングに関する研究課題を受講生各自が設定し、修士論文作成へ向けて研究を遂行するための作業を行わせ、指導を行う。</p> <p>(457 國部雅大) スポーツ・体育心理学関連の領域における過去の研究を参照しながら、知覚運動制御および運動学習に関する研究課題を受講生各自が設定し、修士論文作成へ向けて研究を遂行するための作業を行わせ、指導を行う。</p>	共同
	体育心理学実習	<p>スポーツにおけるセルフコントロール、性格の診断法、知覚運動学習の基本的実験研究法を、実践・実験実習、データ分析、発表、レポート作成を通して学ぶ。スポーツ・体育心理学領域における実験、調査、観察などの研究法、およびメンタルトレーニングなどの介入法を実践的に学ぶことを目標とする。</p> <p>(65 坂入洋右) 質問紙調査実習、メンタルトレーニング実習、カウンセリング実習などを担当する。</p> <p>(457 國部雅大) 知覚運動制御に関する基本的な実験実習、運動学習に関する実験実習などを担当する。</p>	共同
	体育・スポーツ学特別演習	<p>社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などを講義し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身につける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身につける。</p>	
	体育・スポーツ学特別演習II	<p>社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講義し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く学習し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論を深め、修士学位論文を作成する。自分自身のテーマを決定し、研究遂行する。</p>	
健康体力学分野	健康教育学演習I	<p>国内及び国外の健康教育に関する文献資料を購読することを通して、健康教育に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論する。本授業は、研究テーマの設定、仮説の設定、研究方法論の検討、研究倫理の手続き等、論文の作成に必要な基本的な内容を習得することを目的とする。本授業は複数指導体制(100 武田文、441 片岡千恵、519 門間貴史)で行う。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	健康教育学演習II	国内及び国外の健康教育に関する文献資料を購読することを通して、健康教育に関する動向を検討し、その理論や研究方法等の理解を深める。また、健康教育に関して、いくつかのトピックを紹介する。さらに、国内外の文献の中から課題を選定し、その報告・発表を行い、全体で議論を深める。本授業は、得られた結果の吟味、考察の論旨・構成等、論文の作成に必要な内容の理解を深め、実践的な能力を育成することを目的とする。本授業は複数指導体制（100 武田文、441 片岡千恵、519 門間貴史）で行う。	共同
	運動生理学演習I	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、研究論文等の議論や発表を行う。1年次対象である。 骨格筋系のキーワード：分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード：運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	共同
	運動生理学演習II	スポーツ、トレーニング及び健康増進に関わる骨格筋系、呼吸循環系の下記のキーワードに関連した最新情報を理解するために、英文研究論文等の議論や発表を行う。 骨格筋系のキーワード：分子運動生理学、筋肥大、筋持久力増強、筋萎縮、サプリメント、ヒトの実験系、動物実験系、培養骨格筋細胞、初代培養細胞、ミュータント、遺伝子、転写産物、蛋白質、シグナルカスケード 呼吸循環系のキーワード：運動トレーニングによる呼吸循環系の適応、暑熱と低酸素に対する適応、水分調節	共同
	運動生化学演習I	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な基礎的能力を身に着ける。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。	共同
	運動生化学演習II	演習。運動生化学に関する国内外の専門書、文献、研究論文等を講読し、運動生化学の対象領域、基本概念、研究方法などを学習することによって研究に必要な能力を向上させる。運動が身心に及ぼす影響とトレーニング効果に関して運動生化学の立場から理解を深め、健康や運動パフォーマンスの維持・増進のメカニズムを理解する。研究力を向上させ、修士論文を作成できるようにする。	共同
	運動栄養学演習I	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠（休養）の組み立て方を理解するために、栄養（食生活）、身体活動（運動）・トレーニング、休養（睡眠）をメインkey wordsとする基礎研究で、主にエネルギー代謝、糖代謝、脂質代謝、たんぱく質代謝、骨代謝・カルシウム代謝、カルシウム以外のミネラル代謝、水分代謝に関連するスポーツ・運動栄養学領域の主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	
	運動栄養学演習II	競技力を高めるための、および健康の維持増進のための食事とトレーニング、睡眠（休養）の組み立て方とその実践法について学ぶために、栄養（食生活）、身体活動（運動）・トレーニング、休養（睡眠）をメインkey wordsとし、エネルギー補給法、Female Athlete Triadの予防・改善、貧血予防・改善、からだづくり、熱中症・脱水対策、体力・持久力の向上、食育・食生活改善に関連する実践的研究で、主に英語を使用言語とする最近の総説、原著論文等を精読し、その内容について議論する。	
	体力学演習I	体力科学、体力・運動能力、体力トレーニング、運動遊びなどに関する国内外の学術論文、解説、著書、マニュアルなどを参考に、体力学領域における文献研究、研究計画、研究方法について演習する。 (オムニバス方式／全30回) (118 鍋倉賢治／8回) オリエンテーションおよび運動中のエネルギー代謝（特に持久性競技）に関する上記内容について (218 榎本靖士／7回) パワーおよび運動効率に関する上記内容について (233 小野誠司／7回) 視覚-運動系および体性感覚-運動系に関する上記内容について	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(48 木塚朝博/8回) 体力・運動能力およびテスト開発に関する上記内容について、まとめ	
	体力学演習II	<p>体育科学に関する内外の学術論文を題材に討議を行い、体力学領域における科学的知見に関わる情報を収集し、文献研究の方法について演習する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(118 鍋倉賢治/8回) オリエンテーションおよび運動中のエネルギー代謝(特に持久性競技)に関する上記内容について</p> <p>(218 榎本靖士/7回) パワーおよび運動効率に関する上記内容について</p> <p>(233 小野誠司/7回) 視覚-運動系および体性感覚-運動系に関する上記内容について</p> <p>(48 木塚朝博/8回) 体力・運動能力およびテスト開発に関する上記内容について、まとめ</p>	オムニバス方式
	健康増進学演習I	<p>人体の形態、運動機能、体力・運動能力等の発達・加齢変化に関する測定評価法、トレーニング法、統計解析法などに関する内外の文献を討議する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回～10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回～20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回～30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。</p>	
	健康増進学演習II	<p>修士論文作成における当該分野の関連知識と方法論を修得する。学習目標は、健康、体力の維持、増進に及ぼす運動の効果、加齢の影響などに関する国内外の文献を討議し、同時に修士論文の研究手法、内容について理解を深める。第1回～10回は成人を対象とした健康・体力に関する論文抄読、第11回～20回は運動と健康・体力に関する論文抄読、第21回～30回は身体活動と健康・体力に関する論文抄読をおこなう。</p>	
	体育測定評価学演習I	<p>目標：運動能力の研究に関する基礎的および先端的な科学研究の方法を理解し修得する。</p> <p>授業計画の概要：達成度評価のテスト理論と尺度構成手続きを理解する。運動能力の測定方法を理解する。運動能力の測定モデルの理論を理解する。実技テストで測定できない動作技能や戦術技能を測定対象として、構成概念の測定モデルを想定して、測定項目を構成する。測定を実施する。</p>	
	体育測定評価学演習II	<p>目標：運動能力に関する実際の研究データの分析を通して、基礎的および先端的な研究方法を実践する。</p> <p>授業計画の概要：測定されたデータからデータセットを作成し、データチェックし、欠損値を処理して、記述統計量を分析する。相関行列を算出して、多変量統計解析により、尺度特性を分析する。従属変数と独立変数から、平均値構造から要因の効果を測定する。論文を参照して、方法と結果を記述する。</p>	
	内科系スポーツ医学演習I	<p>内科系スポーツ医学領域に関連する英語文献(研究論文)を抄読・紹介し、研究の背景、研究目的、研究方法、研究結果、研究結果の解釈、考察などについて討議することで、内科系スポーツ医学領域の研究についての基礎的な理解を深める。また、内科系スポーツ医学領域の研究論文を抄読・紹介することで、研究に関連する新たな情報を得ることも目標とする。さらに、英文論文を抄読・紹介することにより、英語力の向上を目指すとともに、英文論文の構成の基礎などについても学ぶ。</p>	共同
	内科系スポーツ医学演習II	<p>内科系スポーツ医学領域に関連する修士論文の作成に向けて、当該修士論文の研究に関する関連知識や研究方法論などを学習する。具体的には、修士論文の研究計画、研究の進捗状況、研究結果、研究結果の考察などについてプレゼンテーションを行い、これらについての討議を行う。これらのプロセスを経て、内科系スポーツ医学領域に関連した修士論文を作成することを目標とする。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力や議論する能力についても身につけることを目指す。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論特講I	<p>スポーツ医学(内科系)の基礎として、健康の維持・増進および疾患の予防・治療における運動の効果について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全20回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(161 前田清司/14回) 循環器疾患、肥満、メタボリックシンドロームなどを取り上げ、運動実践と食生活改善がこれらの予防に与える効果について解説し、疾病予防や健康づくりの対策を学習する。</p> <p>(98 竹越一博/5回) 糖尿病、ホルモンなどを取り上げ、運動実践、食生活改善、薬物療法がこれらに与える影響について解説する。</p> <p>(372 渡部厚一/1回) 呼吸器疾患を取り上げ、運動実践が呼吸器疾患の予防や治療に与える影響について解説する。</p>	
	外科系スポーツ医学演習I	<p>スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、基礎知識を学び、研究テーマの設定に向け、先行研究論文を読み、まとめる力をつける。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。</p> <p>(346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。</p> <p>(287 竹村雅裕) : (世話人) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。</p> <p>(494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	外科系スポーツ医学演習II	<p>スポーツ医学(外科系)に関する文献を読み、専門的な知識を学び、修士論文執筆及び学会発表を進めるうえでの実践力を養う。</p> <p>(88 白木仁) アスレティックトレーニング学・柔道整復学の面から指導・助言をする。</p> <p>(346 向井直樹) 医学・整形外科の面から、指導・助言する。</p> <p>(287 竹村雅裕) : (世話人) アスレティックトレーニング学・スポーツ理学療法学の面から指導・助言をする。</p> <p>(494 福田崇) アスレティックトレーニング学の面から指導・助言する。</p>	共同
	スポーツ医学基礎論特講II	<p>運動による運動器の変化について、骨組織の形態、骨代謝と軟骨代謝の生化学マーカー、軟部組織の3回に分けて解説する。いずれも自身や研究室で実験した結果を基にしており、運動負荷による変化をどのように把握できるかに重点を置いた構成としている。</p>	
	スポーツバイオメカニクス演習I	<p>スポーツバイオメカニクスに関する国内外の文献を購読し、現在のスポーツバイオメカニクス分野の研究課題などについてディスカッションする。また、修士論文に関する実験・データ分析の進捗状況を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、研究を進めていく上での課題を明確にするとともに、スポーツバイオメカニクス領域に関する幅広い知見を身につけることを目標とする。</p>	共同
	スポーツバイオメカニクス演習II	<p>修士論文作成に必要な国内外の文献を購読し、修士論文との関連性についてディスカッションする。データの分析結果に関する考察を学会形式で発表し、教員、同じ研究領域の大学院生とディスカッションを行うことで、できる限り客観的な考察を行う能力を身につけることを目標とする。また考察がまとまった段階においては、国内外の学会で研究発表を行い、学外のバイオメカニクス研究者からの意見についても積極的に取り入れるように指導する。</p>	共同
	スポーツバイオメカニクス実験	<p>スポーツバイオメカニクスの研究手法、特に動作分析手法について実習するとともに、データのまとめ方を学習する。具体的には、高速度ビデオを用いた二次元および三次元動作解析、フォースプラットフォームを用いた地面反力測定を行う。次に、取得したデータをもとに、身体重心位置算出、関節角度算出などのキネマティック的分析、関節トルクなどのキネティック的分析をプログラミング言語MATLABを用いて行う。さらに得られたデータに対して考察を行い、分析結果について学会形式で発表を行い、ディスカッションを通してバイオメカニクスの研究手法の習得を目標とする。</p>	共同
	応用解剖学演習I	<p>応用解剖学に関して、解剖学及び機能形態学の知識に基づいた研究の組み立て方、実験の取り組み方等について、基礎的な指導を行うとともに、実際に予備的な実験を行う。これらと並行して、自身の修士論文に関連する文献を探索し、先行研究における不備な点、明らかになっていない点、あるいは相反する研究結果を見つけ出し、それらの解決に自身の修士論文がどのように貢献できるか考えさせ、その実践への糸口をつかむ。</p>	
	応用解剖学演習II	<p>「応用解剖学演習I」で得られた知見をもとに、修士論文の研究計画を詳細に決定し、それに従って実験、調査等を行う。また、6月に開催される修士論文の経過報告に対して、論文のまとめ方、プレゼンテーションの仕方について指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
コーチング学分野	コーチング論・トレーニング学演習I	<p>スポーツ・コーチング及びトレーニングに関する内外文献の抄読や実践を通して、研究法などを習得し、科学的知見に基づくコーチング及びトレーニングの在り方を探求する。</p> <p>(239 河合季信) 競技スポーツを対象として、記述的パフォーマンス分析や競技者育成システム等に関する内外文献を抄読し、専門競技でその方法を実践する。</p> <p>(46 木内 敦詞) 個人やチームの心理的パフォーマンスにアプローチした文献渉猟を行いながら、自己の興味の本質がどこにあるのかについて、議論を深める。</p> <p>(290 谷川聡) スポーツパフォーマンス構造と複雑系生体学システムの視点を内外文献から得て、統合していきスポーツコーチング・トレーニングのあり方を議論する。</p> <p>(609 松元剛) スポーツ・コーチングに関連した組織論、マネジメント論、戦術学習論、パフォーマンス評価論を中心とした内外文献を抄読し、最新の理論をまとめる。</p> <p>(326 前村公彦) 様々なスポーツにおけるパフォーマンス構造およびトレーニングについて議論し、エビデンスに基づいたコーチング及びトレーニングのあり方を探求する。</p>	共同
	コーチング論・トレーニング学演習II	<p>スポーツ・コーチング及びトレーニングに関して、より発展的な内容に関して、内外文献の抄読や実践を行い、研究手法を身につけ論文作成能力を養う。</p> <p>(239 河合季信) 自身の研究テーマを中心に、記述的パフォーマンス分析や競技者育成システムなどについて内外文献を抄読しながら、具体的な研究計画を練る。</p> <p>(46 木内敦詞) 自身の研究テーマを中心に、個人やチームの心理的パフォーマンスにアプローチした文献渉猟を行いながら、具体的な研究計画を練る。</p> <p>(290 谷川聡) 自身の研究テーマを中心に、スポーツパフォーマンスに関わる文献を抄読して、論文作成能力を養う。</p> <p>(609 松元剛) スポーツ・コーチングに関連した組織論、マネジメント論、戦術学習論、パフォーマンス評価論を中心とした内外文献を抄読し、自身の修士論文作成へと繋げる。</p> <p>(326 前村公彦) 自身の研究テーマに関連した論文抄読を行い、研究論文の構想の練り方、組み立て方、オリジナルな視点の立て方など論文指導を行う。</p>	共同
	スポーツ運動学演習I	<p>演習Iでは以下の内容について専門文献の講読等を通じて学習し、専門的知識を身につける。また、スポーツ運動学の研究方法についての理解度を深める。いずれの教員の授業も、日本語、ドイツ語、また英語の専門文献読み発表し、議論を重ねる、というスタイルで授業をしていく。さらに学生には、常に、現場の目線とは何かについて問い続けていく。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(76 佐野淳/20回) 授業は、運動学の専門文献を通じて、自然科学的運動研究と現象学的運動研究(発生論的運動学)の思考原理上の違いについて理解するように進める。</p> <p>(301 中村剛/10回) とくに現象学的な専門文献を講読し、発生論的運動学の運動研究の方法論について専門的知識を身につけ、この学問の存在意義とその本質を理解するように進める。</p>	オムニバス方式
	スポーツ運動学演習II	<p>スポーツ運動学演習Iの履修を前提として(内外の文献の講読による専門知識の習得)、毎週、個別に指導を行い、研究論文(修士論文)の構想の練り方、組み立て方、オリジナルな視点の立て方など論文指導を行う。</p> <p>(76 佐野淳) 自身の研究テーマが実践現場にどう役立つかについて議論し、スポーツ運動学理論の実践性の理解を深める。</p> <p>(301 中村剛) 今日のスポーツ運動学にとって重要となる現象学的分析方法について議論する。</p>	共同
	体操コーチング論演習I	<p>体操の運動方法ならびにコーチングに関する内外の文献や資料を題材として、ねらい、対象、運動方法、指導法、評価などについて理解を深めるとともに、討議を通じて、体操コーチングに関する論理的な思考を身に付ける。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(418 本谷聡/15回) Gymnastikに関連するドイツ語圏における文献購読により、体操の概念について資料を収集し、その概念について討議する。加えて、ドイツにおける体操学校の現状と課題について、ビデオ視聴を通じて学習する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(130 長谷川聖修/15回) 国内外の先駆的な体操指導の実践例について文献・資料・ビデオを通じて検討し、これからの体操指導のあり方を討議し、理解を深める。	
	体操コーチング論演習II	<p>子どもの体力低下・二極化や超高齢社会の到来など、社会的な諸問題について、国内外の文献・資料を調査し、課題を解決するために有用な体操のプログラムやコーチングに関して論文指導を行う。</p> <p>(418 本谷聡) 学校体育の「体づくり運動」における諸問題を検討し、それらを解決する実践的かつ魅力的な運動プログラムを開発するとともに、運動効果を多面的に検証するための研究指導を行う。</p> <p>(130 長谷川聖修) 超高齢社会を健やかに暮らすために、高齢者を対象としてロコモティブシンドローム予防体操プログラム等を検討し、これをWEBサイトにて動画発信し、評価を受ける電子アンケート調査に関する研究指導を行う。</p>	共同
	体操競技コーチング論演習I	<p>体操競技の男子6種目（ゆか、あん馬、つり輪、跳馬、平行棒、鉄棒）、女子4種目（平均台、跳馬、段違い平行棒、ゆか）について、それぞれの種目の発達史、種目特性、技の体系、技術およびコーチング法、ルール等について、国内外の文献や資料の講読と討議を行い、体操競技の指導者としての専門的知識を身に着ける。資料として、主に、現行採点規則の原語版、ドイツ語圏および英語圏の専門文献、日本国内の研究論文などを用いる。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(458 齋藤卓/15回) 採点規則に関する内容 (198 渡辺良夫/15回) : 国内外の専門文献、研究論文に関する内容</p>	オムニバス方式
	体操競技コーチング論演習II	<p>体操競技コーチング論の基礎的な理論領域を体系的に理解し、研究方法について学習する。体操競技の競技特性、技術、体系論、安全確保と指導法などについての国内外の研究論文を講読し、討議を行うことで専門性を養う。発生運動学における発生分析の方法論と、構造分析論における始原論的分析論、体系論的分析論、地平論的分析論を体操競技コーチング論領域で用いるための方法について学習し、修士論文を作成するために必要な専門的知識を養い修士論文を作成する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(458 齋藤卓/15回) 構造分析論にかかわる内容 (198 渡辺良夫/15回) 発生分析論にかかわる内容</p>	オムニバス方式
	陸上競技コーチング論演習I	<p>陸上競技の技術、トレーニング、指導法の研究について実践し、データ分析、プレゼンテーションについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス形式/全30回)</p> <p>(226 大山卞圭悟/15回) 主に投擲競技の技術、トレーニング、指導法および、陸上競技における傷害予防の視点からの課題を題材として、研究実践を行い、データ分析、結果提示の手法について学ぶ。</p> <p>(450 木越清信/15回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技の技術、トレーニング、指導法に関する課題を題材として、研究実践を行い、データ分析、結果提示の手法について学ぶ。</p>	オムニバス方式
	陸上競技コーチング論演習II	<p>陸上競技種目の技術特性、指導法やトレーニング法について概説し、実験データの活用、実践への適用について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(226 大山卞圭悟/15回) 主に投擲競技の技術、トレーニングについて、実験データを題材として内容の検討を行い、コーチングへの適用について議論する。</p> <p>(450 木越清信/15回) 主に走競技、跳躍競技、混成競技の技術、トレーニングについて、実験データを題材として内容の検討を行い、コーチングへの適用について議論する。</p>	オムニバス方式
	水泳競技コーチング論演習I	<p>水泳競技（競泳・水球・シンクロ・飛込み）における競技レベルに応じた技術（各種泳法）、技術トレーニング、体力トレーニング、指導法について、国内外の文献をもとにし、現場におけるコーチングに貢献する研究課題を抽出し、検討する。また、その研究課題を解決する研究方法論について多角的に討議し、修士論文の作成に向けて必要な基礎的知識の獲得を目指す。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	水泳競技コーチング論演習II	水泳競技（競泳・水球・シンクロ・飛込み）における競技レベルに応じた技術（各種泳法）、技術トレーニング、体力トレーニング、指導法について、国内外の文献研究から得られた知見をもとに、コーチング場面における実践的な展開を想定したグループディスカッションを行い、更に修士論文作成に向けた具体的な方法論等について検討を行う。また、研究内容や研究結果などを伝えるプレゼンテーション能力についても身につけることを目指す。	共同
	バレーボールコーチング論演習I	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールのルールや競技特性、基本的な技術、基本的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術、バレーボール競技者に必要な一般的体力要素、ケガを予防するためのトレーニング方法、基礎的なゲーム分析の視点とその方法、競技力を定着させるための指導の方法などについて学習する。また、研究法について学習し、修士論文を作成するための基礎的資質を高める。	共同
	バレーボールコーチング論演習II	国内外の専門文献や研究書を講読し、バレーボールの発達史、応用技術、応用的な個人戦術・グループ戦術・チーム戦術とその発展、バレーボール競技者に必要な特異的体力要素、パフォーマンスを向上させるためのトレーニング方法、分析ソフトを用いた応用的ゲーム分析方法、競技力を向上させるための指導の方法などについて理解を深める。また、バレーボールコーチング論の研究法について理解し、修士論文を作成する。	共同
	バスケットボールコーチング論演習I	複雑なバスケットボールの競技特性について言及する最新の内外のスポーツ科学・トレーニング科学等の諸々の知見を援用しながら、バスケットボール競技のコーチングを、(1) 競技力の構造、(2) コーチの思想・倫理論（フィロソフィー、ディシプリン）、(3) チームマネジメント論、(4) 体力論（エネルギー系体力の内実）、(5) トレーニング論I（期分け、トレーニング構成）、(6) トレーニング論II（最適トレーニング）、(7) 技術・戦術論I（基礎技術、個人戦術）、(8) 技術・戦術論II（グループ戦術、チーム戦術）、(9) 学習・指導論（練習の多様性、文脈干渉効果）などの多角的視点から検討する。	共同
	バスケットボールコーチング論演習II	バスケットボールの複雑な競技特性を踏まえ、あらゆるレベルに共通するオフェンスとディフェンスの考え方や基礎となるドリルを学び、コーチングの前提要件たる指導法の向上を目指す。併せて、実際のコーチング場面で直面する、コーチング・フィロソフィーやディシプリン、チームマネジメント、エネルギー系体力の内実、期分けやトレーニング構成にかかわるトレーニング論、基礎技術や個人戦術やグループ戦術そしてチーム戦術にかかわる技術・戦術論、また、練習の多様性や文脈干渉効果などを踏まえた学習・指導論などにおける諸問題を解決するための方策について検証し、バスケットボール競技のコーチングに関わる基礎的な課題について発表・討議する。	
	ハンドボールコーチング論演習I	国内外における文献の精読を通して、ハンドボールのコーチングに関する基礎理論および応用理論について学習する。 (オムニバス方式/全30回) (1 會田宏/10回) ハンドボールのコーチングに関する研究に必要な基礎知識、コーチングに臨む態度、ハンドボール競技の歴史と展望、競技力の構造について解説する。 (497 藤本元/10回) ハンドボールにおけるゲームの局面構造、技術と戦術の発達、チームマネジメントの実際、ゲームプランとトレーニングプランの作成について解説する。 (523 山田永子/10回) ハンドボールにおけるゲームプラン実現のためのトレーニング内容と方法、ゲーム中における指揮、ゲームパフォーマンスの評価とゲーム・トレーニングプランの修正、競技レベル、年齢および性別に応じたコーチングと一貫指導について解説する。	オムニバス方式
	ハンドボールコーチング論演習II	ハンドボールのコーチングに関する研究方法論について学習し、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成する。 (オムニバス方式/全30回) (1 會田宏/10回) コーチングに関する研究に臨む態度、研究において明らかにするべき知の概念について解説する。 (497 藤本元/10回) 国内外の先行研究の精読、研究テーマの設定、研究デザインの作成と検討、データの収集と倫理的問題への対応について解説する。	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(523 山田永子/10回) データの分析と統計的手法、データの解釈、公共性のある論文作成、研究成果のまとめ、口頭による研究発表について解説する。	
	サッカーコーチング論演習 I	<p>サッカーコーチに求められる資質である論理的思考とコミュニケーション能力を高めることと、修士論文作成に向けての科学的手法によるサッカーのコーチングに関する問題解決能力を高める。サッカーの指導に必要な具体的な問題を自ら設定し、それに関わる内外の文献資料を広く収集する。そして、自らのテーマに関して口頭で発表し、発言能力を高める。</p> <p>(3 浅井武) サッカーの自然科学的手法について指導を行う。 (117 中山雅雄) サッカーの人文科学的手法について指導を行う。 (455 小井土正亮) サッカーの実践的テーマの分析法について指導を行う。</p>	共同
	サッカーコーチング論演習 II	<p>自らが設定したサッカーのコーチングに関するテーマへのアプローチの仕方や、研究の進捗について、定期的に発表と討論を繰り返し、各種の文献を読解し専門的理解を深める。研究の実践を通して論文指導をおこなう。</p> <p>(3 浅井武) サッカーの主に自然科学的テーマについての課題の研究指導を行う。 (117 中山雅雄) サッカーの主に人文科学的テーマについての課題の研究指導を行う。 (455 小井土正亮) サッカーの主に実践的テーマについての課題の研究指導を行う。</p>	共同
	ラグビーコーチング論演習 I	<p>授業は演習形式とし、ラグビーコーチングに関する様々な文献・映像の検討と討論を通して、基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業はオムニバス方式とし、最初は様々なゲームパフォーマンス分析の手法について学ぶとともに、実際の分析手法を用いてゲーム構造に関する理解を深める。次に分析ツールを利用したデータ収集と解析を行い、パフォーマンスの評価法について学習する。最後に先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行い、実践知の習得を図る。</p> <p>(オムニバス方式/30回)</p> <p>(321 古川拓生/15回) 映像分析ソフトやGPS等のツールを活用したゲーム分析やパフォーマンス評価の実際について学ぶ。 (463 嶋崎達也/15回) コーチングやトレーニングの実戦研究を通じて、データの収集及び収集データの検討を行い、各自の研究課題の明確化を図る。</p>	オムニバス方式
	ラグビーコーチング論演習 II	<p>授業は演習形式とし、ラグビーのコーチングやトレーニングに関する研究の実践を通じ、研究に関する計画上および実施上の問題の検討と討議をとおして問題の解決と研究の進展を図ることを目的とする。授業では、各自が設定した研究テーマに対し指導・助言を行い、データ分析やアカデミック・ライティング、プレゼンテーションの力を高め、最終的には修士論文の作成に必要な知識と技能を習得する。</p>	
	ラケットバットスポーツコーチング論演習 I	<p>野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性を学ぶ。ラケットバットスポーツの歴史・指導方法そして研究に関してその意義と現状との差異に関して集団で討論し、また、発育段階における問題点を明らかにして、体系的な指導方法に関してモデルの構築を行う。それを通じてコーチングと研究遂行する基礎的資質を身に着ける。</p>	共同
	ラケットバットスポーツコーチング論演習 II	<p>野球・卓球・テニス・バドミントンなどそれぞれの種目固有の特性について理解を深める。ラケットバットスポーツに関して体力・技術・心理などの視点から、さらに戦略・戦術・戦法などの視点から従来の方法にとられないコーチング及び指導法を討論し、修士論文の作成に必要な能力を向上させる。</p>	共同

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	柔道コーチング論演習I	<p>授業は演習形式とし、柔道のコーチングに関する文献・資料を題材として、その現状を討議し、問題点を探りながら基本的な知識の習得と各自の研究課題の明確化を図ることを目的とする。授業はオムニバス方式とし、先行研究を元に各自で設定したコーチングやトレーニングに関する課題に対してデータの収集と検討を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(228 岡田弘隆/10回) 柔道におけるコーチングやトレーニングに関する文献を精読し、各テーマについて討論を行う。 (329 増地克之/10回) 柔道におけるコーチングやトレーニングに関して資料をもとに指導を行い、各自の研究課題の明確化を図る。 (228 岡田弘隆/10回) 柔道における競技分析的研究等に関する文献を精読し、各テーマについて討論を行う。</p>	オムニバス方式
	柔道コーチング論演習II	<p>修士論文の作成に向けて、柔道のコーチングに関する研究方法論について学習し、専門的知識を深め、修士論文の作成に必要な知識と技能を養成することを目的とする。また、データ分析およびプレゼンテーションについて学ぶ。</p> <p>(228 岡田弘隆) 修士論文作成に向け、柔道のコーチング及び指導法に関して、各自の研究課題に即した研究指導を行う。 (329 増地克之) 柔道の競技力向上を目的とした指導法に関する文献を精読し、様々なデータや資料を取り上げ、論文作成に向けて研究指導を行う。</p>	共同
	柔道コーチング論実習「形」	<p>柔道の七つの形である(投の形、固の形、柔の形、極の形、講道館護身術、五の形、古式の形)を行う。投の形と固の形は合わせて乱取の形ともいわれ、それぞれ代表的な技15本を学ぶ。柔の形は、柔の理によって、攻撃防御の方法を緩やかな動作で行う。極の形は、真剣勝負の形とも称され、柔道の技法を駆使した実践的な形で、俊敏な体さばきと効果的な極め方を学ぶ。講道館護身術は、新しい時代にふさわしい表現をとり、武器を持って襲いかかる等の諸暴力などを予想し、身を護る最も代表的な防御法について学ぶ。五の形と古式の形は技を離れて表現され、芸術の世界にひたらせる形である。</p> <p>また、段の取得および形競技大会への参加まで視野に入れ行う。</p>	
	剣道コーチング論演習I	<p>研究論文作成のために必要な剣道の試合・審判・形(型)・指導法についての素養を身につける。</p> <p>(57 香田郡秀) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の審判、形(型)に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。 (302 鍋山隆弘) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の試合に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。 (205 有田祐二) 研究論文作成に必要な素養を身につけるために、主に剣道の指導法に関する文献や先行研究の解説等を行い、研究課題設定に向けた指導を行う。</p>	共同
	剣道コーチング論演習II	<p>剣道全般に関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。</p> <p>(57 香田郡秀) 剣道の審判、形(型)などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。 (302 鍋山隆弘) 剣道の試合などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。 (205 有田祐二) 剣道の指導法などに関して、研究の実践、指導を行い、方法論と関連知識等について論文指導を行う。</p>	共同
	弓道コーチング論演習I	<p>弓道に関する文献(古伝書を含む)を読み下し、弓術・弓具・指導法等に関する理解を深める。伝統的弓道とその指導法を理解し、現代における基本的指導のあり方を理解・修得する。弓道における「五射六科」の内容を学習し、その理解と現代的応用方法について考え、論議する。年齢や経験の違う対象者に対する弓道指導の留意点について理解する。安全で効果的に弓道指導を行う上での現代的課題と弓道指導の将来展望を俯瞰できる能力と実践力を養う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	弓道コーチング論演習II	弓道指導に関する文献、古文献、研究論文等により、「五射六科」のうち、弓器・弓工に関する理解を深めるとともに、その実践を試みることを通じて現代的な課題を探っていく。また、伝統的弓道指導法、現代的弓道指導法に関して理解し、その違いと課題を探っていく。指導法に関して様々な観点を見だし、新たな指導法の可能性を考えていく。弓道指導法、弓具管理法に関する先行研究を理解し、現在の弓道コーチングのあり方、弓道コーチングの将来を展望する。	
	野外運動論演習I	<p>本授業では、野外運動における自然と文化、人間理解等について、基本的な知識を修得し、理解を深めることを目標に、2名の教員によるオムニバス方式により、授業を実施する。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(67 坂本昭裕/15回) この授業では、野外運動実践における事例研究の目的、意義、方法、提示の方法について理解を深め、実際に自験例についてまとめることを演習する。自験例は、野外運動の指導実践(たとえば、キャンプカウンセリング、ASEのファシリテーションなど)をまとめる。さらに、本時において自験例を提示し事例を検討することについて体験的に学修する。</p> <p>(532 渡邊仁/15回) 本授業では、野外教育・野外運動に関する海外文献を輪読しながら、テクニカルタームとその周辺概念を理解すると同時に、様々なトピックを題材として野外教育・野外運動を多角的な視点から捉えることを目的とする。具体的には、歴史、哲学、教育思想、基礎理論、指導論、技術論、関連団体、指導者育成、現状の諸問題、国内外事情等の関心の高いトピックをいくつか選択して進める。</p>	オムニバス方式
	野外運動論演習II	<p>野外運動・野外教育分野における修士論文の作成に向けて、まず、興味関心のある実践や研究について国内外の動向を把握し、自分自身の研究課題を探求する。具体的には、関連する先行研究についてレビューし、研究課題あるいは、テーマの設定を行う。次に、研究・調査を計画し、研究課題を解決するための適切な研究方法論について学修し関連の知識を得る。これらについて、毎回プレゼンテーションを行い、研究を進める上での諸問題について討議する。</p> <p>(67 坂本昭裕) 野外運動・野外教育分野におけるセラピューティック実践を対象とし、主に心理学的手法を用いて研究指導を行う。</p> <p>(532 渡邊仁) 組織キャンプや冒険教育プログラムにおける効果や構造解明の課題を設定し、野外教育学研究法等の手法を用いて研究指導を行う。</p>	共同
	野外運動論実習	<p>本時においては、野外教育に関連した外部団体と連携し、野外教育プログラムについて、1) 企画・立案、2) 実施・運営、3) 評価に関与することを通して、総合的に野外教育事業をマネジメントする能力を修得することがねらいである。具体的には、企画では、野外教育事業の対象、目的、プログラム、組織について立案することを実習する。運営では、実地踏査、参加者の募集、参加者への指導を実践する。さらに評価においては、報告書等の作成を通じて振り返りを行う。</p>	共同
	舞踊論演習I	<p>舞踊(ダンス)分野に関する国内・国外の文献、資料を中心に近年の舞踊論における研究の動向と諸問題について学習するとともに、舞踊論の研究方法論について理解を深める。さらに、研究対象を明確にするための考察を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全30回)</p> <p>(317 平山素子/10回) 主に、舞踊における身体と表現に関する研究について理解を深める。</p> <p>(296 寺山由美/20回) 主に、舞踊教育および舞踊文化に関する研究について理解を深める。また、修士論文執筆に向けての計画を立てる。</p>	オムニバス方式
	舞踊論演習II	<p>舞踊論・舞踊教育学分野における修士論文の作成に向けて、国内外の舞踊に関する論文や研究資料を参考に研究動向を把握しながら、論文作成のための方法論と関連知識を身につける。その上で、自らの修士論文の研究課題を選定し、関連する先行研究の検討を行う。さらに、研究目的や研究方法を明確にして研究を進め、修士論文として研究成果をまとめる。また、研究発表の方法やプレゼンテーションの方法も習得し、他者へ自分の考えを伝達する能力を養成する。</p>	共同

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	舞踊表現技術実習	コンテンポラリーダンスを扱う。呼吸、フロアを使ったムーブメントやカウンターバランスなどの動きの理論を体験し、音楽、動きのコンセプトなど発想を広げる。個々が多様な身体表現の可能性を探る機会を促す。	
	コーチング学特別演習	社会人特別選抜入学者でコーチング分野の学生の必修科目。スポーツに関する国内外の専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。コーチング学分野に関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて学習し、基本的な研究力を身に着ける。自分自身のテーマを決定し、研究遂行するための基礎的能力を身に着ける。	
	コーチング学特別演習II	社会人特別選抜入学者で体育・スポーツ学分野の学生の必修科目。専門文献、研究資料などの講読し、それについてディスカッションを行う。スポーツに関する研究法について学習し、研究を遂行する上で必要な基本概念、手段、手順などについて深く理解し、研究力を向上させる。関連分野の研究成果について議論することによって自分自身のテーマを決定し、修士学位論文を作成する。	
	コーチング特別課題研究I (設計)	それぞれの専門種目において、国をリードする監督やコーチとなり、将来的には統括祖機での指導的役割を担う人材を養成を目的とするナショナルリーディングコーチ系列の科目である。自らのトップレベルの競技経験から導き出された課題をいかに科学的に研究するかについての方法論を中心に指導する。	
	コーチング特別課題研究II (展開とまとめ)	それぞれの専門種目において、国をリードする監督やコーチとなり、将来的には統括祖機での指導的役割を担う人材を養成を目的とするナショナルリーディングコーチ系列の科目である。自らのトップレベルの競技経験から導き出された課題を科学的方法論に従いながら分析し、それらを論文としてまとめる。	共同
	(研究指導)	(1 會田宏) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。 (3 浅井武) サッカーコーチング論領域についての研究指導を行う。 (21 内山治樹) バスケットボールコーチング論領域についての研究指導を行う。 (28 大森肇) 運動生化学領域についての研究指導を行う。 (46 木内敦詞) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。 (48 木塚朝博) 体力学領域についての研究指導を行う。 (57 香田郡秀) 剣道コーチング論領域についての研究指導を行う。 (62 齋藤健司) スポーツ政策学領域についての研究指導を行う。 (64 酒井利信) 武道学領域についての研究指導を行う。 (65 坂入洋右) 体育心理学領域についての研究指導を行う。 (67 坂本昭裕) 野外運動論領域についての研究指導を行う。 (76 佐野淳) スポーツ運動学領域についての研究指導を行う。 (83 清水紀宏) 体育・スポーツ経営学領域についての研究指導を行う。 (88 白木仁) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。 (92 征矢英昭) 運動生化学領域についての研究指導を行う。 (93 高木英樹) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (100 武田文) 健康教育学領域についての研究指導を行う。 (101 武政徹) 運動生理学領域についての研究指導を行う。 (118 鍋倉賢治) 体力学領域についての研究指導を行う。 (120 西嶋尚彦) 体育測定評価学領域についての研究指導を行う。 (121 西保岳) 運動生理学領域についての研究指導を行う。 (130 長谷川聖修) 体操コーチング論領域についての研究指導を行う。 (150 藤井範久) スポーツバイオメカニクス領域についての研究指導を行う。 (160 本間三和子) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (161 前田清司) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。 (198 渡辺良夫) 体操競技コーチング論領域についての研究指導を行う。 (220 大藏倫博) 健康増進学領域についての研究指導を行う。 (228 岡田弘隆) 柔道コーチング論領域についての研究指導を行う。 (233 小野誠司) 体力学領域についての研究指導を行う。 (234 麻見直美) 運動栄養学領域についての研究指導を行う。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(243 川村卓) ラケットバットスポーツコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(256 齊藤まゆみ) アダプテッド体育・スポーツ学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(287 竹村雅裕) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(290 谷川聡) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(296 寺山由美) 舞踊論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(299 仲澤眞) スポーツ産業学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(301 中村剛) スポーツ運動学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(117 中山雅雄) サッカーコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(321 古川拓生) ラグビーコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(226 大山下圭悟) 陸上競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(346 向井直樹) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(372 渡部厚一) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(418 本谷聡) 体操コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(441 片岡千恵) 健康教育学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(450 木越清信) 陸上競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(458 齋藤卓) 体操競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(471 仙石泰雄) 水泳競技コーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(494 福田崇) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(497 藤本元) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(523 山田永子) ハンドボールコーチング論領域についての研究指導を行う。</p> <p>(530 李燦雨) 体育史・スポーツ人類学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 内科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(86 正田純一) 外科系スポーツ医学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(148 深澤浩洋) 体育・スポーツ哲学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(266 澤江幸則) アダプテッド体育・スポーツ学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(282 高橋義雄) スポーツマネジメント領域についての研究指導を行う。</p> <p>(219 大石純子) 武道学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(609 松元剛) コーチング論・トレーニング学領域についての研究指導を行う。</p> <p>(554 清水諭) スポーツ社会学領域についての研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ・オリンピック学関連科目	Olympic Movement Studies (オリンピックムーブメント論)	オリンピックムーブメント、パラリンピックムーブメントの変容について学ぶとともに、今日の課題を解決する方途を見出し、今後のムーブメントについて模索する。具体的な内容は次のとおりである。 オリンピックムーブメントの定義、近代におけるオリンピックムーブメントの変容、日本のオリンピックムーブメント、東京2020大会のオリンピックムーブメント オリンピック・パラリンピックとアート パラリンピックムーブメント、パラリンピックの価値、日本のパラリンピックムーブメント、2020年のパラリンピックムーブメントのレガシー	
	Olympic Movement and Sport Law (オリンピックムーブメントとスポーツ法)	オリンピックムーブメントに関わる法として、オリンピック憲章やアンチドーピングなどについて、どのように解釈され機能しているのかについて講義する。具体的には、オリンピック憲章の構成とその内容、オリンピック・ムーブメントに関するオリンピック憲章での定義、その法律的意義、これまでのオリンピック憲章におけるオリンピック・ムーブメントの変遷を学ぶ。	
	International Sport Event Management (国際スポーツイベントマネジメント論)	スポーツイベントを開催するスポーツ施設について、その歴史の変遷、現在の構造と機能、経営方法について学修する。また、国際的なスポーツイベントを招致し、準備、開催に至るプランニング、組織づくり、人材配置、さらにリスクマネジメントについて、事例をもとにして学ぶ。さらに、オリンピック・パラリンピックに必須のボランティアに関するマネジメントについて事例をもとに学ぶ。	集中
	Anti-Doping (アンチ・ドーピング)	スポーツ界におけるドーピングの歴史と規程や国際基準からなる世界アンチ・ドーピング機構によるアンチ・ドーピングプログラムの概要、日本で展開されているアンチ・ドーピングの全体像を紹介する。また、各国が行っているアンチ・ドーピングプログラムや近年生じているドーピング問題を題材として、スポーツのインテグリティやフェアネスに対する考え方を理解したうえで、国際比較などからアンチ・ドーピングプログラムが抱える課題やあるべき未来像を考察する。	集中
	Japanese Culture (日本文化)	日本における礼儀、日本食、祭り、和服や書道を通して、日本文化としてのおもてなしの心やマナーについて学習する。それらと欧米などのマナーについて比較し、それぞれの文化に基づく多様なマナーがあることを学修する。また、日本における名刺交換や面談時のマナーなど、ビジネスマナーについても修得する。	
	Sport and Diversity (スポーツとダイバーシティ)	スポーツにおけるダイバーシティ(多様性)に関わるこれまでの課題について取り上げ、今後の共生社会のあり方をスポーツを基軸に考えていく。具体的には、スポーツとジェンダーの問題、つまり女性のスポーツへの参加、スポーツ組織における主導的な立場についてやLGBTとスポーツについて学ぶ。また、障害者のスポーツについて学習し、理解を深める。具体的にはパラリンピックやパラリンピック以外の世界大会、また、障害(身体障害、知的障害、精神障害)の特性について、講義内で議論が可能と思われる事例を提示しながら学ぶ。	
	Olympic and Paralympic Education (オリンピック・パラリンピック教育)	この授業を通して、日本や他の国々におけるオリンピック教育やパラリンピック教育の展開について学ぶとともに、東京2020年以降も持続可能発展的に継続されるようになるにはどうしたら良いかを考える。特に日本においては、1964年東京大会時におけるオリンピック学習、1998年長野冬季大会における一校一国運動、2020年東京大会におけるオリンピック・パラリンピック教育の内容と展開、さらにこれらの教育を通して形成される人材像について学修する。	
Taiku (Physical Education) (体育)	このコースでは、理論と実践の観点からスポーツ教育学や体育教育に関する今日的課題について概説し、考察していく。特に、日本国内における課題として、部活動などの運動部活動の適切なあり方や教師教育について、また、国際的な文脈の中での体育の課題、つまり教育システムが異なる環境で育ってきた人たちにどのように体育の内容を整理して教授するか、ということ言語の問題と合わせて学修する。さらに後半では、選定した体育理論を実践的な指導の場面に適用することを学修する。	集中	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Cross-Cultural Communication (異文化コミュニケーション)	グローバル化時代における異文化コミュニケーションの基礎について学ぶ。背景、過去の所属及び分野にかかわらず、多様な視点や性格を持つ人々との良好なコミュニケーションをとるための方法論について修得する。スポーツとオリンピック研究のためのMAプログラムに定められた学問的目標と結びつけて、グローバル化された環境における異文化間コミュニケーションを達成する。研究成果を効果的に提供し、プレゼンテーションスタイルを改善し、率直かつ専門的でさらに偏見の無い意見を表明することを目的としたコミュニケーションスキルの強化を図る。	
	Research Project Management (研究プロジェクトマネジメント)	このコースでは、プロジェクトの目的と目標に沿って、研究プロジェクトの管理、計画立案、概要構築を中心に学習する。このコースは、スポーツとオリンピック研究のためのMAプログラムに記されている学術目標と結びついており、研究プロジェクトの準備、管理さらにはプロジェクト成功を実現するように導くことを目的とする。	
専門科目 (共通)	TIAS Internship A (TIASインターンシップ A)	国内外の競技連盟やオリンピック委員会、パラリンピック委員会などのスポーツ組織や、国や自治体におけるスポーツ行政組織、国際展開しているスポーツ関連企業などにおいて、4週間のインターンシップ先を決定し、スポーツ組織や競技大会などの現場における実践的知識を学びながら、キャリアパスの構築につなげる。秋学期(2月～3月)に受け入れ可能な組織にて行う。なお、A、Bのいずれかを選択する。	
	TIAS Internship B (TIASインターンシップ B)	国内外の競技連盟やオリンピック委員会、パラリンピック委員会などのスポーツ組織や、国や自治体におけるスポーツ行政組織、国際展開しているスポーツ関連企業などにおいて、4週間のインターンシップ先を決定し、スポーツ組織や競技大会などの現場における実践的知識を学びながら、人的ネットワークを構築し、実践的スキルと知識を身につけ、キャリアパスの構築につなげる。春学期(7月～9月)に受け入れ可能な組織にて行う。なお、A、Bのいずれかを選択する。	
	TIAS Research Project (TIAS課題研究)	学生は、以下のような研究専攻の1つに基づいて独自の研究プロジェクトを実施し、最終報告書を作成する。過去に書かれた最終報告書を先行研究として活用しつつ、これまでに取り組みがなされていない課題に関して、実践的にアプローチしていく。 1) オリンピック・パラリンピック教育 2) スポーツマネジメント 3) スポーツ医科学 4) ティーチング、コーチングと日本文化	
専門科目 (専門分野)	Seminar in Olympic and Paralympic Education I (オリンピック・パラリンピック教育演習 I)	オリンピック・パラリンピック教育を専門とする指導教員(148 深澤浩洋、266 澤江幸則)のもと、各自の研究計画に基づき、オリンピック・パラリンピック教育に関する先行研究を整理し、文献研究や実務的研究を行うことでオリンピック・パラリンピック教育に関する研究計画を深める。また、実際に各国で行われているオリンピック・パラリンピック教育についての情報を集める。	
	Seminar in Olympic and Paralympic Education II (オリンピック・パラリンピック教育演習 II)	オリンピック教育、パラリンピック教育を専門とする指導教員のもと、オリンピック教育やパラリンピック教育に関する先行研究を検討し、研究論文を書くための文献資料をまとめ、それについて発表しディスカッションする。合わせて、プレゼンテーションの能力を向上させる。毎回プレゼンテーションを行い、オリンピック・パラリンピック教育の論文としてふさわしい要素を備えるようにする。	
	Seminar in Sport Management I (スポーツマネジメント演習 I)	スポーツマネジメントを専門とする指導教員のもと、教員による話題提供及び国内外の事例に関する研究の紹介を交えながら、スポーツマネジメントに関わる研究方法について学ぶ。また、履修学生の課題に応じたスポーツマネジメント関連の研究論文を購読し、その内容について批評的にまとめて発表し、ディスカッションしながら研究テーマを深めていく。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Seminar in Sport Management II (スポーツマネジメント演習 II)	本演習では、スポーツマネジメントを専門とする指導教員のもと、履修学生による各自の研究テーマに基づいた最終課題研究論文に関する進捗状況についてプレゼンテーションを行い、スポーツマネジメントに関わる研究について議論を行う。加えて、適宜、国内のスポーツイベント、スポーツ関連団体に関するフィールドワークを行い、スポーツマネジメントの現場における現状と課題について把握するとともに、その課題の解決策について討論する。	
	Seminar in Sport Science and Medicine I (スポーツ医科学演習 I)	スポーツ医科学を専門とする指導教員のもと、研究論文の作成に必要なスポーツ医科学の論文構成方法などについて学習する。また、必要な実験計画や方法について少人数にてディスカッションし、研究を遂行する上で必要な能力を身に着ける。 論文作成に必要な、スポーツ医科学に関する研究方法論の基礎的な知識と技能をを身につけ、実験計画、データ処理等の専門的な知識を身につける。	
	Seminar in Sport Science and Medicine II (スポーツ医科学演習 II)	スポーツ医科学を専門とする指導教員のもと、受講生それぞれが取り組んでいる研究論文のプレゼンテーションを行い、スポーツ医科学の方法論の視点からディスカッションする。一人一人の研究上の課題について検討し、より良い研究論文になるようディスカッションを行う。必要な実験計画や方法についてもディスカッションしながら検討する。	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture I (ティーチング、コーチングと日本文化演習 I)	ティーチング、コーチングまたは武道学を専門とする指導教員(219 大石純子、239 河合季信、471 仙石泰雄)の指導のもと、これまでに研究されてきた先行研究について取り上げ、それぞれの研究課題や論文の構成について、ディスカッションする。それを踏まえて、自身の関心を深め、研究論文の作成に資する資料やデータを収集する。研究課題の設定、研究計画のデザイン、データの収集と処理、プレゼンテーションスキルについて学ぶ。	
	Seminar in Teaching, Coaching and Japanese Culture II (ティーチング、コーチングと日本文化演習 II)	この演習では、ティーチング、コーチングまたは武道学を専門とする指導教員(219 大石純子、239 河合季信、471 仙石泰雄)の指導に基づいて、研究論文の作成に資する実験方法やデータ収集と分析方法について学ぶ。研究課題を設定し、自らの研究についてのプレゼンテーションを実施する。	
	Olympism and Legacy (オリンピズムとレガシー)	オリンピズムとオリンピック・レガシーについて、それらの意義を学ぶとともに、今後の国や地域等に応じたレガシーのあり方を考え、これからのオリンピック・レガシーについて構想することを通じてオリンピズムを反映したレガシーに対する洞察力を持つことを目指す。 オリンピズムの要諦を確認したのち、オリンピック・レガシーが言及されるようになった契機やその具体的な導入の経緯等を講ずる。それらを踏まえて、スポーツメガイイベントの実際を調査し、レガシーの理念を反映したアクションを構想し、プレゼンテーションを行う。	
	Sport Organisation and Governance (スポーツ組織とガバナンス論)	主に国際スポーツ競技連盟(IF)や国内スポーツ競技連盟(NF)で働く実務家をゲスト講師として招き、IFやNFの組織構造やそこでの業務について実務レベルでその内容を理解するとともに、国内外のスポーツ組織に関わるステークホルダーの役割と責務を把握することを目的とする。また、専門家による講義を通じて国際オリンピック委員会(IOC)が提唱するステークホルダー間の相互作用に注目しながら、「オリンピックムーブメント」を展開するシステム及びスポーツ界のガバナンスのグローバル・モデルについて議論する。	集中
	International Sport Marketing (国際スポーツマーケティング)	スポーツマーケティング、スポンサーシップ、スポーツメディアの各分野において国内外で活躍する実践家をゲスト講師として招き、北米、ヨーロッパ、アジア、日本における事例を踏まえながら、1) スポーツマーケティングに関する歴史的背景、2) スポーツマーケティングの目的と基本的なシステム、3) マーケティングの具体的な実践方法、4) スポーツマーケティングに重要なメディアの諸権利、5) スポーツに関するメディアの歴史と技術革新、及びそのマネジメント方法、について学ぶことを目的とする。	集中
	Sport Technology and Biomechanics (スポーツ工学とバイオメカニクス)	スポーツ工学とそれに関連するバイオメカニクスの背景と最新の情報の習得に向けて、スポーツに関連した空気や水中での流体工学、スポーツ用具開発のための基礎知識、スポーツ用のウェア開発のための基礎知識を学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	Sport Medicine (スポーツ医学)	スポーツ活動中に生じる外傷、障害、内科的問題の診断・治療・リハビリテーション、年齢や性差による特徴、スポーツマスイベントにおける突然死等のアクシデントと救護活動の実際について科学的知見のみならず、スポーツ行政や政策、マスイベント運営の視点から解説し、スポーツ活動におけるスポーツ医学の役割について学ぶ。また、アスレティックリハビリテーションやコンディショニングの最新情報やあんま、鍼灸などの東洋医学のスポーツ医学への応用についても紹介する。	
	Exercise Physiology and Human Performance (運動生理学とヒューマンパフォーマンス)	ヒューマンパフォーマンスに関連する運動生理学的背景と最新の動向を修得するために、呼吸循環や体温調節に関する生理学知識、動体視力等に関連した神経生理学、運動によって変化する脳機能、運動習慣に関連した血管機能変化、ヨガ等の東洋的身体技法の生理学的効果について学ぶ。	
	Elite Sport Coaching (エリートスポーツコーチング論)	一流競技者のパフォーマンス向上に関するコーチング、トレーニング理論及び方法を学び実践する。特に、高強度トレーニング、ファンクショナルトレーニングの処方にあて、様々な最新トレーニング用具を活用する方法について学習し、特定の運動種目を対象としたトレーニングプログラムを作成する。	
	Budo (武道)	日本の武道、特に剣術について学ぶために茨城県鹿嶋市で行われている鹿島神流の剣術について現地に出かけて史料とともに学ぶ。1泊2日のスタディーツアーとして実施し、現代武道と古武道について視察し、その相違について学習する。	集中

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
スポーツ ツウ ウェル ネス学 関連 科目	分野 共通	スポーツ・ヘルスプロモーション論概論	<p>現代社会におけるスポーツプロモーションとヘルスプロモーションの理念を理解し、その相互の合理的な関係化による相乗的効果を上げることの重要性について学習する。スポーツとヘルスの相関的・相乗的な関係の基本理念とその哲学について、人間存在の生理的・心理的・社会的な特質との関係から概説する。また、現代社会における長寿化人生、ハイテク・情報化生活等の生活変容に注目しながら、人間存在の現代的課題を取り上げ、そこにおけるスポーツ文化享受による健康開発の可能性を環境世界、社会・文化生活、諸個人のライフスタイルやライフステージとの関係から概説し、エコロジーと共生を希求する21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式／全20回)</p> <p>(170 水上勝義／4回) 現代の長寿社会における人間存在の生理的・心理的・社会的課題を取り上げ、スポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。 (47 菊幸一／4回) 人間存在の社会的な特質を文献講読を通して明らかにし、スポーツとヘルスの相乗的・相関的關係について講義する。 (51 久野譜也／2回) 我が国の超高齢化による社会課題の克服策と人生100年時代に向けた新たな社会システムを構築するためのイノベーションの方向性について講義する。 (282 高橋義雄／2回) 人類が築いてきたスポーツをスポーツイベントに注目し、現代社会における多様な課題について現実にみられる現象を解説し、21世紀世界におけるスポーツ・ヘルスプロモーションについて講義する。 (267 柴田愛／4回) 行動疫学の観点から長寿社会における健康増進・慢性疾病予防にむけたスポーツや運動・身体活動、座位行動の果たす役割について講義する。研究倫理の考え方の基礎について講義する。 (186 山口香／2回) 国際競技大会及びオリンピック・ワールドカップ等で個人やチームが最高のパフォーマンスを上げるためのマネジメントにおける問題点や課題を取り上げ、効果的な取り組みや施策について講義する。 (32 尾縣貢／2回) スポーツマネジメントの観点からみた国内外のスポーツにおける問題点や課題を取り上げ、スポーツ・ヘルスプロモーションの相乗的な効果を上げるための政策課題について講義する。</p>	オムニバス方式
		スポーツ健康研究方法論Ⅰ	<p>研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出することを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究について担当教員の指導のもとに先行文献を参照しながら研究計画を立案し、研究テーマを設定し、研究テーマ届を提出する。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。 (282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、プレゼンテーションの方法について指導を行う。 (32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。 (186 山口香) 主に自然科学的研究の手法を用いて、現代における高度競技マネジメントに関わる研究テーマ作成の指導を行う。 (51 久野譜也) 研究テーマに沿った具体的な研究手法、データ解析手法、及び論理的思考力の向上を目指した指導を行う。 (267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。 (170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、プレゼンテーションの方法について指導を行う。</p>	
		専門 科目 (選 択)	スポーツ健康研究方法論Ⅱ	<p>学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。 (282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(186 山口香) II の内容を発展させ、研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。</p> <p>(170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>	
	スポーツ健康研究方法論Ⅲ	<p>学位論文中間発表会に終日参加し、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表ができることを目標とする。スポーツ・ヘルスプロモーションの修士論文・特定課題研究報告書の作成のために必要な基礎的な研究方法について、学習する。スポーツや健康のプロモーションやマネジメントに関する研究に、設定した各自の研究テーマに基づき、担当教員の指導のもとに、研究を実施し、資料・データの解析、プレゼンテーションの方法等について学ぶ。そして、学位論文中間発表会に終日参加すること、および、研究進捗状況や構想、データ収集および分析状況について発表を行う。</p> <p>(47 菊幸一) 主に社会学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集および分析方法について指導を行う。</p> <p>(282 高橋義雄) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(32 尾縣貢) 研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(186 山口香) II の内容を発展させ、研究の進め方や構想、研究の手法およびプレゼンテーションの方法について指導を行う。</p> <p>(51 久野譜也) 研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p> <p>(267 柴田愛) 主に疫学的研究手法について講義・指導を行う。</p> <p>(170 水上勝義) 主に自然科学的観点から研究全般の進め方や構想、データ収集及び分析方法、中間発表に向けたプレゼンテーションについて指導を行う。</p>	9月末修了者用
スポーツプロモーション分野	<p>専門科目（選択）</p> <p>スポーツプロモーション領域</p>	<p>現代社会におけるスポーツプロモーションの基本理念を理解し、現代スポーツの社会的構造を分析するとともに、スポーツプロモーション政策の課題について学習する。スポーツの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、現代社会におけるスポーツのポジティブ/ネガティブな作用を分析し、そこからスポーツプロモーションの基本理念を概説する。また、プロフェッショナルスポーツの成立と発展過程をも視野に入れつつ、文化としてのスポーツプロモーションのあり方について講ずる。</p> <p>スポーツプロモーションに関する各自の問題意識を反映するテーマについて明確な動機・目的につながる内容を主にメディアスポーツ、スペクテータースポーツ、スポーツの生産と消費の観点から演習し、スポーツプロモーションにおける政策立案モデルを描けるようにする。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。</p> <p>グローバル化する世界のスポーツ状況を踏まえながら、これからのスポーツプロモーションにおけるビジョンと課題を検討し、諸外国のスポーツライフスタイルを通じた多様なスポーツライフスタイル構想から、スポーツプロモーションに関する具体的な問題意識を醸成する。国レベル、地域レベル、団体レベルのスポーツプロモーション政策の具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその政策課題を相互比較し、それぞれの特徴と課題を明らかにする。こうして養われるスポーツプロモーション政策形成の具体的分析力を基礎に、それぞれの学生の現職経験に基づくスポーツプロモーション問題を取り上げ、そこに作用する政治課題のベクトルと生活課題のベクトルをシミュレーションすることによって政策課題を明確にし、政策立案のモデル化について演習する。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーション論 実習	現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を政策科学の視点から課題化し、各自が対象とする具体的な組織や関連イベントにかかわるスポーツプロモーションの現状と課題を明らかにする。学生の現職経験から導かれるスポーツプロモーション問題を、政策科学の視点から政策課題化し、それに基づく政策目標-政策対象-政策条件-政策計画のシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、政策展開に必要な環境的・物的・人的・文化的資源を査定し、当該政策実施における既存資源を評価し、過剰/不足資源を明確にする。さらに、明確化された不足資源の整備・開発を計画すると共に、政策展開の視点から見た有効資源のシステムをデザインし、具体的な政策モデルをシミュレーションする。	
	スポーツイベント論特講	スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を理解するとともに、スポーツイベントと地域形成、現代社会におけるスポーツイベント政策、プロフェッショナルスポーツの発展過程などについて、その歴史社会的な意味や現代的機能を探究する。スポーツイベントの社会的需要・供給関係を軸にした社会的構造・機能モデルに基づいて、スポーツプロモーションにおけるスポーツイベントの理念と意義を概説する。これに基づいて、現代社会におけるスポーツイベントのポジティブ/ネガティブな地域形成作用を分析し、そこから現代社会におけるスポーツイベント政策の社会的役割を分析する。また、プロフェッショナルスポーツの発展過程を分析し、その社会及び地域形成に関わる意味と機能について概説する。	
	スポーツイベント論演習1	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、経営学分野、特にイノベーション研究を取り上げ、その課題を演習する。国際、国、地域、各レベルにおけるスポーツイベントの事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	
	スポーツイベント論演習2	スポーツイベントにかかわる各自の研究関心に沿って、適切な研究方法を選択し、先行研究を取り上げて各自の研究について演習する。スポーツイベント論実習と平行して行い、実習の事例を取り上げ、その社会的な構造と機能を理解しながら課題を演習する。国際レベル、国レベル、地域レベルのスポーツイベントの具体的事例を取り上げ、それぞれの歴史・社会・文化的背景との関係からその構造的・機能的特性を相互比較し、それぞれのスポーツ及び地域プロモーションに関する政策課題について演習する。また、プロフェッショナルスポーツの具体的事例から、スポーツイベントの展開過程における問題と課題について演習する。	
	スポーツイベント論実習	スポーツイベント論演習で学んだスポーツイベントにかかわる研究方法を採用し、その研究方法で指定されたスポーツイベントを調査する。フィールド調査、アンケート調査など個人または研究グループを結成し、調査プロジェクト実施方法を学ぶ。学生の現職経験から導かれるスポーツイベント問題を、スポーツプロモーションと地域形成の視点から政策課題化し、それに基づくスポーツイベント展開のマネジメントのシミュレーションを行う。このシミュレーションモデルに基づき、スポーツイベント編成に必要な諸エージェントと資源を査定し、当該イベント展開における関係エージェントと資源のシステム化をシミュレーションし、具体的なスポーツイベントの政策マネジメントモデルを企画・立案する。	
	スポーツプロモーション研究 方法論Ⅳ	<p>スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文あるいは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存在状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかにし、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告書を作成する。</p> <p>(47 菊幸一) スポーツプロモーション論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。 (282 高橋義雄) スポーツイベント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーション研究 方法論Ⅴ	<p>スポーツプロモーションに関する研究方法論について、その視 角、課題について理解し、実証的な視点から検討して修士論文ある いは特定課題研究報告書を作成することを目標とする。学生の実職 経験に基づく実践的な課題を取り上げ、政策科学的視点からその存 立状況を構造的に分析することによって、専門研究にむけて課題化 する。さらに明確化された専門課題解決の可能性と限界を明らかに し、問題解決に対応する専門研究の研究計画をデザインする。この 研究計画に基づいて現職経験から得られる固有のデータを生かし、 それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究報告 書を作成する。</p> <p>(47 菊幸一) スポーツプロモーション論の観点からみた諸政策の 課題に関する研究指導を行う。 (282 高橋義雄) スポーツイベント論の観点からみた諸政策の課題 に関する研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
ス ポ ー ツ マ ネ ジ メ ン ト 領 域	スポーツマネジメント論特 講	<p>地域のスポーツクラブと学校の運動部、それぞれの活動における 問題点を明確にし、今後、取り組むべき課題とそれらを解決するた めの具体的な取り組みについて概説する。また、ジュニアからシニ アにいたるまでのコーチング・トレーニングのマネジメントについて も講義する。地域のスポーツクラブと学校の運動部の共存共栄が わが国のスポーツの更なる発展には求められている。マネジメント の面から、それぞれの活動における問題点を明確にし、今後、取 組むべき課題とそれらを解決するための具体的な取り組みについて 概説する。また、ジュニアからシニアにいたるまでのコーチング・ トレーニングのマネジメントについても講義する。</p>	
	スポーツマネジメント論演 習 1	<p>スポーツマネジメントに関する解決すべき研究課題を設定し、文 献研究を行ったうえで、各自の研究のデザインを作成する。スポー ツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポー ツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよ び学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握さ せ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎とな るための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討してい く。</p>	
	スポーツマネジメント論演 習 2	<p>スポーツマネジメントに関する研究を取り上げ、それらを抄読す ることにより、今後解決すべき課題を明確にしたうえで、各々の課 題を解決するための研究的取り組みについて理解する。スポーツ基 本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが 進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび 学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、 それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるた めの方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。</p>	
	スポーツマネジメント論実 習	<p>学生の実職経験や体験から導かれる地域のスポーツクラブと学校 の運動部における具体的成功例や失敗例を分析することで、マネジ メント上の問題点を明らかにし、解決すべき課題をあげる。そし て、現職経験等から見た課題解決のために必要な方策を考案し、そ の方策の有用性に関して議論を繰り返すことで、包括的なマネジメ ント戦略を構築していく。</p>	
	高度競技マネジメント論特 講	<p>国際競技力開発の理念としてのスポーツ・プロフェッショナルリ ズムの重要性およびシステム編成に必要な資源評価・査定・開発とそ のシステムマネジメントの課題と方法論について理解する。国際競 技力開発に関する世界的状況を概括し、我が国における問題と課題 を明らかにする。そして、国際競技力開発の仕組みを「発掘・育 成・強化・支援」の各開発段階における物的・人的・文化的資源の システム化として概説し、システム編成に必要な資源評価・査定・ 開発とそのシステムマネジメントの課題と方法論について講義す る。</p>	
	高度競技マネジメント論演 習 1	<p>オリンピックにおいて競技者の最高パフォーマンスを発揮させ るために必要なマネジメントの実践的な課題を、国際・国内スポーツ 組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析論、競技者及びチ ームマネジメント論、メディアマネジメント論等の総合的戦略として 理解する。国際競技大会において競技者及びチームの最高パフォー マンスを発揮させるために必要なマネジメントの実践的な課題を、 国際・国内スポーツ組織論、情報戦略論、競技パフォーマンス分析 論、競技者及びチームマネジメント論、メディアマネジメント論、 スポンサー対応論等の総合的戦略として理解させ、オリンピック競 技大会やワールドカップ等の具体的事例に対応する国際競技スポ ーツマネジメントのシミュレーションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	高度競技マネジメント論演習2	スポーツ基本法、スポーツ立国戦略、学習指導要領等からわが国のスポーツが進むべき方向を考えるとともに、実際の地域スポーツクラブおよび学校運動部の活動状況、そしてそこに内在する問題点を把握させ、それぞれが共存共栄し、スポーツ文化を形成する上での礎となるための方策についてスポーツマネジメントの観点から検討していく。	
	高度競技マネジメント論実習	学生の現職経験から導かれる国際競技大会における具体的な成功事例や失敗事例等を競技力開発と総合戦略の視点から捉え直し、そこにおける国際競技マネジメントの具体的な課題を明らかにする。そして、現職経験との関係から見た課題解決のために必要な資源評価・査定・開発及びシステム編成のモデルをデザインし、そのモデルと現職経験の比較検討を通して、具体的な課題解決に向けたマネジメント戦略をシミュレーションする。	
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅳ	<p>現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。</p> <p>(32 尾縣貢) スポーツマネジメント論の観点からスポーツに内在する課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p> <p>(186 山口香) 高度競技マネジメント論の観点から、競技力向上等に関する取り組みや施策の課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p>	
	スポーツマネジメント研究方法論Ⅴ	<p>現職としてのフィールドを最大限に生かした上での課題意識を明確にし、それらを合理的・客観的に解決するための科学的技法について学習するとともに、成果をまとめあげて公表するまでの一連のプロセスを習得し、研究的視野と技法を身につけた高度専門職としての能力を高めることを目標とする。スポーツマネジメントに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験から得られる固有のデータを生かし、それを学術情報化することによって、修士論文・特定課題研究の作成を導く。</p> <p>(32 尾縣貢) スポーツマネジメント論の観点からスポーツに内在する課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p> <p>(186 山口香) 高度競技マネジメント論の観点から、競技力向上等に関する取り組みや施策の課題を明確にし、課題解決のための研究計画作成の研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
専門科目(関連)	スポーツプロモーション法制論特講	スポーツプロモーションに関係する法制度全般を概説し検討する。また、今後のスポーツ立法政策について考える。スポーツ関連法制について概観し、スポーツプロモーションに向けたスポーツ法制度の構造や諸課題を具体的な事例を通じて講義する。アマチュアスポーツやスポーツ行政だけでなくプロスポーツやスポーツの経済的活動に関する法制度も解説する。	隔年
	スポーツの倫理と教育	<p>我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理と教育の可能性について、歴史的変遷や諸外国との比較を通じて説明できる。また、我が国のスポーツ教育の政策の歴史を踏まえ、今後の課題について説明することができることを目標とする。我が国のスポーツプロモーションにおけるスポーツの倫理について、ルールやエトス、フェアプレイなどをめぐって講義する。また我が国のスポーツ教育政策の歴史を概観し、スポーツ教育の諸課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回) (308 長谷川悦示/5回) スポーツと学校教育、学習指導要領の変遷、体育教師の実践的指導力、体育教師の実践的指導力および教授行動分析について講義する。 (148 深澤浩洋/5回) スポーツと暴力性、スポーツを通じての個の確立・自律性、スポーツのルールとエトス、スポーツパーソンシップおよびフェアプレイの奨励について講義する。</p>	オムニバス方式 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	スポーツプロモーションとビジネス	<p>スポーツプロモーションに関連する産業やビジネスを概観し、ビジネスマネジメントの視点からスポーツやスポーツイベントの特徴について事例を通じて講義する。スポーツプロモーションの視点から、プロスポーツの運営やスポーツメーカーのブランディングの事例を取り上げ、スポーツビジネスの現状と課題について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(299 仲澤眞/6回) コミュニケーション論とプロモーション戦略、メディアの多様化とプロモーション戦略、プロサッカーにおけるプロモーション事例、プロ野球におけるプロモーション事例、パブリックリレーション活動について講義する。 (257 嵯峨寿/4回) スポーツ用品企業のスポーツプロモーション、企業のオリンピックビジネス、企業の社会的責任とスポーツ、2019 ラグビーW杯のプロモーション戦略について講義する。</p>	オムニバス方式 隔年
	トップアスリートのトレーニング	<p>トップアスリートが競技力を向上するためのトレーニング内容やバイオメカニクスの活用方法について学ぶトップアスリートの競技力向上のためのトレーニング及びバイオメカニクスを学ぶ。ジュニア期のトレーニング、年間計画、身体運動におけるバイオメカニクスの目的、活用法などについて考える。 この講義は前半をトレーニング論(6回)、後半をバイオメカニクス論(4回)とし、それぞれ別の教員が担当する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(88 白木仁/4回) トップアスリートのトレーニングの現状と関わるスタッフ、競技力向上のためのトレーニングの考え方とトレーニング方法について講義する。 (239 河合季信/2回) トップアスリートにおけるトレーニングのフレームワークについて講義する。 (218 榎本靖士/4回) スポーツバイオメカニクスの基礎知識、手法、データの解釈方法およびスポーツバイオメカニクスからみたスポーツ技術のとらえ方、技術に関する研究、データのフィードバックについて解説する。</p>	オムニバス方式
	トップコーチング	<p>世界のトップをめざした競技力向上のフレーム(枠組み)を理解し、そこで重要な役割を果たすコーチに必要な資質やスキルを学ぶ。オリンピックやワールドカップなどでアスリートが高いパフォーマンスを発揮するためのコーチングの理論と実際を学ぶ。世界の強豪国・地域の視点、競技特性の視点、世界の動向など、さまざまな観点から、トップレベルのコーチに求められる役割や資質について考える。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(239 河合季信/2回) 世界のトップスポーツの動向とコーチの役割、コーチングと研究・サポート体制との連携および期待される成果について講義する。 (290 谷川聡/2回) 個人記録系スポーツにおけるトップコーチング(陸上競技の事例)について解説する。 (466 吹田真士/2回) 大学スポーツにおけるトップコーチング(バドミントンの事例)について解説する。 (228 岡田弘隆/2回) 武道におけるトップコーチング(柔道の事例)について解説する。 (455 小井土正亮/2回) 団体球技系スポーツにおけるトップコーチング(サッカーの事例)について解説する。</p>	オムニバス方式
	生涯スポーツのトータルマネジメント	<p>競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ身体運動・スポーツのマネジメントについて理解を深めることを目標にする。競技スポーツとは異なる目的、側面を持つ野外教育・スポーツ、舞踊、体操などの歴史や教育的側面を踏まえた最新のコーチングやマネジメントについて学ぶ。また、障害者スポーツについての現状と課題を検証し、理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(67 坂本昭裕/2回) 不登校児や発達障害児、非行少年などの野外教育プログラムのマネジメントを取り上げる。 (317 平山素子/2回) ダンスの多様性と歴史を紹介し、身体発のコミュニケーション方法を様々な角度から検証する。 (296 寺山由美/2回) 30代から80代における生涯スポーツでのダンスの実態を取り上げ、指導者と参加者がどのような点に留意して活動を進めているか検討する。 (418 本谷聡/2回) 体操についての国内外の映像や資料を題材として、これからの体操のあり方について検討する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(266 澤江幸則/2回) 障害のある人や子どものスポーツ実践の可能性を示すとともに、その実践を支えるための方法論について、アダプテッド・スポーツ的観点から検討する。	
ヘルスプロモーション分野	ヘルスプロモーション論特講	健康増進政策とは何かを理解した上で、国、県、市町村における健康政策の現状と課題を把握する。さらに健康政策の具体的な策定方法における基礎的理解を深める。我が国及び諸外国における運動を中心としたヘルスプロモーションのための政策課題について概説し、その目的、内容、方法等の特徴を明らかにするとともに、我が国における今後のヘルスプロモーションの政策課題の方向性について講義する。	
	ヘルスプロモーション論演習1	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。	
	ヘルスプロモーション論演習2	ヘルスプロモーションのためのスポーツ実践の条件と要因を導き出すとともに、学生の実践的課題に対応しながら、スポーツによるヘルスプロモーションのためのシステム編成とそのマネジメント、資源整備及びプログラム開発等の具体的な方法について演習する。また、感染症、心身疾患あるいはドーピング等のスポーツにおける健康阻害状況に関する具体的事例も取り上げ、その発症のメカニズムを分析し、その原因と対策について検討する。	
	ヘルスプロモーション論実習	地域もしくは職域における健康づくりの実態を理解する。また、それらをレポートにまとめ、発表できる能力を養成する。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験を重視し、そこから導かれる実践的な課題を取り上げ、それをシステムの課題に洗練するとともに、現職やそれと関わるフィールドワークを通じて、課題解決に志向したシステムモデルのデザインを実習する。	
	健康開発プログラム論特講	行動科学の考え方を応用して、健康行動（主に、身体活動や運動）を推進させるプログラム開発に関する基礎的および専門的知識を獲得できるようにする。健康行動を推進させるプログラム開発に活用されている行動科学の理論やモデルの基礎的な考え方について理解を深めるとともに、それを応用した様々な実践例について学ぶ。	
	健康開発プログラム論演習1	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための基礎的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。効果的な健康開発プログラムに関する近年の具体的事例を取り上げ、情報検索、論文読解、統計解析、プレゼンテーションスキルについて学習する。	
	健康開発プログラム論演習2	健康増進のための効果的な支援方策に関する最新情報収集、基礎知識構築、有効性・課題把握を行うための応用的スキルを上げて、修士論文をまとめるための研究能力および問題解決力を高める。我が国及び諸外国において実践されている健康開発プログラムの中から自らが興味のある特定のテーマを決めて、その有効性と課題について文献的に検討・発表する(ディレクトリードィング)。これらの分析をもとに、学生それぞれの実践的な課題について演習する。	
	健康開発プログラム論実習	効果的な健康開発プログラムを計画・実行していく上で役立つ基礎知識と実践的スキルを学ぶ。学生の現職経験から導かれる健康開発プログラムの課題を取り上げ、現職域及び関連組織・機関等をフィールドにして、課題解決に向けた情報収集、健康開発プログラムの計画と実践、評価について実習する。	
	ヘルスプロモーション研究方法論IV	文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。 (51 久野譜也) 主に地域、職域、及びヘルスケア産業におけるヘルスプロモーションの課題の研究指導を行う。 (267 柴田愛) 主に健康開発プログラム論の観点からみた様々な健康課題に関する研究指導を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ヘルスプロモーション研究 方法論V	ヘルスプロモーション研究 方法論V	<p>文献レビュー、研究計画法、研究方法論、データ分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて実践的に理解し、修士論文・特定課題研究報告書を作成することを目標とする。ヘルスプロモーションに関する学生の現職経験に基づく実践的な課題を取り上げ、その課題をシステムの視点から整理することにより専門研究にむけた課題に洗練する。この専門研究課題を現職及び関連組織等の状況にフィードバックしながら実践的問題解決のための研究計画をデザインする。この研究計画に基づいて、現職経験を生かしたシュミレーションを行い、具体的な解決計画のモデル提案を目指した修士論文・特定課題研究報告の作成を指導する。</p> <p>(51 久野譜也) 主に地域、職域、及びヘルスケア産業におけるヘルスプロモーションの課題の研究指導を行う。 (267 柴田愛) 主に健康開発プログラム論の観点からみた健康課題に関する研究指導を行う</p>	9月末修了者用
	ストレスマネジメントシステム論特講	<p>ストレスマネジメントに関する知識と技能の習得と、ストレスマネジメントのシステム開発の理論と技法について習得する。ストレスの概念を理解し、ストレスがもたらす生体反応やストレスに関連した健康問題について学習する。さらに健康促進のための個人と社会におけるストレスマネジメントシステムについて学習する。</p>	
	ストレスマネジメントシステム論演習1	<p>学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、具体的な事例を取り上げ分権的な考察を行いながら検討する。この分析をもとに、学生の現職経験から得られる実践的課題を整理し、その課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。</p>	
	ストレスマネジメントシステム論演習2	<p>学生の興味をもつストレスマネジメントシステム開発に関するテーマで、順に発表し、討議しあうことで学習を深める。職場、学校、家庭、地域などのストレスマネジメントシステムについて、その有効性や課題について、講師陣を前にして各自の研究計画を発表する。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、課題解決に向けたストレスマネジメントシステムの効果的なモデルの作成について演習する。</p>	
	ストレスマネジメントシステム論実習	<p>現場での健康問題や社会問題の解決につながるストレスマネジメントの技能や、ストレスマネジメントシステムの開発技能を習得する。学生の現職経験から導かれるストレスマネジメントの具体的な課題を取り上げ、現職やそれに関連したフィールドワークを通じて、課題解決に向けた情報収集を行い、また課題解決を志向したシステム開発について実習する。</p>	
	ストレスマネジメントシステム研究方法論IV	<p>学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。</p> <p>(170 水上勝義) ストレスマネジメント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	
	ストレスマネジメントシステム研究方法論V	<p>学位論文の作成のための研究計画法、研究方法論、研究分析法、研究結果プレゼンテーション法などについて一般的ガイダンスと具体的指導をおこなう。ストレスマネジメントシステムに関する学生の実践的研究課題に対応しながら、実践的課題解決に向けた研究計画をデザインする。その研究計画に基づいて、フィールドでの介入計画を実施し、そのプログラムの可能性と限界を行動科学的に明らかにする。修士論文・特定課題研究報告書の作成を指導する。</p> <p>(170 水上勝義) ストレスマネジメント論の観点からみた諸政策の課題に関する研究指導を行う。</p>	9月末修了者用
専門科目 (関連)	生活機能増進法論特講	<p>身体特性を把握し、運動機能の向上に必要な運動プログラムを組み実践できることを目標とする。生活機能病(運動器の障害)に焦点を当て、生涯にわたって生活機能の向上(寝たきりの予防)法の開発やその指導法に関して学習する。臨床スポーツ医学的アプローチを含む。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(346 向井直樹/2回) 運動と骨代謝骨代謝の基本と運動の影響、老化と骨代謝骨代謝と老化についてについて講義する。</p> <p>(287 竹村雅裕/2回) 運動療法の基礎運動機能の評価方法の基礎知識、運動処方基礎等尺性・等長性運動などの基礎知識について講義する。</p> <p>(88 白木仁/2回) 運動処方と強化筋の柔軟性の維持と筋力の強化について股関節・骨盤を中心に講義する。</p> <p>(494 福田崇/2回) 運動実践実際の運動現場における日々のコンディショニング、評価について言及する。</p> <p>(386 鎌田浩史/2回) 身体特性の評価方法、身体特性と障害、特に関節の障害について講義する。</p>	
	健康増進基礎論特講	<p>健康増進の基礎的な知識、理解力、研究能力を高めるためにヒトの心身の形態、機能の自然科学的な知識、研究成果を学ぶ。心身の健康を維持・増進するためには運動、休養、栄養などの知識、研究が必要である。本授業では運動が心身に与える影響を運動解剖学的、スポーツ生理学、生化学、筋生理学、心理学の観点からそれぞれの専門家が概説し健康増進の科学的理解と研究に資することを目的とする。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(28 大森肇/4回) 運動と代謝、代謝疾患に対する運動療法、運動と骨格筋、骨格筋の可塑性を支える分子について講義する。</p> <p>(457 國部雅大/2回) 運動と知覚、運動と脳機能について講義する。</p> <p>(161 前田清司/2回) 運動と血管、生活習慣と血管について講義する。</p> <p>(202 足立和隆/2回) 運動器(骨格系、筋系、神経系)の基礎、ヒトの特性(進化、成長、加齢)について講義する。</p>	オムニバス方式
	健康社会論	<p>地域・職域における健康問題とその心理社会的要因および保健政策・保健サービス事業について学び、健康問題解決への社会的アプローチを理解する乳幼児期~高齢期までの各ライフステージにおける健康問題を、家庭・地域・職場など生活領域別にとりあげ、各問題と社会環境要因との関わりを論じる。そして問題解決に必要な社会的支援策のあり方について、公衆衛生の観点から解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(100 武田文/5回) 健康に関わる概論と理論、地域保健及び産業保健について講義する。</p> <p>(519 門間貴史/5回) 健康課題の現状、保健医療制度、地域保健及び産業保健の現状と課題について講義する。</p>	オムニバス方式
	健康支援の理論と実践	<p>国民の健康の保持・増進に向けた理論と実際現場での具体的な支援のあり方について学習する。集団や個人を対象として、各種の疾患や健康段階、ライフステージにおける課題解決に向けたさまざまな健康支援方法の理論と実践について概説するとともに、その具体的な事例について講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(234 麻見直美/2回) 各ライフステージに於ける食生活サポートの実際について講義する。</p> <p>(65 坂入洋右/2回) 身心のセルフコントロール法、カウンセリングの理論と実際について講義する。</p> <p>(48 木塚朝博/2回) 青年期に身に付けたい体の使い方、幼少年期における体育活動と運動遊びについて講義する。</p> <p>(28 大森肇/2回) 言語発達に及ぼす模倣運動の影響、心を育て頭を活かす上手な身体の使い方について講義する。</p> <p>(220 大藏倫博/2回) 肥満・メタボリックシンドローム予防および高齢者における介護予防の理論と実践について講義する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ヒューマン・ケア科学概論	<p>人を支援する課題に向けて、高齢者ケアリング学・社会精神保健学・生活支援学・保健医療政策学・福祉医療学など専門性の高い領域が連携し学問的な融合を目指すヒューマン・ケア科学の幅広い視座から、特にヘルスプロモーションに注目し医学・福祉学・保健学・看護学の理論と実践を学習する。実学としてのヒューマン・ケア科学について、その理論とアプローチの効果を概説する。また、子どもから高齢者の健康生活上の問題や虐待、生活リズムの変調、うつや自殺に関連する事項をとりあげ、人々の心身の安寧を脅かす現象を概説する。さらに障害福祉について諸外国の現状を比較すると共に、保健医療政策への応用としての経済学や今日的な課題についての生命倫理を講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(435 岡本紀子/2回) ヒューマン・ケア科学概論オリエンテーション、高齢者へのヒューマン・ケアアプローチの可能性と効果について講義する。 (354 柳久子/2回) 保健・医療・福祉分野における生命倫理について講義する。 (351 森田展彰/2回) 子ども虐待・DV への介入と援助について講義する。 (61 近藤正英/2回) ヘルスプロモーション経済学について講義する。 (337 水野智美/2回) バリアフリーとQOL の向上、各国の障害福祉の実情について講義する。</p>	オムニバス方式
	スポーツ健康統計学特講	<p>ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析について理解することを目標とする。統計学の初心者の理解を促進するために、ヒストグラム、正規分布、平均値、標準偏差、相関分析などスポーツ健康統計学の基礎について、演習・実習形式の授業を取り入れつつ具体的に学ぶ。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
芸術学関連科目	基礎科目 西洋美術史-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史を中心に、イタリア・ルネサンスまでの作例に言及し、講義を行う。西洋美術史の特徴について考える。とりわけ、ギリシア神話とキリスト教聖書を主題とする作品について講じ、西洋美術史における宗教観、世界観と美術との関係を探る。</p> <p>授業計画：(1) 西洋美術史の特質、(2) エクセキアスとマンテーニャ、(3) ヴェローナ、サンゼノ教会堂、(4) ジョット、(5) パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂1、(6) パドヴァ、スクロヴェーニ礼拝堂2、(7) アレクサンドロス美術、(8) アレクサンドロス・モザイク、(9) ビザンティン美術史、(10) 神と人、人と人の対面</p>	隔年
	西洋美術史-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西欧近世における南北の美術と近代における受容について、文字史料と視覚資料の参照と分析を通じた理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世の北方およびイタリア美術の具体的な作例について多面的に講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業目標および内容に関する説明、(2) 中世末期の西欧美術、(3) 近世西欧美術の南北交流① ジョルジョ・ヴァザーリ『列伝』、(4) 近世西欧美術の南北交流② バルトロメオ・ファツィオ『名士録』、(5) 近世西欧美術の南北交流③ カーレル・ファン・マンデル『絵画書』、(6) 近世西欧美術の受容様態① ブリュッヘからヴェネツィアへ、(7) 近世西欧美術の受容様態② ローマからアントウェルペンへ、(8) 近代西欧美術の展開① 「英国美術秘宝展」(1957)、(9) 近代西欧美術の展開② 「プリミティブ・フラン展」(1902)、(10) まとめ</p>	隔年
	日本美術史	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術を編年的に理解するため、代表的作例を鑑賞し、時代様式を理解するとともに、どのような作品が評価されてきたのかを、時代背景と共に考察する能力を養うことを目的とする</p> <p>授業の概要：各時代の代表作を取り上げ、講述し、作品の生まれた時代背景等、多面的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 仏教伝来と法隆寺、(2) 東大寺・興福寺の美術、(3) 木彫仏の成立、(4) 密教の美術、(5) 浄土教の美術、(6) 鎌倉時代の美術、(7) やまと絵の成立、(8) 神道美術、(9) 似絵と頂相、(10) 禅宗美術</p>	隔年
	美術論	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術と社会との関わりについて学び、作品の制作と発表に役立つ美術理論を理解することを目標とする。</p> <p>授業の概要：欧米と日本のアーティストコロニー（芸術家村）を取り上げ、芸術家における「場」の問題について考察する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術家の集団肖像画、(2) バルビゾン派の画家たち、(3) フランスの印象派とセーヌ河畔の村、(4) アメリカの印象派とオールド・ライム、(5) 北欧の印象派：特にスケーエンについて、(6) ドイツの芸術家村ヴォルプスヴェーデ、(7) グレー村の日本人画家たち、(8) エコール・ド・パリとモンパルナスの異邦人たち、(9) 東京の芸術家村①、(10) 東京の芸術家村②</p>	隔年
	芸術教育論-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育批評の理論と方法について学び、学校教育における芸術教育実践の理解・解釈・評価と教育方法開発に携わる基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：テキストに基づいて芸術教育実践の観察批評を実際に行う理論と方法の基礎を学ぶ。図画工作、美術、工芸の各教科の実践について、映像資料や、学校教員を招いての特別講義等を通して理解を深める。</p> <p>授業計画：(1) 芸術教育批評の考え方と方法①（記述・分析）、(2) 芸術教育批評の考え方と方法②（解釈・主題化）、(3) 芸術教育批評の事例、(4) 映像批評等を活用した学習場面の把握・記述、(5) 映像批評等を活用した学習場面の解釈、(6) 授業実践の例 造形あそび等、(7) 授業実践の例 絵や立体等、(8) 芸術教育批評の視点をを用いた現象分析の実際、(9) 学校における授業実践の現地観察の方法、(10) 学校における授業実践の現地観察の成果と課題</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育論-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育批評の理論と方法について学び、学校教育における芸術教育実践の理解・解釈・評価と教育方法開発に携わる基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：図画工作、美術、工芸のいずれかの教科の授業実践を实地に観察し、芸術教育批評の理論と方法を用いて現象を深く分析し、結果を批評として表現する。</p> <p>授業計画：(1) 授業観察の事前指導、(2) 関連資料の収集と分析、(3) 授業実践における取材、(4) 授業実践の観察記録整理・分析、(5) 教師と学習者の相互影響の検討、(6) 学習者間の相互影響の検討、(7) 芸術活動の特質に注目した現象の理解(教師の視点から)、(8) 芸術活動の特質に注目した現象の理解(学習者の視点から)、(9) 解釈と主題化に関する議論、(10) 芸術教育批評の公開と議論</p>	隔年
	美術技法論-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術（洋画、版画）の多様な表現とその技法について理解する。</p> <p>授業の概要：洋画および版画の表現内容や表現方法、構想、技法材料について分析、論述する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(319 福満正志郎/3回) (1) 現代の美術における構想の意味、(2) 現代の絵画表現における構想と技法、(3) 現代の絵画表現における独創性について</p> <p>(114 内藤定壽/3回) (4) 海外の絵画技法書の比較と技法論の可能性、(5) 混合技法の定義について、(6) 模写から入る美術論の可能性</p> <p>(97 田島直樹/2回) (7) 版画の“刷り”の効果について、(8) ステートとヴァリエーションについて</p> <p>(499 星美加/2回) (9) CG技術を活用した絵画制作の可能性について、(10) 現代の作品発表活動の可能性について</p>	隔年 オムニバス方式
	美術技法論-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：美術（日本画・彫塑）における表現技法について歴史的、理論的に分析等を行うことにより、表現方法及び技術についての実際的な応用力をつけ、多様な対応ができるようにする。</p> <p>授業の概要：美術の表現方法について、歴史的、理論的に分析を行う。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(24 太田圭/2回) (1) 日本画制作における表現技法について、(2) 日本画におけるマチエールについて（コラージュ・箔押し技法）</p> <p>(324 程塚敏明/2回) (3) 支持体（和紙）における表現技法について（裏彩色・もみ紙技法）、(4) 金属箔を用いた表現技法について（銀箔への変色技法）</p> <p>(361 山本浩之/2回) (5) 岩絵具による表現技法について（彩色技法）、(6) 古典にみる表現技法とその応用について</p> <p>(511 宮坂慎司/2回) (7) モデリングによる彫塑技法について①（石膏技法・ブロンズ技法）、(8) モデリングによる彫塑技法について②（テラコッタ技法・乾漆技法）</p> <p>(26 大原央聡/2回) (9) カービングによる彫塑技法について①（木彫技法）、(10) カービングによる彫塑技法について②（石彫技法）</p>	隔年 オムニバス方式
	書論	<p>授業の到達目標及びテーマ：書論に対する基礎的な知識を身につけるとともに、書論史研究の方法について理解を深め、関連する諸問題を包括的に検討する力を培う。</p> <p>授業の概要：書の研究における書論の位置を理解し、書論を講読する際の文献学的な知識を習得する。更に中国書論を中心に幾つかの文献を実際に講読し、そこで論じられる主な内容を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) (2) 書論研究の基本的な考え方、(3)～(15) 文献講読、(16) (17) 書論文献と書誌学、(18)～(29) 文献講読、(30) 学習のまとめ</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	書鑑賞論	<p>授業の到達目標及びテーマ:書の鑑賞・鑑定に対する基本的な知識を身に付けるとともに、書の鑑賞・鑑定をめぐる学術的な方法について理解を深め、実践的な鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要:学術研究を念頭に置いた書の鑑賞・鑑定をめぐる基本的な考え方やその方法を身に付け、実際の書の作例に基づく鑑賞・鑑定の実践を積み重ねる。</p> <p>授業計画:(1)(2)書の鑑賞・鑑定の基本的な考え方、(3)(4)書跡本体の鑑定、(5)(6)鑑定の傍証、(7)~(30)歴代の遺品に対する鑑定</p>	隔年
	ダイナミックインタラクションデザイン演習	<p>授業の到達目標及びテーマ:情報・プロダクト・メディアアートを融合した、オブジェによるインタラクション設計の基礎を習う。人間の感情、判断の根源となる感性的な行動をハイテック電子技術や形の素材の仕組みを利用したローテックを用い、創造的インタラクション設計を行う。</p> <p>授業の概要:グループワークショップ形式でのプロトタイピングを行う。</p> <p>授業計画:(1)課題説明 チーム構成、(2)ブレインストーミング、発表、(3)先行事例の研究、テーマ設定およびアイデア展開、(4)仕組みなどの具体案の設計、(5)中間発表、(6)モデル制作、(7)モデル制作、(8)モデル制作、(9)シミュレーション映像撮影、(10)最終プレゼンテーション</p>	
	インターンシップ	<p>授業の到達目標及びテーマ:企業などの一般社会における美術・デザイン分野に関わる業務の体験を行い、美術・デザイン分野における実践的、実質的あるいは実務的な能力を学ぶ。</p> <p>授業の概要:企業などの一般社会において美術・デザイン分野に関わる業務の体験を行い、インターンシップ研修での実務経験等に関する報告書を提出する。</p> <p>授業計画:企業などの一般社会における美術・デザイン分野に関わる業務の説明・解説を踏まえて、現場での実習を行う。</p> <p>1) 企業などによる美術・デザイン分野に関わる業務の説明・解説を受講する。 2) 企業などにおいて、インターンシップ研修を行う。 3) インターンシップを行った企業などで経験した実務内容等に関する報告書を提出する。報告書にはインターンシップを行った企業などによる評価を含める。</p>	
専門科目	西洋近世美術史特講I-1	<p>授業の到達目標及びテーマ:西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要:西洋近世美術史における特定課題に関する講義。「受難伝」の図像を分析し講述する。</p> <p>授業計画:(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 「キリストのエルサレム入城」から「最後の晩餐」、(3) 「使徒たちへの暇乞い」から「菜園での祈り」、(4) 「キリストの捕縛」から「キリストの打擲」、(5) 「パリサイ人に告発されるキリスト」から「ピラトの前のキリスト」、(6) 「鞭打ち」から「カルヴァリオ」、(7) 「磔刑」から「十字架降下」、(8) 「埋葬」から「冥府への降下」、(9) 「我に触れるな」から「エマオへの道での邂逅」、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史特講I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ:西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要:西洋近世美術史における特定課題に関する講義。キリストの生涯をめぐる図像を分析し講述する。</p> <p>授業計画:(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 降誕、洗礼、(3) 荒野の誘惑、十二使徒の選抜、(4) 山上の垂訓、(5) 変容、(6) 最後の晩餐、(7) 受難、(8) 磔刑、(9) 復活と昇天、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史特講II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ:西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要:西洋近世美術史の特定課題に関する講義。15世紀ネーデルラント絵画を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画:(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 15世紀ネーデルラント絵画のアイデンティティ、(3) 絵画とパトロン、(4) 注文主と図像形式、(5) 流行と様式批判、(6) 経済活動と技法、(7) コピーとレプリカ、(8) 祈念像、(9) 奉献画、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋近世美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する理解を深める。とくに西欧絵画に関する研究を事例として考察する。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史の特定課題に関する講義。16世紀ネーデルラント絵画を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 16世紀ネーデルラント絵画のアイデンティティ、(3) 絵画とマーケット、(4) 社会背景と主題、(5) 流行と様式批判、(6) 工房経営、(7) コピーとレプリカ、(8) ロマニズム、(9) 対抗宗教改革と美術、(10) 総括</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する演習。西欧近世の美術を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世ないし近代の美術に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世ないし近代美術史における特定課題に関する演習。西欧近世ないし近代の美術を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋近世の美術コレクションに関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋近世美術史における特定課題に関する演習。西欧近世の美術コレクションを多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	西洋近世美術史演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近代における西洋近世美術の展示に関する英語またはドイツ語の文献購読、および個別に設定するテーマについての発表演習をとおして、理解を深める。</p> <p>授業の概要：西洋美術史における特定課題に関する演習。近代における西欧近世美術の展示を多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 文献輪読①、(3) 文献輪読②、(4) 文献輪読③、(5) 文献輪読④、(6) 文献輪読⑤、(7) 発表演習①、(8) 発表演習②、(9) 発表演習③、(10) 発表演習④／総評</p>	隔年
	近・現代美術論特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。本授業では「美術における身体」をテーマに講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 裸体画の美術史① 西洋1、(3) 裸体画の美術史② 西洋2、(4) 裸体画の美術史③ 日本1、(5) 裸体画の美術史④ 日本2、(6) 「美人」の美術史① 日本1、(7) 「美人」の美術史② 日本2、(8) 「サイボーグ・フェミニズム」以後①、(9) 「サイボーグ・フェミニズム」以後②、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	近・現代美術論特講I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。本授業では「国家を表象する女神像」をテーマに講述する。</p> <p>授業計画：(1) 国家を表象する女神像の考察① フランス：マリアンヌ、(2) 国家を表象する女神像の考察② イギリス：ブリタニア、(3) 国家を表象する女神像の考察③ ドイツ：ゲルマニア、(4) 日本を表象する図像の考察① 天皇の肖像、(5) 日本を表象する図像の考察② 皇后の肖像、(6) 日本を表象する図像の考察③ 古代神話の女神像、(7) 倭姫命について①、(8) 倭姫命について②、(9) 倭姫命について③、(10) 倭姫命について④ アンヌ</p>	隔年
	近・現代美術論特講II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。「日本近代美術史と省庁、官僚」をテーマとする。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) 日本近代美術史と省庁①、(3) 日本近代美術史と省庁②、(4) 内務省および内務官僚と美術①、(5) 内務省および内務官僚と美術②、(6) 「官製日本美術史」の形成①、(7) 「官製日本美術史」の形成②、(8) 「国宝」の政治学①、(9) 「国宝」の政治学②、(10) 総括</p>	隔年
	近・現代美術論特講II-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：近現代美術史における特定課題に関する講義。日本近現代および西洋近現代の美術と文化、政治、制度、外交などの関係を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業の概要：近・現代美術における特定課題に関する講義。「日本近代美術史における《地域美術史》」をテーマとする。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、(2) ローカル・アートヒストリー（地域美術史）とは、(3) 地域美術史① 地方都市の画塾、(4) 地域美術史② 近・現代の画家1、(5) 地域美術史③ 近・現代の画家2、(6) 地域美術史④ 地方のコレクターとそのネットワーク、(7) 地域美術史⑤ 地方における近・現代の美術史家、(8) 地域美術史に関する研究の動向、(9) 地域美術史に関する展覧会の動向、(10) 総括</p>	隔年
	近・現代美術論演習I-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近・現代の美術に関する英語の文献講読により近・現代の美術に関する理解を深め問題意識を高める。</p> <p>授業の概要：近・現代美術史における特定の課題に関する演習。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、学生プロフィール記入、(2) 近・現代美術史に関する資料および作品へのアプローチについて、(3) 文献輪読①、(4) 文献輪読②、(5) 文献輪読③、(6) 文献輪読④、(7) 文献輪読⑤、(8) 文献輪読⑥、(9) 文献輪読⑦、(10) 文献輪読⑧</p>	隔年
	近・現代美術論演習I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術史に関して明治政府が発行した外国語文献を講読し、翻訳および註釈を付けることにより、近代日本の対外美術戦略の一端を明らかにする。</p> <p>授業の概要：美術史用語や内容について註釈を付け、解題の充実した現代日本語による翻訳を完成させることを目指す。</p> <p>授業計画：(1) 翻訳と註釈の進め方について、(2) 翻訳と註釈の発表と全体討議①、(3) 翻訳と註釈の発表と全体討議②、(4) 翻訳と註釈の発表と全体討議③、(5) 翻訳と註釈の発表と全体討議④、(6) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑤、(7) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑥、(8) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑦、(9) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑧、(10) 翻訳・解題の出版に関する編集会議</p>	隔年
	近・現代美術論演習II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：近・現代の美術に関して各自が設定したテーマについて研究発表することにより近・現代の美術に関する理解を深め問題意識を高める。</p> <p>授業の概要：近・現代美術史における特定の課題に関する演習。各自の見解を明確にした上で最新の研究成果をふまえた発表を求める。</p> <p>授業計画：(1) 授業計画、成績評価方法等に関するガイダンス、学生プロフィール記入、(2) 近・現代美術史に関する資料および作品へのアプローチについて、(3) 教員による研究発表、(4) 発表演習①、(5) 発表演習②、(6) 発表演習③、(7) 発表演習④、(8) 発表演習⑤、(9) 発表演習⑥、(10) 総括</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	近・現代美術論演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術史に関して明治政府が発行した外国語文献を講読し、翻訳および註釈を付けることにより、近代日本の文化財保護政策の一端を明らかにする。</p> <p>授業の概要：美術史用語や内容について註釈を付け、解題の充実した現代日本語による翻訳を完成させることを目指す。</p> <p>授業計画：(1) 翻訳と註釈の進め方について、(2) 翻訳と註釈の発表と全体討議①、(3) 翻訳と註釈の発表と全体討議②、(4) 翻訳と註釈の発表と全体討議③、(5) 翻訳と註釈の発表と全体討議④、(6) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑤、(7) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑥、(8) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑦、(9) 翻訳と註釈の発表と全体討議⑧、(10) 翻訳・解題の出版に関する編集会議</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と宗教について講義を行う。公的な建造物、神殿と附属彫刻を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と宗教について講義を行う。私的な領域、奉納記念物と葬礼美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と社会について講義を行う。アルカイックからクラシック期の、僭主政治から民主政成立期にかけての、政治体制と美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する講義。古代ギリシアおよびローマの作品を多面的に分析し講述する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。あわせて、邦語と外国語による専門的な論文を紹介し、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。</p> <p>西洋古代美術史の、美術と社会について講義を行う。クラシック期からヘレニズム期にかけての美術を中心に講義を行う。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と宗教について、特に公的な建造物、神殿と附属彫刻を主題として設定する。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と宗教に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と宗教について、特に私的な領域、奉納記念物と葬礼美術を主題として設定する。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	西洋古代美術史演習Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と社会について、アルカイックからクラシック期の、僭主政治から民主政成立期にかけての政治体制と美術を主題として設定する。</p>	隔年
	西洋古代美術史演習Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：西洋古代美術史の美術と社会に関する演習。古代ギリシアおよびローマの美術を多面的に考察する。</p> <p>授業計画：西洋古代ギリシア、ローマ、初期キリスト教美術史について学ぶ。授業参加者が、演習発表をそれぞれ担当することによって、研究発表と論文作成の基礎について学ぶ。西洋古代美術史の、美術と社会について、クラシック期からヘレニズム期にかけての美術を主題として設定する。</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：編年的に日本美術の代表作を鑑賞し、その特性を探り、研究的な視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 近世初頭の美術と表現について①、(2) 近世初頭の美術と表現について②、(3) 近世初頭の美術と表現について③、(4) 近世風俗画について①、(5) 近世風俗画について②、(6) 初期の浮世絵、(7) 美人画と役者絵、(8) 錦絵について、(9) 北斎と広重、(10) ジャポニズム</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅰ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：編年的に日本美術の代表作を鑑賞し、その特性を探り、研究的な視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 日本絵画における特定課題の講義、(2) 近世初頭の美術と表現について①、(3) 近世初頭の美術と表現について②、(4) 琳派の表現①、(5) 琳派の表現②、(6) 琳派の表現③、(7) 琳派の継承①、(8) 近代日本画① 文展、(9) 近代日本画② 美術院、(10) 日本の絵画の特質について</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅱ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術の特定課題について講義を行い、表現の特性を探り、研究的な視点を醸成する。また、論文主題をどのように取り上げ、論じるかを考察する。</p> <p>授業の概要：近世初頭の風俗画から浮世絵の成立、大正新版画までを対象に代表作を通して、我が国を代表する浮世絵を考察する。</p> <p>授業計画：(1) 初期風俗画について、(2) 都市の成立と人物表現について、(3) 歌舞伎と役者絵について、(4) 版画技法と表現の変化について、(5) 絵暦交換会について、(6) 大首絵とその代表的絵師、(7) 出版の統制について、(8) 風景表現について、(9) 明治期の浮世絵について、(10) 大正新版画について</p>	隔年
	日本美術史特講Ⅱ-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：特定の美術作品について、時代様式や背景となる事象を通して、美術作品が歴史的に評価され、伝来している意味を解釈し、研究的な視点を養うことを目的とする。</p> <p>授業の概要：仏教美術の諸相を代表作品を通して鑑賞し、時代様式について考える。</p> <p>授業計画：(1) 仏教美術の彫刻表現について①、(2) 仏教美術の彫刻表現について②、(3) 仏教美術の彫刻表現について③、(4) 仏教寺院の内陣の構想について①、(5) 仏教寺院の内陣の構想について②、(6) 仏教寺院の内陣の構想について③、(7) 仏教美術の大陸からの受容のあり方について①、(8) 仏教美術の大陸からの受容のあり方について②、(9) 仏教美術の国風的表現について①、(10) 仏教美術の国風的表現について②</p>	隔年
	日本美術史演習Ⅰ-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の文献史料）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料調査（写真撮影）の方法、(2) 文献史料の調査①、(3) 文献史料の調査②、(4) 文献史料の調査③、(5) 文献史料の調査④、(6) 調査史料のディスカッション、(7) 文献史料の補完調査①、(8) 文献史料の補完調査②、(9) 文献史料の調査と研究視点、(10) 文献史料の総合的な検討を行う</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本美術史演習I-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（文献史料）を講読し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料講読の方法、(2) 文献史料の講読①、(3) 文献史料の講読②、(4) 文献史料の講読③、(5) 文献史料の講読④、(6) 文献史料の講読⑤、(7) 文献史料の講読⑥、(8) 文献史料の講読⑦、(9) 文献史料の講読⑧、(10) 文献史料の総合的な検討を行う</p>	隔年
	日本美術史演習II-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の作品）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 実際の作品の調査のあり方について、(2) 作品調査の方法について、(3) 第1回調査、(4) 調査作品についてのディスカッション、(5) 調査作品のディスクリプション、(6) 第2回調査（第1回調査の補完を行う）、(7) 調査報告のあり方について、(8) 先行研究について、(9) 資料調査と研究視点、(10) 総合的な解釈</p>	隔年
	日本美術史演習II-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の作品）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 作品調査①、(2) 作品調査②、(3) 研究主題に基づき、検討を加える①、(4) 研究主題に基づき、検討を加える②、(5) 先行研究について、検討を加える①、(6) 先行研究について、検討を加える②、(7) 研究主題について、口頭発表し、検討する①、(8) 研究主題について、口頭発表し、検討する②、(9) 研究主題について、口頭発表し、検討する③、(10) 研究主題の総合的な検討を行う。</p>	隔年
	美術史学外演習I	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（実際の文献史料）を調査し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料調査（写真撮影）の方法、(2) 文献史料の調査①、(3) 文献史料の調査②、(4) 文献史料の調査③、(5) 文献史料の調査④、(6) 調査史料のディスカッション、(7) 文献史料の補完調査①、(8) 文献史料の補完調査②、(9) 文献史料の調査と研究視点、(10) 文献史料の総合的な検討を行う。</p>	
	美術史学外演習II	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本美術に関する任意の主題を実際に調査し、先行研究を検討し、主題の解釈を行う。</p> <p>授業の概要：任意の主題（文献史料）を講読し、研究視点を構築する。</p> <p>授業計画：(1) 文献史料講読の方法、(2) 文献史料の講読①、(3) 文献史料の講読②、(4) 文献史料の講読③、(5) 文献史料の講読④、(6) 文献史料の講読⑤、(7) 文献史料の講読⑥、(8) 文献史料の講読⑦、(9) 文献史料の講読⑧、(10) 文献史料の総合的な検討を行う。</p>	
	芸術支援学外演習A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる運営の実際について、現地調査をもとに多角的に理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる運営の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：美術館、美術ギャラリー、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：野外現代美術展会場、芸術祭、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術支援学学外演習A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる運営の実際について、現地調査をもとに多角的に理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる運営の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。また学外演習の運営への参加も芸術支援の訓練としてとらえ、参加者が効果的な学習ができるよう工夫し貢献する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：学校教育、美術館教育、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：アートとコミュニティ、アートと社会参加、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術支援学学外演習B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる実践と研究について、現地調査をもとに深く理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる実践と研究の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：授業公開研究会、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：ワークショップ、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術支援学学外演習B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わる実践と研究について、現地調査をもとに深く理解する力を付ける。</p> <p>授業の概要：芸術支援に関わる実践と研究の現場を調査し、テーマを決めて考察を行う。また学外演習の運営への参加も芸術支援の訓練としてとらえ、参加者が効果的な学習をできるよう工夫し貢献する。</p> <p>授業計画：(1) 芸術支援に関わる現場の検討：学術研究会、(2) 芸術支援に関わる現場の検討：リサーチフォーラム、(3) 実地調査対象の決定と調査方針の検討、(4) 分担による事前調査、(5) 事前調査結果の発表、(6) 訪問計画の作成、(7) 現地調査（観察と記録）、(8) 現地調査（インタビューと意見交換）、(9) 現地調査（各自テーマの探究）、(10) 調査結果の報告と討議</p>	
	芸術教育方法論A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する研究の多様なアプローチを理解し、各自の研究手法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：主として現代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、比較教育の視点からの探究事例を論じる。</p> <p>授業計画：(1) 美術教育の比較研究（日本）、(2) 美術教育の比較研究（英国ほか）、(3) デザイン教育の比較研究（日本）、(4) デザイン教育の比較研究（英国ほか）、(5) 工芸教育の比較研究（日本）、(6) 工芸教育の比較研究（英国ほか）、(7) 鑑賞教育の比較研究（日本）、(8) 鑑賞教育の比較研究（英国ほか）、(9) 教員養成の比較研究（日本）、(10) 教員養成の比較研究（英国ほか）</p>	隔年
	芸術教育方法論A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する研究の多様なアプローチを理解し、各自の研究手法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：主として現代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、より適切な解釈を提示できる能力の育成を目指して、文献資料の収集と整理、解説、要約、問題点の提示、討論、論述などを行う。</p> <p>授業計画：(1) 研究データベースについて（国内の事例）、(2) 研究データベースについて（海外の事例）、(3) 学術論文のレビューについて、(4) 国内の主要な研究動向、(5) 海外の主要な研究動向、(6) 研究目的、方法、結果の相互関連、(7) 関連研究の把握と独自性の探究、(8) 調査方法の概観、(9) 調査方法の信頼性と妥当性、(10) プレゼンテーション技法</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術教育方法論B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する史的探究の事例を中心に、芸術教育に関する主要な研究方法を理解し、各自の研究方法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：近代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、主として19世紀後半から現在までの英国における中等教育の変革を事例として論じる。</p> <p>授業計画：(1) 芸術教育方法研究の概観（美術思想とのかかわり）、(2) 芸術教育方法研究の概観（教育思想とのかかわり）、(3) 芸術教育方法研究の概観（社会的諸制度とのかかわり）、(4) 芸術教育方法研究の概観（理念と方法論の関係）、(5) 芸術教育方法研究の概観（成果と課題）、(6) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの基本理念）、(7) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの方法論）、(8) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの方法の実際）、(9) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの成果）、(10) 芸術教育方法研究の事例検討（リチャードソンの課題）</p>	隔年
	芸術教育方法論B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術教育の方法に関する史的探究の事例を中心に、芸術教育に関する主要な研究方法を理解し、各自の研究方法確立へ向けての準備とする。</p> <p>授業の概要：近代における美術・デザイン・工芸教育の方法に関して、芸術思想、教育思想、社会的諸制度などの背景を含めて理解し、その探究から導かれる諸問題について多角的に考察する。</p> <p>授業計画：(1) 研究課題と方法の設定（テーマの選択）、(2) 研究課題と方法の設定（テーマと方法の妥当性の検討）、(3) 研究課題と方法の設定（研究の構造化）、(4) 研究課題と方法の設定（全体構想の図式化）、(5) 資料収集と分析（収集法）、(6) 資料収集と分析（先行研究の成果）、(7) 資料収集と分析（先行研究の限界）、(8) 資料収集と分析（研究の位置づけの明確化）、(9) 資料解釈と論文構成（問題の所在）、(10) 資料解釈と論文構成（目的の明確化）</p>	隔年
	芸術学習支援論A	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法を理解し、学習活動を支援する基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法、その指導者育成について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの概要、(2) 美的発達段階の研究（Aesthetic Development Interview）、(3) 美的発達段階論（説明する鑑賞者、構成する鑑賞者）、(4) 美的発達段階論（分類する鑑賞者、解釈する鑑賞者、再創造する鑑賞者）、(5) 幼児の学習支援の考え方、教材と方法、(6) 小学校低学年の学習支援の考え方、教材と方法、(7) 小学校中・高学年の学習支援の考え方、教材と方法、(8) 中等教育以降における学習支援の考え方、教材と方法、(9) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの立案）、(10) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの行動プラン策定）、(11) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのファシリテーション）、(12) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのVSTの位置づけ）、(13) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの実践）、(14) 子ども対象の実地演習の評価（子ども・アート・ラウンジの成果）、(15) 子ども対象の実地演習の評価（今後の課題）、(16) VTSコーチングの基礎、(17) VTSコーチングの実地演習（受容的態度）、(18) VTSコーチングの実地演習（行動の理解）、(19) VTSコーチングの実地演習（集団における啓発）、(20) VTSコーチングの実地演習（改善への示唆）</p>	講義 7.5時間 演習 22.5時間 隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術学習支援論B	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法を理解し、学習活動を支援する基礎力を身につける。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの考え方、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの方法、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーの活用、(4) 学習支援の考え方と実際、(5) ファシリテーション技法（基本質問の理解）、(6) ファシリテーション技法（パラフレーズの理解）、(7) ファシリテーション技法（パラフレーズの応用）、(8) ファシリテーション技法（動作）、(9) ファシリテーション技法（態度）、(10) ファシリテーション技法（リンク）、(11) ビデオ実地演習（教材の検討）、(12) ビデオ実地演習（技法の習得）、(13) ビデオ実地演習の評価、(14) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの立案）、(15) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの行動プラン策定）、(16) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのファシリテーション）、(17) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジでのVSTの位置づけ）、(18) 子ども対象の実地演習（子ども・アート・ラウンジの実践）、(19) 子ども対象の実地演習の評価（子ども・アート・ラウンジの成果）、(20) 子ども対象の実地演習の評価（今後の課題）</p>	講義 7.5時間 演習 22.5時間 隔年
	芸術支援ワークショップⅠ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術支援における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) 日本の美術・デザイン・工芸教育の特色と課題、(2) 日本と英国の中等美術教育におけるアートライティングの比較、(3) アートライティング教育の意義と方法、(4) 高校生アートライター大賞の目的、歴史、運営、(5) 高校生アートライター大賞の選考基準、(6) 過去受賞作品の検討、(7) 選考過程リハーサル、(8) 第一次選考作品の検討、(9) 第一次選考作品の評価、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年
	芸術支援ワークショップⅡ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術教育における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) 「制作体験」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習における「表現」、(2) 「作品探究」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習における「鑑賞」、(3) 「芸術支援」のアートライティングと美術・デザイン・工芸の学習の社会的視点、(4) 高校生アートライター大賞の参加者の意識、(5) 高校生アートライター大賞に参加した指導者の意識、(6) 選考過程リハーサル、(7) 第二次選考作品の検討、(8) 第二次選考作品の評価、(9) 筑波大学学生賞の選考、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年
	芸術支援ワークショップⅢ	<p>授業の到達目標及びテーマ：芸術支援に関わるワークショップに参加し、芸術支援活動の対象、方法、評価、意義、ならびに社会との関わりについて多角的に考える力を付ける。</p> <p>授業の概要：美術・デザイン・工芸など芸術に関わる高校生のエッセイコンテスト「高校生アートライター大賞」に学生選考委員として参加し、アートライティング教育の実践を支援しながら、芸術教育における言葉の役割を考える。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) ワークショップ活動の企画、(3) アートライティング学習の評価方法、(4) アートライティング学習の奨励方法、(5) アートライティング学習支援の実践、(6) アートライティング学習支援メッセージの作成、(7) アートライティング学習による交流支援の計画、(8) アートライティング学習による交流支援の実施、(9) アートライティング学習による交流支援の評価、(10) 本授業の成果と課題</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	芸術学習支援演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの高度な実践とコーチングの方法を学ぶ。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーの理論と方法について学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの考え方、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの方法、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの活用、(4) コーチングの実際、(5) コーチング技法（基本質問の理解）、(6) コーチング技法（パラフレーズの理解）、(7) コーチング技法（パラフレーズの応用）、(8) コーチング技法（動作）、(9) コーチング技法（態度）、(10) コーチング技法（リンク）、(11) コーチングの実地演習（学習プログラムの検討）、(12) コーチングの実地演習（行動プラン策定）、(13) コーチングの実地演習（教材の選定）、(14) コーチングの実地演習（演習授業での指導実践）、(15) コーチングの実地演習（指導実践の振り返り）、(16) コーチングの実地演習（指導実践の改善）、(17) コーチングの実地演習（グループワークの指導実践）、(18) コーチングの実地演習（学習者からの振り返り）、(19) コーチングの実地演習の評価（学習者の達成状況）、(20) コーチングの実地演習の評価（今後の課題）</p>	隔年
	芸術学習支援演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：ビジュアル・シンキング・ストラテジーの高度な実践とコーチングの考え方と技法を実地に応用する。</p> <p>授業の概要：美術館や学校における学習者中心の鑑賞学習を促す代表的な方法であるビジュアル・シンキング・ストラテジーを初心者に指導するためのコーチングの考え方と技法を実地に身につける。</p> <p>授業計画：(1) コーチングとファシリテーション、(2) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの適用上の課題、(3) ビジュアル・シンキング・ストラテジーにおけるコーチングの発展、(4) コーチングの実地応用、(5) コーチング技法（視線の活用）、(6) コーチング技法（高度なパラフレーズ）、(7) コーチング技法（作品テーマに応じたパラフレーズ）、(8) コーチング技法（身体性）、(9) コーチング技法（表情）、(10) コーチング技法（中立性の保持）、(11) コーチングの実地演習（作品の配列）、(12) コーチングの実地演習（学習者への導入）、(13) コーチングの実地演習（想定と実際）、(14) コーチングの実地演習（テーマ別演習）、(15) コーチングの実地演習（知識の活用）、(16) コーチングの実地演習（語彙の検討）、(17) コーチングの実地演習（相互作用）、(18) コーチングの実地演習（肯定と励まし）、(19) コーチングの実地演習の評価（課題の共有）、(20) コーチングの実地演習の評価（改善提案）</p>	隔年
	洋画技法論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：絵画・西洋絵画の様式について理解し、技法上の特性について学ぶ。</p> <p>授業の概要：絵画・西洋絵画の様式について理解し、技法上の特性について分析、論述する。</p> <p>授業計画：(1) 絵画の形式について－絵画の物理的性質と表現、(2) 絵画の形式について－絵画の観念的性質と表現、(3) 絵画における造形上の基本的要素について、(4) 西洋絵画の様式について① クラシック、フィレンツェ・ライン、(5) 西洋絵画の様式について② バロック、ベネチア・ライン、(6) 絵画の様式について③ 技法・材料と様式、(7) 絵画空間の構造について① 遠近法、(8) 絵画空間の構造について② 前景、中景、後景、(9) 絵画空間の構造について③ プランの分離体系、(10) 現代における絵画表現の意義と独自性について</p>	
	西洋美術技法演習-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：技法・材料実験ならびに制作実践を通して、洋画に関する技法を習得する。</p> <p>授業の概要：西洋絵画を中心に、古典から現代に及ぶ様々な作品例・技法例を示し絵画制作にかかわる多様な表現方法について講じる。</p> <p>(オムニバス方式／全10回)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(155 仏山輝美/8回) (1) ガイダンス (課題説明)、(4) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践① 平面性、(5) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践② 色料、(6) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践③ 筆致、(7) 絵画の成り立ちに着目した技法・材料実験、制作実践④ マチエール、(8) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践① 色相、(9) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践② 補色、(10) 色彩の対比・調和に着目した技法・材料実験、制作実践③ (114 内藤定壽/2回) (2) 絵画表現の構想とその方法① 主題、モチーフの検討、(3) 絵画表現の構想とその方法② 技法・材料の検討	
	西洋美術技法演習-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：技法・材料実験ならびに制作実践を通して、洋画に関する技法を習得する。</p> <p>授業の概要：西洋絵画を中心に、古典から現代に及ぶ様々な作品例・技法例を示し絵画制作にかかわる多様な表現方法について講じる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス (現代の美術表現における課題)、(2) 実験制作-1 ① レポート、エスキース、(3) 実験制作-1 ② 素材、技法の検討、(4) 実験制作-1 ③ 表現意図と表現効果、(5) 作品の中間評価、講評、(6) 実験制作-2 ① 構想、エスキース、(7) 実験制作-2 ② 素材、技法の工夫、(8) 実験制作-2 ③ 表現意図の再確認、(9) 実験制作-2 ④ 表現効果の工夫、(10) 作品の展示、講評</p>	
	洋画制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体モデルに基づく人物画の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・制作実践を通して、色彩と表現内容、色彩と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 <p>授業の概要：風景画、静物画、人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、色彩の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 風景画制作、(7)～(9) 人物写生、(10)～(14) 作品制作① (自由課題)、(15)～(19) 作品制作② (自由課題)、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体モデルに基づく人物画 (もしくは構想画) の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・作品制作を通して、色彩と表現内容、色彩と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 <p>授業の概要：構想に基づく人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、色彩の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 人物写生 (裸婦モデル)、(6)～(9) 人物写生にもとづく作品制作 (自由課題)、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・戸外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体および選択されたモチーフをテーマに絵画制作を行う。 ・作家としての表現を確立するための基礎を養い、学外における作品発表を目標に制作を行う。 ・特に絵画制作における素材や技法について研究する。 <p>授業の概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・洋画制作B では特に技法について個別に質疑応答を行い、各々の目的に応じたより高度な表現を目指す。 ・経年変化に耐える基底材、地塗りやメディウムの工夫を行い、制作工程、制作システムについて実験的な試みを行う。 ・油絵具、アクリル絵具やテンペラはもちろん、様々な材料に関心をもつと同時に、より高度な絵画技法を経験させる。 <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 作品制作（自由課題）、(7)～(8) 風景画制作、(9)～(11) 静物画制作、(12)～(14) 人物写生（裸婦モデル）、(15)～(19) 作品制作（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体モデルに基づく人物画、本人の構想に基づく構想画をテーマに絵画制作を行う。 ・作家としての表現に結び付く応用力を養い、学外における作品発表を目標に制作を行う。 ・特に絵画制作における素材や技法について高度な研究を行う。 <p>授業の概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に設定されたテーマによるモチーフの選択を行い、テーマにそって素材、技法について最も適したものを追求する。 ・積極的な基底材、地塗りやメディウムの工夫を行い、制作工程、制作システムについて高度な表現を身につけさせる。 ・様々な材料に関心をもつと同時に、混合技法などより高度な絵画技法を経験させる。 <p>授業計画：(1) ガイダンス、第2回～5回：人物写生I（裸婦モデル）、第6回～9回：人物写生にもとづく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・野外での風景画制作、モチーフに基づく静物画および人体モデルに基づく人物画の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・制作実践を通して、構想と表現内容、構想と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 <p>授業の概要：風景画、静物画、人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、構想の表現効果に着目した描画方法と画面構成について指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 風景画制作、(4)～(6) 静物画制作、(7)～(9) 人物写生（裸婦モデル）、(10) 作品制作① 各自の設定したテーマに基づき独自の構想的表現を試みる、(11)～(14) 作品制作①（自由課題）、(15)～(19) 作品制作②（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人体モデルに基づく人物画（もしくは構想画）の制作に取り組み、観念的な表現ではなく、主体的な表現意図を持ちつつも客観的な描写力と表現力に支えられた画力を身につける。 ・作品制作を通して、構想と表現内容、構想と表現方法の連関について理解し、実践する。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための基本的な専門知識・技法、並びに柔軟な発想力・構想力を身につける。 <p>授業の概要：構想に基づく人物画の制作に取り組み、画家として表現活動を展開するための基本的な態度と画力を養成する。特に、独自の構想表現の拡大、表現意図の確認等によって、制作の向上を目指し指導する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品展示、作品講評、(3)～(5) 人物写生（裸婦モデル）、(6)～(9) 人物写生に基づく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画制作D-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 風景・静物及び人物を対象とした油彩画制作によって、油彩表現の特性を理解するとともに客観的な観察を基にした基礎的な描写力や表現力を習得する。 多様なモチーフによる制作実践を通して、表現内容と構図・形態の造形的関連性について理解し、構図・形態に関する独自の表現方法を追求する能力を習得する。 多様なモチーフによる制作実践を通して、構図・形態の観点から基礎的な造形の知識・技法を実制作に具体的に応用できる能力を習得する。 多様なモチーフによる制作実践によって、構図・形態の観点から柔軟な発想力・構想力が展開できる能力を習得する。 <p>授業の概要：多様なモチーフを対象とした制作によって、特に油彩表現の特性と構図と形態の表現効果に着目した描画方法を具体的に体験し、受講生各自が独自の構想に基づく表現へ展開する契機とする。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 風景画制作、(4)～(6) 静物画制作、(7)～(9) 人物写生（裸婦モデル）、(10)～(14) 作品制作①（自由課題）、(15)～(19) 作品制作②（自由課題）、(20) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画制作D-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 人体モデルによる人物画制作とともにさまざまなモチーフを基にした構想画表現にも取り組み、受講生各自が自身の表現の体質や美的方向性を見極め、独自の表現様式を獲得する契機とする。 制作実践を通して、構図・形態と表現内容・方法の連関について理解し、独自の表現様式の確立を実践する。 制作実践および作品発表を通して、自立的に表現活動を展開するための基本的な姿勢と能力を獲得する。 <p>授業の概要：人体モデルを基にした表現から個々の表現する主題や内容に沿った基底材等のサイズ選択や多様な描画材の適用及び構想の展開などによって、独自の表現様式を段階的に模索する。特に、構図と形態の表現効果に着目した描画方法や様式について実験・試行する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 人物写生（裸婦モデル）、(6)～(9) 人物写生にもとづく作品制作（自由課題）、(10) 作品講評、授業のまとめ</p>	
	洋画特別制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> 各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。 自らの作品における色彩（色料）の表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。 制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。 <p>授業の概要：絵画表現の独自性を理解し、表現の主題と内容をしっかりと見据えて造形し発信する態度を養成する。また、作品の自主制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 作品制作①～⑤、制作方法論の構築を見据えた制作実践とその評価、(7)～(10) 作品制作⑥～⑨ 自作作品の色彩分析を踏まえた制作実践、(11)～(14) 作品制作⑩～⑬ 参考作品の色彩分析を踏まえた制作実践、(15)～(17) 作品制作⑭～⑯ 色彩・色料に着目した作品展開のための制作実践、(18)～(19) 作品制作⑰～⑱ 表現主題と色彩の連関に着目した作品展開のための制作実践、(20) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を確立する。 ・自らの作品制作において色彩（色料）の表現効果をさらに発展させ、独自の絵画表現を展開する力を育てる。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作方法論を構築する。 <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 絵画空間と色彩、(3) 作品制作② 形態と色彩、(4) 作品制作③ 質感と色彩、(5) 作品制作④ 混色と重色、(6) 作品制作⑤ 色彩と色料、(7) 作品制作⑥ 筆触と色彩、(8) 作品制作⑦ 絵画の物理的性質と色彩・色料、(9) 作品制作⑧ 技法・材料の多様性と色彩、(10) 作品講評</p>	
	洋画特別制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、表現のテーマやねらいに沿った絵画技法、技法材料を選択できるようにする。 ・技法や素材による表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して高度な絵画技法を展開する力を身につける。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作技法を確立する。 <p>授業の概要：これまでに学んだ絵画技法を整理し、統合し、自分の目的に沿った絵画技法として確立させる。さらに、用いた素材の安定性、経年変化、人体、環境への影響などについて理解させる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(3) 作品制作①② 自作作品にみる絵画技法の分析、傾向と課題、(4)～(5) 作品制作③④ 自作作品における絵画技法実験と危険性、(6)～(7) 作品制作⑤⑥ 参考作品にみる絵画技法の分析、傾向と課題、(8)～(9) 作品制作⑦⑧ 参考作品にみられる実験的絵画技法、人体、環境への危険性、(10) 作品制作⑨ 作品の経年変化について、(11)～(12) 作品制作⑩⑪ 作品の人体・環境への影響について、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ 表現主題と絵画技法の連関に着目した作品展開の方法の検討、制作実践、(15)～(19) 作品制作①-⑤ 絵画技法の確立を見据えた制作実践とその評価（画用液、筆、支持体ほか）、(20) 作品講評</p>	
	洋画特別制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、表現のテーマやねらいに沿った絵画技法、技法材料を選択できるようにする。 ・技法や素材による表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して高度な絵画技法を展開する力を身につける。 ・人体や環境への影響について十分理解させ、安全な制作環境について理解させる。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独創的な制作技法を確立する。 <p>授業の概要：高度な描画と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々に向けた絵画技法について助言・指導を行う。その上で作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 乾性油、(3) 作品制作② 樹脂、(4) 作品制作③ ニス、(5) 作品制作④ 描画技法、(6) 作品制作⑤ 筆、(7) 作品制作⑥ 刷毛、(8) 作品制作⑦ 画面の安定、(9) 作品制作⑧ 光沢、(10) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。 ・自らの作品における構想とイメージの表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。 <p>授業の概要：絵画表現の独自性を理解し、表現の主題と内容をしっかりと見据えて造形し発信する態度を養成する。また、作品の自主制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① テーマに基づいた構想、(3) 作品制作② イメージと構想、(4) 作品制作③ 造形要素と構想、(5) 作品制作④ 構想表現のための技法・材料実験、(6) 作品制作⑤ イメージのリアリティについて、(7) 作品制作⑥ 参考作品にみる構想表現の検討、(8) 作品制作⑦ 参考作品の構想についての技法・材料実験、(9) 作品制作⑧ 参考作品の構想表現を踏まえた制作実践、(10)～(12) 作品制作⑨-⑪ イメージの展開に着目した作品制作の方法と検討、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ イメージと構想の連関に着目した作品展開のための制作実践、(15) 作品制作⑰ 主題と構想、(16) 作品制作⑱ イメージと構想、(17) 作品制作⑲ 造形要素と構想、(18) 作品制作⑳ 技法・材料実験、(19) 作品制作㉑ イメージとリアリティ、(20) 作品講評</p>	
	洋画特別制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を学ぶ。 ・自らの作品における構想とイメージの表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して絵画表現を展開する力を身につける。 ・制作実践を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を構築する。 <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 構想表現の検討、(3) 作品制作② 構想の技法・材料実験、(4) 作品制作③ 独自の構想表現の制作実践、(5) 作品制作④ イメージ展開の方法の検討、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ イメージ展開のための技法・材料実験、制作実践、(10) 作品講評</p>	
	洋画特別制作D-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個別に設定・選択した主題に沿って独自の表現様式や方法を追求し、作品化する。 ・自らの作品における構図・形態の表現効果を分析し、その傾向と独自性を把握して表現を展開する力を身につける。 ・制作実践及び作品発表を通して、画家として自立的に活動するための独自の制作方法を確立する。 <p>授業の概要：受講生各自が自身の表現の主題と内容を基に基底材のサイズ・描画材等を選択し、作品制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 作品制作①-④ 自作作品の構図・形態分析を踏まえた制作実践、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ 参考作品にみる構図・形態の分析、制作実践、(10)～(12) 作品制作⑨-⑪ 構図・形態に着目した作品展開、制作実践、(13)～(14) 作品制作⑫⑬ 表現主題と構図・形態の連関に着目した作品展開の方法の検討、制作実践、(15) 作品制作⑰ 主題と形態、(16) 作品制作⑱ 構想と形態、(17) 作品制作⑲ 構図と形態、(18) 作品制作⑳ 形態の対比・調和、(19) 作品制作㉑ 調子と形態、(20) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	洋画特別制作D-2	<p>授業の到達目標及びテーマ： ・個別に設定・選択した主題に沿って独自の表現様式や方法を追求し、作品化する。 ・自らの作品における構図・形態の表現効果をさらに発展させ、独自の表現を展開する力を身につける。 ・各自、表現のテーマやねらいに沿って作品を構想し、絵画表現を構築する手法を確立する。</p> <p>授業の概要：高度な描画力と専門知識を活かした独創的な絵画表現を実現するために、受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。また、作品の制作と発表を促し、対外的な評価の獲得によって活動の基盤を形成できるよう助言する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 作品制作① 構図の検討、(3) 作品制作② 形態の技法・材料実験、(4) 作品制作③ 独自の構図・形態の表現の制作実践、(5) 作品制作④ イメージと構図の展開の方法の検討、(6)～(9) 作品制作⑤-⑧ イメージと形態の展開のための技法・材料実験、制作実践、(10) 作品講評</p>	
	洋画野外風景実習	<p>授業の到達目標及びテーマ：屋外において自然風景の写生に取り組み、風景画制作の実践のための手立てと描画方法を習得して、受講者個々の描写力・表現力を高める。</p> <p>授業の概要：自然に学ぶ態度を培い、観察力や洞察力に基づく描写力を高めて、独創的な絵画表現のための礎となるよう風景画制作における受講者個々の表現内容および描画方法について助言・指導を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 風景画制作① 構図、(3) 風景画制作② 明暗、(4) 風景画制作③ 色彩、(5) 風景画制作④ 形態、量感、質感、(6) 風景画制作⑤ 空間、奥行き、(7) 風景画制作⑥ マチエール、テクスチャ、(8) 風景画制作⑦ 筆致、(9) 風景画制作⑧ 技法・材料と表現、(10) 風景画制作⑨ 作品講評、作品展示</p>	集中 共同
	版画制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：実際の制作を通して版画の技法研究を行い、各版種の特徴・性質を把握し、今後の作品制作に活かす。また、指導者養成の目的のもと、技術習得に努める。</p> <p>授業の概要：木版画、スクリーンプリントの原理を理解し、技法を習得する。合わせて、教材としての版画の指導方法について実践を通して考察する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(7) 課題①「陰刻と陽刻を組み合わせた作品」、(8)～(11) 課題②「顔」、(12)～(15) 課題③「スクリーンプリント/ブロック法」、(16)～(20) 課題④「コラグラフ」、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：実際の制作を通して版画の技法研究を行い、各版種の特徴・性質を把握し、今後の作品制作に活かす。また、指導者養成の目的のもと、技術習得に努める。</p> <p>授業の概要：銅版画（エッチング・アクアチント）、コラグラフの原理を理解し、技法を習得する。合わせて、教材としての版画の指導方法について実践を通して考察する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（腐蝕銅版画に関する説明、下準備）、(2)～(6) 課題①「エッチングによる制作」、(7)～(10) 課題②「アクアチントを併用した制作」、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代の多様な版表現について、独自の視点で分析し、表現者として発表できるようになる。</p> <p>授業の概要：専門とする版種に関する作家・作品・技法について、調査・研究・実験制作を通して自己の制作に活かす。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「作家についての研究」報告書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(14) 課題② 発表に関連する実験制作1、(15)～(20) 課題③ 発表に関連する実験制作2、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代における版表現の可能性について、技術的側面から検証できるようになる。</p> <p>授業の概要：専門とする版種に関する作家・作品・技法について、調査・研究・実験制作を通して自己の制作に活かす。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「技法についての研究」報告書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(10) 課題② 発表に関連する実験制作、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	版画特別制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了に向けて、計画的に制作研究を行う。また、その成果としての作品を効果的に展示する方法を身につける。</p> <p>授業の概要：個別に設定されたテーマによって版種を選び、修了研究に向けて版画の制作実験を試みる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) 課題①「版画史についての研究」に関する研究計画書の作成・検討、(7)～(14) 課題② 自由課題による自主制作1、(15)～(20) 課題③ 自由課題による自主制作2、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画特別制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了に向けて、計画的に制作研究を行う。また、その成果としての作品を効果的に展示する方法を身につける。</p> <p>授業の概要：個別に設定されたテーマによって版種を選び、修了研究に関連した版画の制作研究を行う。また、学外で作品の成果発表を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(5) 課題①「現代版画についての研究」に関する研究計画書の作成、(6) 報告書の提出と発表、(7)～(10) 課題② 自由課題による自主制作、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	
	版画技法演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：同質の版画作品を複数枚刷ることが可能な技術を養う。共同作業で作品集を作ることで協調性を養う。</p> <p>授業の概要：版画の性能の特徴である複数性を応用して、版画集を作成する。その形態や体裁・仕掛けについて協議し、共同制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス[版画集の形態について]、(2)～(4) デザインの決定・制作プロセスの協議、(5)～(10) 材料の調達・加工・組み立て・編集・製本、最終回に作品講評及びディスカッションを行う。</p>	隔年
	版画技法演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：リトグラフの原理を理解し、各種描画材の特徴を応用して多様な表現ができるようになる。</p> <p>授業の概要：アルミ板を使用した平版の様々な技法について演習を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)～(6) リトグラフの描画材及びテクチャーについて、(7)～(8) リトグラフの製版について、(9)～(10) リトグラフの刷りについて、最終回に作品の提出と発表および講評を行う。</p>	隔年
	版画学外演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：版画に関する歴史的な作品や現代の版表現を用いた作品について、実地で鑑賞・研究することにより、版画芸術に係る知識や技法等を集積し、多様な展開にも対応できるようにする。</p> <p>授業の概要：各自のテーマに基づき、実地研修を行う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) 事前指導（オリエンテーション・演習内容の検討・資料作成）、(4)～(8) 実地指導（収集した資料をもとに分析）、(9)～(10) 事後指導（研究対象テーマに関するレポート作成・発表会）</p>	集中
	日本美術技法演習-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：古典、中世、近代の作品・模写を通して、専門的素材の用法及び材料使用にともなう種々の技法について演習を行い、伝統的日本画の表現技法のあり方について考察する。</p> <p>授業の概要：中国宋元画の複製（色紙）を模本として、絹本に日本画の素材と材料及び技法を用いて、古典模写を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2) 古典模写について（模本の選択、中国宋元画について）、(3)～(4) 薄美濃紙による上げ写し、(5) 絹染め（絵絹を矢車の実によって染色し、古色をつける）、(6)～(9) 絹本への上げ写し、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本美術技法演習-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：古典、中世、近代の作品・模写を通して、専門的素材の用法及び材料使用にともなう種々の技法について演習を行い、伝統的日本画の表現技法のあり方について考察する。</p> <p>授業の概要：中国宋元画の複製（色紙）を模本として、絹本に日本画の素材と材料及び技法を用いて、古典模写を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2) 胡粉による地塗り（胡粉と膠の種類についての検討）、(3) 古色の表現（日本画の色材と水干絵具について）、(4)～(8) 彩色による表現、(9) 模写の完成と保存（表装について）、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、与えられたテーマに対処しながら、創作的内容を伴う表現力を修得する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、主題の設定から表現方法について検討することで、独創的表現力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(4) 主題の設定と資料収集、(5)～(6) 材料技法・制作方法の検討、(7)～(19) 「各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、与えられたテーマに対処しながら、造形的内容を伴う表現力を修得する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を追求しながら、日本画の表現技法と構想力・描写力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(4) 主題の設定と資料収集、(5)～(6) 材料技法・制作方法の検討、(7)～(19) 「各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と技法との必然性について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を効果的に伝える方法を修得する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現技法の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と技法についての効果について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについて表現意図を効果的に展開する方法を修得する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現技法の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と日本画の形式について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについての表現意図と構成力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 表現形式の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅰ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	一部集中
	日本画制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：日本画の専門的な技術を基礎とし、表現内容と日本画の支持体について考察する。</p> <p>授業の概要：自由制作を課題とし、テーマについての表現意図と構成力及び表現力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(5) 支持体の検討、(6)～(19) 各自が自由にテーマを設定する日本画制作Ⅱ」、(19) (20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本画特別制作A-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な知識と技術を用いて、高度な表現技法を伴う制作研究を行い、作家としての表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、主題の設定と表現技法の必然性について考察するとともに、多様な日本画表現の可能性について深く追求できる画力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅰ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅱ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作A-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な表現技法を応用して、高度な制作研究を行い、作家としての表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、主題の設定と表現技法の必然性を追求し、多様な日本画表現の可能性について対応できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅳ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅴ、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作B-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な知識と技術を用いて、作家としての独自性のある表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、作品と展示方法の関係について考察するとともに、日本画表現の可能性について展開できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(9) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現と展開の関係Ⅰ」、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作B-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：各自でテーマを設定し、日本画の専門的な表現力を応用して、作家としての現代生のある表現の確立を追求する。</p> <p>授業の概要：自由制作というテーマを課題とし、作品と展示方法の関係について展開するとともに、現代日本画の可能性について対応できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(9) 課題①「自由制作をテーマとした現代的な日本画表現と展開の関係Ⅱ」、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作C-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了研究を見据えて各自でテーマを設定し、高度な表現技法と創作的内容を伴う制作研究を計画的に行い、独自性のある質の高い作品を追求する。</p> <p>授業の概要：修了制作を踏まえた制作を課題とし、主題の設定と表現技法の必然性について考察するとともに、日本画表現の可能性について深く追求できる力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅰ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅱ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅲ、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	日本画特別制作C-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：修了研究を見据えて各自でテーマを設定し、高度な表現技法と創作的内容を伴う制作研究を計画的に行い、批評性を備えた質の高い作品を追求する。</p> <p>授業の概要：修了制作を踏まえた制作を課題とし、日本画表現の可能性について深く追求できる力を養うとともに、成果を効果的に発表する力を養う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス（授業課題に関する説明）、(2)～(7) 課題①「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅳ」、(8)～(15) 課題②「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅴ」、(16)～(19) 課題③「自由制作をテーマとした日本画表現Ⅵ、(20) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	日本画野外風景実習	<p>授業の到達目標及びテーマ：特定した野外において、各自がモチーフとしての風景を選択し、数日間写生を行うことにより移ろい変化していく対象を捉える描写力と持久力を養い、風景表現の技術を高める。</p> <p>授業の概要：学外実習として、約一週間、特定の写生地滞りして、鉛筆写生を通して風景表現の実習を行う。</p> <p>授業計画：(1) 事前指導（オリエンテーション）、(2)～(9) 実地指導、(10) 事後指導（写生から日本画による制作への展開）</p>	集中
	彫塑学外演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現存する歴史的な作品や現代彫刻作品を実地に訪ねて鑑賞・研究することにより、彫刻芸術に係る知識や技法等を集積し多様な展開にも対応できるようにする。</p> <p>授業の概要：各自のテーマに基づき、実地研修を行う。</p> <p>授業計画：(1) 事前指導（オリエンテーション）、(2) 事前指導（演習場所、日程の検討）、(3) 事前指導（演習内容の検討）、(4) 事前指導（資料作成）、(5) 実地指導（実見場所について）、(6) 実地指導（歴史的・美術史的な背景について）、(7) 実地指導（各自の研究対象テーマに基づく発表会 中間）、(8) 実地指導（調査対象と研究テーマについて）、(9) 実地指導（各自の研究対象テーマに基づく発表会 まとめ）、(10) 事後指導（まとめ、レポート作成）</p>	集中
	塑造制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：塑造活動を通じて、彫塑の特質及び造形要素と具体的な表現との関連を究明させるとともに、創造的で確かな立体表現力を練磨する。</p> <p>授業の概要：裸婦モデルによる塑造制作を行い、立体表現の感覚を養う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) ポーズの研究とデッサン、(4) 制作台の整備、(5)～(6) 制作、心棒組み、(7)～(10) 制作 あら付とプロポーシオンの検討、(12)～(23) 制作 量の構成、(24)～(29) 制作 仕上げ、(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	塑造制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：塑造制作1での成果と課題を踏まえ、より発展的に制作を行う。塑造活動を通じて、彫塑の特質及び造形要素と具体的な表現との関連を究明させるとともに、創造的で確かな立体表現力を練磨する。</p> <p>授業の概要：裸婦モデルによる塑造制作を行い、立体表現の感覚を養う。</p> <p>授業計画：(1)～(3) ポーズの研究とデッサン、(4) 制作台の整備、(5)～(6) 制作、心棒組み、(7)～(10) 制作 あら付とプロポーシオンの検討、(12)～(23) 制作 量の構成、(24)～(29) 制作 仕上げ、(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	彫刻制作-1	<p>授業の到達目標及びテーマ：彫刻素材がもつ彫刻的な特質を活かして創造的な立体表現力を高める。木材と石材を総合的に扱うことにより、カービングによる表現の可能性を探る。</p> <p>授業の概要：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クス材等の丸太や木材を用いて、彫刻制作を行う。 ・黒御影石、大理石などのブロック石材を用いて、手彫りを主とした彫刻制作を行う。 <p>授業計画：(1) 各自で用意した木材を基に、イメージの具体化を図る。材の底だし（木彫）、(2) 石彫制作の概要説明と石材の選定（石彫）、(3)～(14) デッサンまたはエスキース制作、工具、安全作業について等、(15)～(19) こなし、石取り法、(20)～(28) あら彫り、(29)～(30) 講評・評価を行う。（研究成果の反省と展望）</p>	
	彫刻制作-2	<p>授業の到達目標及びテーマ：彫刻素材がもつ彫刻的な特質を活かして創造的な立体表現力を高める。木材と石材を総合的に扱うことにより、カービングによる表現の可能性を探る。</p> <p>授業の概要：「彫刻制作1」での制作に基づき、素材のもつ彫刻的な特質を活かして彫刻制作を行う。</p> <p>授業計画：(1)～(11) あら彫り、中彫り、小造り、(12)～(27) 小造り、仕上げ、砥石研磨、(28) 作品の移動・設置について（門型クレーンの使用法）、(29)～(30) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	金属彫刻制作	<p>授業の到達目標及びテーマ：鑄造・溶接等の金属処理法を駆使した頭像作品の制作を通して彫塑の造形感覚を養う。</p> <p>授業の概要：鑄造・溶接等の金属処理を駆使して、実験的で創造的な彫塑の制作研究を行う。</p> <p>授業計画：(1) 蝟型鑄造法の概要、材料・道具準備の説明、(2)～(6) 粘土原型制作I、(7) 粘土原型の雌型作り、(8) 蝟原型修正、直付制作、(9) 鑄型作り(湯道取り付け、耐火石膏埋没)、(10) 焼成(温度と時間について)、(11)～(14) 鑄造、(15)～(19) 仕上げ、(20) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	集中
	テラコッタ制作	<p>授業の到達目標及びテーマ：テラコッタ(陶造形)は独自の素材と技法を有する立体造形である。各種材料や技法を習得し、研究制作を通してテラコッタ表現の本質を追究する。</p> <p>授業の概要：独自の素材と技法を有するテラコッタ(陶造形)技法を用いて立体造形を行う。</p> <p>授業計画：(1) テラコッタ(陶造形)について解説、(2) 各種素材の説明 粘土の調整法と土練り、(3) 各種技法の説明、(4)～(9) 各種材料や技法を基に試作及び制作、(10) 焼成前の彩色方と乾燥、(11)～(13) 素焼き、(14) 仕上げ(化粧土など彩色)、(15) 手捻りによる小品制作について、(16) 仕上げと乾燥、(17)～(18) 低温焼成および高温焼成、(19) 仕上げ、(20) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作A	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と素材に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における素材とフォルムとの関係を探究する。彫塑特別制作B～Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作B	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と技法に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における技法と素材との関係を探究する。彫塑特別制作A, C, Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	
	彫塑特別制作C	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得とフォルムに関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術におけるフォルムと空間の関係を探究する。彫塑特別制作A, B, Dと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作(実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ)、(10) 講評・評価を行う(研究成果の反省と展望)</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	彫塑特別制作D	<p>授業の到達目標及びテーマ：制作実践を通して、彫塑芸術に関わる高度な表現方法の習得と空間生に関わる造形理論の構築を目指す。各自でテーマを設定し、自己の表現を具現化する応用力を身につける。</p> <p>授業の概要：実践的な制作研究を通して、彫塑芸術における空間性について探究する。彫塑特別制作A～Cと連動して、彫塑表現の多様性を考察する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 各自の研究テーマ設定、(3) 素材・技法の検討、(4) デッサン・エスキースの検討、(5)～(9) 各自設定したテーマによる制作（実際の素材に対して、心棒組み、素材への当てはめ）、(10) 講評・評価を行う（研究成果の反省と展望）</p>	
	漢字演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：中国古代の青銅器の銘文（金文）と帛書簡牘文字資料を書法の観点からとらえ、いくつかの具体的遺品を実地に模写・臨書することを通して、詳しくその分析を進め、漢字書法の習得のための一助とする。</p> <p>授業の概要：半紙、画仙紙半切・全紙などの用具を用いて、基礎的な運筆技法や字形の取り方などの習得からはじめ、最終的には臨書作品の完成をめざして段階的に学習を進める。</p> <p>授業計画：(1) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その一）、(2)～(6) 青銅器銘文（金文）の書法についての講義、(7)～(15) 青銅器銘文（金文）についての実習、(16) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その二）、(17)～(20) 帛書簡牘文字についての講義、(21)～(29) 帛書簡牘文字についての実習、(30) 総括的講評</p>	隔年
	漢字演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：書聖とされる東晋の王羲之によるいくつかの具体的遺品を実地に模写・臨書することを通して、詳しくその分析を進め、漢字書法の習得と自らの作品表現のための一助とする。</p> <p>授業の概要：具体的な遺品のテキストを教材とし、半紙、画仙紙半切・全紙などの用具を用いて、基礎的な運筆技法や字形の取り方などの習得からはじめ、章法についても詳しく学び、最終的には臨書作品の完成をめざして段階的に学習を進める。</p> <p>授業計画：(1) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その一）、(2) 王羲之の書の特質についての講義（その一）、(3)～(14) <集字聖教序><興福寺断碑>についての実習、(15) 総括的講評（その一）、(16) 授業の概要と教材についての具体的な説明（その二）、(17) 王羲之の書の特質についての講義（その二）、(18)～(29) <喪乱帖><孔侍中帖>についての実習、(30) 総括的講評（その二）</p>	隔年
	漢字演習C	<p>授業の到達目標及びテーマ：行書・草書における代表的な古典の臨書を通して、当該書体の技法に習熟するとともに、做書を中心とした創作を試み、幅広い表現力を培う。</p> <p>授業の概要：行書・草書における歴代の名品を幾つか取り上げ、それぞれ臨書と做書を繰り返すことによって、多様な行書・草書表現を学習する。</p> <p>授業計画：(1) 学習の進め方、(2) 臨書古典の選定、(3)～(29) 選定古典の臨書と做書、(30) 学習のまとめ</p>	隔年
	漢字演習D	<p>授業の到達目標及びテーマ：隸書・楷書における代表的な古典の臨書を通して、当該書体の技法に習熟するとともに、做書を中心とした創作を試み、幅広い表現力を培う。</p> <p>授業の概要：隸書・楷書における歴代の名品を幾つか取り上げ、それぞれ臨書と做書を繰り返すことによって、多様な隸書・楷書表現を学習する。</p> <p>授業計画：(1) 学習の進め方、(2) 臨書古典の選定、(3)～(29) 選定古典の臨書と做書、(30) 学習のまとめ</p>	隔年
	仮名演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：古筆学的な理解をもとに学書を進めることにより、当該科目の知識と技量を修得することができる。</p> <p>授業の概要：高野切第二種を基調として授業を進める。</p> <p>授業計画：(1)～(4) 高野切古今集の名称の由来、伝称筆者、寄合書きと伝存状況、書写年代および筆者、(5)～(7) 源兼行・高野切第二種筆者説の検証、(8)～(12) 高野切第二種の現存状況、(13) 高野切第二種原寸臨書、(14) 高野切第二種大字臨書、(15) まとめ、(16)～(23) 高野切第二種の同筆・類筆古筆、(24) 高野切第二種の使用仮名と書風の特徴、(25) 高野切第二種の字典作成要領、(26)～(27) 高野切第二種復元巻鑑賞、(28) 高野切第二種復元（1首）、(29) 大字做書（半切）、(30) まとめ</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	仮名演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：古筆学的な理解をもとに学書を進めることにより、当該科目の知識と技量を修得することができる。</p> <p>授業の概要：十五番歌合を基調として授業を進める。</p> <p>授業計画：(1) 草仮名の歴史と草仮名古筆、(2)～(4) 歌合の歴史と歌合古筆、(5) 藤原公任撰「十五番歌合」の内容、(6) 十五番歌合の書写年代および筆者、(7)～(9) 藤原伊房・十五番歌合筆者説の検証、(10)～(12) 十五番歌合の現存状況、(13) 十五番歌合原寸臨書、(14) 十五番歌合大字臨書、(15) まとめ、(16)～(21) 十五番歌合の同筆・類筆古筆、(22) 十五番歌合の使用仮名、(23) 十五番歌合の書式・書風の特徴、(24) 十五番歌合の字典作成要領、(25) 十五番歌合復元巻鑑賞、(26) 中院通村補写本、(27) 十五番歌合の趣による近現代書作品、(28) 十五番歌合復元(1首)、(29) 大字倣書(全紙)、(30) まとめ</p>	隔年
	書学外演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に東京国立博物館、国立新美術館、出光美術館、五島美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 鑑賞書跡の事前調査、(3)～(4) 東京国立博物館における鑑賞、(5)～(6) 国立新美術館における鑑賞、(7)～(8) 出光美術館における鑑賞、(9)～(10) 五島美術館における鑑賞</p>	
	書学外演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に書道博物館、東京都美術館、国立民俗歴史博物館、根津美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>(1) オリエンテーション、(2) 鑑賞書跡の事前調査、(3)～(4) 書道博物館における鑑賞、(5)～(6) 東京都美術館における鑑賞、(7)～(8) 国立歴史民俗博物館における鑑賞、(9)～(10) 根津美術館における鑑賞</p>	隔年
	書学外演習C	<p>授業の到達目標及びテーマ：博物館や美術館において、書の名品を実地に鑑賞することにより、書の美に対する感性を養うとともに、それを成り立たせている諸要因について、歴史的・文化的背景も視野に、理解を深め、幅広い書の鑑賞力を培う。</p> <p>授業の概要：都内を中心とした書の名品を所蔵・展示する博物館・美術館より、特に成田山書道美術館、東洋文庫、静嘉堂文庫、三井記念美術館の藏品、展示品を集中的に鑑賞する。</p> <p>(1) オリエンテーション (2) 鑑賞書跡の事前調査 (3)～(4) 成田山書道美術館における鑑賞、(5)～(6) 東洋文庫における鑑賞、(7)～(8) 静嘉堂文庫における鑑賞、(9)～(10) 三井記念美術館における鑑賞</p>	隔年
	平面・立体構成論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：平面表現・立体表現それぞれについて、各造形要素に着目して構成と表現効果の関連を分析的に検証できるようにすることを目指す。</p> <p>授業の概要：素材や色など表現における基礎的な造形要素に着目し、平面から立体まで横断的に表現事例を比較する。構成に応じて得られる表現効果と応用・展開の可能性を学ぶ。与えられたテーマに沿った研究発表を通して、多面的視点に基づく観察力を養う。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) 「形」に着目した構成と表現効果、(3) 「色」に着目した構成と表現効果、(4) 「光」に着目した構成と表現効果、(5) 「時間」と「動き」に着目した構成と表現効果、(6) 「錯覚」に着目した構成と表現効果、(7) 「偶然性」に着目した構成と表現効果、(8) 「重力」に着目した構成と表現効果、(9) 「鑑賞方法」に着目した構成と表現効果、(10) まとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	平面・立体構成演習A	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形要素に着目して平面・立体問わず横断的に造形表現の先行事例を検証することで、構成と表現効果の関連を分析的に解釈できるようにする。また、そこで得られた観点をもとに実際に制作を行い、表現における展開の幅を広げる。</p> <p>授業の概要：設置形式や状況、鑑賞方法に関する物理的制約を課し、それを効果的に活用した表現を探る。関係する先行事例の検証をふまえて、各自の造形的関心に基づいて平面または立体における展開を模索する。作品は年度末に公開展示する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、テーマの発表、(2)～(5) 先行事例調査の発表、(7)～(10) 作品プランの検討、意見交換、(11) 中間報告、マケット提出、(12)～(17) 本制作、(18)～(19) 作品講評、(20) まとめ</p>	隔年 一部集中
	平面・立体構成演習B	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形要素に着目して平面・立体問わず横断的に造形表現の先行事例を検証することで、構成と表現効果の関連を分析的に解釈できるようにする。また、そこで得られた観点をもとに実際に制作を行い、表現における展開の幅を広げる。</p> <p>授業の概要：素材や色、あるいはそれらの組み立て方に関する物理的制約を課し、それを効果的に活用した表現を探る。関係する先行事例の検証をふまえて、各自の造形的関心に基づいて平面または立体における展開を模索する。作品は年度末に公開展示する。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、テーマの発表、(2)～(5) 先行事例調査の発表、(7)～(10) 作品プランの検討、意見交換、(11) 中間報告、マケット提出、(12)～(17) 本制作、(18)～(19) 作品講評、(20) まとめ</p>	隔年 一部集中
	現代アート表現論	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在のアートの動向を実地調査し、各自の研究と照らし合せ、自身の立ち位置を探る。</p> <p>授業の概要：現代アートの知見を踏まえて、その動向を調査する。多領域の学生の意見を交えながら自身の研究と比較して、各自の研究に反映させていく。</p> <p>授業計画：(1) インTRODクシヨン、(2) 現代アートの動向、(3) 各自研究のプレゼンテーション① 現代アート作家のリサーチ発表、(4) 各自研究のプレゼンテーション② 環境とアート、(5) 各自研究のプレゼンテーション③ ビジュアルデザインとアート、(6) 各自研究のプレゼンテーション④ 環境芸術、(7) 各自研究のプレゼンテーション⑤ 地域と芸術、(8) 各自研究のプレゼンテーション⑥ 現在のアートの役割、(9) 美術館での作品視察、(10) レポートプレゼンテーション</p>	
	現代アート表現演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在のアートの動向を実地調査し、各自の研究と照らし合せ、制作研究を行う。</p> <p>展示発表にすることによって各自の研究を深める。</p> <p>授業の概要：現代アートの動向を調査し、各自の研究を深め、実験制作を行う。</p> <p>授業計画：(1) インTRODクシヨン、(2) 現代アートの流れ、(3) 各自研究のプレゼンテーション ①総合造形表現として ②ビジュアルデザイン表現として、(4) 各自研究のプレゼンテーション ③建築デザイン表現として ④クラフト表現として、(5) 各自研究のプレゼンテーション ⑤構成表現として、(6) 各自研究のプレゼンテーション ⑥現代アートと各自表現の関わりについて、(7) 制作研究① イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(8) 制作研究② イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(9) 制作研究③ イメージスケッチチェック、設置計画書プレゼンテーション、(10) 制作研究④ 作品再考案提出、(11) 制作研究⑤ 作品制作進捗報告、(12) 制作研究⑥ 作品制作進捗報告、(13) 制作研究⑦ 作品制作進捗報告、(14) 制作研究⑧ 作品制作進捗報告、(15) 制作研究⑨ 作品制作進捗報告、(16) 制作研究⑩ 作品制作進捗報告、(17) 作品搬入・会場設置・展示、(18) プレゼンテーション、(19) プレゼンテーション、(20) 作品撤去・搬出</p>	
	メディア表現論	<p>授業の到達目標及びテーマ：テクノロジーを用いたメディア表現について理解を深める。</p> <p>授業の概要：自身の研究範囲の発表、および周辺領域のディスカッションを行う。</p> <p>授業計画：(1) テクノロジーを用いたメディア表現について、(2) 情報技術を用いたメディアアートについて、(3) ハイブリッドアートについて、(4) 自然エネルギーを用いたメディアアートについて、(5) 医療空間におけるメディアアートについて、(6) 海外事例、(7) ディスカッション①、(8) ディスカッション②、(9) ディスカッション③、(10) まとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	メディア表現演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形材料やテクノロジーを用いたワークショップを通じて、多様なメディア表現への理解を深める。</p> <p>授業の概要：ワークショップの企画および運営を行う</p> <p>授業計画：(1) メディア表現の事例研究、(2) ワークショップの事例研究、(3) 企画案発表①、(4) 企画案発表②、(5) ワークショップ設計①、(6) ワークショップ設計②、(7) ワークショップ設計③、(8) ワークショップ設計④、(9) ワークショップ実施①、(10) ワークショップ実施②、(11) ワークショップ実施③、(12) ワークショップ実施④、(13) ワークショップ実施⑤、(14) 中間評価、(15) ワークショップ実施⑦、(16) ワークショップ実施⑧、(17) ワークショップ実施⑨、(18) ワークショップ実施⑩、(19) ワークショップ実施⑪、(20) まとめ</p>	
	現代美術論	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代美術を学ぶ学生として、より高度なテキストを使い講読し解説を行う。社会に出て、作家として必要な基礎から高度な知識、考え方、芸術哲学を修得する。</p> <p>授業の概要：総合造形の視点から現代美術論を論じる。テキストの講読とレポート添削を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現代アートバブル」吉井仁実著の読解と解説／5回 ・「芸術起業論」村上隆著の読解と解説／5回 	
	現代美術演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：現代美術を学ぶ学生として、より高度な作品展示を目指し展覧会の企画、運営、制作、出品、広報など全てを学生で行う。社会に出て、作家として必要な展覧会技術を修得する。</p> <p>授業の概要：総合造形の視点から現代美術論を考えた討論を行い、一つの展覧会を立ち上げる。</p> <p>授業計画：(1) 各自のポートフォリオの発表と批評、(2) 各自のポートフォリオの発表と批評展覧会計画、(3) 各自のポートフォリオの発表と批評、(4) 各自のポートフォリオの発表と批評（場所選びと内容）、(5) 展覧会計画（場所選びと内容）、(6) 展覧会計画（場所選びと内容）、(7) 展覧会計画（場所選びと相手側との交渉）、(8) 展示場所所有者との交渉、(9) 展示場所所有者との交渉、(10) 展示場所に合せた作品制作、(11) 展示場所に合せた作品制作、(12) 展示場所に合せた作品制作、(13) 会場設営・会場運営計画、(14) 広報物の制作と発注、(15) 最終打ち合わせ、(16) カタログのデザイン計画、写真撮影計画、(17) 会場にての展示作業、(18) 会場サイン設置、(19) 実際の展示作業、(20) 講評会</p>	
	陶磁造形演習I	<p>授業の達成目標：土（粘土）から陶磁に至るシステムを深く理解し作品の制作研究を通し、専門的な技術・知識を修得できる。</p> <p>授業のテーマ：土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、研究者、教育者等養成の為、土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用をテーマとして、実材主義的造形の立場から作品制作の理論と研究を行う。</p> <p>授業計画：各自設定したテーマに沿って、制作を行い、工芸的造形の立場から作品の理論づけと作品発表を行う。</p> <p>(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容共有、(2) 各自のテーマに基づいた制作過程における計画等について指導、作品発表計画について、(3) 陶磁による造形と思考研究（日本編）技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(4) 陶磁による造形と思考研究（日本編）技法及び制作意図の調査と報告②、作品制作、(5) 陶磁による造形作家研究（日本編）技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(6) 陶磁による造形と思考研究（作品制作に於ける素焼き①、本焼き①）、(7) 陶磁による造形と思考研究（欧米編）技法及び制作意図の調査と報告①、作品制作、(8) 陶磁による造形と思考研究（欧米編）技法及び制作意図の調査と報告②、作品制作、(9) 工芸的造形を基盤とした造形と思考研究、技法及び制作意図の調査と報告、作品制作、(10) まとめ、研究成果報告・作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	陶磁造形演習Ⅱ	<p>授業の達成目標：陶磁制作の応用として土（粘土）から陶磁に至るシステムを深く理解するため、自ら設定したテーマに関して理論と制作の双方から実践的に考察し、高度な表現と研究を通して修得できる。</p> <p>授業のテーマ：土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、造形作家、研究者、教育者等養成の為、陶磁による造形に関して理論と制作から実践的に研究し、高度な表現を通して修得させる。</p> <p>授業計画：各自設定したテーマに沿って、制作を行い、工芸的造形の立場から作品の理論づけと作品発表を行う。</p> <p>(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容の共有、(2) 各自のテーマに基づいた制作過程における計画等について指導、作品発表計画について、(3) 制作技法研究及び実験的作品制作（技法研究・ヨーロッパ編）、(4) 工芸領域に関連する展覧会等の企画及び運営について、作品制作、(5) 学期を通しての研究報告書の作成について、作品制作、(6) 装飾技法研究及び実験的作品制作（技法研究・東洋編）、(7) 作品制作に於ける素焼き、本焼き、焼成方法の研究、(8) 装飾技法研究及び作品制作、(9) 各自のテーマに基づいた制作過程に於ける計画と発表について指導、(10) 研究成果報告・作品講評</p>	
	陶磁造形論特講	<p>授業の到達目標：土（粘土）から陶磁に至るシステムを深く理解し作品の理論研究を通し、専門的な技術・知識を修得できる。</p> <p>授業テーマ：土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用、実材主義的造形の立場から作品制作の理論研究</p> <p>授業の概要：作陶家、工芸家、研究者、教育者等養成の為、土（粘土）から陶磁へ変化するシステムの理解と応用をテーマとして、実材主義的造形の立場から作品制作の理論を講述する。</p> <p>授業計画：(1) 授業オリエンテーション、授業受講希望者の研究内容共有、(2) 陶磁による造形と思考研究1（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（古代）、(3) 陶磁による造形と思考研究2（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（中世）、(4) 陶磁による造形と思考研究3（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（近世）、(5) 陶磁による造形と思考研究4（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（近代）、(6) 陶磁による造形と思考研究5（日本編）技法及び制作意図の調査と研究（現代）、(7) 陶磁による造形と思考研究6（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（近世）、(8) 陶磁による造形と思考研究7（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（近代）、(9) 陶磁による造形と思考研究8（世界編）技法及び制作意図の調査と研究（現代）、(10) まとめ</p>	
	木材造形演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：作品制作を通して木の造形について理解する。各自のテーマに基づき木材の特性を生かした造形表現を行う。</p> <p>授業の概要：各自テーマを設定し、具体的な作品制作を通して木材造形の研究を行う。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 形態の検討、(3) 素材の検討、(4) 制作方法の検討、(5) 模型制作、(6) 模型作品の検討、(7) 作図、(8) 図面の検討、(9) 制作（木取りについて）、(10) 制作（機械加工について①）、(11) 制作（機械加工について②）、(12) 制作（機械加工について③）、(13) 制作（機械加工について④）、(14) 制作（機械加工について⑤）、(15) 制作（塗装について①）、(16) 制作（塗装について②）、(17) 制作（プレゼン方法について①）、(18) 制作（プレゼン方法について②）、(19) 発表、(20) まとめ</p>	
	ガラス造形演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：造形思考を強化していくために各自扱う素材とガラス素材を組み合わせて制作を行い、自身の研究を深める。</p> <p>授業の概要：ガラス素材と自身の研究と関連させて実制作を行い、自身が扱う素材との違いを体験する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、課題説明、(2) 作品のエスキースチェックとアドバイス、(3) テストピース制作① 原型を基に石膏型作成、ガラスを詰めて焼成、(4) テストピース制作② 焼成後の加工と実制作のアイデアを固める、(5) 実制作のスケジュールチェックとアドバイス、(6) 実制作① 各自扱う素材でパーツ制作、(7) 実制作② 原型を基に石膏型作成、ガラスを詰めて焼成、(8) 実制作③ 焼成後の加工と仕上げ、(9) 実制作④ 各自の素材で制作された作品とガラス作品を調整し完成させる、(10) 作品講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ガラス特別演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：ガラスを素材とした造形作品に関する国内・海外の文献・資料を題材にして組成や技法、歴史について発表後討議を行い、ガラス造形作品について専門的知識を身に付ける。</p> <p>授業の概要：ガラス造形作品についての知見を広める。</p> <p>授業計画：(1) オリエンテーション、(2) ガラス素材の組成について① 熱膨張係数について、(3) ガラス素材の組成について② 成分について、(4) ガラス素材の技法について① ホットワークについて、(5) ガラス素材の技法について② コールドワークについて、(6) ガラス素材の技法について③ フラットワークについて、(7) ガラス造形作品の歴史について① 古代からアールヌーヴォー以前まで、(8) ガラス造形作品の歴史について② アールヌーヴォーからスタジオグラス運動まで、(9) ガラス造形作品の歴史について③ スタジオグラス運動以降、(10) 総評</p>	
	漆芸演習	<p>授業の到達目標及びテーマ：漆芸の技法・知識を理解する。課題に基づき漆芸の特性を生かした造形表現を理解する。</p> <p>授業の概要：漆芸の基礎的な技術（乾漆、蒔絵、螺鈿）を習得し、各自の表現を試みる。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 素地について、(3) 素地の制作方法について、(4) 漆について、(5) 漆の取り扱い方法について、(6) 素地制作（木）、(7) 素地制作（粘度）、(8) 様々な漆芸技法について、(9) 漆芸制作（乾漆技法：型作成）、(10) 漆芸制作（乾漆技法：型仕上げ）、(11) 漆芸制作（乾漆技法：布着せ）、(12) 漆芸制作（乾漆技法：下地）、(13) 漆芸制作（乾漆技法：きゅう漆）、(14) 漆芸制作（呂色上げ技法）、(15) 漆芸制作（塗り立て技法）、(16) 漆芸制作（加飾方法：沈金）、(17) 漆芸制作（加飾方法：蒔絵）、(18) 漆芸制作（加飾方法：螺鈿）、(19) 発表、(20) まとめ</p>	
	視覚伝達設計論特講	<p>視覚伝達デザインにおける遊戯性についてとりあげ、ワークショップ、ゲームなど参加型の授業を通じて課題発見力、課題解決力、プレゼンテーション力を養う。遊びとデザインを主題に、関連する作家、方法、ケーススタディについての概説、およびワークショップを行い、プレゼンテーションでは履修生が考案したワークショップやゲームを実施する。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) ブレインストーミングとゲームストーミング、(3) 子供の遊び、(4) 大人の遊び、(5) 経験設計の概念、(6) ユーザーエクスペリエンスとサービスデザイン、(7) 遊び体験のデザイン、(8) ワークショップ、ゲーム発表（グループ1）、(9) ワークショップ、ゲーム発表（グループ2）、(10) ワークショップ、ゲーム発表（グループ3）</p>	
	視覚伝達設計演習	<p>視覚伝達デザインにおける素材・物質性を主題に、実践的な視覚伝達デザインの考察力と表現力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション、課題1] 授業全体の説明、ブレインストーミングの方法、(2) [課題1] 事例紹介、ブレインストーミング、(3) [課題1] 課題の提出と講評、(4) [課題1] 課題の提出と講評、(5) [課題2] 課題2に関するオリエンテーション、(6) [課題2] ブレインストーミング、(7) [課題2] 中間チェック1（コンセプト、アイデア）、(8) [課題2] 中間チェック2（スケッチ、モックアップ）、(9) [課題2] プレゼンテーション1、(10) [課題2] 中間チェック3（フィードバック、ブラッシュアップ）、(11) [課題2] プレゼンテーション2（作品提出、講評）、(12) [課題2] 展示に向けたオリエンテーション、(13) [課題2] 展示プラン中間チェック1、(14) [課題2] 展示プラン中間チェック2、(15) [課題2] 作品の展示、プレゼンテーション、講評、集中：製紙工場の見学、展覧会の視察、ワークショップ等</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	グラフィックデザイン演習A	<p>各受講者の研究テーマに基づく、ビジュアルデザインの発展的な考察・立案を主題とし、専門的で高度なビジュアルデザインの考察力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 書体・レイアウトに関する講義とミニレポートの提出、(3) [課題1] 名刺 (タテ型) 課題の提出と講評、(4) [課題1] 名刺 (ヨコ型) 課題の提出と講評、(5) [課題2] 研究発表用スライドのビジュアルデザインに関する講義、(6) [課題2] グループAのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(7) [課題2] グループBのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(8) [課題2] グループCのプレゼンテーション、ディスカッション、講評、(9) [課題3] アイデアスケッチのチェック、(10) [課題3] 途中経過のチェック、(11) [課題3] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評、(12) [課題4] 収集資料の確認、(13) [課題4] アイデアスケッチのチェック</p>	
	グラフィックデザイン演習B	<p>エディトリアルデザイン、インフォグラフィック、データグラフィック、広告デザインを中心に、受講者の研究テーマに基づいた、平面的な媒体に関する発展的なテーマの課題制作を通して、専門的で高度なビジュアルデザインの表現力を身につける。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 課題内容の理解・レポート発表・討論、(3) [課題1] アイデアスケッチの発表・討論、(4) [課題1] 途中経過の発表・討論、(5) [課題1] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評、(6) [課題2] 各自のテーマ・目次案を発表・討論、(7) [課題2] 資料データの収集状況を発表・討論、(8) [課題2] 全体構成のラフ (冊子状にする) 案とフォーマットデザイン案発表 (pdf) ・討論、(9) [課題2] 途中経過の発表・討論、(10) [課題2] 完成作品の提出・プレゼンテーション、講評</p>	
	画像表現論特講	<p>デザイン、美術、サブカルチャーなどを横断的に探索しつつ、画像表現 (絵による表現) の特質、意義、可能性について理解を深めること。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [テーマ1] アートトーク1、(3) [テーマ2] 「物語」に関する調査1、(4) [テーマ2] 物語構造について、(5) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アンジュール』、(6) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アライバル』1、(7) [テーマ3] 言葉のない絵本精読『アライバル』2、(8) [テーマ3] 言葉のない絵本精読「赤ずきん」絵本、(9) [テーマ4] 多種多様な表現手法、(10) [テーマ5] マンガ文献精読、(11) [テーマ5] マンガ文献精読2、(12) [テーマ6] マンガの文体練習、(13) [テーマ7] 物語表現考察1、(14) [テーマ7] 物語表現考察2、(15) 7つのテーマから一つ選び、レポート提出</p>	
	画像表現演習	<p>デザイン、美術、サブカルチャー等多様に広がる画像表現 (絵による表現) について、制作を通してその可能性を探る。受講者の研究テーマに応じた制作を行い、幅広い画像表現について理解を深める。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 小説のマンガ化、(3) [課題1] 講評、(4) [課題2] 画像による物語表現、(5) [課題2] プランチェック、(6) [課題2] 絵コンテチェック、(7) [課題2] ダミーチェック、(8) [課題2] 進捗状況発表、(9) [課題2] 進捗状況発表、(10) [課題2] 講評</p>	
	ビジュアル・コミュニケーション演習	<p>実践的なビジュアル・コミュニケーションの発想力、制作力、評価方法を身につける。</p> <p>学外からデザイナー等を講師として招き、実践的活動を踏まえたビジュアル・コミュニケーションの発想、制作、評価などについて学ぶ。</p> <p>授業計画：(1) [オリエンテーション] 授業全体の説明、(2) [課題1] 「ビジュアル・コミュニケーションの発想力」に関する課題説明、(3) [課題1] 中間発表、(4) [課題1] 発表及び講評、(5) [課題2] 「ビジュアル・コミュニケーションの制作力」に関する課題説明、(6) [課題2] 中間発表、(7) [課題2] 発表及び講評、(8) [課題3] 「ビジュアル・コミュニケーションの評価方法」に関する課題説明、(9) [課題3] 中間発表、(10) [課題3] 発表及び講評</p>	隔年集中

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境デザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインの多様な課題と総合的な設計論について理解する。</p> <p>授業の概要：公共空間、商業・業務施設、住宅地における総合的なサイトプランニング手法とプレイスメイキング手法を論述。</p> <p>授業計画：(1) 街路の課題と滞留環境のデザイン手法、(2) 公園の課題と多面的利用環境のデザイン手法、(3) 公共施設の課題と多面的利用環境のデザイン手法、(4) 商業施設の課題と公的利用環境のデザイン手法、(5) 業務施設の課題と創造的な仕事環境のデザイン手法、(6) 公的施設の課題と創造的な場づくりの手法、(7) 住宅団地の課題と共用環境のデザイン手法、(8) 住宅の課題とインテリア環境のデザイン手法、(9) プレイスメイキングの実施と枠組み環境のデザイン手法、(10) 現代の環境デザインの多様性について</p>	隔年
	パッシブデザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：「自然環境と調和した建築・都市デザイン」の実現に向け、そのための基礎理論と手法を理解し、習得する。</p> <p>授業の概要：建築及び都市におけるパッシブデザインの手法・原理・課題について講述する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2) 屋根のデザイン、(3) 壁のデザイン、(4) 床の断熱・蓄熱、(5) 開口部と日射のコントロール、(6) 日光の有効利用、(7) 換気と通風、(8) 地形の利用、(9) 樹木によるコントロール、(10) まとめ</p>	隔年
	都市・地域デザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：現在の都市が抱える諸問題を実態的に把握し、都市づくりやまちづくりにおける計画や設計について、その果たすべき役割や責任を考察することにより、計画論としての複眼的な問題意識を確立するとともに、論理的な思考とその表現方法を獲得する。</p> <p>授業の概要：都市や地域におけるまちづくりの実態、計画・設計に関わる制度論や方法論について、ケーススタディを用いて考察と講述を行う。後半はテーマに応じた受講生の発表をもとに議論する。</p> <p>授業計画：(1) 現在の都市が抱える様相と都市づくりの課題、(2) 中心市街地の実態、(3) 東京都心の問題、(4) 都市居住と居住環境、(5) 都市景観と居住環境、(6) 都市デザインと都市景観、(7) まちづくりと都市デザイン、(8) 都市計画と規制緩和、(9) 都市づくりの合意形成、(10) 都市の将来像</p>	隔年
	ランドスケープデザイン論特講	<p>授業の到達目標及びテーマ：人間活動が景観構造・生産的機能・生態的過程にどのような影響を与え、それらを変化させるのか、人の感性や文化を含めたランドスケープの総体の理解を通して、自然域から都市域まで様々な場におけるランドスケープの構造・機能・変化過程を解明する方法を習得する。さらに生産的プロセスや社会的プロセスとランドスケープデザインとの関係や、それを踏まえたエコロジカルデザインの手法を習得する。</p> <p>授業の概要：田園（農村部）や都市のランドスケープ構造を、エコロジカルな視点で読み解くことに主眼を置き、歴史や実態、ケーススタディを用いた考察と講述を行う。後半はテーマに応じた受講生の発表をもとに議論する。</p> <p>授業計画：(1) ランドスケープデザイン概念と領域、(2) エコロジカル・ランドスケープ①（自然）、(3) エコロジカル・ランドスケープ②（土地利用）、(4) 田園とランドスケープ、(5) 都市とランドスケープ、(6) 公園・緑地のデザイン、(7) 庭園・広場のデザイン、(8) ランドスケープデザインの手法、(9) ランドスケープデザインを支える仕組み、(10) ランドスケープデザインの意義と課題</p>	隔年
	環境デザイン演習1	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインに関する課題設定、コンセプト、構想、計画、デザインにかかる一連のプロセス、表現方法について習得する。</p> <p>授業の概要：環境デザインにかかわる具体的な課題をもとに計画、設計、デザインを実践的に行う。</p> <p>授業計画：(1) 課題の提示、関連事例の解説、(2) 現地調査、敷地条件の確認、(3) 設計指導①（コンセプト、構想）、(4) 設計指導②（構想、計画）、(5) 設計指導③（基本計画・エスキス模型）、(6) 中間発表、講評、(7) 設計指導④（基本計画、設計）、(8) 設計指導⑤（基本設計）、(9) 設計指導⑥（基本設計、模型）、(10) 提出、発表、講評</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	環境デザイン演習2	<p>授業の到達目標及びテーマ：環境デザインに関する課題設定、コンセプト、構想、計画、デザインにかかる一連のプロセス、表現方法について習得する。</p> <p>授業の概要：環境デザインにかかわる具体的な課題をもとに計画、設計、デザインを実践的に行う。</p> <p>授業計画：(1) 課題の提示、関連事例の解説、(2) 現地調査、敷地条件の確認、(3) 設計指導①（コンセプト、構想）、(4) 設計指導②（構想、計画）、(5) 設計指導③（基本計画・エスキス模型）、(6) 中間発表、講評、(7) 設計指導④（基本計画、設計）、(8) 設計指導⑤（基本設計）、(9) 設計指導⑥（基本設計、模型）、(10) 提出、発表、講評</p>	
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ：地域・社会における課題解決を考えることで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の概要：地域において、地域再生に向けたプランを計画・提案することで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力を身につけ、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)ブレインストーミング、班分け、課題抽出、(3) 課題解決に向けたリサーチ（地域性）、(4) 課題解決に向けたリサーチ（創造性）、(5) リサーチのまとめ、(6) 中間発表会、(7) リサーチを踏まえた課題解決のための立案、(8) 立案したプランの実施準備（日程）、(9) 立案したプランの実施準備（方法）、(10) 最終発表会</p>	
	創造的復興：ローカルデザイン特別演習 II	<p>授業の到達目標及びテーマ：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において、地域・社会の課題解決を考え、創造的で柔軟な思考方法について学んだ。それらを継続しつつ地域・社会の課題解決に関わる新たな視点を獲得し、情報発信力、つながり力、突破力、継続力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業の概要：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において実施した地域再生に向けたプランを評価し、新たなプランを計画・提案することで、創造的で柔軟な思考方法について学び、情報発信力、つながり力、突破力、継続力を身につけ、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：(1) ガイダンス、(2)ブレインストーミング、班分け、「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」「創造的復興：チャレンジ学外特別演習 I」で実施した活動の評価、(3) 課題解決に向けたリサーチ（地域性）、(4) 課題解決に向けたリサーチ（創造性）、(5) リサーチのまとめ、(6) 中間発表会、(7) リサーチを踏まえた課題解決のための立案、(8) 立案したプランの実施準備（日程）、(9) 立案したプランの実施準備（方法）、(10) 最終発表会</p>	
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習 I	<p>授業の到達目標及びテーマ：創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得し、複眼的視点で復興支援を捉えることの出来る情報発信力、つながり力、突破力を備えた人材の育成を目標とする。</p> <p>授業の概要：地域の課題に対し、地域再生に向けたプランを実施する。その中で、文化的資源の活用や、地域住民との協力など、創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得し、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 I」において立案した課題解決プランに基づき、地域においてイベント等を実践する。（班ごとに実施内容が異なるため、計画例を以下に示す） (1) 「創造的復興：ローカルデザイン特別演習 II」における課題解決プランの確認、(2) 地域（人・場所・日程）との調整①、(3) 地域（人・場所・日程）との調整②、(4) イベント実施場所の確認、(5) イベント進行の確認、役割分担について①、(6) イベント進行の確認、役割分担について②、(7) イベント実施場所における会場設営準備①、(8) イベント実施場所における会場設営準備②、(9) イベントにおける展示発表準備①、(10) イベントにおける展示発表準備②、(11) イベントの最終調整（開催場所や地域において）、(12) イベント会場の設営①、(13) イベント会場の設営②、(14) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）①、(15) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）②、(16) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）③、(17) 実施場所の片付け、(18) イベント総括、(19) 最終報告会（全チームによる）、(20) 全体のまとめ</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅱ	<p>授業の到達目標及びテーマ：「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」において、創造的復興に必要な視点や方法を経験的に習得した。継続して課題に取り組み、複眼的視点で復興支援を捉えることの出来る情報発信力、つなぐ力、突破力、継続力を備えた人材の育成を目標とする。</p> <p>授業の概要：「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」において実施した地域再生に向けたプランを評価し、新たなプランを計画・提案することで、文化的資源の活用や、地域住民との協力など、創造的復興に必要な視点や方法を経験的・継続的に習得し、実践的な創造的復興力を養う。アート、デザイン、工芸などをはじめとした多様な領域の内容を包含する。</p> <p>授業計画：「創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅱ」において立案した課題解決プランに基づき、地域においてイベント等を実践する。（班ごとに実施内容が異なるため、計画例を以下に示す）</p> <p>(1) 「創造的復興：チャレンジ学外特別演習Ⅰ」で実施した活動の評価、(2) 「創造的復興：ローカルデザイン特別演習Ⅱ」における課題解決プランの確認、(3) 地域（人・場所・日程）との調整、(4) イベント実施場所の確認、(5) イベント進行の確認、役割分担について①、(6) イベント進行の確認、役割分担について②、(7) イベント実施場所における会場設営準備①、(8) イベント実施場所における会場設営準備②、(9) イベントにおける展示発表準備①、(10) イベントにおける展示発表準備②、(11) イベントの最終調整（開催場所や地域において）、(12) イベント会場の設営①、(13) イベント会場の設営②、(14) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）①、(15) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）②、(16) イベント実施（地域資源を活用するプランの実施）③、(17) 実施場所の片付け、(18) イベント総括、(19) 最終報告会（全チームによる）、(20) 全体のまとめ</p>	
	研究・制作発表特別演習Ⅰ	<p>授業を通して行った研究や作品制作について、その成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション力や自己の研究を客観的に分析する力を養う。</p> <p>(35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する研究成果の口頭発表について指導する。</p> <p>(11 石崎和宏) 芸術支援の観点から、研究の構想や章構成等について指導を行う。</p> <p>(115 直江俊雄) 芸術支援の観点から、研究の構想や章構成等について指導を行う。</p> <p>(114 内藤定壽) 主に技法に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(155 仏山輝美) 主に色彩に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(319 福満正志郎) 主に構想に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(499 星美加) 主に技法に着目して、洋画制作における表現内容や表現方法、展覧会の企画運営や作品展示について指導する。</p> <p>(97 田島直樹) 版画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(24 太田圭) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(324 程塚敏明) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(361 山本浩之) 日本画制作に関する構想や技法について指導を行う。</p> <p>(26 大原央聡) 作品のプレゼンテーションにかかわる指導を行い、安全面、効果的な作品発表について個別または集団で指導を行う。</p> <p>(511 宮坂慎司) 作品のプレゼンテーションにかかわる指導を行い、安全面、効果的な作品発表について個別または集団で指導を行う。</p> <p>(45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作に関する材料や構想について指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく表現の分析方法について指導する。</p> <p>(50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について指導を行う。</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について指導を行う。</p> <p>(255 齋藤敏寿) 陶磁制作に関する構想や技法について指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する構想や表現方法について指導を行う。</p> <p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する技法と表現方法について指導を行う。</p> <p>(103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン, サイエンスビジュアルイゼーションについて指導を行う。</p> <p>(314 原忠信) ブランド体験デザインについて指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションについて指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトの表現について指導を行う。</p> <p>(127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p> <p>(307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究の構想や視点について指導する。</p>	
	研究・制作発表特別演習Ⅱ	<p>授業を通して行った研究や作品制作について、その成果を発表する機会を設け、プレゼンテーション力や自己の研究を客観的に分析する力を養い、修了研究へとつなげていく。</p> <p>※指導体制については「研究・制作発表特別演習Ⅰ」と同じ</p>	
	芸術学学位プログラム特別演習	<p>造形芸術に関して、各専門領域における研究の実践指導を行う。 (○は研究指導担当教員)</p> <p>○ (35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する論文執筆について研究指導を行う。</p> <p>○ (11 石崎和宏) 芸術支援に関する文献、資料等の効果的な用い方を示し、研究を深化させるための助言および指導を行う。</p> <p>○ (115 直江俊雄) 芸術支援に関する文献、資料等の効果的な用い方を示し、研究を深化させるための助言および指導を行う。</p> <p>○ (114 内藤定壽) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (155 仏山輝美) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に色彩と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (319 福満正志郎) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に構想と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (499 星美加) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して研究指導を行う。</p> <p>○ (97 田島直樹) 版画に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (24 太田圭) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (324 程塚敏明) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (361 山本浩之) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (26 大原央聡) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (511 宮坂慎司) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作と中国書学・書道史について研究指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく事例調査や制作実践を通して、造形表現における情報基盤の拡充を目的とした研究指導を行う。</p> <p>○ (50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について研究指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について研究指導を</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について研究指導を行う</p> <p>○ (255 齋藤敏寿) 陶磁造形に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から研究指導を行う。</p> <p>○ (103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン, サイエンスビジュアルレーションについて研究指導を行う。</p> <p>○ (314 原忠信) ブランド体験デザインについて研究指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションについて研究指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトに関する研究指導を行う。</p> <p>○ (127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p> <p>○ (307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について研究指導を行う。</p>	
	<p>芸術学学位プログラム特別研究</p>	<p>造形芸術について、各専門領域に対応した修了研究の実践指導を行う。また、社会人学生に対しては職務の状況に合わせて個別指導を行う等、柔軟に対応する(14条対応)。(○は研究指導担当教員)</p> <p>○ (35 長田年弘) 西洋古代美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (295 寺門臨太郎) 西洋近世美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (312 林みちこ) 近代ないし現代美術論に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(508 水野裕史) 日本美術史に関する論文執筆について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (11 石崎和宏) 芸術支援に関する論文の構成や考証方法について、各課題に即した助言を行い、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (115 直江俊雄) 芸術支援に関する論文の構成や考証方法について、各課題に即した助言を行い、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (114 内藤定壽) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (155 仏山輝美) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に色彩と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (319 福満正志郎) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に構想と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (499 星美加) 洋画に関する制作実践ならびに制作理論について、主に技法と絵画表現の連関に着目して修了研究の指導を行う。</p> <p>○ (97 田島直樹) 版画に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (24 太田圭) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (324 程塚敏明) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (361 山本浩之) 日本画制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (26 大原央聡) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (511 宮坂慎司) 彫塑に関する資料調査や制作実験を通して、歴史や技法的側面から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (45 菅野智明) 漢字の書を中心とした書制作と中国書学・書道史について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(445 上浦佑太) 構成学的視点に基づく事例調査や制作実践を通して、造形表現における情報基盤の拡充を目的として、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (50 國安孝昌) 現代美術に関する構想や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(515 村上史明) メディア芸術に関する制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(439 小野裕子) 現代アートに関する制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (255 齋藤敏寿) 陶磁造形に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法研究から修了研究に対応した研究指導を行う。</p> <p>○ (343 宮原克人) 木工・漆芸制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から修了研究へ向けた指導を行う。</p>	<p>14条対応</p>

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(465 鄭然ギョン) ガラス造形制作に関する資料調査や制作実験を通して、歴史、作家研究、技法的側面から修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (103 田中佐代子) 視覚伝達デザイン,サイエンスビジュアルリゼーションについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (314 原忠信) ブランド体験デザインについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(527 山本美希) マンガ・絵本・イラストレーションにについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>(503 Gary Roderick MCLEOD) デジタル・フォトについて、修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (127 野中勝利) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (154 藤田直子) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (373 渡和由) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p> <p>○ (307 橋本剛) 都市・地域デザインに関する研究成果の論文や制作について修了研究へ向けた指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
デザイン学関連科目	デザイン学基礎論	<p>デザインはプロダクト、エンタテインメント、建築、空間、経験など、人間が関わるすべての対象を人のために設計するための枠組みである。本講義では、こうしたデザインの現状、方法、思想、歴史などについて概説し、デザイン学の基礎を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(189 山中敏正/1回) 主にプロダクト、情報のデザインの歴史的位置付けについて講述する。 (132 花里俊廣・358 山田協太/1回) (共同) 主に建築、空間のデザインの歴史的な位置付けについて講述する。 (60 小山慎一・568 星野聖/1回) (共同) 視覚心理学による研究の方法とデザインとの関連について講述する。 (643 氏家弘裕・642 岩木直/1回) (共同) 視覚情報処理から見たデザインの果たす役割について研究事例をもとに講述する。 (214 内山俊朗・606 星野准一/1回) (共同) エンタテインメントおよび情報デザイン実践における思考方法の特徴とその活用方法の基礎について講述する。 (235 貝島桃代/1回) 建築環境における人の行動特性と設計のありかたについて具体的事例をもとに講述する。 (190 山本早里/1回) 空間における視覚情報の果たす役割について、具体的事例をもとに講述する。 (395 首藤文洋・328 増田知之/1回) (共同) 人体の構造や生理的特性とデザインの関係について概説する。 (359 山田博之/1回) ビジネスにおけるデザインの位置づけと価値創出について具体的事例をもとに講述する。 (442 加藤研/1回) 建築空間の設計方法論について具体的事例をもとに講述する。</p>	オムニバス方式共同 (一部)
専門科目	感性脳科学特講	<p>デザインの根本はプロダクトが感覚機能をインターフェースとして人体の作用をコントロールすることにある。この過程では、広く感性という語にカテゴライズされる複数の高次脳機能現象が中心的役割を担っている。感性という、本能と経験により個人ごとに形成され、人生の中で絶えず変化し続ける現象を深く理解するためには、脳と人体の基本的な生理構造に関する知識が不可欠である。同種の物理特性を持つ現象のうち、感覚機能に影響する範囲のものだけが感性に作用することがその一例として挙げられる。本講では感性の理解に必用な人体構造の生物学的側面について概説する。また、その応用として、感覚刺激や経験の効果で誘発される脳活動など身体反応の特性、およびそれらを捕捉して解析する技法を紹介し、捕捉された生理反応をデータとして、デザインが感性、感情や身心にもたらす効果を分析する先端的研究の概要を説明する。</p>	隔年
	視覚情報デザイン論特講	<p>美しさ、見やすさ、誘目性など、デザインの問題の多くは視覚的な問題である。本科目では、講義を通じて、形態認知、色彩認知、審美、視覚的注意など、視覚の基礎知識を習得する。また、パッケージデザイン、プロダクトパターン、照明、建築物外観等、心理学的手法が実際の視覚情報デザインに応用された事例について、講義とディスカッションを行なう。さらに、プロジェクト型の学習を通じて実際に実験・調査を行い、心理学的な実験・調査手法を習得する。</p>	隔年
	色彩デザイン論特講	<p>デザイン分野における色彩計画には、感性だけでなく科学的な知見に基づく客観性が求められる。本講義では色彩デザインの高度・専門的な知識および実践力を習得することを目標とし、色彩デザインを行うための諸理論を講じ、調査・設計・評価などを含めた色彩デザインの実践方法までを論じる。</p>	隔年
	感知情報学特講	<p>デザインの対象を感性による表現および感性による受容と捉え、そのような現象の根源にあるところの働きを分析的に捉えるための手法の修得を目標とする。人の感覚を捉える方法と、その原因となる刺激との対応関係を明らかにするための心理統計的手法、多変量解析などを用いた総合的分析を元にした研究方法を論じる。</p>	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	デザイン思考	デザインに関わる仕事をしていると「なぜそのようなユニークなものをつくることができるのか？」とクライアントに尋ねられることがよくある。また「自分には新しいものをつくる才能がなく創造力に自信がない」とデザインを学ぶ学生から相談を受けることもよくある。このような人たちと話をすると、デザインには生まれ持った才能が必要で、創造力は鍛えることができないと信じているケースが多いことに気がつく。プロダクトデザイン、インタラクションデザインの制作プロセスを通して、それらにはポイントやコツがあることについて解説をする。	隔年
	デザインイノベーション特講	デザインにおけるイノベーションについて事例を通して学習し、プロジェクトマネージメントの視点からデザインを行うための視点と技術を養う。 また、ユーザーエクスペリエンスの向上のための具体的なワークショップと市場調査、それらのプレゼンテーションを行い、ユーザーにとっての価値とは何かについてのディスカッションを行う。	隔年
	建築計画論特講	建築計画学は、ビルディングタイプの学問と批判されて久しいが、近年では、新しい建物形式も生まれつつある。その背景には、こういった新しい建物を必要とする新しい機能についてのソフト面での展開がある。例えば、シェア居住の流れは、集合住宅には、それまでなかったような共用スペースを生むようになったし、病院では、以前には医療のための機械とも考えられ機能のみを求め計画されてきたが、医療自体の進歩に伴って患者やその家族にとっても快適な空間となることを求めて、新しい形態が現れている。近年の新しいビルディングタイプを計画する際には、どのような新たな変化に対しどんな新しい建築が計画されていくかは、十分に整理されていない。このように本授業では、新しい建築のあり方を決定づけているこういった基本コンセプトを言説や図面、写真などから明らかにし、これらの生まれてきた背景を探る。	隔年
	建築意匠論特講	住宅論、建築論、都市論の視点から敷地周辺の環境や都市を観察し、その結果がどのように建築意匠に定着されるかについて、具体的な事例を取り上げて講述する。また、建築意匠論の実践として、受講生は各自で建築プロジェクトの提案を行う。提案は、任意で設定した敷地のコンテキストを分析した上で行うものとし、その場所で可能な建築意匠のあり方について学修する。授業の最後に、各自がまとめた建築プロジェクトの発表会と講評を行う。	隔年
	建築構法論特講	受講生は任意に複数の建築物を取り上げ、建築の収まりの視点から作品鑑賞を行う。分析対象としては建築家の作品や歴史建造物等が考えられる。建築の部分と全体との関係、歴史・風土との関係等、収まりがどのようなコンテキストに位置付けられるかについて考察する。講義前半では一般図の他に詳細図、構造図、設備図等の必要な資料を収集し、どの部分の収まりを分析するか、テーマの絞り込みを行う。講義後半では、分析結果の報告会を行い、最後に分析した建築物の見学会を行う。	隔年
	建築・都市フィールドデザイン論特講	建築及び都市の実地に即したデザイン手法・原理・課題を、世界各地の建築および都市環境の具体例をつうじて学ぶ。そこで暮らす人々の生活スタイル、社会構造、自然・生態との関わりを考察の主要な視座とする。さらにそうした場所における新たな建築・環境の設計の可能性について議論を行うとともに各自が独自の調査を行い、その結果をもとに建築・環境の具体的なデザイン提案を行う。建築・環境のデザイン提案を発表し、講評することをつうじて学修成果を客観的に省察し、建築及び都市の実地に即したデザインの知識を深め、技能を身に付ける。	隔年
	プレイスメイキング論	人が心地良く楽しいと感じる場をつくるプレイスメイキングの方法論は、都市・職場・住宅などの住環境の改善に向けた重要な手法である。場づくりを軸とした分野横断型の住環境プロジェクトについての解説とディスカッションを行う。講義を通じて、人を支える道具デザイン、基盤と枠組みをつくる街路や建築物の環境・建築デザイン、利用と運営を促進する情報デザインの条件、多様なデザイン分野の役割、共同方法、良好な場づくり手法を習得する。	隔年

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	人間工学と生体計測特講	本科目では、まず(1) 基本的な医学・生理学・解剖学的な知識、脳科学に関する知識の習得。(2) 人間工学と生体計測学に関する基本的な技術の習得のための概要を講述する。さらに、確率過程論や時系列解析論を使った生体モデル構築法、最適制御など制御理論の観点から捉えたヒト運動系の解析方法、信号処理や画像処理などを用いた生体信号解析手法、センサ・電子回路の設計技法、人間工学や生体計測学に関する要素技術などの発展的な内容を自ら調査し、それらを使ったインターフェース設計、医用応用、イノベーション創発のための仕組みを考案し、発表と講評を通じて具体的な知識の活用方法を習得する。	隔年
	エンタテインメントデザイン特講	超スマート社会において生活の質を高めるエンタテインメントのデザインと実現技術について解説する。(1) アニメ、ゲーム、玩具などの多様な事例によるエンタテインメントの発達の歴史とイノベーション、(2) 五感体験、ストーリー、キャラクター、ゲーミングなどの構成要素と、動機付けやエンゲージメントなどのエンタテインメントの心理、(3) エンタテインメントを実現するための映像・音響メディア技術、VR・デバイス技術、ロボット技術、人工知能技術、(4) 人と人、人と社会のつながりを重視しながら、遊び、学び、健康などの生活の質を高める未来のエンタテインメントのあり方について考えるとともに、コンセプトを文章、イラスト、ビデオなどで魅力的かつ効果的に伝える手法を学ぶ。	隔年
	デザインとケア特講	ケア特に介護の現場では、認知症高齢者のために多くの非薬物的アプローチが行われている。そこではさまざまな視覚聴覚的なマテリアルが用いられている。たとえば、認知症の人を対象とした回想法では、懐かしい写真、音楽、映像、実物をトリガーとして、昔話に花咲かせる。また、グループホームケアでは、何より家庭らしさが大切にされており、現場では、家庭を感じるインテリアなど、思い思いの工夫が行われている。また、認知症の行動・心理症状の予防や改善に対しても、環境的な配慮がなされている。そうした認知症の非薬物的アプローチについて、ここではデザインという切り口から受講者と考えていきたい。	隔年
	形態学とデザイン	木の葉を例として思い浮かべると判り良いように、生き物をデザインの対象物とする場合、葉脈や葉の成り立ちといった詳細な生物学的知識を前提にデザインした場合と、そうでない場合で、デザインの深みや精度に大きな違いが生じる。本科目では、肉眼解剖学・組織学・生理学(筋、骨、皮膚、各種感覚器の構造と機能)といった医学的知識のうち、人および擬人化キャラをデザインするうえで有用と思われる知識のみをセレクトし、デザインの観点から判りやすく概説する。さらに、「ゆるキャラ」や「盛り」に関する最新の研究を紹介し、人を対象としたデザインとサブカルチャーの世界も論じたい。	隔年
	プロジェクト演習A-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題からそれらの背景にある理論的課題を解決する、知識を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、創造力の基礎を学ぶ。	
	プロジェクト演習A-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある理論的課題を解決する、知識を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、創造力の基礎を学ぶ。	
	プロジェクト演習B-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題について、応用的課題を解決する高度・専門的な知識を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことでデザイン力、分析力、提案力、創造力の応用について学ぶ。	
	プロジェクト演習B-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある応用的課題を解決する、高度・専門的な知識を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関するデザイン力、分析力、提案力、創造力の応用について学ぶ。	
	プロジェクト演習C-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題からそれらの背景にある課題を解決する、総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎を実践的に学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	プロジェクト演習C-II	建築デザインにかかわる課題からそれらの背景にある課題を解決する、総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎を実践的に学ぶ。	
	プロジェクト演習D-I	プロダクト、エンターテインメントなど具体的なデザインにかかわる課題を解決する、高度で総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。対象とする分野に関する具体的な課題の演習を行うことで計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎から応用を実践的に学ぶ。	
	プロジェクト演習D-II	建築デザインにかかわる課題を解決する、高度で総合的な知識および実践力を習得することを目標とする。建築設計の具体的な課題の演習を行うことで、建築デザインに関する計画力、設計力、デザイン力、分析力、提案力、創造力の基礎から応用を実践的に学ぶ。	
	インターンシップ	デザインに関する実践的環境について、数日～3週間程度の間現場環境に就いて、実際のデザイン実務について実習する。国内外の企業や実践的プロジェクトにおける実習やインターンシップの機会も活用して、デザインの目的やプロセスを体験として修得する。自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	
	アドバンストインターンシップ(長期)	デザインに関する実践的環境について、数週間以上の長期にわたって現場環境に就いて、実際のデザインプロジェクトに加わることでより具体的な業務としてのデザインを実習する。国内外の企業や実践的プロジェクトにおける実習やインターンシップの機会も活用して、デザインの目的やプロセスを体験として修得する。自らの能力涵養、適性の客観評価を図るとともに、将来の進路決定に役立てる。	
	建築デザインインターンシップ1	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る基本設計を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ2	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る実施設計のうち平面図・断面図・立面図等の一般図の作図を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ3	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る実施設計のうち詳細図の作図を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	建築デザインインターンシップ4	建築設計業務を行う学外の建築士事務所等に出向き、建築士の指導を受けて従事時間120時間の建築物の意匠に係る工事監理を学ぶ。一級建築士免許登録に必要な「大学院における実務経験」の「インターンシップ」480時間の一部。	
	海外研修	本研修は海外で学生それぞれが設定するデザインテーマに基づいて、フィールドワークに取り組む。または海外で行われる国際学会等に出席し研究発表を行う。国際的な視野を涵養することとともに、国際的な情報収集力および情報発信力を身に着ける。	
	デザイン学特別演習1	修了研究へ向けて、学生自らが設定した課題に関して、その背景、目的を明確にし、研究の学術的な価値について議論を交えて指導を行い、明確にする。さらに研究仮説を立て、その定義を明確にするための議論を行い、具体的な修了研究のための調査実験の計画を導く。	
	デザイン学特別演習2	修了研究へ向けて、学生自らが設定したテーマに関して、設定した研究目的、学術価値、仮説、をもとに調査実験を行った結果を、教員全員参加の講評会形式で発表し、結果ならびに考察について指導を行うことにより、修了研究にまとめるための最終的な課題を明確にする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	(研究指導)	<p>プロダクト、情報、建築、環境、構成などのデザインに関する課題に関して研究の実践、指導を行い、修士論文について論文指導を行う。</p> <p>(60 小山慎一) プロダクト、情報のデザインに関して、知覚心理学科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(132 花里俊廣) 建築、都市環境のデザインに関して、建築計画学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(189 山中敏正) プロダクト、情報のデザインに関して、感性科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(190 山本早里) 建築、環境および構成学のデザインに関して、色彩学・認知心理学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(235 貝島桃代) 建築、都市環境のデザインに関して、建築行動学の手法を用いて課題解決のための実践研究について研究指導を行う。</p> <p>(358 山田協太) 建築、都市環境のデザインに関して、フィールドサーベイ分析の手法を用いて課題解決のための理論的かつ実践的研究について研究指導を行う。</p> <p>(359 山田博之) プロダクト、情報、ビジネスのデザインに関して、感性科学の手法を用いて課題解決のための実践的・応用的研究について研究指導を行う。</p> <p>(642 岩木直) プロダクト、情報、ビジネスの課題解決を行う際の脳活動を、脳機能イメージングの手法を用いて解明する基礎的研究について研究指導を行う。</p> <p>(328 増田知之) 人体の構造や生理的特性とデザインの関係に関するところの働きについて、生理学の手法を用いて解明する基礎的研究について研究指導を行う。</p> <p>(373 渡和由) 建築・都市・地域のデザインに関して、プレイスメイキングの手法を用いた課題解決のための実践的・応用的研究について研究指導を行う。</p> <p>(442 加藤研) 建築、都市環境のデザインに関して、建築構法学の手法を用いて課題解決のための実践研究について研究指導を行う。</p> <p>(643 氏家弘裕) プロダクト、情報のデザインに関して、人間工学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(649 布田健) 建築、環境のデザインに関して、人間工学・ユニバーサルデザインの手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(655 平光厚雄) 建築、環境のデザインに関して、音響工学・音響心理学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p> <p>(657 山口秀樹) 建築、環境のデザインに関して、視覚認知科学の手法を用いて課題解決のための理論研究について研究指導を行う。</p>	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
世界遺産学関連科目	基礎科目	世界遺産論	世界遺産学位プログラムの教員全員の研究内容の紹介。遺産の評価と保存、マネージメントとプランニング、国際協力などについての討論を通じて、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告、文化遺産・自然遺産保護の現場の訪問を通じて研究の先端に触れる。履修する大学院生は、最も関心を抱いている文化遺産・自然遺産の分野を選び、研究対象となりうる課題について発表することを求められる。	
		世界遺産特別演習	専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定する。論文講読を通じて、論文執筆の基礎を身につけると同時に、研究倫理に関する基礎的な常識を身につける。履修する大学院生は、年2回、演習の中間および最後に、自らの修士研究テーマについて発表することを求められる。	
		世界遺産特別研究	指導教員から修士論文の研究方法について指導を受け、セミナーでの発表、修士論文中間発表を経て、修士論文作成を行い、最終試験において審査を受ける。 (192 吉田正人) 自然保護の現場における生物多様性の保全から世界自然遺産を含む自然保護法制度などの研究課題の研究指導を行う。 (20 上北恭史) 歴史的建造物の保存や修理、集落の保存・地域振興に関する研究課題の研究指導を行う。 (55 黒田乃生) 現地調査や文献調査などの手法を用いて農村地域の文化的景観の保全を対象にした研究課題について研究指導を行う。 (165 松井敏也) 科学的分析手法を用いて文化財保存環境、文化財のFirstAidと防災対策、建造物の保存、文化財材料科学、鉄製文化財の腐食等の研究課題について研究指導を行う。 (179 八木春生) 現地調査、文献調査などの美術史の研究手法を用いて北魏前期の仏教美術、南北朝時代後期の北齊、北周時代、あるいは隋時代の仏教美術を対象とした研究課題について研究指導を行う。 (211 伊藤弘) 遺産とその成立要件である周辺環境との関係に着目し、資源開発と観光をはじめとする持続的な利活用方策に関する研究課題について研究指導を行う。 (464 下田一太) 歴史的建造物や埋蔵遺構、集落や都市を対象として、それらの多様な意義や価値を各種資料や現地調査より読み解き、保存や活用に資する研究課題について研究指導を行う。 (286 武正憲) 現地調査や文献調査などの手法を用いて、自然を観光対象とする地域における持続的な利活用方策に関する研究課題について研究指導を行う。 (426 池田真利子) 遺産保全の在り方や利活用に関して、特にヨーロッパの都市文化やアメニティ、歴史、経済等の人文的な複合的要素や地域性に注目しつつ、フィールドワークや文献調査を基に研究指導を行う。	
専門科目	全分野共通	文化遺産論	文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。履修する大学院生は、文化遺産保護の理念と制度を理解するだけではなく、現代社会における文化財保護についてのディスカッションに参加し、意見を述べるができるようになることが求められる。	
		文化遺産演習	本演習は世界文化遺産の保護の現状について体験を通じて学ぶことにある。1995年に世界遺産リストに登録された「白川郷五箇山の合掌造り集落」およびその周辺集落において維持管理活動の体験および実際に文化遺産がある地域で生活する関係者、文化財保護の担当者、まちづくりの団体との交流や聞き取りを通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および課題について考察する。現地実習の前には現地について学ぶ課題を提出し、実習後には演習で体得した文化遺産保護の課題についてレポートを提出させる。	
		自然遺産論	自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産との関連性についても考究する。とりわけ、世界自然遺産の登録基準、世界自然遺産のセイフティーネットとしての危機遺産リスト、外来種や気候変動のモニタリング、保護地域のネットワークと国境を超えた世界遺産などの事例を考察する。	
		自然遺産演習	自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。自然遺産地域の管理計画、科学委員会・地域連絡会議を通じた専門家、地方自治体、地域住民、NPOなどの役割分担と協働、外来種対策やエコツーリズムなどの事例を現地調査から学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	宗教論	近年、注目を集めるようになってきている世界における宗教とツーリズムとの関係をめぐる研究動向を紹介しながら、日本の世界遺産を事例に両者の関係を整理・検討する。とりわけ、世界文化遺産に登録された紀伊山地熊野古道、長崎・雲仙の潜伏キリシタン関連遺産などの事例をもとに、宗教遺産が観光資源として対象化される過程やその問題点を考える。	
	無形遺産論	無形遺産の概念、保護の体制、遺産保護の事例を通して、無形遺産への理解を深め、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。文化財保護法における無形遺産と、ユネスコ無形文化遺産条約における無形文化遺産の違い、無形文化遺産を保護するための国際的・国内的政策と地域の取り組みについても学ぶ。	
	遺産保護行政論	日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。文化庁の遺産保護担当者から、直接、遺産保護に関わる法制度、行政のシステムに加えて、具体的な遺産保護の事例についてその経験を伺い、日本の遺産保護行政の成果と課題について学ぶ。	
	世界遺産特別講義	世界文化遺産ないし関連遺産の学際研究及び保存・活用の現状と課題を学ぶ。本授業は、世界文化遺産の保護に長年にわたって携わってこられた専門家を講師に招き、その経験と知識を学ぶ集中講義である。講師は、富士山の世界文化遺産登録に携わった専門家など、世界遺産条約に関して深い経験を持った方を講師として招聘する。	
	世界遺産学インターンシップ	遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修を行なう。インターンシップ先は、世界遺産保全に関する行政機関、研究所、テレビ局、博物館・美術館など多岐にわたるが、研修先の選択にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意する。研修機関からの評価をい考慮して、インターンシップの成果を評価する。	
国際遺産学分野	Heritage Theory and Policy Studies (国際遺産論)	Encompassing history, philosophy and public policies, the lecture series is about the overall picture of heritage protection in contemporary society. It deals with a range of activities from the level of international organizations including the World Heritage Convention to those of the national heritage policies of different countries. 歴史、哲学、公共政策など現代社会における遺産保護を総体的にとらえて講述する。世界遺産条約などの国際的な条約から各国の保護政策まで取り上げる。	
	UNESCO and the World Heritage Convention (ユネスコと世界遺産)	世界遺産条約について、条約の成立に至る歴史的背景を含む制度の詳細、運用の実態の分析を通して、またそれをユネスコが行う文化と自然に関わる総体的な活動の中に位置付けて理解することで、現代社会における世界遺産条約の役割、特に文化遺産・自然遺産保護の国際的な枠組みにおける条約の位置づけ、その現状と今後について考察する。	
	World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)	Through the case of transnational cooperation, we shall learn the effects and challenges of international frameworks for cltural/natural heritage conservation. 世界文化遺産・世界自然遺産に関わる国際協力のの事例をもとに、文化遺産・自然遺産の保全に関わる国際的枠組みの成果と課題を学ぶ。合わせて、日本の国際協力に関する枠組みについても取り上げる。	
	World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)	In this lecture, participants will develop their own opinions about what kind of civil participation for World Heritage could be realised and in which way, (i)by learning which tasks and regional conflicts the World Heritage (especially cultural heritage and landscape) faces precisely, (ii) by considering the historical, architectural, sociological and geographical context of certain case studies, (iii) by exploring civil engagement and participation for the preservation of cultural heritage other than the UNESCO World Heritage, and the diversification of World Heritage, and (iv) by understanding the upcoming heritage policies (inc. cultural and economic policy and urban regime) in the EU countries.	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>本講義では、①現在の世界遺産が直面する課題を的確に知り、②その背景にある地域の実情を多角的かつ分野横断的にみること、さらに③世界遺産の維持のために必要不可欠とされている市民参加の在り方を、世界遺産に限定せず、広くヨーロッパの遺産保存の在り方から探ること、④世界遺産の多様化、⑤EUにおける最新の文化遺産を巡る動向を理解することを通じて、世界遺産における市民参加がどのようにして実現され得るのかを考えることを目標とする。</p>	
	World heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)	<p>Is it possible to establish a sustainable society through conservation of cultural and natural heritage? Through various case studies from developing countries, we shall explore future directions for achievement of Sustainable Development Goals.</p> <p>果たして、文化遺産・自然遺産の保護を通じて、持続的な社会を構築することは可能か？ 開発途上国における様々な事例を通じて、国連持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた将来の方向性を探求する。</p>	
	Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)	<p>We shall study the roles and actions of international agencies such as UNESCO, UNEP and NGOs such as IUCN, ICOMOS and ICCROM, which deal with the conservation of cultural and natural environment.</p> <p>文化遺産と自然環境の保全に関する国際機関 (UNESCO, UNEP 等) および文化遺産と自然環境の保全に関するNGO (IUCN, ICOMOS, ICCROM等)の役割とその機能について学ぶ。</p>	
	International Conventions for Heritage Conservation (国際条約論)	<p>Through an extensive lecture, which will tackle with environment, heritage conservation and development, with case studies of various countries and regions in the world, we shall learn how we continue to live with heritage, how at times we need to fight for conservation and to respect sustainable livelihoods in the rapidly changing world.</p> <p>この授業では、地球環境の保全、遺産の保護と開発に関する国際条約と、世界中の様々な国々の事例研究を通じて、急速に変化する社会において、どのように遺産と共存し、環境を保全するとともに、持続的な社会を実現するかを学ぶ。</p>	
	Project Practice in World Heritage (世界遺産演習)	<p>By carrying out field studies at an identified site outside Japan, we shall learn what is actually at stake in identifying with our own eyes the issues and challenges, who are the actors, what are their respective roles, and how consensus-building is made for chosen solution for better heritage conservation and sustainable development.</p> <p>海外におけるフィールド実習を通じて、遺産保護と持続可能な開発のバランスを取るためには、何が課題であり、誰がどのような役割を果たし、どのようにして合意形成を図るかを学ぶ。</p>	
遺産の評価と保存分野	建築遺産論	<p>多様な歴史的背景や環境条件、意匠の特徴や利用可能な材料の特性に根差した建築遺産の理解、分析、調査、記述の方法と視覚化、評価の方法を学び、そうした歴史的建造物の意義や価値を保存・継承するための修理や復旧の理念や技術、それらを伝達するための整備や再生の幅広い手法や技術について、国内外の世界文化遺産を含む建築遺産を事例として理解する。授業を通じて、各自が関心を有する建築遺産に対して、必要とされる調査を実践的に適用するための知識を習得し、保存や活用のための具体的な提案ができるようになることを到達目標とする。</p>	
	建築遺産演習	<p>建築遺産や周辺環境、建築と人との関係性を測量、記録し、図面化する手法について実践を通じて学ぶ。また、それらの記録や各種表現を、建築遺産やその地域の保存や活用のために利用し、提案を関係者に共有し議論する一連の過程を経験する。それらの過程において、建築遺産の研究や修復、活用における幅広い課題を理解し、建築の構造や意匠、技法の特質、建築空間の利用方法等を調査・分析する能力を養う。多様な専門的知識や技術を横断的に連携し、取り組む必要のある建築遺産の保存と活用の体験を通じて、多様な関係者と協働し、建築遺産の保護と活用に寄与することができるようにする。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	美術遺産論I	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された雲岡石窟や龍門石窟、また敦煌莫高窟などを対象とする。この授業では、その中でも北魏時代(439年から534年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで評価を行う。それぞれの石窟がいかなる目的のために、またいかなる人々のために開かれたか、そのためにいかなる工夫がなされたかを明らかにする。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、中国北魏時代の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	
	美術遺産論II	講義形式(学内)。中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、龍門石窟などの、唐時代前期(618年から655年)に開かれた石窟を取り上げる。窟形式や造像の様式、形式、また文様などの要素を様々な角度から分析し、それを総合的に考察することで、これらの石窟の評価を行う。敦煌莫高窟唐前期諸窟や、龍門石窟唐前期諸窟のほとんどは、北魏時代に国家により開かれた雲岡石窟と異なり、民間による造営である。浄土教が流行したこの時期に、人々がいかなる目的を持って造営し、またそれらの人々の要求を満足させるためにどのような工夫がなされたかを考察する。そしてこの作業から抽出される、それぞれの石窟の特殊性に基づき、それに適した石窟の保存を考える能力を養成する。これにより、唐時代前期の代表的な石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連してできるようになる。	
	美術遺産演習	演習(学外)。大阪市立美術館や東京国立博物館など、中国の仏教造像や陶磁器などを多く所蔵する美術館、博物館で、学芸員から説明を受けながら、作品を様々な角度から観察することを経験する。それにより、斜め上、あるいは下方、また側面からでは、正面から見たのとは異なる印象を持つことを体感し、写真ではなく実物を見ることの重要性を理解できるようになる。また作品の基本的な取り扱い方を学び、実際に作品に触れることで、目でみるだけでは理解できない情報を作品から得る方法を習得する。このような経験から、それらの作品を作った工人たちが、どのような角度で見られることや手取りを意識していたかを考えられるようになる。そして美術作品の時代性だけでなく、工人達の意図をより正しく理解できるようにする。	
	保存科学概論	保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。それにより、遺産や美術品の劣化や損傷に対し、その診断手法の確立、ならびに診断結果に対する総合的評価を立地環境と担当者らのスキルなどと併せて考慮する視野を構築することを目指す。実践的処置技術については今後の社会及び環境変動を見据えた課題の抽出とその解決法を科学的に行う能力を習得する。	
	保存科学演習	保存対象の活用状況や管理状態、地域の関わり方の調査から得られる課題を整理し、対象文化財の保存科学的調査を実施する。保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての実地研修により習得させ、その分析、評価を関連分野の研究結果等と併せて総合的に考究させることを目指す。また世界遺産をはじめとする遺跡や博物館において、専門家による指導助言を受けながら現場レベルの保存科学実務を学び、習得した技術や能力をさらに発展させる。	
遺産のマネジメントと	遺産整備計画論	遺産の歴史的価値を評価して未来へ残していくために、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。教育の目標として、文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的考え方を学ぶ。授業の到達目標として、遺産保護制度の条例の理解および保護計画事例を把握し、遺産も持つ歴史的活に基づいた保護手法について評価、判断ができる能力を身につける。また遺産の積極的活用について理解し、具体的な活用を案を提案して計画能力を重視する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ランニング分野	遺産整備計画演習	遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。授業目標として、遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画を立案できる能力をつける。到達目標として、遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画棟の保存制度を手がかりに遺産保護の具体的手法について分析できるか確認する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法を提案できる能力をレポート等で確認する。	
	文化的景観論	遺産としては比較的新しい概念である文化的景観について、景観の概念の変遷、世界遺産における文化的景観をめぐる議論と現状、日本の文化財における文化的景観の定義と保護、景観と社会の関係などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。講義全体を通じて他の文化遺産と文化的景観の特徴の異同を考究するための緒を与える。保全や概念について国内外の相違を紹介し、履修生とのディスカッションを通じて文化的景観の曖昧さや保護の課題について自ら考えることができるようにする。	
	遺産観光論	観光に関する用語や意義、歴史的かつ現状の課題および計画論等に関して概説を行うと同時に、観光の対象となる文化資源や自然環境について、世界遺産や指定文化財、自然公園など制度上の評価に捉われない評価の考え方を整理する。利用と保護が持続的に同時に求められる、自然および文化を活かし続ける観光のあり方や取り組み手法、それに基づく観光地整備の考え方について、具体的事例を取り上げながら、その効果と課題を踏まえて考察する。	
	プランニング演習	自然および文化を、住民および来訪者がより深く理解できるように持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、広域的な周辺環境および対象資源について、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業をグループワークを通して体験し、計画の考え方や作業の流れ、評価方法を理解する。また、毎回進捗報告会を実施することで、各自の考え方や主張を他者に分かりやすく伝えるプレゼンテーションのやり方と、計画案に関するディスカッションを体験する。	
	インタープリテーション概論	インタープリテーションの歴史・期待される効果・実施上の注意点や課題について理論的な概要を学習する。自然遺産および文化遺産の価値を利用者にどのように伝えるのか、その技術や伝えるべき対象の価値の捉え方について、実際の事例を体験することを通して考察する。教育目標は自然遺産・文化遺産の価値をとらえ、それを伝える技術を理解し、遺産の利活用と保全におけるインタープリターの果たす役割を理解することである。授業目標の到達目標は、インタープリテーション・プログラムを提案できるような能力を身につけることであり、その習得度はプレゼンテーションとレポート課題によって確認する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
情報学関連科目	データサイエンス実践	<p>研究機関等が提供するオープンデータの拡充とともに、それらの分析手法に習熟したデータサイエンティストの社会的需要が高まっている。講義前半では、データサイエンスと数学および統計学の関連について概観したのち、統計学的手法に基づくデータ分析を実践し、最新の「計算代数統計」と呼ばれる手法の導入までを目指す。後半では、インフォメトリクスデータに基づく分析の理論と手法について学習する。特に、それらのデータの特性である低頻度事象の存在や、それに起因する統計的尺度の標本量依存性に配慮した分析に関する理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：178 森継修一)</p> <p>(178 森継修一/5回) (1)データサイエンスの構成要素と統計学、(2)データ分析の数理的基礎、(3)相関と因果、回帰、(4)データ分析に基づく社会的価値創造、(5)最新の「計算代数統計」の応用 (191 芳鐘冬樹/5回)、(6)インフォメトリクスの基本的問題:壺のモデル、(7)オープンデータのリソースとLotka型データ、(8)LNREモデル、(9)統計量の標本量依存性と二項補間・補外、(10)ネットワークの成長モデルと標本量依存性</p>	オムニバス方式
	機械学習とパターン認識	<p>本講義では機械学習手法の原理と実践的利用についての体系的な知識を学ぶ。特に、データサイエンスの基礎技法である画像認識や文書分類、クラスタリングを行うための機械学習手法として、ニューラルネットワークやベイジモデルに基づく教師あり学習と教師なし学習を扱う。線形代数や確率論に基づいた機械学習の基本的な原理について講義するとともに、画像データやテキストデータのパターン認識に関する演習を適宜交えることで理解を深める。また、データマイニングにおける応用や、大規模データに対する並列処理など、機械学習に関連した技法についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：294 手塚太郎)</p> <p>(294 手塚太郎/4回) (1)機械学習におけるタスク (教師あり学習、教師なし学習、訓練データ、テストデータ)、(2)線形分類器による分類 (分離超平面、重み行列)、(3)ニューラルネットワークの学習 (損失関数、勾配降下法)、(4)畳み込みニューラルネットワークによる画像認識 (フィルター、誤差逆伝播法) (531 若林啓/4回) (5)確率分布とベイジモデル (最尤推定、事前分布、ベイジ推定)、(6)ナイーブベイジモデルによる文書分類 (潜在変数、MAP推定)、(7)混合ガウスモデルによるクラスタリング (EMアルゴリズム)、(8)隠れマルコフモデルによる系列ラベリング (遷移確率、グラフィカルモデル) (131 長谷川秀彦/2回) (9)データマイニング、(10)並列計算とMapReduce</p>	オムニバス方式
	メディアデザイン	<p>芸術・デザイン・メディアアートの知見から、情報デザインの仕組みを理解するとともに、ハードウェア制作やソフトウェア制作を通じた実世界志向インタラクションおよびインフォグラフィクスの手法を学ぶ。実世界志向のインタラクションは近年、スマートフォンやウェアラブル端末などの情報機器の普及によって産業界から注目を集めており、またインフォグラフィクスを応用した画面表示やコミュニケーションのための表現がコンテンツ制作者に求められている。本講義ではグラフィックデザイン手法を基盤とし、ビジュアル表現に関して議論ができるスキルを養い、その応用例として展覧会を実施し、それにまつわるビジュアル作りやキャプション作りなど実社会で使用するスキルを身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：244 金尚泰)</p> <p>(244 金尚泰/5回) (1)「研究紹介とビジュアル表現」：データと情報の違いを明確にし、情報として伝えるためのグラフィックデザイン手法全般を議論する。(2)「データから情報へ」：グラフィックデザイン手法の考え方、応用例を解説するとともにデザイン要素として用いられるアフォーダンス、色彩、レイアウト、黄金比、タイプフェイスを理解する。(3)「自分の研究テーマを題材にインフォグラフィックスを試作」：夫々研究テーマの考え方を発表してもらい、アイデアスケッチと構成、ビジュアル表現に関して議論する。(4)「プレゼンテーションと講評」：制作したインフォグラフィックスの制作プロセスをプレゼンテーションし、データの整理、表現方法、各要素の応用を含むインフォグラフィックス全般の流れを議論する。(5)「ビジュアル表現」まとめ：事例紹介を通しビジュアル表現の考え方やコツ、制作手法に関する理解を深める。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(232 落合陽一／5回) (6)「研究紹介とメディア表現」：メディア機器の開発とそれを用いた表現について、メディアアートの現状を含め手法全般を議論し、アイデア出しを行う。(7)「プロトタイピング」：デジタルファブリケーション手法とラピッドプロトタイピング手法について議論し、実際にツールに関して手を動かして制作を行う。(8)「インスタレーション」：メディアアートのインスタレーション手法について学び、インタラクション手法・展示手法について議論を行う。(9)「展覧会準備」：展覧会を用いて実際に制作した作品の発表を行うための準備をする。(10)「まとめ」：制作期間を振り返って、学びを互いに共有する。</p>	
	ビジュアルライゼーション	<p>医療分野や気象学、生物学などで得られる計測データ、購買情報等の人々の行動データ、物理現象の解析に用いられるコンピュータシミュレーションから得られる数値データなど、膨大で複雑なデータを人間が理解し、解釈するためにコンピュータグラフィックスを用いた情報可視化技術が必須となってきている。本講義では情報可視化の基礎を学ぶとともに、科学的なデータを可視化するサイエンティフィックビジュアルライゼーションと社会的なデータを可視化するインフォメーションビジュアルライゼーション、そしてこれらのデータを扱うための3次元ユーザインタフェース (AR) についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：496 藤澤誠)</p> <p>(496 藤澤誠／5回) (1)情報可視化のためのCG技術の基礎、(2)シミュレーションとデータ構造、(3)サイエンティフィックビジュアルライゼーションの基礎、(4)ボリュームビジュアルライゼーション、(5)フロー&バイオメディカルビジュアルライゼーション (402 時井真紀／5回) (6)インフォメーションビジュアルライゼーションの基礎、(7)データ分析法とビジュアルライゼーション、(8)位置情報とビジュアルライゼーション、(9)インフォメーションビジュアルライゼーション応用、(10)3次元ユーザインタフェースとAR</p>	オムニバス方式
	生体生命情報	<p>生命が持つ情報の側面について学ぶ。具体的には、遺伝情報、生体内の情報処理、脳活動、生体信号等を題材に、様々な現象の計測やモデル化、データの保存、分析、表現等について学ぶ。特に、バイオインフォマティクスで使われる生命情報を扱う手法や、生命をモデル化するためのシステムバイオロジーの考え方、生体信号処理や知覚システムモデリングの手法、生体情報を用いた芸術表現など関連分野の知識について理解することを目的とする。さらに、近年の生物学の研究において、必須となっている情報学の考え方や手法を、関連する生命現象とともに学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：325 真榮城哲也)</p> <p>(325 真榮城哲也／5回) (1)ゲノムと遺伝情報、(2)遺伝情報の類似性、(3)遺伝子発現と遺伝子調節ネットワーク、(4)システム科学と生命のモデル化、(5)脳活動計測 (477 寺澤洋子／5回) (6)デジタル信号と生体信号処理、(7)聴覚システムと音の知覚、(8)聴覚モデリング、(9)聴覚情景分析の脳機能、(10)生体情報とメディアアート</p>	オムニバス方式
	感性認知情報	<p>メディアサイエンスを理解し応用するために不可欠な、人間の感性・認知の働きについて学ぶ。以下の項目に関する講義・ディスカッションを行う：(1)人間の認知過程、とりわけ理性的な思考や客観性のある解析過程について、計算論的モデル化によるアプローチの基礎を学び、具体的な事例・領域への適用について論じる。(2)インタフェースの成立基盤となる物体認知や運動学習などに関する心理学的知見について学び、その方法論を実践的に学習する。(3)創造性における感性情報の働きや感性情報評価の概念について解説する。感性、認知、行動と生体情報、パーソナリティなどの融合科学として、デザイン発想、製品開発に応用された事例を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式／全10回／科目責任者：145 平賀譲)</p> <p>(145 平賀譲／4回) (1)受講に関する説明・講義内容の概説及び導入、(2)人間の認知過程の計算論的モデル化の意義と役割(概論)、(3)モデル化の具体例①：ゲーム、パズル、音楽認知等の事例を通じて、(4)モデル化の具体例②：ゲーム、パズル、音楽認知等の事例を通じて</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(352 森田ひろみ/3回) (5)物体認知の基本的性質の解説と代表的な心理学的研究の紹介、(6)運動学習の基本的性質の解説と代表的な心理学的研究の紹介、(7)物体認知又は運動学習に関する心理実験の実践 (206 李昇姫/3回) (8)感性の働きとしての創造性と脳科学との関わり、(9)脳の活性化を導く身体性インタラクティブデザインの事例、(10)生理、運動、心理など感性情報を取り入れたプロダクトデザインの設計の応用事例</p>	
	構造化データ	<p>本講義では、構造化データとその処理手法などについて学ぶ。まず、構造化データを処理する上で必要となる正規表現やオートマトンなどの基礎概念について解説する。その上で、構造化データなどに対する構文解析手法について学習する。次に、XMLデータに対する代表的な検索言語であるXPathやXQueryについて解説する。さらに、半構造化データベースなど、マークアップ言語で記述されたデータの蓄積・管理手法について学ぶ。最後に、近年普及が著しいグラフデータにおける検索やスキーマについて講義する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：298 中井央)</p> <p>(298 中井央/5回) (1)構造化データ処理系の概要、(2)正規表現と字句解析、(3)文脈自由文法と構文解析の概要、(4)再帰的下向き構文解析、(5)意味解析 (272 鈴木伸崇/5回) (6)XMLのデータ構造とスキーマ言語、(7)XMLにおける検索言語、(8)構造化データとデータベース、(9)グラフデータ検索、(10)グラフデータのスキーマ</p>	オムニバス方式
	知識情報分析	<p>知識についての論考とそれを獲得するための方法について学ぶ。前半は、知識とは何かについて検討する。まず、「正当化された真なる信念」という知識の定義やそれに対する批判(ゲティア問題等)を紹介した上で、知識の共有について意味論との関わりを踏まえ、相対主義とその批判という視点から講義する。後半は、知識構造の分析により得られる様々な知識表現の方法について、その特性を含めて考究する。続いて、知識と情報、データの関係についてアフォーダンスの視点で検討する。最後に、様々な事象から情報やデータを取得する方法と知識を形成するための方法について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：363 横山幹子)</p> <p>(363 横山幹子/5回) (1)知識の定義：正当化された真なる信念、(2)知識の定義：ゲティア問題、(3)知識の共有：相対主義の概略、(4)知識の共有：概念相対主義、(5)知識の共有：概念相対主義への批判 (116 中山伸一/5回) (6)知識表現の方法：文章、映像、図表、(7)知識表現の方法：意味ネットワーク、フレーム、スクリプト、(8)知識と情報、データ：アフォーダンス、(9)情報・データ取得の方法：テスト、調査、計測、(10)知識形成の方法：クラスタリング、ニューラルネットワーク</p>	オムニバス方式
	情報プラクティス	<p>情報プラクティスとは人間と情報との相互作用全般を含む新しい概念であり、図書館情報学における情報行動研究からコンピュータ科学におけるヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)まで幅広い領域で議論される。他者やユーザの社会的文脈など既存研究より広いコンテキストを考慮した相互作用の理解を重視する点に特徴がある。本講義では、古典的な情報探索行動・情報検索研究から情報プラクティスという視座に至るまでの歴史的経緯、ログ分析や実験室実験を基にした情報検索行動のユーザモデル、そして、ユーザの検索行動を学習・予測する手法とその評価について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：270 上保秀夫)</p> <p>(270 上保秀夫/4回) (1)オリエンテーション、(5)サーチエンジンユーザの検索パターン、(6)コラボラティブサーチ、(7)情報検索におけるユーザ実験の手法 (414 松林麻実子/3回) (2)情報探索行動モデル、(3)文脈重視の情報行動、(4)情報行動から情報プラクティスへ (427 于海濤/3回) (8)サーチエンジンユーザの検索行動モデルの構築、(9)サーチエンジンユーザの検索行動モデルの学習、(10)サーチエンジンユーザの検索行動予測手法の評価</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	情報推薦	<p>情報推薦システムの諸側面について学習する。まずこれまで情報推薦に用いられてきた協調フィルタリング、内容ベースフィルタリング、アソシエーションルール、様々な情報を機械学習で統合的に利用した推薦、といった代表的手法について学ぶ。情報推薦は、利用者が興味を持つアイテムの推薦を目的とする。興味を持つ要因としてはいくつかあるが、推薦では利用者の問題関心と合致していることに加え、目新しさや思いがけなさ、即ちセレンディビティも重要となる。適切・有効な推薦が行えたかを判定する評価基準についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：291 辻慶太)</p> <p>(291 辻慶太/5回) (1)情報推薦システムの概要、代表例、問題点、(2)協調フィルタリング：ユーザベースとアイテムベース協調フィルタリング（アソシエーションルール）、(3)内容ベースフィルタリング：内容の表現方法、類似度の算出方法、機械学習の利用、(4)知識ベース型推薦システム：制約型、事例型、(10)情報推薦システムの構築③：Rの基礎と各種推薦関連パッケージの利用 (504 松村敦/5回) (5)ハイブリッド型情報推薦システム：状況に応じた推薦方法の切替えや統合、(6)情報推薦システムの評価：精度、再現率、新規性や多様性、セレンディビティといった指標、評価実験の手法、(7)多様化する情報推薦システム：多様化する評価指標の向上を目指したシステム、目的や位置情報など推薦システムが利用される状況（コンテキスト）を考慮したシステム、(8)情報推薦システムの構築①：プログラミング基礎および協調フィルタリングの実装、(9)情報推薦システムの構築②：協調フィルタリングの実装</p>	オムニバス方式
	ヒューマンコンピュータインタラクション	<p>本講義では、ヒューマンコンピュータインタラクション(HCI)について解説する。より円滑なインタラクションを実現するために必要となるHCIの基本的な考え方をはじめ、システムとして構築するための設計、実装、評価手法の概要について学ぶ。さらにユーザインタフェース(UI)、ロボティクス、コンピュータビジョン、認識技術等のシステムをインテリジェント化するための要素技術に加え、人間のコミュニケーションや情報共有を支援、拡張、活用するソーシャルコンピューティングに関する研究開発の最新の動向についても解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：334 三河正彦)</p> <p>(334 三河正彦/5回) (1)イントロダクションおよびヒューマンインタラクションの基礎、(2)ヒューマンインタラクションの基礎、(3)システム構築のための要素技術と最新動向I（センサ）、(4)システム構築のための要素技術と最新動向II（入出力デバイス）、(5)システム構築のための要素技術と最新動向III（ソフトウェア技術） (17 井上智雄/5回) (6)システムの設計・実装、(7)システムの評価、(8)ヒューマンインタラクションの応用、(9)ヒューマンインタラクションの周辺技術、(10)利用者から見たシステム・まとめ</p>	オムニバス方式
	コミュニケーション行動	<p>本授業では量的調査による対人コミュニケーションに関する分析について論じる。主として各種のメディア使用が対人コミュニケーションや選択行動へ与える影響について学ぶ。従来のマスメディアから現在のソーシャルメディアまでの各種のメディアの歴史の変遷を踏まえ、それぞれの使用がいかによりユーザのアイデンティティ形成や言語使用、コミュニケーションメディア観、対人関係特にソーシャル・サポート・ネットワークの構築に影響するのかなどについて学際的な視点から理解を深め、国内外の既存研究を読み解くための基本的なスキルを習得する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：112 歳森敦)</p> <p>(112 歳森敦/5回) (1)ガイダンス・各種メディアの定義、(2)メディア研究の変遷、(3)メディア・リテラシーからネット・リテラシーへ、(4)メディア使用とコミュニケーション行動、(5)メディア使用と集団形成 (529 叶少瑜/5回) (6)メディアと言語使用・アイデンティティの形成、(7)メディア使用と印象形成、(8)メディア使用とソーシャル・サポート・ネットワーク、(9)異文化コミュニケーションにおけるメディア使用の影響、(10)コミュニケーションにおけるメディアの行方</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	コミュニティ分析	<p>情報や知識は、コミュニティが繋がり、断絶し、ときに衝突し、影響を与え合うインタラクションの中で生み出され、活性化され、伝達される。本講義ではコミュニティ研究の基礎理論を学ぶとともに、エスニシティ、地域、言語等、コミュニティのカテゴリごとにフィールドワークなどの質的調査に基づく既存研究をレビューする。さらに公民館、図書館、学校、病院、地域コミュニティなどの場でコミュニティ間にインタラクションの必要な場面が生じた際に、メンバー特性を踏まえ、コミュニティ内の情報や知識がどう発生・受容・変容するかを学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：59 後藤嘉宏)</p> <p>(59 後藤嘉宏/5回) (1)コミュニティ研究の理論的系譜1、(2)コミュニティ研究の理論的系譜2、(3)知識の継承と変容の理論的系譜、(4)コミュニティのカテゴリ①：エスニシティ、(5)コミュニティのカテゴリ②：地域・言語・宗教・階層 (478 照山絢子/5回) (6)コミュニティのカテゴリ③：障害・ジェンダー・セクシュアリティ、(7)インタラクションの場①：地域コミュニティ・公民館・図書館、(8)インタラクションの場②：学校・病院、(9)インタラクションの場③：家庭、(10)身近な異質性と異文化—まとめにかえて</p>	オムニバス方式
	デジタルヒューマニティーズ	<p>デジタルヒューマニティーズは人文学資料にデジタル技術を適用することで、伝統的手法では得られなかった知見を得ることを目的としている。講義では、テキストを資源化するためのテキストエンコーディング、絵図から作成当時の文化や社会を考察する図像分析、歴史文書に自然言語処理手法を適用する文書解析、古地図や古文書の記述を地理情報システムにマッピングする手法、画像ファイルを簡単に流通させるための規格であるInternational Image Interoperability Framework (IIIF：トリプルアイエフ)等について解説する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：216 宇陀則彦)</p> <p>(216 宇陀則彦/5回) (1)デジタルヒューマニティーズの世界、(7)画像共有のためのフレームワーク、(8)地理情報システム、(9)デジタルアーカイブ、(10)デジタルヒューマニティーズの可能性 (368 和氣愛仁/5回) (2)デジタルヒューマニティーズの技術 (XMLから人工知能まで)、(3)古代エジプト語データベースの構築、(4)古代エジプト語データベースの利用、(5)テキストエンコード、(6)近代日本語資料の分析と共有</p>	オムニバス方式
	知的財産と情報の安全	<p>情報に関連する法制度や裁判例を概観し、情報化・ネットワーク化が進む現代社会における法的問題とそれに関わる技術について検討を行う。具体的には、著作権法などの知的財産法や、プライバシー・個人情報保護その他の情報に関する法を扱う。また、社会規範を守るという観点から見ると、情報社会において情報に関する法的権利へ配慮することは、情報倫理としても求められるようになっていく。さらに情報の安全や知的財産保護に関する技術の基礎についても扱う。この講義では、情報に関する法制度と関連する技術の基礎的な事項を確認するとともに、法制度のあり方や実際の事例について自ら検討を行い、幅広い視野での理解を深める。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：347 村井麻衣子)</p> <p>(347 村井麻衣子/6回) (1)知的財産法の概要、(2)特許法、商標法、不正競争防止法など、(3)著作権法、(4)著作権に関する事例、(5)プライバシー、(6)個人情報保護法制 (258 阪口哲男/4回) (7)サイバー犯罪、インターネット上の権利侵害、(8)情報の安全と暗号化技術、(9)知的財産保護のための技術、(10)情報システムの安全</p>	オムニバス方式
	図書館メディア文化史	<p>本講義では、「歴史から学ぶ」という視座にたち、知識情報基盤としての図書館と記録メディアの歴史について学ぶ。まず、粘土板やパピルスといった古代のメディアから、羊皮紙とコデックス、活版印刷等、主として西洋の記録メディアの変遷を概観する。次に、中世の修道院図書館から図書館法、近代図書館の成立に至るまでの西洋の図書館の変遷を理解するとともに、日本の図書館の変遷についても学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：113 呑海沙織)</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(113 呑海紗織/4回) (1)オリエンテーション、古代のメディアと図書館の起源、(2)羊皮紙とコデックス、(3)活版印刷とインキュナブラ、(7)英米における近代図書館の成立</p> <p>(199 綿抜豊昭/3回) (4)古代中国の記録メディアから紙の発明まで、(5)江戸時代の出版流通、(8)文庫の発生から江戸時代の武家文 (172 溝上智恵子/3回) (6)修道院図書館からルネサンス期の図書館まで、(9)書籍館の誕生から占領期の図書館まで、(10)プレゼンテーション</p>	
	パブリックサービス	<p>本講義ではパブリックな場における情報サービスに関して、特定のコミュニティおよび社会制度の2つの位相からそのサービスをとりえ、参加者/利用者のエンパワーメントに焦点を当てて議論する。前半は生涯学習をテーマとして、情報・メディア・文化へのアクセスを保障する公共図書館サービスを、コミュニティ、社会的公正性、リベラル・マルチカルチュラリズムの観点から検討する。後半は企画・決定、検討・手順書作成、広報・準備、実施・評価のプロセスを通じて、テクニカルコミュニケーション実践のための理論と方法を学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：193 吉田右子)</p> <p>(193 吉田右子/5回) (1)パブリックサービスとは、(2)公共図書館サービスの理論と実践：日本、(3)公共図書館サービスの理論と実践：北米、(4)公共図書館サービスの理論と実践：ヨーロッパ、(5)公共図書館サービスと社会的公正性/リベラル・マルチカルチュラリズム</p> <p>(392 三波千穂美/5回) (6)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：企画・決定、(7)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：検討・手順書作成、(8)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：広報・準備、(9)テクニカルコミュニケーションの理論と実践：実施・評価、(10)パブリックサービスの課題と展望</p>	オムニバス方式
	ライブラリーマネジメント	<p>本講義では、主に公共図書館を対象として、図書館を効果的に管理・運営していくための経営手法について学ぶ。経営学におけるさまざまな理論、原則、概念、技法などについて解説するとともに、それらを非営利組織体である図書館に応用することの展望と限界について検討する。さらに図書館経営のみに止まらず、図書館の社会的役割、政策・法制度、人的資源管理、サービス計画と評価、予算獲得と資金調達、広報、図書館連携（官民連携や学社連携も含む）などについて学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：208 池内淳)</p> <p>(208 池内淳/4回) (1)オリエンテーション、(2)図書館の社会的役割、(3)図書館政策、(4)図書館関連法制度</p> <p>(381 大庭一郎/3回) (5)図書館情報サービスの計画、(6)図書館の組織デザイン、(7)図書館の人的資源管理</p> <p>(454 小泉公乃/3回) (8)図書館の経営戦略と経営組織、(9)図書館の経営評価、(10)パブリックガバナンスと図書館経営</p>	オムニバス方式
	学術情報基盤	<p>本講義では、研究者が行う学術コミュニケーションとそれを支える学術情報流通制度について概観するとともに、その現状と諸課題に関する理解を深める。前半では、研究活動と学術コミュニケーションの関係、学術メディアの電子化による学術コミュニケーションの新しい動き（学術雑誌の変化、オープンアクセス・オープンサイエンス概念の出現）について学ぶ。後半では、学術コミュニケーションを支える基盤としての学術情報流通制度（学術雑誌のビジネスモデル、大学図書館の研究支援サービス、学術情報ネットワーク）について学ぶ。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：414 松林麻実子)</p> <p>(414 松林麻実子/5回) (1)ガイダンス：学術コミュニケーションと学術情報流通、(2)電子化によるフォーマルコミュニケーションの変化、(3)電子化によるインフォーマルコミュニケーションの変化、(4)オープンアクセス・オープンサイエンスとは、(5)個人の対話から学術プラットフォームへ</p> <p>(16 逸村裕/5回) (6)学術雑誌のビジネスモデル、(7)大学図書館の研究支援サービス、(8)学術情報ネットワークとは、(9)研究者評価、(10)まとめ</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	アーカイブズ	<p>2011年の東日本大震災以降、歴史的に重要な文書記録の救出・保存が日本各地で取り組まれている。また日本では2011年の公文書管理法施行以後、行政文書の管理と保存が国の重要課題となった。本講義では、日本と欧米諸国におけるアーカイブズ施設（文書館・公文書館）、アーカイブズ資料（歴史資料・行政文書）及び専門職アーキビストとその養成の具体的事例に基づき、アーカイブズ学の全体像を論じるとともに、図書館の類縁施設であるアーカイブズ施設に関する基礎知識を獲得する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：87 白井哲哉）</p> <p>（87 白井哲哉／4回）(1)序論A：アーカイブズ学とは何か—いくつかの基本概念、(2)日本におけるアーカイブズ施設とアーカイブズ資料1—国家機関と地方自治体、(3)日本におけるアーカイブズ施設とアーカイブズ資料2—大学と企業、(4)アーカイブズ資料の救出—災害の経験から (542 江前敏晴／2回) (5)記録媒体として紙の特性、(6)紙媒体歴史資料の保存科学 (488 BARYSHEV EDUARD／4回) (7)序論B：集合的記憶・記録・アーカイブズ、(8)欧米諸国におけるアーカイブズ施設と専門職アーキビスト、(9)欧米諸国におけるアーカイブズ学の発達、(10)アーカイブズ施設の活用—情報時代のアーカイブズ学とその課題</p>	オムニバス方式
	博物館情報メディア	<p>博物館はメディアである、博物館が提供するものは情報であり、テレビに似ている（梅棹1987）と唱えられて以後、インターネットの普及に伴い、メディアとしての博物館は急速に発展しつつある。リアルな博物館とヴァーチャルな博物館の双方において、情報メディアに関する知識と理解が強く求められている。本講義は、インターネット展開における映像リテラシーの重要性を鑑みつつ、博物館と情報メディアに関し、その現状と展望について、さまざまな観点から考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：109 辻泰明）</p> <p>（109 辻泰明／3回）(1)博物館と情報メディア、総論、(2)ヴァーチャル・ミュージアムと映像リテラシーの重要性、(10)博物館情報メディアの最新動向と今後の課題 (703 白石信子)／3回) (7)博物館と映像メディア、(8)博物館情報メディアと教育、(9)博物館情報メディアとマーケティング (716 宮本聖二／4回) (3)デジタル化の進展とインターネット配信、(4)博物館、図書館、文書館の連携とポータルサイト、(5)文化遺産の概念とその歴史、(6)資料の整理と組織化</p>	オムニバス方式
	情報組織化	<p>本講義では、様々な情報資源を効果的かつ効率的に利用するための組織化について学ぶ。主にWWWやデジタルライブラリー等のネットワークを介して提供・共有される情報資源を対象とし、情報資源の分析とそのメタデータ記述、分類や識別の手法について学ぶ。また、Linked Open Data等の実践的なメタデータ記述も対象とし、記述に対するRDF Schema、OWL、SKOS等を利用したスキーマ定義とオントロジーについても理解を深める。あわせて、電子情報資源を対象としたレコード識別の方法として、適切な識別子を用いた同定、データクリーニング、自動同定の手法について解説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：404 永森光晴）</p> <p>（404 永森光晴／3回）(2)メタデータ、(3)スキーマ、(4)オントロジー (278 高久雅生／3回) (7)目録、(8)典拠コントロール、(9)分類 (237 加藤誠／4回) (1)情報組織化の概要、(5)識別子、(6)情報資源の同定、(10)総括と議論</p>	オムニバス方式
	メディア教育	<p>本講義では、生涯学習社会における学校図書館や公共図書館、ネットワーク環境などを含むアナログからデジタルまでの学習環境の在り方、これらの学習環境におけるメディアの利活用や教育等を統合的に扱い、その基盤となる理論やモデル、実践について学ぶ。具体的には、メディアを活用して効果的に情報を収集・判断・創造・発信するために必要とされる「メディアリテラシー」の概念、メディア教育や学習環境の整備の重要性、現状や課題等についての理解を深め、今後の展開等について考察する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回／科目責任者：146 平久江祐司）</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(146 平久江祐司/4回) (1)授業の全体像、目的、方法の説明、(8)学校図書館の目的・役割及びその現状と課題、(9)学校図書館におけるメディアの収集・保存・提供、(10)学校図書館におけるメディアリテラシーの育成</p> <p>(271 鈴木佳苗/3回) (2)メディア利用の現状と影響、メディアリテラシーの概念、メディア教育の概要、(3)国内外のメディア教育の歴史と現状、(4)メディア教育のプログラムの構成、メディア教育の今後の課題</p> <p>(291 辻慶太/3回) (5)公共図書館における学習環境と関連メディアの現状、(6)ネットワーク上の学習環境の歴史、(7)ネットワーク上の学習環境の現状と今後の課題</p>	
専門科目 (方法論的基盤科目群)	研究法基礎	<p>まず、それぞれの担当教員が専門とする研究領域を紹介し、研究テーマの設定方法や調査・実験の方法、研究成果の公表方法などの特徴について解説する。その後、修士論文執筆を最終目標として、文書作成、研究倫理、ブレインストーミング、協調作業、プレゼンテーションの5つのテーマについて学ぶ。(取り上げるテーマの順番は変更になる可能性がある。) さらに、研究の遂行と論文作成のために有用な各種のツールの使い方を演習を通して学ぶ。これらを通して、研究者となるための基礎的知識と技能を身につける。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者: 178 森継修一)</p> <p>(178 森継修一/2回) (3) 研究倫理1: 研究領域紹介(情報数理分野)、研究不正・研究倫理とは、INFOSS情報倫理、(4) 研究倫理2: APRIN e ラーニングプログラム、論文剽窃チェックツール、倫理申請書の作成</p> <p>(232 落合陽一/2回) (9) プレゼンテーション1: 研究領域紹介(HCI分野)、ポスター・スライド作成・口頭発表の技法、(10) プレゼンテーション2: 各種ツールの高度な利用法</p> <p>(109 辻泰明/2回) (1) 文書作成1: 研究領域紹介(メディア情報学)、学術論文とは何か、論文の構造、(2) 文書作成2: LaTeX、Mindmeister などの使い方、研究計画書の作成</p> <p>(298 中井央/2回) (7) 協調作業1: 研究領域紹介(コンパイラ構成法)、データ共有、(8) 協調作業2: コミュニケーションツール</p> <p>(199 綿拔豊昭/2回) (5) ブレインストーミング1: 研究領域紹介(日本図書学)、ブレインストーミングの進め方、(6) ブレインストーミング2: ブレインストーミング後の情報整理、アイデアの整理と創出</p>	オムニバス方式
	文献調査法	<p>近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探索し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者: 352 森田ひろみ)</p> <p>(352 森田ひろみ/2回) (1) ガイダンス、実験心理学分野の文献探索、(2) 実験心理学分野の文献講読</p> <p>(206 李昇姫/2回) (9) 感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献探索、(10) 感性情報・感性インタラクション・感性デザイン分野の文献講読</p> <p>(381 大庭一郎/2回) (3) 図書館情報学分野の文献探索、(4) 図書館情報学分野の文献講読</p> <p>(276 関洋平/2回) (5) 自然言語処理・情報検索分野の文献探索、(6) 自然言語処理・情報検索分野の文献講読</p> <p>(347 村井麻衣子/2回) (7) 知的財産法分野の文献探索、(8) 知的財産法分野の文献講読</p>	オムニバス方式
	Literature Survey	Students will learn information sources and methods of searching and obtaining literature in various research areas. Furthermore, students will learn how to read literature.	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>近年、研究テーマの学際化が進み、自分の専門以外の分野においても、素早く広く適切な文献を探し理解する能力が重要になりつつある。そこで、情報学に関わるいくつかの専門分野における、文献探索・講読法を修得し、その分野の信頼できる情報源、スタンダードな論文構成、投稿を目指したい学術誌などの情報を知る。代表的な文献を読んで発表を行うこともある。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：145 平賀譲)</p> <p>(145 平賀譲/2回) 音楽・音響情報処理の情報源・文献探索、(4) 音楽・音響情報処理の文献購読 (427 于海涛/2回) (7) 機械学習と情報検索の情報源・文献探索、(8) 機械学習と情報検索の文献購読 (460 Sarcar Sayan/2回) (9) ヒューマン-コンピュータ・インタラクションの情報源・文献探索、(10) ヒューマン-コンピュータ・インタラクションの文献購読 (325 真榮城哲也/2回) (1) システム科学および生命情報学の情報源・文献探索、(2) システム科学および生命情報学の文献購読 (191 芳鐘冬樹/2回) (5) 計量書誌学の情報源・文献探索、(6) 計量書誌学の文献購読</p>	
	調査とデータ分析	<p>本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：59 後藤嘉宏)</p> <p>(59 後藤嘉宏/2回) (2) 質的調査：調査計画と調査実施、(3) 質的調査：分析と考察 (271 鈴木佳苗/2回) (6) 内容分析：内容分析の計画と実施、(8) 内容分析：内容分析の実施と考察 (402 時井真紀/2回) (7) データ分析：統計解析ソフトウェア入門、(9) データ分析：オープンデータを用いた解析 (131 長谷川秀彦/2回) (1) ガイダンス：質的調査と量的調査、データ分析の基本、(10) まとめ (529 叶少瑜/2回) (4) 量的調査：量的調査票の作成とデータ収集、(5) 量的調査：分析と考察</p>	オムニバス方式
	Survey and Data Analysis	<p>This course covers qualitative survey, quantitative survey, and data analysis using a computer. With lectures and group work, students are expected to learn how to plan and implement a survey and conduct data analysis. In addition to traditional data analysis methods, newly developed statistical methods will be presented, which will help understand characteristics of data from different view points.</p> <p>本科目では量的調査、質的調査、コンピュータを用いたデータ分析を扱う。グループワークも取り入れ、社会調査における調査票案の作成から実施までを演習することで、量的調査や質的調査の基礎を学ぶ。くわえて、伝統的なデータ分析法とともに近年開発された新しい手法を学び、データに対する基本的な見方と分析手法を理解する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回/科目責任者：294 手塚太郎)</p> <p>(294 手塚太郎/2回) (1) ガイダンス：質的調査と量的調査、データ分析の基本、(10) まとめ (427 于海涛/2回) (4) 量的調査：量的調査票の作成とデータ収集、(5) 量的調査：分析と考察 (478 照山絢子/2回) (2) 質的調査：調査計画と調査実施、(3) 質的調査：分析と考察 (531 若林啓/2回) (8) 内容分析：内容分析の実施と考察、(9) データ分析：オープンデータを用いた解析 (460 Sarcar Sayan/2回) (6) 内容分析：内容分析の計画と実施、(7) データ分析：統計解析ソフトウェア入門</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 (実践指導科目群)	研究計画	本演習では第三者に自分の研究を体系的かつ明確に説明することを目的として、プレゼンテーションとドキュメンテーション技術の基礎を修得する。まず学生個人個人の研究テーマを題材に、研究計画書作成の基礎を学ぶ。続いて多様な専門領域におけるアカデミック・ライティングの特徴を理解し、論文執筆のスキルを修得する。	共同
	業務計画	自らの専門業務における業務経験を踏まえて、当該業務の体系化と改善、事業開発に資するような業務改善プログラムを作成・考案する。作成したプログラムに関する発表と評価を経て、教員のアドバイスの基づきプログラムの改善を行う。	東京開講 共同
専門科目 (研究指導科目群)	情報学特別演習a (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について修士論文指導を行う。情報学特別演習aは春学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記(研究指導)欄のとおり	つくば・東京開講
	情報学特別演習b (研究指導)	メディアの特性を活かしたデータ活用に関する理論と応用、コミュニケーションに焦点を当てた情報利用に関する理論と応用、社会基盤としての知識資源のマネジメントに関する理論と応用に関して、研究の実践、指導を行い、メディアサイエンス、情報インタラクション、図書館情報学について修士論文の指導を行う。情報学特別演習bは秋学期に開講する。 担当教員の研究指導領域等の概要は下記(研究指導)欄のとおり	つくば・東京開講
	(研究指導)	<p>(16 逸村裕) 学術情報流通、大学図書館機能、情報利用者の探索行動の解明を研究課題とし、図書館及び大学諸活動、情報リテラシーの動向、物理的な資料情報源の保存、情報専門職に関して研究指導を行う。</p> <p>(17 井上智雄) 高度情報環境における、人のコミュニケーションや協同の仕組みの解明を研究課題とし、知的活動や健康な日常生活に役立つコミュニケーションの仕組み・インタラクション環境に関する研究指導を行う。</p> <p>(59 後藤 嘉宏) 図書館からマスコミ、電子媒体までを射程に入れたコミュニケーションの基礎理論の構想を研究課題とし、社会情報学、コミュニケーション思想史に関わる理論と実証に関する研究指導を行う。</p> <p>(71 佐藤哲司) 情報空間の構造を知識として表現し、変換・統合・共有・アクセスするための情報アクセス高度化、知識写像を研究対象とし、データ工学や情報検索に関する研究指導を行う。</p> <p>(87 白井哲哉) 日本の地域コミュニティが管理する公文書及び歴史資料(古文書)の構造と情報、大震災にかかわる文書・記録・資料を研究対象とし、文書・記録・資料の保全に関する研究指導を行う。</p> <p>(109 辻泰明) 映像メディア、映像アーカイブ、映像コンテンツのインターネット配信を取り上げ、文化、社会、産業、技術、歴史などの観点から、映像メディアに関する研究指導を行う。</p> <p>(112 歳森敦) 地域公共サービスと地域施設、特に図書館や情報センターを研究対象とし、広域的な視点から微視的な視点までを総合し、サービスや施設の運営・計画に関する研究指導を行う。</p> <p>(113 呑海沙織) 歴史的時軸の中で、図書館・情報メディアが文化的・社会的に、どのように進展してきたのかを取り上げ、知識情報基盤の形成という視点から図書館文化史に関する研究指導を行う。</p> <p>(116 中山伸一) 知識抽出に関する研究、知識の分析研究、感性データの計測と予測研究、創造技法やデータマイニングなど知識化技法や知識抽出技法に関する研究指導を行う。</p> <p>(131 長谷川秀彦) 大規模な疎行列に対する連立一次方程式の解法や固有値計算のアルゴリズムの開発・評価、並列コンピュータや高速な数値計算ソフトウェアの開発・評価、コンピュータ教材の作成やデータマイニングに関する研究指導を行う。</p> <p>(145 平賀謙) 音楽に関する認知過程、特に高次の構造認識的な面を、コンピュータ上の認知モデル構築を通じて理解・解明することを研究課題とし、音楽に関わる情報処理過程に関する研究指導を行う。</p> <p>(146 平久江祐司) 学校図書館の活動および学校図書館と公共図書館の連携・協力を取り上げ、学校図書館の支援システム、学校図書館活動の評価、情報リテラシー教育、利用者への情報提供に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(172 溝上智恵子) 高等教育政策と文化政策を研究課題とし、日本・アメリカおよびカナダの高等教育政策、およびカナダとアメリカの文化関連施設の形成や展示物と多文化主義との関連性に関する研究指導を行う。</p> <p>(177 森嶋厚行) これからの社会に必要とされる高度なデジタルコンテンツ管理、検索、統合、変換等を実現するための先端ソフトウェア技術に関して、主にデータベース関連技術やXML等のWWW関連技術などを用いたアプローチから研究指導を行う。</p> <p>(178 森継修一) 情報システムのひとつとしての数式処理システムの機能を高度化するため基本となるアルゴリズムを研究対象とし、効率のよいアルゴリズムの開発、実際のプログラム開発と実験的検証に関して研究指導を行う。</p> <p>(191 芳鐘冬樹) ビブリオメトリクスに基づく学術コミュニケーションの分析と、自然言語処理技術を応用した知的情報検索システムの構築を研究課題とし、計量書誌学・計量情報学に関する研究指導を行う。</p> <p>(193 吉田右子) 北欧公共図書館の機能、アメリカ公共図書館の理念および実践にかかわる歴史、日本における地域住民と公共図書館の関係性に関して研究指導を行う。</p> <p>(199 綿抜豊昭) 江戸時代の情報伝達手段である「往来物」を中心に、江戸時代の庶民向け書物について、図書館学、図像画などを視野に入れて、人文科学的な観点から研究指導を行う。</p> <p>(208 池内淳) 公共図書館サービスの最適供給、図書館の最適規模、図書館の公共性の再定義を研究課題とし、公共図書館政策に関する規範的・実証的なアプローチから研究指導を行う。</p> <p>(216 宇陀則彦) 学術情報のリンキングと情報資源の透過的利用、コンテンツの再構成を研究課題とし、学術情報リンキング、情報資源共有、資料研究支援に関して研究指導を行う。</p> <p>(232 落合陽一) 人間と計算機資源の自然な連携様態「デジタルネイチャー」を研究テーマとし、実世界志向コンピュータグラフィクス、ヒューマンインターフェイス、メディアアートに関して研究指導を行う。</p> <p>(244 金尚泰) グラフィックデザイン、芸術学、VR・ARを用いたコンテンツ制作コンテンツ開発に必要とされるデザイン表現・CG関連先端テクノロジーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(258 阪口哲男) デジタル図書館の展開に適応した基盤技術の開発、WANやLANに分散した情報の特性に基づくシステム構成方式、情報の蓄積・加工・利用のためのソフトウェア環境の構築に関して研究指導を行う。</p> <p>(270 上保秀夫) 知識情報資源にアクセスする新しい手法の提案・開発・評価、情報行動に影響を及ぼす様々な要素の分析、協調作業による情報探索・検索の理解・支援に関して研究指導を行う。</p> <p>(271 鈴木佳苗) 児童青少年の活字メディア、映像メディア、電子メディアの利用実態とメディア利用が児童青少年の発達に及ぼす学力的側面と対人的・心理的側面への影響に関して研究指導を行う。</p> <p>(272 鈴木伸崇) スキーマ進化に伴うXML変換アルゴリズムの開発、XPath充足可能性問題を解くための効率のよいアルゴリズムの開発を研究課題とし、XML等の構造化文書に関する研究指導を行う。</p> <p>(276 関洋平) 集合知を利用した協調アノテーション技術や、メディアまたは文書ジャンルを横断した情報アクセス技術、およびその評価などに関して研究指導を行う。</p> <p>(278 高久雅生) デジタルドキュメントの作成・流通・管理・提供の過程における効果的なドキュメント管理手法、利用者のドキュメント探索・活用方法に関して、研究指導を行う。</p> <p>(291 辻慶太) 図書館におけるレファレンスサービスの実態調査、Wikipedia閲覧者に対する図書推薦、貸出履歴や各種情報を用いた大学図書館における図書推薦システムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(294 手塚太郎) 非記号的情報と言語的・記号的情報を横断した情報検索システムを高度化させるために、言語の意味構造を確率モデルとして表現し、大量の文書集合から学習させる手法に関して研究指導を行う。</p> <p>(298 中井央) 新たなプログラミング言語の開発や汎用のコンピュータ以外のためのプログラミングへのニーズを視野に入れ、プログラミング言語およびそのコンパイラの構成法に関して研究指導を行う。</p> <p>(325 真栄城哲也) 知識の構造の解析と表現方法、遺伝子や蛋白質等の生体分子の複雑な相互作用の解析・予測および高速シミュレーション手法、生物知識を表現し解析に利用する方法に関する研究指導を行う。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(334 三河正彦) ネットワークを介した人間と人間あるいは人間と機械間の円滑なコミュニケーションを視野に入れ、ロボティクスを利用した知的システムまたは知的インタフェースに関する研究指導を行う。</p> <p>(347 村井麻衣子) インターネットやデジタル技術が発達した現代における著作権法のあり方を視野に入れ、知的財産法、特に著作権法に関して研究指導を行う。</p> <p>(352 森田ひろみ) 視覚的特徴の統合過程、形態情報の脳内表現、視覚的注意、手続き記憶の特性を研究対象とし、心理実験手法を用いた人間の視覚や認知に関する研究指導を行う。</p> <p>(363 横山幹子) 知識の本質や知識を共有する可能性について分析哲学的な視点から取り上げ、知識と実在論の関係を考えることや相対主義の諸問題に関する研究指導を行う。</p> <p>(206 李昇姫) 情報メディア及びデザイン発想を支援する感性情報の評価を研究対象とし、感性デザイン、感性情報評価、感性インタラクションに関する研究指導を行う。</p> <p>(368 和氣愛仁) 言語学（日本語文法論およびコーパス言語学）を主たる研究分野とし、言語資料をはじめとした人文学資料研究におけるICTの活用、特にWWWおよび関連技術を用いた研究資源・成果の共有と手法の標準化等について、人文学的見地に立脚しつつ研究指導を行う。</p> <p>(237 加藤誠) データ自体の分析によるデータ内容に関する問い合わせや柔軟で効率的なオープンデータへのアクセスを目指したデータ検索エンジンに関する研究指導を行う。</p>	
	グローバル研究演習I	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習Iは1年次生を対象として開講する。</p>	つくば・東京開講
	グローバル研究演習II	<p>国際学会で発表を行うためのスキルを総合的に修得することを目的とする。発表の準備として、発表資料の作成、プレゼンテーションの実習を行う。国際学会において発表を行うとともに、関連研究の発表を聴講し、研究の視野を広げる。学会終了後の発表の振り返りを通じて自己評価を行い、興味を持った発表に関する報告書を作成する。グローバル研究演習IIは2年次生を対象として開講する。</p>	つくば・東京開講

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
ライフサイエンス（基礎科目（共通）） ショーン（病態機構／創薬開発） 関連科目	医学概論	<p>悪性新生物、心疾患、脳血管疾患は日本人の死因の上位を占める疾患である。また、整形外科疾患および外傷（スポーツ外傷も含む）は日常的に遭遇することの多い疾患である。これらの疾患について、主に臨床医学の側面からその病態、治療法、治療成績、ならびに解決すべき課題について概説し、関連する研究分野の世界的な動向について学ぶ。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（187 山崎正志／2回）整形外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （378 榎本剛史／1回）消化器外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （415 丸島愛樹／1回）脳神経外科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （8 家田真樹／1回）循環器内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （91 関根郁夫／1回）腫瘍内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （350 森島祐子・141 檜澤伸之／1回）（共同）呼吸器内科学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （37 小田竜也／1回）悪性腫瘍学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （293 鄭允文／1回）再生医学について概説し、国内外の研究動向について説明する。 （86 正田純一／1回）分子スポーツ学について概説し、国内外の研究動向について説明する。</p>	オムニバス方式 共同（一部）
	創薬概論	<p>各製薬企業が新薬を上市するまでにどのようなプロセスを経る必要があるのか、また各社に特徴的な創薬戦略について学習する。また、感染症に対するワクチンの開発と実用化について理解を深める。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（611 宮前友策／2回）創薬プロセスおよび創薬研究に関する講義を （673 保富康宏／4回）創薬における実験動物研究の重要性およびワクチン開発の現状に関する講義を行う。 （668 杉山哲也／4回）創薬におけるオープンイノベーションに関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	食品科学概論	<p>食品科学は食品を対象とした学問であり、扱う研究分野は非常に広範囲である。また、食品科学に関する研究は日々進歩しており、過去の事例から最新情報まで広くフォローする必要がある。本講義では、食品科学技術に関して、物理的、化学的、生物学的、生化学的、工学的アプローチに基づき、基礎から先端応用まで概説する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（536 礪田博子／3回）栄養的価値、健康への有益な効果を持つ機能性食品に関して研究の基礎と最前線について説明する。 （585 坂本和一／2回）遺伝子栄養学基礎：脂質代謝、骨代謝、色素代謝、炎症などに対するファイトケミカルの働きと制御機構を分子生物学的視点から説明する。 （610 MARCOS ANTONIO DAS NEVES／3回）食品加工などにおけるその化学特性に関する講義を行う。 （539 市川創作／2回）食品加工時または食品の消化などにおける物理化学特性に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	バイオリソース概論	<p>本講義ではライフサイエンスイノベーションの推進におけるバイオリソースの重要性とバイオリソースセンターの役割について理解を深めることを目指す。そのために動植物個体、細胞、微生物リソース、及び関連技術、付随情報について、スペシャリストによる講義を受ける。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（631 高橋真哉／2回）生命科学研究におけるモデル生物とバイオリソースについて概説する。 （666 小林正智／2回）リソースセンターの役割（法令遵守と規則、質保証）について概説する。 （674 吉木淳／2回）疾患研究におけるマウスリソース（マウスリポジットリ）について概説する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		(648 中村幸夫/2回) 疾患研究における細胞リソース (細胞バンク) について概説する。 (661 大熊盛也/2回) 微生物リソースと多様性 (微生物コレクション) について概説する。	
	自然史概論	動物学と植物学における研究例のいくつかを紹介し、自然史研究について概観できるようになることを目指す。各分野での概論を講義した後、動物学分野では、動物の進化における寄生生物の発生、寄生蠕虫類・動物地理学・生物多様性の研究、寄生蠕虫類の分類と多様性について講義を行う。寄生蠕虫類の分類については実習を行い、その理解を深める。植物学では、植物におけるフラボノイド化合物の特性と分布、コケ植物の生態学・形態学、コケ植物の分類学について講義を行う。コケ植物の分類学については実習を行い、その理解を深める。	講義：7.5時間 実験・実習：15時間
	バイオインフォマティクス基礎	本科目では、バイオインフォマティクスに関する基本的な事項を学ぶ。データプロセッシング、シーケンス解析、データ可視化、ネットワークとグラフ、クラスタリング、スーパーコンピュータと並列計算に関する講義に加えて、計算機を利用した演習を通して、基礎理論や実践的手法の理解を深める。	講義：7.5時間 演習：7.5時間
	医薬品・食品マネジメント学	近年、ライフサイエンス分野の研究成果を基にした製品開発や製品化に関しては、知的財産権の管理が重要になってきている。今後は当該分野の研究者も、これらに関する知識を持ち、自身でもその管理に関わることが課題になっていくと考えられる。本科目では、4人の第一線の専門家により、医薬品・食品ビジネスマネジメントに関わる知財管理、運用、投資について、創薬・機能性食品・薬用化粧品開発の実例を提示してもらい、理解を深める。 (オムニバス方式/全10回) (692 秋元浩/4回) 知的財産に関する基礎・応用について説明する。さらに、その実際について、研究開発と知財戦略の融合、ライフサイエンス分野の経営管理の観点から説明する。 (707 寺崎直/2回) 特許制度の概要と医薬品・食品の特許管理について説明する。 (717 山本信行/2回) 製薬会社における戦略計画立案とプロジェクト管理について説明する。 (580 柏木健一/2回) 機能性食品のビジネスモデル、機能性食品市場参入の障壁について説明する。	オムニバス方式
	レギュラトリーサイエンス	レギュラトリーサイエンスは、科学技術基本計画において、「科学技術の成果を人と社会に役立てることを目的に、根拠に基づき的確な予測、評価、判断を行い、科学技術の成果を人と社会とも調査の上で最も望ましい姿に調整するための科学」と定義されている。本講義においては、日本およびヨーロッパにおいて、レギュラトリーサイエンスが、医薬品および医療機器の有効性、安全性、質の保証において果たす重要な役割について、概説する。 (オムニバス方式/全10回) (687 Le Gal Fontes Cecil/5回) 医薬品・食品のサーキットと規制に関する講義を行う。 (688 RAGE ANDRIEU Virgnie/5回) 欧州連合における健康製品と食品市場に関する講義を行う。	オムニバス方式
	ライフイノベーション実習	ライフサイエンス分野の国立研究開発法人 (理化学研究所、産業技術総合研究所、物質材料研究機構など) および製薬企業の研究所を見学する機会を提供する。さらに、各研究所における先端研究に関する講義を行う。学生は、各研究所の研究への独自の取り組み方を学習し、学習した成果をレポートにまとめる。学習成果は学生の研究活動に活かされるだけでなく、大学院修了後のキャリアパスを考える材料となることを目的とする。	講義：3時間 実験・実習：24時間

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
	ライフイノベーションチーム型演習	本科目は、ライフサイエンスに基づいてアプローチ可能な実社会の中の問題を見つけ出し、プログラム内の異分野の研究を行う学生との協働作業により解決策を提案する演習科目である。本演習を通してイノベーションに必要とされる社会的ニーズの的確な把握と、関連する他分野の専門家との共同作業を行うための能力を養成する。具体的には、ライフサイエンス研究における方法やアプローチ、特許調査の重要性と特許出願、新規研究プロジェクトの計画において必須とされる知識・スキルなどを講義する他、受講者によるプレゼンテーションや受講者同士でのディスカッションなどを行う。	
	責任ある研究行為：基盤編	研究活動を行うにあつては研究倫理規範に精通していることが必須である。本コースは、一般財団法人構成研究推進協会（APRIN）が提供するe-ラーニングを利用することにより、学生は責任ある研究行為について理解する。「責任ある研究行為：基盤編（RCR）」を受講し、研究における不正行為、データの扱い、共同研究のルール、利益相反、オーサーシップ、盗用、社会への情報発信、ピア・レビュー、メンタリング、公的研究費の取扱いについて学ぶ。	
	博士前期ライフイノベーションセミナー	本授業では、海外の協力教員が、ライフサイエンスにおける基礎から最先端の研究トピックに関するセミナーを行う。講師陣とのインタラクティブなやり取りを通して、「どのように経歴を伸ばすか？」や「論文を書くこと、審査プロセス、エディターやレフェリーの見方からみえるもの」について学び、研究者の資質、研究者に必要なプレゼンテーション、ディスカッション、コミュニケーション能力などを学生が獲得することを目的とする。	
	博士前期インターンシップ I	一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の人も協働できる能力、新たな問題に対する対応力を養い、社会人としての実践力を修得する。	
	博士前期インターンシップ II	前期課程における研究に関連する課題の分野横断的な解決の糸口を見つけることを目的として、一週間から一か月程度、国内外の研究機関、企業、行政機関、本学位プログラムに参画する研究室において研究活動や就業体験をする。新たなスキル・知識を修得するだけでなく、社会貢献に対する意識、専門分野外の人も協働できる能力、新たな問題に対する対応力を養い、社会人としての実践力を修得する。ライフイノベーション博士前期研究 I 春およびライフイノベーション博士前期研究 I 秋を履修していることを履修の条件とする。	
専門科目（共通）	ライフイノベーション博士前期演習 I 秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する論文の内容について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における基礎知識を身に付けるためのトレーニングを行う。	
	ライフイノベーション博士前期演習 I 春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する論文の内容について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における国内外の研究情勢を調査するためのトレーニングを行う。	
	(ライフイノベーション博士前期演習 I 秋, 春の担当教員)	(660 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (648 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (183 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。 (673 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフイノベーション博士前期研究I秋	各自が所属する所属研究室において、研究計画を立案し、研究の遂行に必要な基礎的な研究スキルを身に付けつつ、研究を進める。研究の進捗状況をプレゼンテーションし、議論を深めることにより、研究の軌道修正を行う。	
	ライフイノベーション博士前期研究I春	各自が所属する所属研究室において、立案した研究計画に基づき、研究を進める。研究の遂行に必要な研究スキルおよび知識を明確にし、その習得に取り組む。研究の進捗状況をプレゼンテーションし、議論を深めることにより、研究の軌道修正を行う。	
	(ライフイノベーション博士前期研究I秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患関する研究指導を行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chip デバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	
	ライフィノバージョン博士前期演習II秋	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する最新の学術論文について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における最新の研究知識を身に付ける。	
	ライフィノバージョン博士前期演習II春	各自の所属研究室において、最新の研究論文の抄読会に参加し、自身の研究に関連する最新の学術論文について、科学的なプレゼンテーションやディスカッションを行い、専門分野における国内外の研究情勢を理解する。	
	(ライフィノバージョン博士前期演習II秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 先進的疾患予防分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(536 礪田博子) 天然物創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析の研究分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野におけるハイインパクトな原著論文を取り上げ、内容を詳細に説明させた上でディスカッションを行う。</p>	
	ライフインベーション博士前期研究II秋	各自が所属する所属研究室において、研究活動を行い、研究の進捗状況を随時ディスカッションし、研究の軌道修正を行う。修士論文または特定課題研究報告書の完成に向けて、執筆活動に取り組む。	
	ライフインベーション博士前期研究II春	各自が所属する所属研究室において、研究活動を行い、研究の進捗状況を随時ディスカッションし、研究の軌道修正を行う。得られた研究成果は学会発表や論文発表により社会に発信する。得られた研究成果を学会発表や論文発表により社会に還元する。	
	(ライフインベーション博士前期研究II秋、春の担当教員)	<p>(660 大石勝隆) 生体恒常性を利用した先進的疾患予防技術の開発を研究課題とし、体内時計の乱れと様々な疾患発症との関係の解明、食生活の改善による生体リズムの制御法に関する研究指導を行う。</p> <p>(676 桑原知子) 成体幹細胞制御学分野において、成体脳内の神経新生、成体幹細胞の活性化、成体幹細胞の環境応答機構と疾患に関する研究指導を行う。</p> <p>(648 中村幸夫) 最先端細胞工学技術を用いて、細胞標準化のための技術開発、新規細胞材料の開発、細胞の応用技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu) 分子生物学的手法を用いて、細胞の老化・がん化の分子機構およびアンチエイジング、インド伝統医薬品の抗がん作用およびアンチエイジング作用、モータリンの機能と利用に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(183 柳沢正史) 行動神経科学分野において、睡眠覚醒制御の根本的メカニズムの解明、睡眠覚醒を制御する遺伝子の大規模スクリーニング、睡眠覚醒異常に対する新規創薬シーズの探索・医薬化学に関する研究指導を行う。</p> <p>(673 保富康宏) 免疫制御・ワクチン分野において、免疫調節による疾患制御、感染症における病態制御に関する研究指導を行う。</p> <p>(674 吉木淳) マウスリソース学分野において、遺伝子操作によるヒト疾患モデルマウスの開発、マウスリソースの品質管理、神経疾患モデルマウスを用いた運動調整機能の解析に関する研究指導を行う。</p> <p>(539 市川創作) 生物化学工学分野において、機能性キャリアシステムの開発と特性解明、生理活性成分の効率的送達のための新規ナノ・マイクロキャリアシステムの開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(536 磯田博子) 天然物創薬探索の研究分野において、地域伝承薬からの新規薬用成分の探索、薬用成分の作用メカニズムの解明に関する研究指導を行う。</p> <p>(663 神谷俊一) バイオマテリアル・バイオプロセス分野において、ジペプチドの応用、医薬用成分の微生物による生産、生体分子を用いた神経保護または神経再生技術に関する研究課題に対して研究指導を行う。</p> <p>(662 金森敏幸) 細胞アッセイの研究分野において、生体関連デバイス内の輸送現象、生体および人工臓器等の数理モデル化、医療分野への機能性ポリマーの応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(677 野田尚宏) 生物工学・生体分子解析技術を用いて、生体分子解析技術の開発、環境微生物制御技術の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(672 宮岸真) 低分子創薬における技術革新を研究課題とし、核酸医薬 (siRNA, Antisense, アプタマー) の技術開発に関する研究指導を行う。</p>	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
		<p>(611 宮前友策) ケミカルバイオロジー的手法を用いて、新規生物活性小分子の探索とメカニズム解明、有用生物活性物質探索のためのスクリーニング系の開発とその応用、細胞内タンパク質安定性を制御する新規化学ツールの開発とその応用に関する研究指導を行う。</p> <p>(553 櫻井鉄也) 情報数理分野において、大規模データ解析における数理手法・並列アルゴリズムの開発、大規模科学シミュレーションの高速化手法の開発に関する研究指導を行う。</p> <p>(667 杉浦慎治) バイオデバイス分野において、Organs-on-a-chipデバイスの開発と創薬への応用、細胞培養における微小環境制御技術の開発、機能性材料を利用した細胞プロセス工学に関する研究指導を行う。</p> <p>(658 伊東洋行) 創薬分野における薬理研究に関する研究指導を行う。</p>	
専門科目 (病態機構)	疾患の分子細胞生物学I	<p>本授業は、分子生物学・細胞生物学の基本原則と疾患制御へのつながりを概説する。転写制御からin vivo疾患モデルまでを取り上げ、生物学的プロセスへの洞察、そして生物学的メカニズムが疾患や生理機能に対してどのように根本的に関わっているかを説明する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(683 Jane Mellor/2回) クロマチン、転写とRNA生物学、老化と応用目的としての老化防止合成物のスクリーンに関する講義を行う。</p> <p>(684 Panagis Filippakopoulos/2回) ケミカルバイオロジーとエピジェネティック制御、タンパク質ファミリーの構造解析に関する講義を行う。</p> <p>(686 Lionel Larue/2回) 上皮間葉転換、疾患のマウスモデルに関する講義を行う。</p> <p>(679 Eirikur Steingrimsdottir/2回) モデルシステムとしてのショウジョウバエ、全国民のハイスループットシーケンシングとアソシエーション研究に関する講義を行う。</p> <p>(686 Lionel Larue, 679 Eirikur Steingrimsdottir/1回) (共同)メラニン細胞系譜の発生とゲノム編集テクノロジーの応用に関する</p> <p>(682 Colin Goding/1回) 生理学およびがん幹細胞に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同 (一部)
	疾患の分子細胞生物学II	<p>本授業は、疾患の分子細胞生物学Iと相補的な授業として行う。講義は、がん細胞生物学から代謝の制御解除とがんの関係までを取り上げ、これらの研究領域における最先端の情報を提供する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(682 Colin Goding/2回) 侵入と休止状態の進化のドライバーに関する講義を行う。</p> <p>(684 Panagis Filippakopoulos/2回) がんの標的検証に関する講義を行う。</p> <p>(685 Mads Gyrd-Hansen/2回) ユビキチンシステム、健康と病気におけるホスト-病原体相互作用と炎症に関する講義を行う。</p> <p>(680 Eric O'Neill/2回) 環境放射線によるDNA損傷と修復、栄養ストレスが引き起こす細胞シグナリングに関する講義を行う。</p> <p>(681 Custodia Garcia Jimenez/2回) 栄養、代謝とシグナリング、がんにおける制御解除された代謝に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	細胞制御論	<p>再生医療、発生生物学、幹細胞生物学、がん生物学に関する最先端の研究内容を取り上げ、疾患への治療と創薬への応用について学習する。</p> <p>(オムニバス方式/全10回)</p> <p>(675 Wadhwa KAUL Renu/2回) ヒトの細胞老化メカニズムの基本的な理解、発癌の基本的な理解と細胞老齢への関わりに関する講義を行う。</p> <p>(641 伊藤弓弦/2回) ヒト幹細胞の品質管理、発生生物学から考えるiPS/ES細胞研究に関する講義を行う。</p> <p>(652 久野敦/2回) 糖鎖の基礎、糖鎖バイオマーカーのインパクトと診断薬開発への応用に関する講義を行う。</p> <p>(676 桑原知子/2回) 成人神経発生と神経変性疾患に関する講義を行う。</p> <p>(293 鄭允文/2回) 病通常および腫瘍組織中の幹細胞、再生医療と抗癌標的療法における幹細胞に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目（創薬開発）	創薬化学概論	<p>本講義では、有機化学、ケミカルバイオロジー、薬理学の基礎、ならびにこれらに基づく新薬開発への応用例を概説する。具体的には化学構造、官能基、反応、分子設計、合成を中心として、創薬に必要な有機化学について説明するとともに、化合物スクリーニング、標的同定、リガンドおよび受容体相互作用について講義する。さらに薬物の作用様式と作用機序、in vitroからin vivo薬理の基礎、ならびに薬剤の生体機能への作用について特定の疾患に焦点を絞り解説した後、創薬開発の実践について紹介する。</p> <p>（オムニバス形式全10回）</p> <p>（246 杓村憲樹／1回）創薬化学の為の有機化学について講義を行う。</p> <p>（526 山本直司／1回）有機化合物の構造について講義を行う。</p> <p>（627 大好孝幸／1回）有機合成における化学結合と反応について講義を行う。</p> <p>（615 吉田将人／1回）生物有機化学、特に分子設計、合成、活性評価について講義を行う。</p> <p>（459 斉藤毅／1回）有機化学からケミカルバイオロジーへの展開について講義を行う。</p> <p>（635 南雲陽子／1回）標的の同定や化合物スクリーニングにおけるケミカルバイオロジーについて講義を行う。</p> <p>（611 宮前友策／3回）リガンド-受容体相互作用やタンパク質間相互作用について講義を行う。</p> <p>（483 南雲康行／1回）基礎薬理学への導入について講義を行う。</p>	オムニバス方式
	創薬トランスレーショナルサイエンス	<p>トランスレーショナルサイエンスでは、創薬の過程において、非臨床段階で得られた知見を効率良く、迅速に臨床段階へ橋渡しすることを目的としている。当該領域において重要な研究ツールであるPET、CT、MRI等のバイオイメージング手法は、動物とヒトで試験プロトコールが類似していること、同一個体において長期的試験が可能なこと、生体において視覚的・定量的なデータが得られること、非侵襲的技術であることなどの利点を有している。本講義では、これら手法の原理、創薬開発における解析例を概説するとともに、研究開発の最前線における経験や、創薬の魅力伝える。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（611 宮前友策／2回）生体における薬理作用の可視化、創薬開発研究に向けたイノベーション・マネジメントに関する講義を行う。</p> <p>（650 宮田桂司／2回）企業における創薬開発を実例としてトランスレーショナルサイエンスについて説明する。</p> <p>（669 須藤勝美／2回）トランスレーショナルサイエンス研究に関する講義を行う。</p> <p>（678 村上佳裕／2回）バイオイメージングにおけるトレーサー化学に関する講義を行う。</p> <p>（654 野田昭宏／2回）バイオイメージングの原理およびデータ解析、品質管理に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式
	薬剤設計工学	<p>薬剤設計工学の基礎となる物理化学と材料科学について学ぶ。また、薬剤設計に必要な薬物動態と薬剤アッセイ法について講義する。さらに、関連分野の先進的な研究や最先端技術についても紹介する。</p> <p>（オムニバス方式／全10回）</p> <p>（539 市川創作／2回）薬剤設計における物理化学に関する講義を行う。</p> <p>（670 陳国平／4回）薬剤設計における物質科学および関連する先端研究に関する講義を行う。</p> <p>（662 金森敏幸・667 杉浦慎治／4回）（共同）薬剤設計におけるin vitro解析および関連する先端研究に関する講義を行う。</p>	オムニバス方式 共同（一部）